

平成 29 年度  
文部科学省委託調査

# 学習指導と学習評価に対する意識調査

## 報告書

平成 30 年 1 月

株式会社浜銀総合研究所



---

# 目 次

---

## 第 1 章 調査概要

- 1. 調査の目的・実施方法..... 2
- 2. 本報告書の構成、主な分析結果..... 6

## 第 2 章 学校種別の集計・分析

- 1. 観点別評価に影響を及ぼす方法.....14
  - (1) 「知識・理解」及び「技能」の評価について.....14
  - (2) 「思考・判断・表現」の評価について.....15
  - (3) 「関心・意欲・態度」の評価について.....16
  - (4) 観点別の回答結果の差異.....17
  - (5) 各観点別の評価に影響を及ぼすと回答された「その他」の内容.....20
- 2. 目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価に対する考え・意識.....21
  - (1) 学校種別の集計・分析.....21
  - (2) 過年度調査との比較.....22
- 3. 観点別学習状況の評価の実施状況.....25
  - (1) 学校種別の集計・分析.....25
  - (2) 過年度調査との比較.....26
  - (3) 高等学校における観点別学習状況の評価の実施状況.....28

4. 観点別評価を踏まえた「評定」についての考え.....	31
(1) 学校種別の集計・分析.....	31
(2) 過年度調査との比較.....	32
5. 学習評価を行うに当たっての負担感.....	34
(1) 学習評価を行うに当たって負担を感じる点.....	34
(2) 「指導要録の記載」について負担を感じる部分.....	35
(3) 教員の負担軽減にも配慮した学習評価の充実のための考え.....	36
6. 「総合所見及び指導上参考となる諸事項」として記録している事項.....	37
(1) 学校種別の集計・分析.....	37
(2) 過年度調査との比較.....	38
7. 学習指導・学習評価や観点別学習状況の評価の実態.....	41
(1) 観点別学習状況の評価の記録を行う頻度について.....	41
(2) 「関心・意欲・態度」に関する評価について.....	42
(3) 「評定」の決定の方法について.....	43
(4) 学習評価への取組み状況について.....	46
(5) 指導と評価の一体化の取組み状況について.....	47
(6) 学習評価の観点の児童生徒や保護者への伝え方について.....	48

### 第3章 教師の年齢層別の集計・分析

(1) 観点別評価に影響を及ぼす方法 .....	52
(2) 目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価に対する考え・意識 .....	58
(3) 観点別学習状況の評価の実施状況 .....	60
(4) 観点別評価を踏まえた「評定」についての考え .....	62
(5) 学習評価を行うに当たっての負担感 .....	64

### 第4章 指導している教科等の別の集計・分析

(1) 観点別評価に影響を及ぼす方法 .....	70
(2) 目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価に対する考え・意識 .....	76
(3) 観点別学習状況の評価の実施状況 .....	78
(4) 観点別評価を踏まえた「評定」についての考え .....	80
(5) 学習評価を行うに当たっての負担感 .....	82

### 第5章 担当している児童生徒の人数別の集計・分析

(1) 観点別評価に影響を及ぼす方法 .....	86
(2) 目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価に対する考え・意識 .....	92
(3) 観点別学習状況の評価の実施状況 .....	94
(4) 観点別評価を踏まえた「評定」についての考え .....	96
(5) 学習評価を行うに当たっての負担感 .....	98

### 参考資料

1. 調査票 .....	106
2. 基礎集計表 .....	118



# 第 1 章

## 調査概要

## 第1章 調査概要

### 1. 調査の目的・実施方法

#### (1) 調査の目的

平成28年12月の中央教育審議会答申を踏まえ、平成29年3月に小・中学校学習指導要領が、同年4月に特別支援学校小学部・中学部学習指導要領が改訂された。また、今後、高等学校学習指導要領等の改訂も予定されている。今回の改訂を踏まえ、新しい学習指導要領の下での児童生徒の学習評価の在り方について検討を進める必要がある。

このような視点に立ち、児童生徒の学習評価について、学校現場で生じている様々な課題や今後の新たな教育課題によりの確に伝えるため、児童生徒の学習評価の実態を実証的に明らかにし、今後の専門的な検討に資することを目的として、学習指導と学習評価に対する意識調査を実施した。

#### (2) 調査対象

調査対象は、全国から無作為に抽出した小学校・中学校・高等学校の教師（各2,000名、計6,000名）とした。まず、調査依頼を行う学校を無作為に小学校・中学校・高等学校200校ずつ（計600校）抽出した。なお、抽出の際には、学校基本調査による全国の教師数の分布を基に都道府県別に抽出する学校数を定め、都道府県別に無作為抽出を行った。

続いて、抽出された各学校に調査依頼を行い、各学校において、学年・教科・年齢・性別等が大きく偏ることなく可能な限りランダムに近い形になるように調査対象となる教師を10名選定していただいた。対象は教科等を担当している教師とし、該当者が10名に満たない学校では全員を対象にさせていただくよう依頼を行った。

図表 1-1 都道府県別対象学校数

	小学校	中学校	高等学校		小学校	中学校	高等学校		小学校	中学校	高等学校
北海道	9	10	9	石川	2	2	2	岡山	4	3	3
青森	2	3	3	福井	2	2	1	広島	5	4	5
岩手	2	2	3	山梨	2	2	2	山口	2	2	3
宮城	4	4	4	長野	4	4	4	徳島	1	1	1
秋田	2	2	2	岐阜	3	4	3	香川	2	2	2
山形	2	2	2	静岡	5	6	6	愛媛	2	2	2
福島	3	4	4	愛知	11	11	11	高知	1	2	2
茨城	5	5	5	三重	3	3	3	福岡	8	8	7
栃木	3	3	3	滋賀	3	2	2	佐賀	2	2	2
群馬	3	3	3	京都	4	4	5	長崎	3	3	3
埼玉	10	10	10	大阪	13	13	13	熊本	3	3	3
千葉	9	9	8	兵庫	9	8	9	大分	2	2	2
東京	16	15	16	奈良	2	2	2	宮崎	2	2	2
神奈川	12	12	11	和歌山	2	2	2	鹿児島	4	3	4
新潟	4	4	4	鳥取	1	1	1	沖縄	3	3	3
富山	2	2	2	島根	2	2	1	合計	200	200	200

※小学校は国立1校、公立197校、私立2校、中学校は国立1校、公立187校、私立12校、高等学校は国立1校、公立147校、私立52校を対象とした。

(3) 調査実施方法・回答状況

各学校において、調査対象とする10名の教師にウェブ上に設置するアンケート回答のためのページのURLと回答のためのIDを印字した用紙を配付していただき、個々の教師から回答いただいた。

調査依頼は平成29年11月7日に行い、11月27日を回答期限とした。回答件数については、以下の図表1-2の通りである。

図表 1-2 調査への回答件数

	小学校	中学校	高等学校	合計
全回答件数	1,253	1,149	1,326	3,728
依頼数に対する回答割合	62.7%	57.5%	66.3%	62.1%
有効回答件数	1,210	1,098	1,282	3,590
依頼数に対する有効回答割合	60.5%	54.9%	64.1%	59.8%
回答学校数	166	159	161	486
依頼学校数に対する割合	83.0%	79.5%	80.5%	81.0%
1校当たりの平均回答件数	7.5	7.2	8.2	7.7

※「依頼数に対する回答割合」「依頼数に対する有効回答割合」は、小学校・中学校・高等学校各2,000件、計6,000件に占める全回答件数及び有効回答件数の割合を示している。なお、学校の規模により調査対象となる教師が10名に満たない学校もあるため、実際の対象者数に占める割合は不明である。

※全回答件数のうち、最後の設問まで回答していない場合や回答内容に矛盾等が見られた場合は有効回答の対象外とした。

(4) 回答者の属性

回答者の属性に関し、「年齢層」、「学級担任の有無」、「(学級担任をしている場合)担任をしている学年」、「(学級担任をしている場合)担任をしている学級の児童生徒数」、「指導している教科等」、「(中学校・高等学校の場合)教科等を指導している生徒の人数」は、それぞれ、以下の図表1-3～図表1-10のようになっている。

図表 1-3 年齢層

	小学校		中学校		高等学校	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
29歳以下	251	20.7%	212	19.3%	194	15.1%
30～39歳	346	28.6%	309	28.1%	323	25.2%
40～49歳	269	22.2%	260	23.7%	327	25.5%
50歳以上	344	28.4%	317	28.9%	438	34.2%

(参考) 全国的な教師の年齢層分布

	小学校		中学校		高等学校	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
29歳以下	58,693	19.6%	32,248	17.1%	21,524	11.3%
30～39歳	83,470	27.9%	49,597	26.4%	42,430	22.2%
40～49歳	71,550	23.9%	48,954	26.0%	53,136	27.8%
50歳以上	85,122	28.5%	57,314	30.5%	73,871	38.7%

出所) 文部科学省「学校教員統計調査」(平成28年度(中間報告))による、本務教員数(「教諭」)の人数

第1章

図表 1-4 学級担任の有無

	小学校		中学校		高等学校	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
している（正担任）	988	81.7%	594	54.1%	602	47.0%
している（副担任）	8	0.7%	257	23.4%	377	29.4%
していない	214	17.7%	247	22.5%	303	23.6%

図表 1-5 担任をしている学年

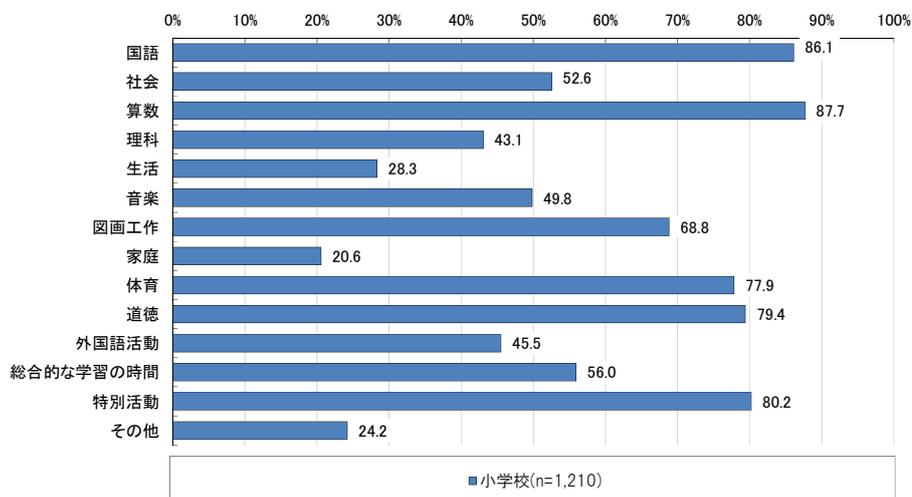
	小学校		中学校		高等学校	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1年生	151	15.2%	303	35.6%	333	34.0%
2年生	148	14.9%	270	31.7%	322	32.9%
3年生	146	14.7%	278	32.7%	317	32.4%
4年生	169	17.0%	—	—	7	0.7%
5年生	162	16.3%	—	—	—	—
6年生	161	16.2%	—	—	—	—
複式学級	59	5.9%	—	—	—	—

※高等学校4年生は、定時制高校を想定して選択肢を設定した。

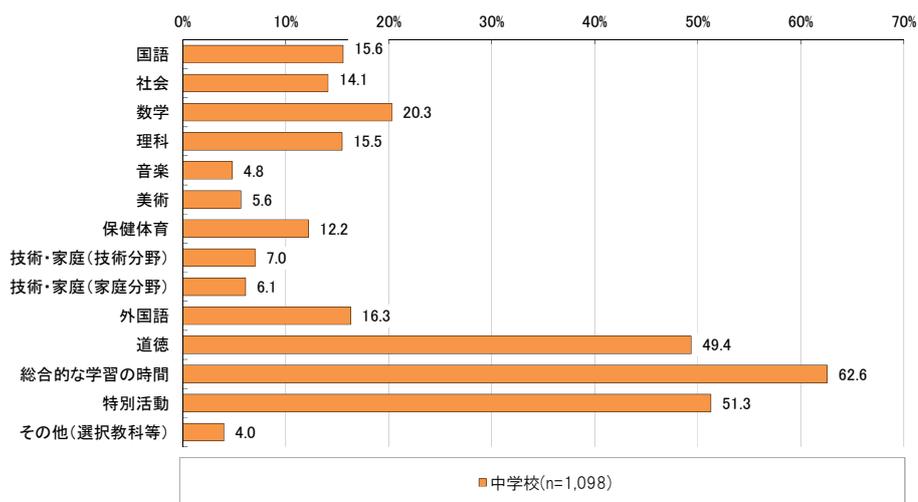
図表 1-6 担任をしている学級の児童生徒数

	小学校		中学校		高等学校	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
10人以下	124	12.4%	84	9.9%	8	0.8%
11人～20人	120	12.0%	46	5.4%	70	7.2%
21人～30人	373	37.4%	198	23.3%	138	14.1%
31人～40人	373	37.4%	506	59.5%	657	67.1%
41人以上	6	0.6%	17	2.0%	106	10.8%

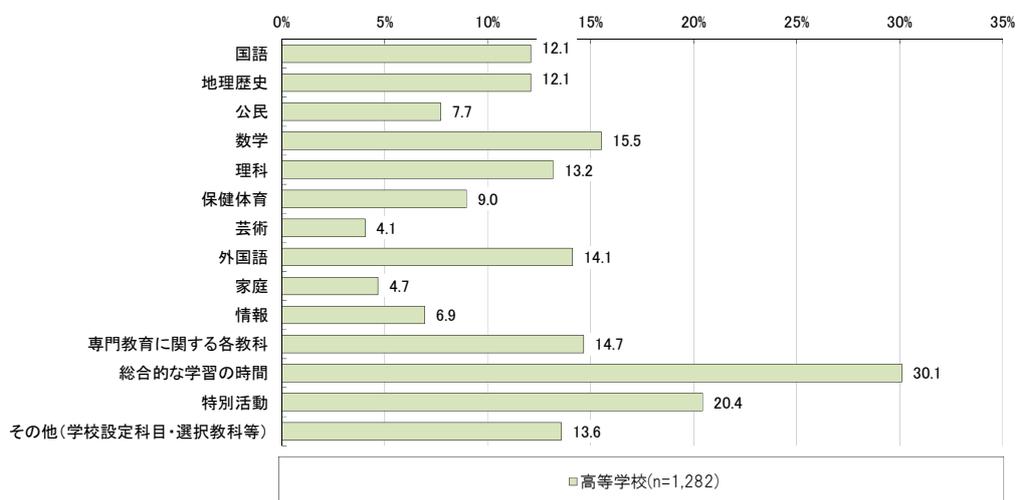
図表 1-7 指導している教科等（小学校、複数回答）



図表 1-8 指導している教科等（中学校、複数回答）



図表 1-9 指導している教科等（高等学校、複数回答）



図表 1-10 教科等を指導している生徒の人数

	小学校		中学校		高等学校	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
80人以下	—	—	224	20.4%	142	11.1%
80人～120人	—	—	219	19.9%	248	19.3%
121人～160人	—	—	284	25.9%	254	19.8%
161人～200人	—	—	140	12.8%	249	19.4%
201人～240人	—	—	59	5.4%	157	12.2%
241人～280人	—	—	29	2.6%	100	7.8%
281人～320人	—	—	38	3.5%	65	5.1%
321人～360人	—	—	22	2.0%	28	2.2%
361人以上	—	—	83	7.6%	39	3.0%

## 2. 本報告書の構成、主な分析結果

### (1) 構成の概要・留意点等

本報告書の構成は、第 2 章以降、次のようになっている。

第 2 章：学校種別の集計・分析

第 3 章：教師の年齢層別の集計・分析

第 4 章：指導している教科等の別の集計・分析

第 5 章：担当している児童生徒の人数別の集計・分析

第 2 章では、小学校・中学校・高等学校の別に、原則として今回実施した質問紙調査の全設問についての集計結果を掲載し、比較により、各学校種別の特徴等について分析を行った。

第 2 章は全 7 節からなり、「観点別評価に影響を及ぼす方法」や「目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価に対する考え・意識」など、設問の内容・テーマ別に節を区分して掲載した。また、第 2 章では、一部の設問について、平成 21 年度に実施された調査の結果<sup>1</sup>との比較を行い、過年度からの経過の中での変化の状況（現行学習指導要領に基づく学習指導・学習評価の実施・定着が進んでいるか、課題等が解消の方向に向かっているか等）について把握を行った。

第 3 章～第 5 章に関しては、質問紙調査を行った項目のうち、学習指導・学習評価に関する課題認識や負担感に関する項目を中心にそれぞれ属性等別の集計を行い、特にどのような教師が課題や負担を抱えていると考えられるか等について分析を行った。

なお、本報告書に掲載した集計結果等に関しては、次のような点に留意されたい。

- 図表中に掲載している「n=○○」の表記は、当該設問の回答件数（集計対象件数）を意味する。
- 集計結果の割合（％）は、小数点第 2 位を四捨五入した上で表示しているため、内訳の計が 100%にならない場合がある。
- 設問には選択肢からひとつだけ回答するものと、選択肢から複数の項目を回答するものがあり、複数回答する場合の設問では、選択肢別の集計結果の割合合計が 100%を超える場合がある。
- 報告書では、解釈をしやすいするため、回答結果の数値を足し合わせたり、評点化したりして掲載している。報告書巻末には、参考資料として、今回実施した質問紙調査の全調査項目と、学校種別の集計結果（各選択肢に対する回答件数、割合）を掲載している。
- 第 3 章～第 5 章の集計・分析については、参考として $\chi^2$ 検定の結果を示し、数値の差異が統計的に有意なものと考えられるかについて検討できるようにしている。ただし、図表は各調査結果について評点化したものを示しているのに対し、 $\chi^2$ 検定はクロス集計の結果に基づき行ったものであるという点には留意が必要である。

<sup>1</sup> 平成 21 年度文部科学省委託調査報告書、財団法人日本システム開発研究所「学習指導と学習評価に対する意識調査報告書」（平成 22 年 1 月）。なお、本文中において当該調査結果について言及する際には「過年度調査（の結果）」と表記し、今回実施した調査については「今年度調査（の結果）」と表記した。また、過年度調査の結果を図表中に示す際には凡例に「平成 21 年度調査」とし、今年度調査については「平成 29 年度調査」と表記した。なお、過年度調査は、調査対象数や対象校の選定方法等は今年度調査と同様であるが、回答は紙媒体の調査票で行っている点、回答済みの調査票を学校単位で返送してもらっている点、調査対象に校長や教頭等を含むという点等は今年度調査と異なっている。

## (2) 第2章の内容・主な分析結果

第2章では、一部過年度調査との比較を行いながら、小学校・中学校・高等学校の別に集計・分析をした。その結果、主に以下のような点が明らかになった。

### <1. 観点別評価に影響を及ぼす方法について>

- 小学校では、中学校・高等学校と比較して、各観点別の評価をより多様な方法により行っているのではないかと考えられる (p.14 図表 2-1-1~p.16 図表 2-1-3)。
- 「知識・理解」及び「技能」の評価に影響を及ぼす度合いが高い項目と、「思考・判断・表現」の評価に影響を及ぼす度合いが高い項目は類似しており、小学校では「単元の区切りなどで実施する、業者作成のテストやワークシート」が、中学校・高等学校では「中間や期末などに実施する定期テスト」が、それぞれの観点別の評価を行う際の主たる方法であると考えられる (p.14 図表 2-1-1~p.19 図表 2-1-6)。
- 「関心・意欲・態度」の評価に影響を及ぼす方法として、「影響している」との回答割合が最も高いのは、小学校では「授業における教員の発問に対する反応等の観察」、中学校では「課された宿題の提出の有無」、高等学校では「中間や期末などに実施する定期テスト」であった (p.16 図表 2-1-3)。なお、「関心・意欲・態度」の評価に影響を及ぼす方法について、高等学校では「影響している」との回答割合はいずれも5割未満であった (p.16 図表 2-1-3)。

### <2. 目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価に対する考え・意識について>

- 目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価に対する肯定的な回答は小学校・中学校・高等学校ともに半数を超え、特に小学校において高い (p.21 図表 2-2-1)。
- 過年度調査との比較では、「授業の目標が明確になり、学力などを多角的に育成することができる」などの項目について、肯定的な回答が高まっている (p.22 図表 2-2-2~p.24 図表 2-2-4)。
- 他方で、「観点別学習状況の評価は、観点どうしの関係性が分かりにくい」など、課題認識が半数を超える項目もあり (p.21 図表 2-2-1)、これらの点は必ずしも過年度から改善が見られているわけではない (p.22 図表 2-2-2~p.24 図表 2-2-4)。特に高等学校では、過年度と比較しても観点別学習状況の評価の定着があまり進んでいないのではないかと考えられる (p.21 図表 2-2-1~p.24 図表 2-2-4)。

### <3. 観点別学習状況の評価の実施状況について>

- 観点別学習状況の評価の資料の収集・分析、評価の決定を円滑に実施できているかということに関して、小学校・中学校・高等学校ともに、いずれの観点についても肯定的な回答が6割を超え、特に「知識・理解」に関する評価についてその割合が高い (p.25 図表 2-3-1)。
- 他方、「関心・意欲・態度」に関する評価については、円滑に実施できているとの回答割合が相対的に低い (p.25 図表 2-3-1)。なお、いずれの観点についても、小学校・中学校に比べ、高等学校では円滑に実施できているとの回答割合が低い (p.25 図表 2-3-1)。
- 過年度調査との比較では、高等学校の「関心・意欲・態度」に関する評価以外は、円滑に実施できているとの肯定的な回答が高まっている (p.26 図表 2-3-2~p.27 図表 2-3-4)。
- 高等学校で観点別学習状況の評価をどのように実施しているかということに関しては、「定期テストなどにおいて、観点到配慮した問題を課している」や「指導計画やシラバスに観点別の評価規準などを設けている」などの項目について、過年度調査と比較して実施しているとの回答割合が高まっている (p.28 図表 2-3-5、p.30 図表 2-3-7)。

#### <4. 観点別評価を踏まえた「評定」についての考えについて>

- 観点別評価を踏まえた「評定」について、「有用である」や「意義がある」といった肯定的な回答は、小学校・中学校・高等学校ともに6割を超え、特に「保護者や児童生徒にとって有用である」ということに関しては肯定的な回答の割合が8割を超えている（p.31 図表2-4-1）。
- 他方、高等学校では特に「観点別学習状況の評価を『評定』にどうつなげるかが分かりにくい」との課題認識について回答割合が高くなっている（p.31 図表2-4-1）。
- 過年度調査との比較からは、小学校・中学校・高等学校ともに、「有用である」との肯定的な回答が高まっている一方で、「学期末や年度末の『評定』を授業改善等に結び付けられていない」や「観点別学習状況の評価を『評定』にどうつなげるかが分かりにくい」といった項目については、過年度からの変化は明確には見られていない（p.32 図表2-4-2～p.33 図表2-4-4）。

#### <5. 学習評価を行うに当たっての負担感について>

- 小学校・中学校・高等学校ともに、「評価規準の作成」など多くの項目について、負担を感じるとの回答が半数を超えている（p.34 図表2-5-1）。小学校では「指導要録の記載」や「通知表の記載」、中学校では「単元テストや定期テスト、評価課題の作問や採点」、高等学校では「評価方法や評価結果の扱いについての教員間での共通理解」について相対的に負担感が大きくなっている（p.34 図表2-5-1）。
- 指導要録の記載について負担を感じる部分として、小学校・中学校・高等学校ともに「総合所見及び指導上参考となる諸事項」についての回答割合が高く、さらに小学校では「外国語活動の記録」や「総合的な学習の時間の記録」についても負担が大きいことがうかがえる（p.35 図表2-5-2）。
- 教員の負担軽減にも配慮した学習評価の充実のために重要と考えることについては、小学校・中学校・高等学校ともにICTの活用・システムの導入について有効であるとする回答が特に高い（p.36 図表2-5-3）。このほか、「評定」を行わずに観点別学習状況評価を充実・活用するという点については、中学校・高等学校と比較して小学校において有効であるとの回答割合が高い（p.36 図表2-5-3）。

#### <6. 「総合所見及び指導上参考となる諸事項」として記録している事項について>

- 小学校・中学校・高等学校ともに、「児童生徒の優れている点」を記録しているとの回答割合が最も高い（p.37 図表2-6-1）。
- 過年度調査との比較からは、小学校・中学校・高等学校ともに、「児童生徒の優れている点」、「児童生徒の努力を要する点」、「行動に関する所見」、「学校内外における奉仕活動やボランティア活動の状況」、「学級・学年など集団の中での相対的な位置づけに関する情報」について、今年度調査のほうが記録しているとの回答割合が高くなっている（p.38 図表2-6-2～p.40 図表2-6-4）。

#### <7. 学習指導・学習評価や観点別学習状況の評価の実態について>

- 観点別学習状況の評価の記録を行う頻度は、小学校・中学校・高等学校ともに、毎時材料を詳細に集める方法よりも、単元などを見通して適宜集め記録されていることのほうが多い（p.41 図表2-7-1）。
- 「関心・意欲・態度」に関する評価は、中学校では他の観点とは区別して独立に評価されることのほうが若干多く、小学校・高等学校では、他の観点到る学習状況の評価を踏まえて評価がなされていることのほうが多い（p.42 図表2-7-2）。

- 「評定」の決定の方法については、小学校・中学校・高等学校ともに、ある観点に他の観点より重点を置くよりも、各観点を均等に評価して決定されていることのほうが多い（p.43 図表 2-7-3）。なお、各観点を均等に評価して「評定」を決定しているとの回答の割合は、過年度調査と比較して今年度調査のほうが高くなっている（p.43 図表 2-7-4）。
- 「評定」の決定の方法について、ある観点に他の観点より重点を置く場合の考え方は、各学校種別に異なっており、例えば、高等学校においては「知識・理解」により重点が置かれることが多いことがうかがえる（p.44 図表 2-7-5～p.45 図表 2-7-7）。
- 評価規準の改善や評価方法の研究などは、小学校・中学校では学校全体で取り組まれていることのほうが多いが、高等学校では教員個人に任せられていることのほうが多い（p.46 図表 2-7-8）。
- 指導と評価の一体化の取組についても、小学校・中学校では学校全体で取り組まれていることのほうが多いが、高等学校では教員個人に任せられていることのほうが多い（p.47 図表 2-7-9）。
- 学習評価の具体的な観点については、小学校・中学校・高等学校ともに、あらかじめ児童生徒や保護者に伝えられていることのほうが多い（p.48 図表 2-7-10）。なお、あらかじめ児童生徒や保護者に伝えている場合には、伝えておくことが役に立っているとの回答割合が高く（p.49 図表 2-7-11）、伝えていない場合であっても、伝えておくことが有効であるとの回答割合は高くなっている（p.49 図表 2-7-12）。

### （3）第3章の内容・主な分析結果

第3章では、小学校・中学校・高等学校のそれぞれについて、教師の年齢層を「40歳未満」と「40歳以上」とに分類し、共通点や差異等について回答結果の比較分析を行った。

その結果、主に以下のような点が把握され、年齢層が相対的に低い教師のほうが課題や負担等を抱えやすいのではないかということが明らかになった。

- 観点別評価に影響を及ぼす方法については、いずれの観点についても、年齢層が高い教師のほうが影響を及ぼすと回答された項目が多く、より多様な方法により評価を行っていることがうかがえる（p.52 図表 3-1-1～p.57 図表 3-1-9）。「教員自らの経験や見識に基づく総合的な判断」が影響を及ぼすとの回答も年齢層が高い教師のほうが高く、年齢層が高い教師ほど、より総合的な視点により評価をする傾向にあるのではないかと考えられる（p.52 図表 3-1-1～p.57 図表 3-1-9）。
- 特に小学校では、年齢層が高い教師のほうが、観点別学習状況の評価の資料の収集・分析、評価の決定を円滑に実施できているとの回答が高い傾向にある（p.60 図表 3-3-1）。
- 観点別評価を踏まえて決定する「評定」について、「学期末や年度末の『評定』を授業改善等に結び付けられていない」や「観点別学習状況の評価を『評定』にどうつなげるかが分かりにくい」といった課題認識は、年齢層が低い教師のほうが高くなっている（p.62 図表 3-4-1～p.63 図表 3-4-3）。
- 学習評価を行うに当たっての負担感については、小学校・中学校・高等学校ともに、「指導要録の記載」など、年齢層が低い教師のほうが負担を感じるとの回答が高い項目が多い（p.64 図表 3-5-1～p.65 図表 3-5-3）。
- 指導要録の記載に関しては、小学校・中学校・高等学校ともに、「各教科の学習の記録（各教科・科目等の学習の記録）」、「特別活動の記録」、「出欠の記録」について、年齢層が低い教師のほうが負担を感じるとの回答割合が高くなっている（p.66 図表 3-5-4～p.67 図表 3-5-6）。

## (4) 第4章の内容・主な分析結果

第4章では、中学校・高等学校の教師について、指導している教科等の別に、「国語等の教科」を指導している場合と、「保健体育等の教科」を指導している場合とに分類<sup>2</sup>し、共通点や差異等について回答結果の比較分析を行った。

その結果、主に以下のような点が把握され、特に高等学校では、「国語等の教科」を指導している場合のほうが課題や負担等を抱えやすいのではないかということが明らかになった。

- 観点別評価に影響を及ぼす方法について、いずれの観点についても、「保健体育等の教科」を指導している教師のほうが影響を及ぼすと回答された項目が多く、より多様な方法により評価を行っていることがうかがえる (p.70 図表 4-1-1~p.75 図表 4-1-6)。なお、「思考・判断・表現」の評価と「関心・意欲・態度」の評価について、指導している教科が「国語等の教科」であるか、「保健体育等の教科」であるかによって、評価に影響を及ぼすとの回答が最も高い項目は異なっている (p.70 図表 4-1-1~p.75 図表 4-1-6)。
- 目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価について、中学校・高等学校ともに、『関心・意欲・態度』の評価の妥当性を担保することに苦労する」という項目については、「国語等の教科」を指導している教師のほうが課題認識が高い (p.76 図表 4-2-1~p.77 図表 4-2-2)。なお、高等学校では、「観点別学習状況の評価は実践の蓄積があり、定着してきている」などの項目についての肯定的な回答は、「保健体育等の教科」を指導している教師のほうが高くなっている (p.77 図表 4-2-2)。
- 観点別学習状況の評価の資料の収集・分析、評価の決定を円滑に実施できているかということに関して、中学校・高等学校ともに、「関心・意欲・態度」に関する評価、及び「技能」に関する評価については、「国語等の教科」を指導している教師のほうが円滑に実施できているとの回答が低くなっている (p.78 図表 4-3-1~p.79 図表 4-3-2)。高等学校では、「思考・判断・表現」に関する評価についても、「国語等の教科」を指導している教師では円滑に実施できているとの回答が低くなっている (p.79 図表 4-3-2)。
- 高等学校では、「学期末や年度末の『評定』を授業改善等に結び付けられていない」と「観点別学習状況の評価を『評定』にどうつなげるかが分かりにくい」という項目について、「国語等の教科」を指導している教師で課題認識が高くなっている (p.81 図表 4-4-2)。
- 学習評価を行うに当たった負担感について、中学校では、「評価方法や評価結果の扱いについての教員間での共通理解」に関して、「国語等の教科」を指導している教師において負担を感じるとの回答が若干高くなっている (p.82 図表 4-5-1)。高等学校では、「評価規準の作成」など多くの項目で、「国語等の教科」を指導している教師のほうが、負担を感じるとの回答が高くなっている (p.83 図表 4-5-2)。

<sup>2</sup> 中学校については「国語、社会、数学、理科、外国語」を指導しているか、「音楽、美術、保健体育、技術・家庭」を指導しているかで分類した。なお、両方にまたがって指導をしている場合は集計の対象外とした。高等学校については「国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語」を指導しているか、「保健体育、芸術、家庭、情報」を指導しているかで分類し、両方にまたがって指導している場合は集計の対象外とした。

### (5) 第5章の内容・主な分析結果

第5章では、小学校については担任をしている学級の児童の人数別に「20人以下」と「21人以上」の2群、中学校については指導している教科等の生徒の人数別に「80人以下」と「81人以上」の2群、高等学校についても指導している教科等の生徒の人数別に「120人以下」と「121人以上」の2群に分類し、担当している児童生徒の人数別の回答結果の共通点や差異等について比較分析を行った<sup>3</sup>。

その結果、主に以下のような点が把握され、担当している児童生徒の人数が相対的に多い場合のほう  
が課題や負担等を抱えやすいのではないかということが明らかになった。

- 観点別評価に影響を及ぼす方法については、いずれの観点についても、担当している児童・生徒の別に分類しても回答傾向は概ね同様であるが、高等学校では「授業中の児童生徒の挙手や発言の回数」等が評価に影響を及ぼすとされた回答が、担当している人数が相対的に少ない場合に若干高くなっている (p.86 図表 5-1-1~p.91 図表 5-1-9)。
- 観点別評価を踏まえて決定する「評定」についての考えとして、高等学校では「観点別学習状況の評価を『評定』にどうつなげるかが分かりにくい」という項目に関して、指導している生徒の人数が相対的に多い場合のほう  
が課題認識が高くなっている (p.97 図表 5-4-3)。
- 学習評価を行うに当たっての負担感について、小学校・中学校・高等学校ともに、担当している児童生徒の人数が相対的に多い場合のほう  
が、負担を感じるとの回答が高い項目が多く、担当している人数が多いとその分教師の負担も大きくなっていることがうかがえる (p.98 図表 5-5-1~p.99 図表 5-5-3)。
- なお、中学校・高等学校について、担当している生徒の人数が相対的に多い場合のほう  
が、負担を感じるとの回答が高いという傾向は、総合的な学習の時間等の担当の有無別に集計しても同様に見られる (p.100 図表 5-5-4~p.103 図表 5-5-9)。

<sup>3</sup> 小学校・中学校・高等学校ともに、「担当している児童生徒数が比較的少ない場合」と、「担当している児童生徒数が平均的あるいは比較的多い場合」との2群に分類するようにした。なお、中学校・高等学校については、担当している教科等の性質によって指導方法や学習評価のあり方が異なると考えられ、また、教科等の違いによって担当している人数にも差異がある（「保健体育等の教科」のほう  
が指導している人数が相対的に多い）と考えられたため、解釈等をより明確にできるようにするため、「国語等の教科」（中学校は国語、社会、数学、理科、外国語、高等学校は国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語）を指導している教師に限定して集計を行った。



## 第2章

### 学校種別の集計・分析

## 第2章 学校種別の集計・分析

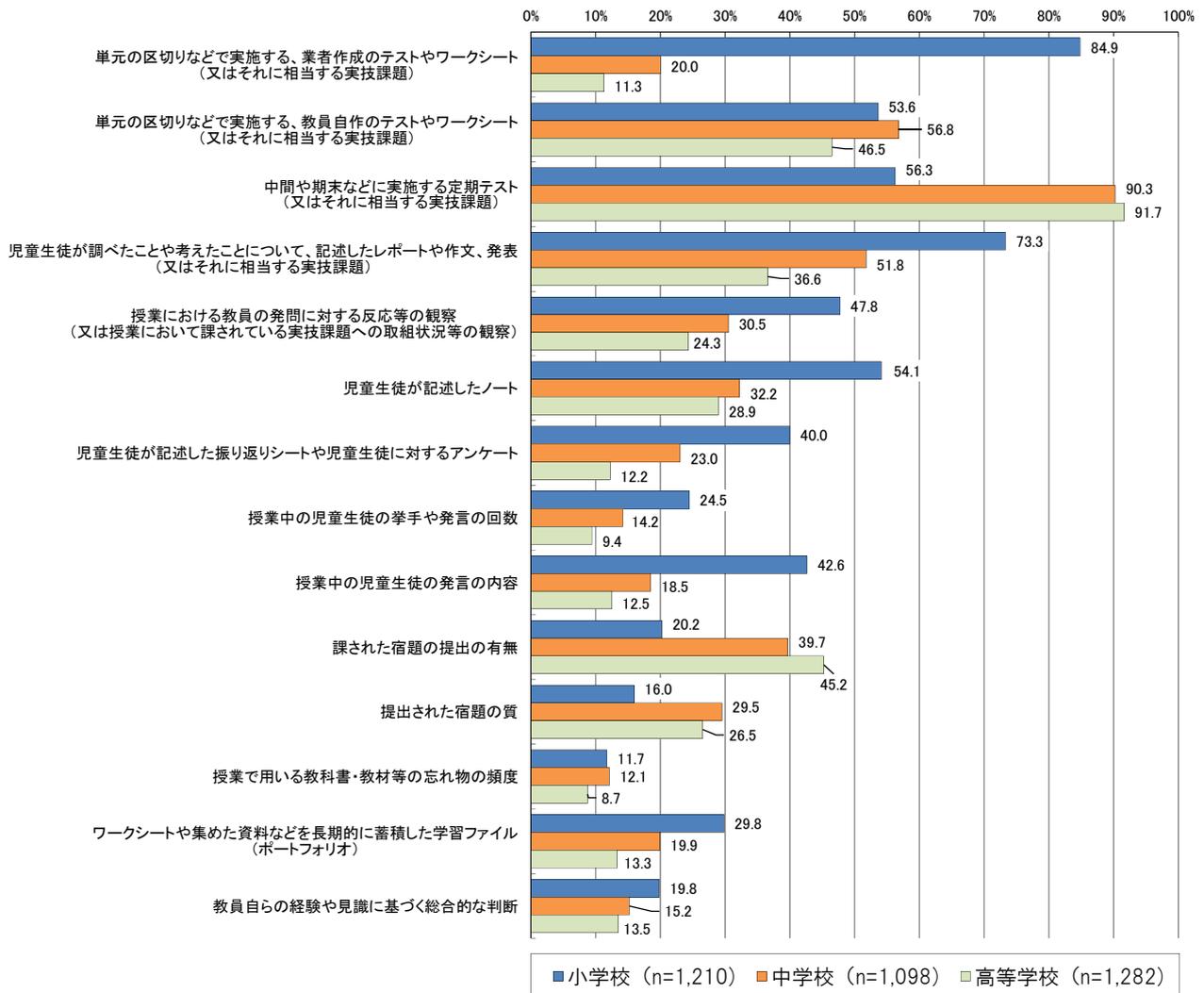
### 1. 観点別評価に影響を及ぼす方法

#### (1) 「知識・理解」及び「技能」の評価について

どのような方法が「知識・理解」及び「技能」の評価に影響を及ぼすかということに関して、「影響している」との回答があった割合に着目すると、小学校では、「単元の区切りなどで実施する、業者作成のテストやワークシート<sup>4</sup>」、中学校・高等学校では「中間や期末などに実施する定期テスト」で最も割合が高くなっている。

小学校では中学校・高等学校に比べて「影響している」との回答割合が高い項目が多いが、「課された宿題の提出の有無」や「提出された宿題の質」については、小学校よりも中学校・高等学校のほうが割合が高くなっている。

図表 2-1-1 評価の方法が「知識・理解」及び「技能」の評価に影響を及ぼす度合い



※各項目について「影響している」「やや影響している」「あまり影響していない」「影響していない」の選択肢で回答を得たもののうち「影響している」の回答割合を示した。

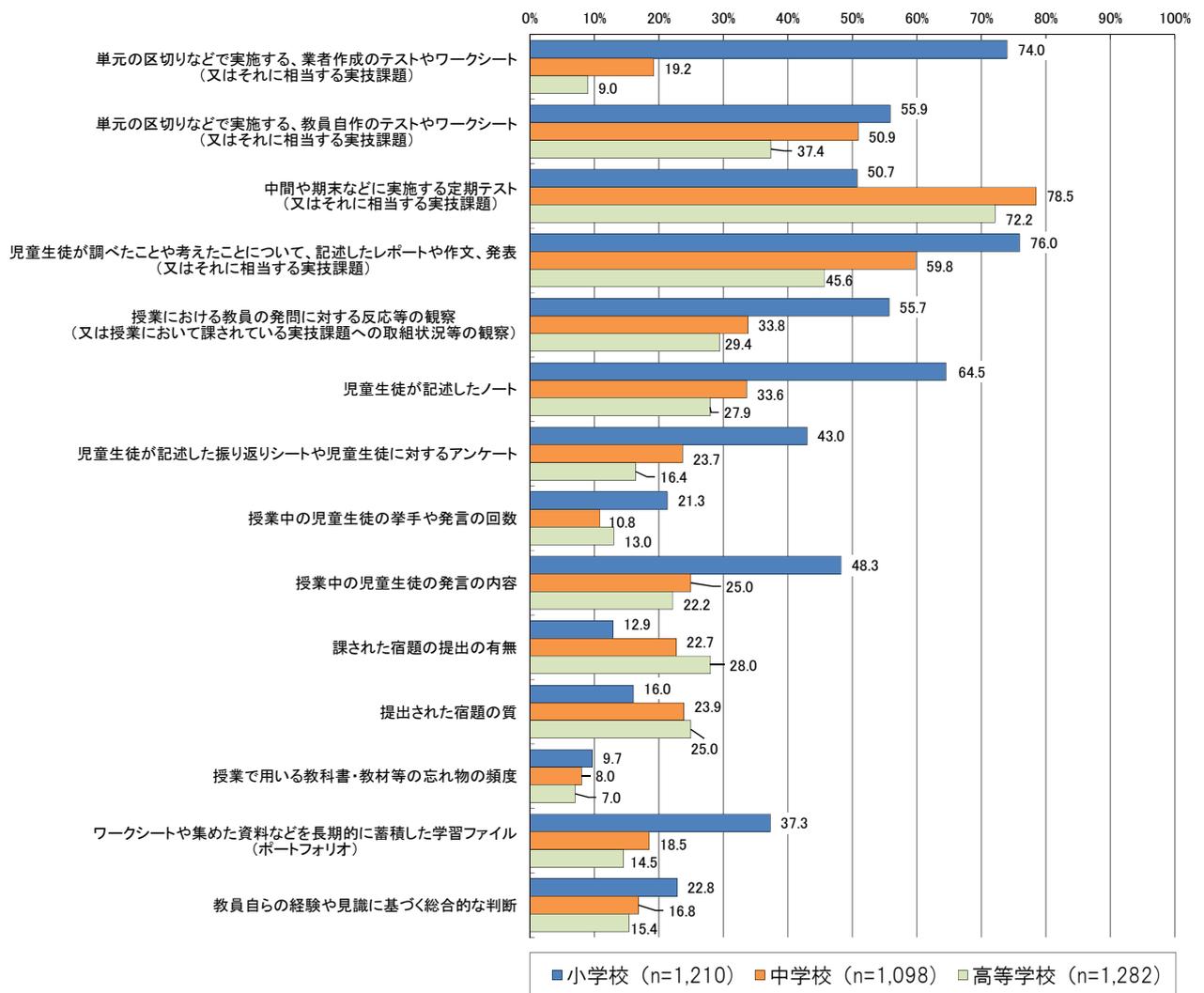
4 以下、コメント部分では調査項目のうち括弧内の部分は省略して表記する。

(2) 「思考・判断・表現」の評価について

どのような方法が「思考・判断・表現」の評価に影響を及ぼすかということに関して、「影響している」との回答があった割合に着目すると、小学校では、「児童生徒が調べたことや考えたことについて、記述したレポートや作文、発表」、中学校・高等学校では「中間や期末などに実施する定期テスト」で最も割合が高くなっている。

「知識・理解」及び「技能」の評価と同様に、小学校では中学校・高等学校に比べて「影響している」との回答割合が高い項目が多いが、「課された宿題の提出の有無」や「提出された宿題の質」については、小学校よりも中学校・高等学校のほうが割合が高くなっている。

図表 2-1-2 評価の方法が「思考・判断・表現」の評価に影響を及ぼす割合



※各項目について「影響している」「やや影響している」「あまり影響していない」「影響していない」の選択肢で回答を得たもののうち「影響している」の回答割合を示した。

第2章 1.

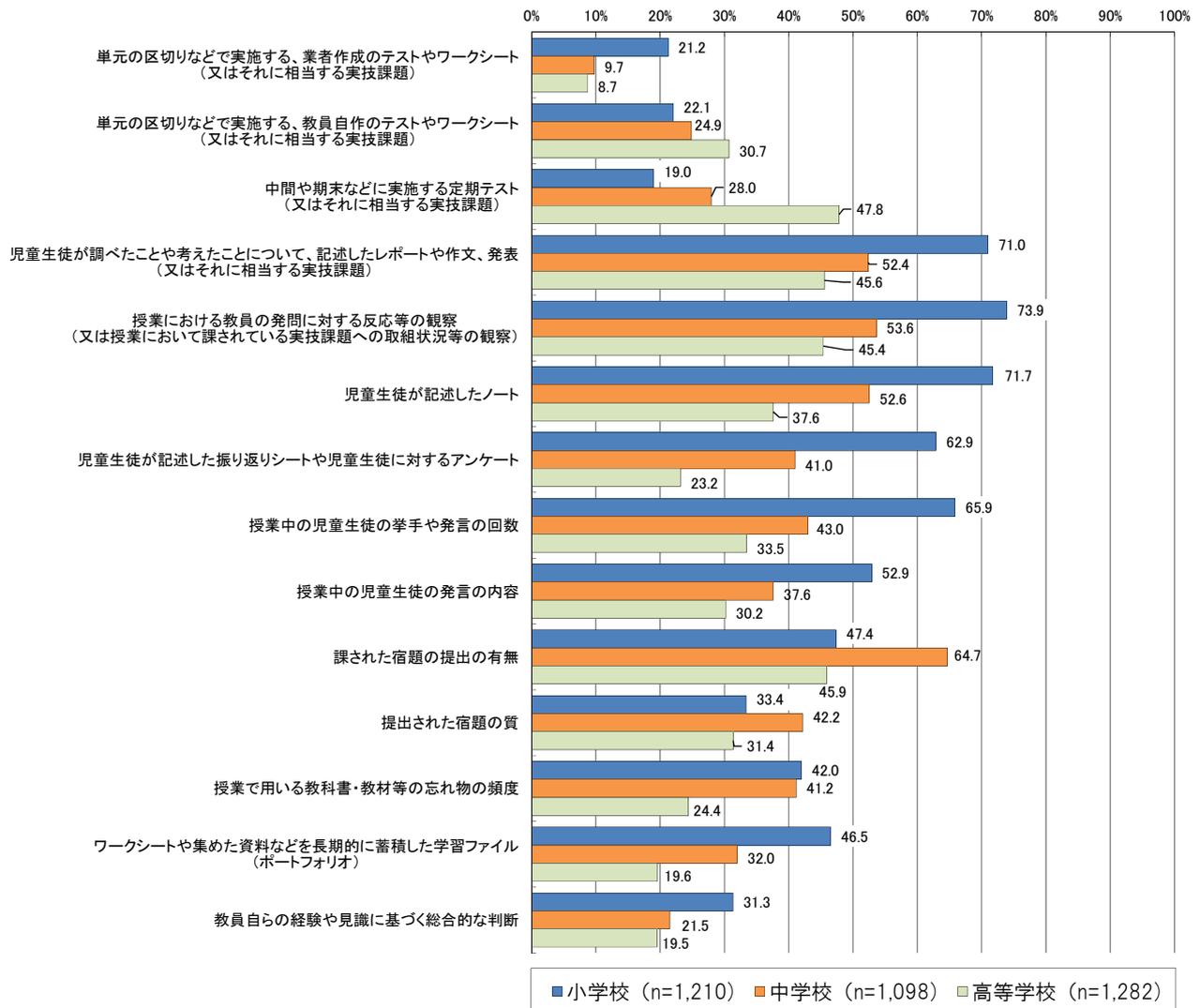
(3) 「関心・意欲・態度」の評価について

どのような方法が「関心・意欲・態度」の評価に影響を及ぼすかということに関して、「影響している」との回答があった割合に着目すると、小学校では、「授業における教員の発問に対する反応等の観察」の割合が最も高く、「児童生徒が記述したノート」や「児童生徒が調べたことや考えたことについて、記述したレポートや作文、発表」についても同様に割合が高くなっている。

中学校では「課された宿題の提出の有無」の割合が最も高く、次いで「授業における教員の発問に対する反応等の観察」、「児童生徒が記述したノート」、「児童生徒が調べたことや考えたことについて、記述したレポートや作文、発表」の割合が比較的高くなっている。

高等学校では「中間や期末などに実施する定期テスト」の割合が最も高く、同様に「課された宿題の提出の有無」、「児童生徒が調べたことや考えたことについて、記述したレポートや作文、発表」、「授業における教員の発問に対する反応等の観察」についても割合が高くなっている。ただし、高等学校では「影響している」との回答割合はいずれも5割未満となっている。

図表 2-1-3 評価の方法が「関心・意欲・態度」の評価に影響を及ぼす割合



※各項目について「影響している」「やや影響している」「あまり影響していない」「影響していない」の選択肢で回答を得たもののうち「影響している」の回答割合を示した。

(4) 観点別の回答結果の差異

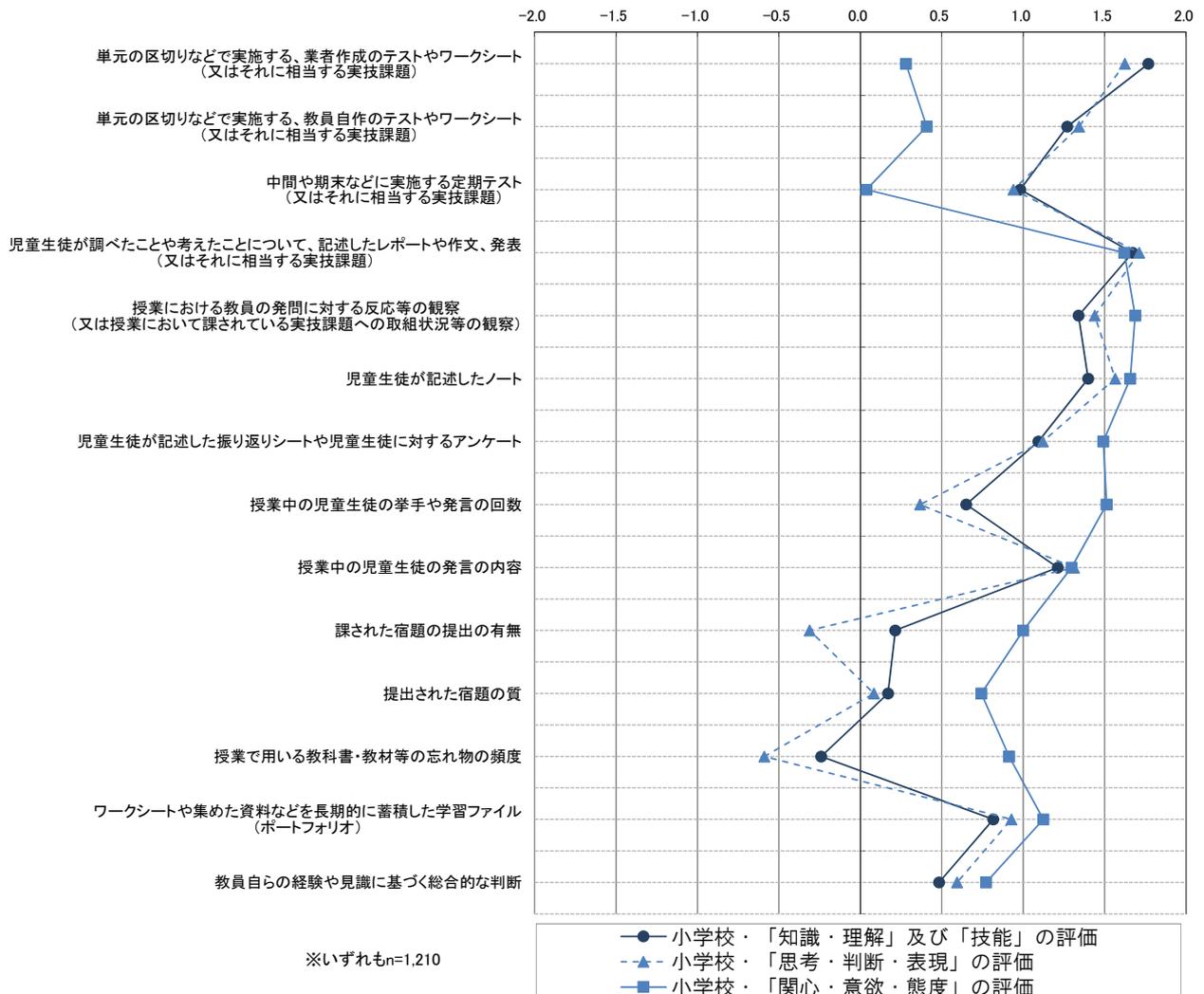
① 小学校教師の回答結果

小学校における「知識・理解」及び「技能」の評価、「思考・判断・表現」の評価、「関心・意欲・態度」の評価のそれぞれに対し、どのような方法が影響を及ぼすかということに関する回答結果を比較した。

小学校ではいずれの観点の評価についても、「児童生徒が調べたことや考えたことについて、記述したレポートや作文、発表」、「授業における教員の発問に対する反応等の観察」、「児童生徒が記述したノート」等は、影響を及ぼすとの評点が比較的高くなっている。

また、「単元の区切りなどで実施する、業者作成のテストやワークシート」や「単元の区切りなどで実施する、教員自作のテストやワークシート」については「知識・理解」及び「技能」の評価や、「思考・判断・表現」の評価に対して影響を及ぼすとの評点が高く、「授業中の児童生徒の挙手や発言の回数」などについては、「関心・意欲・態度」の評価に対して影響を及ぼすとの評点が相対的に高くなっている。

図表 2-1-4 評価の方法が観点別評価に影響を及ぼす度合い (小学校)



※各項目について、それぞれ「影響している」を+2、「やや影響している」を+1、「あまり影響していない」を-1、「影響していない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

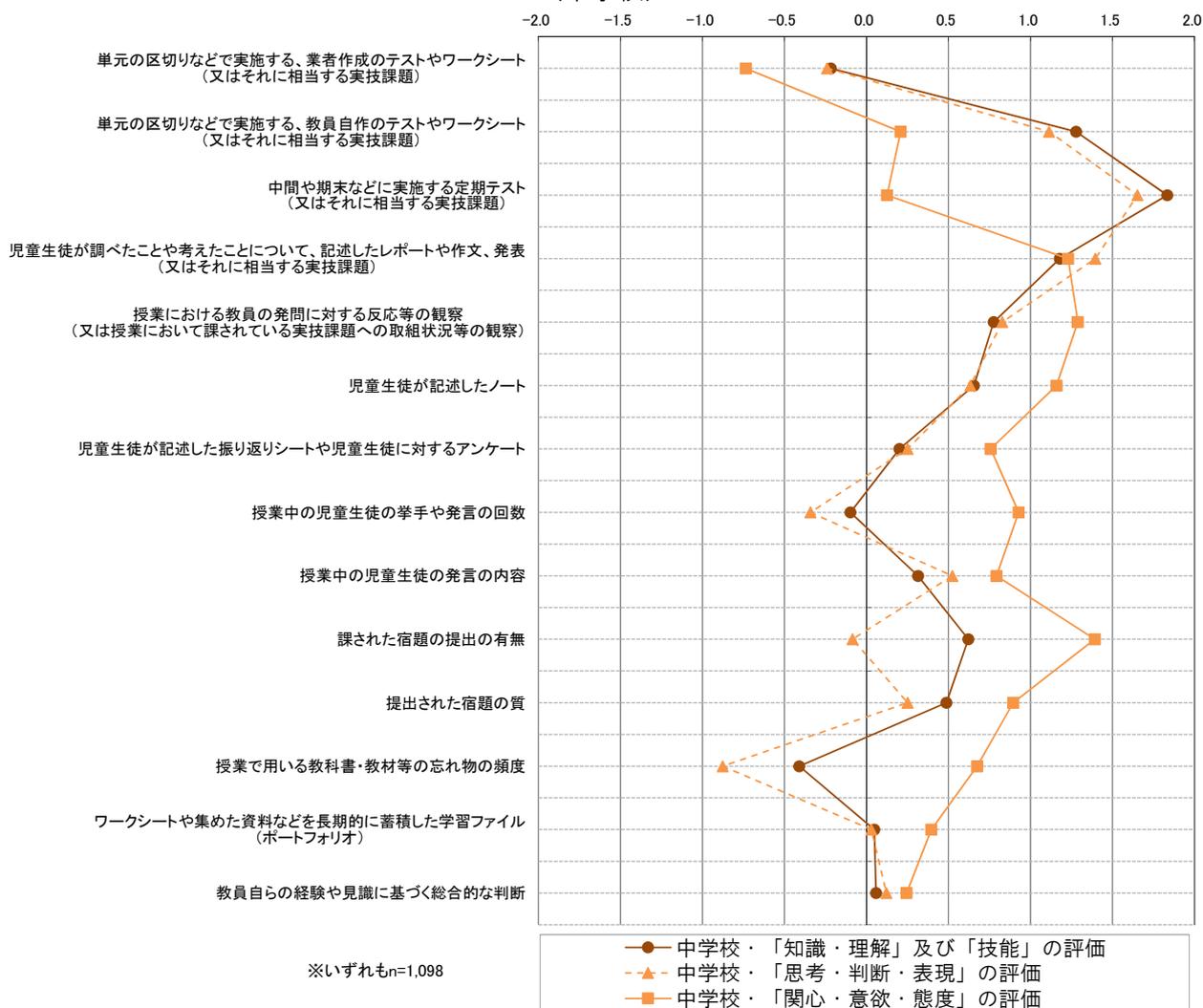
②中学校教師の回答結果

中学校における「知識・理解」及び「技能」の評価、「思考・判断・表現」の評価、「関心・意欲・態度」の評価のそれぞれに対し、どのような方法が影響を及ぼすかということに関する回答結果を比較した。

中学校では、「児童生徒が調べたことや考えたことについて、記述したレポートや作文、発表」については、いずれの観点の評価についても影響を及ぼすとの評点が比較的高くなっている。

また、「中間や期末などに実施する定期テスト」、「単元の区切りなどで実施する、教員自作のテストやワークシート」は、「知識・理解」及び「技能」の評価や「思考・判断・表現」の評価について影響を及ぼすとの評点が特に高くなっている。他方、「関心・意欲・態度」の評価に対しては、「課された宿題の提出の有無」などの項目について、影響を及ぼすとの評点が相対的に高くなっている。

図表 2-1-5 評価の方法が観点別評価に影響を及ぼす度合い (中学校)



※各項目について、それぞれ「影響している」を+2、「やや影響している」を+1、「あまり影響していない」を-1、「影響していない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

③高等学校教師の回答結果

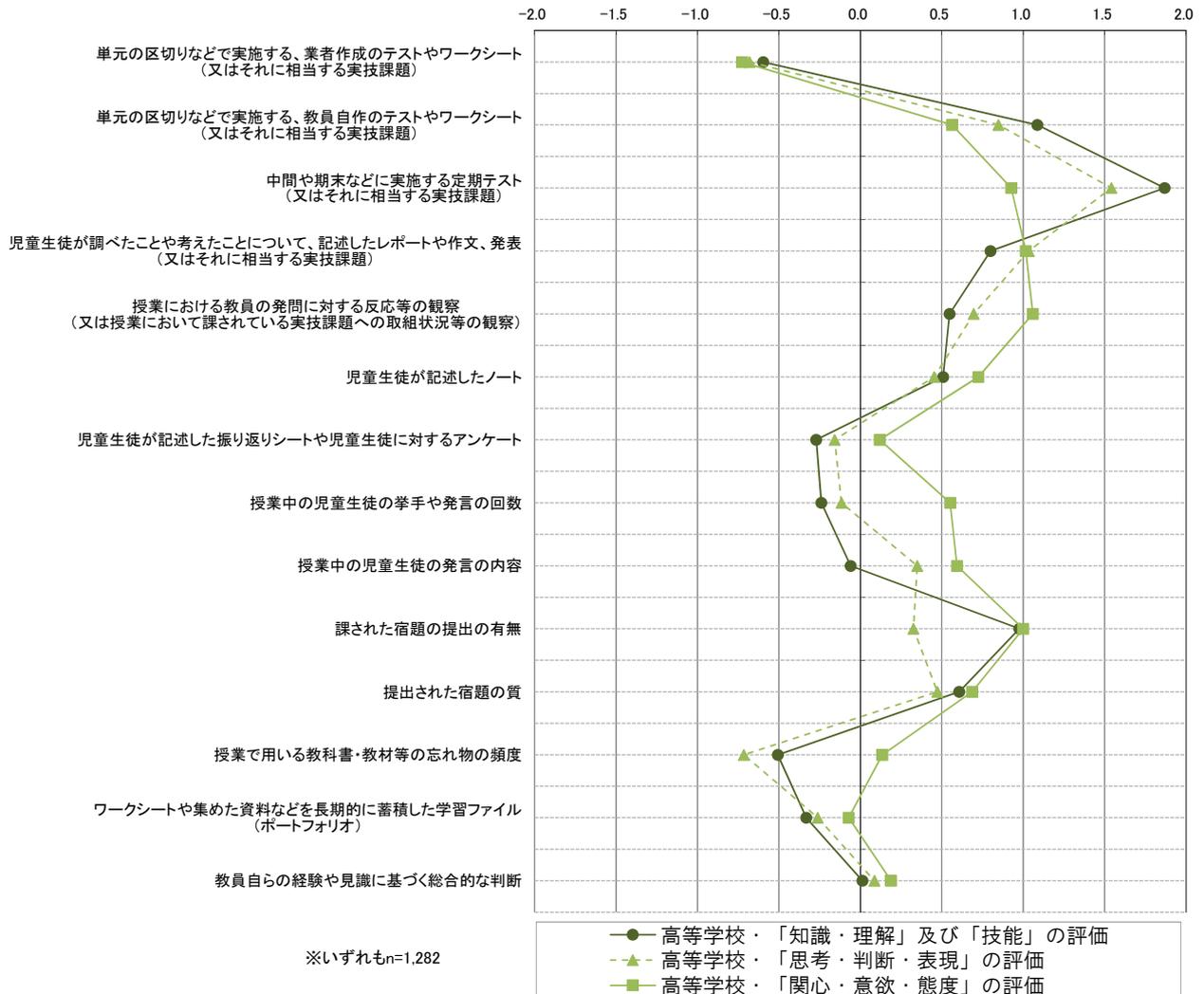
高等学校における「知識・理解」及び「技能」の評価、「思考・判断・表現」の評価、「関心・意欲・態度」の評価のそれぞれに対し、どのような方法が影響を及ぼすかということに関する回答結果を比較した。

高等学校では、中学校と同様、「中間や期末などに実施する定期テスト」、「単元の区切りなどで実施する、教員自作のテストやワークシート」は、「知識・理解」及び「技能」の評価や「思考・判断・表現」の評価について影響を及ぼすとの評点が高くなっている。

また、「知識・理解」及び「技能」の評価については、「課された宿題の提出の有無」が影響を及ぼすとの評点も比較的高く、「関心・意欲・態度」に関する評価と同程度の評点となっている。

このほか、高等学校では、「中間や期末などに実施する定期テスト」など、全体として観点別の回答結果の差異が小学校・中学校に比べ小さい項目が多いことがうかがえる。

図表 2-1-6 評価の方法が観点別評価に影響を及ぼす度合い (高等学校)



※各項目について、それぞれ「影響している」を+2、「やや影響している」を+1、「あまり影響していない」を-1、「影響していない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

(5) 各観点別の評価に影響を及ぼすと回答された「その他」の内容

「知識・理解」及び「技能」の評価、「思考・判断・表現」の評価、「関心・意欲・態度」の評価のそれぞれに対し、「その他」の方法が影響していると回答した教師の、自由記述による回答内容を整理した<sup>5</sup>。

「知識・理解」及び「技能」については、小学校では「日頃の様子を観察」や「授業態度」といった、児童の日常や授業についての観察から得た情報に関する回答が多く、「作文や作品」などの製作物を基に評価をしているとの回答も多かった。中学校では「実技テスト」「技能テスト」といった回答が多く、「制作された作品」などの製作物を基に評価しているとの回答も多かった。高等学校では、「実技実習」などの回答や、「英語検定などの取得」といった外部検定・資格関連に関する回答が多く、このほか、出欠席等に関する情報を基に評価をしているとの回答も見られた。

「思考・判断・表現」については、小学校では「日頃の様子を観察」などのほか、「話し合いの様子」などの回答が多かった。中学校では「グループ活動」や「言語活動」などの回答のほか、「実技テスト」などの回答も多かった。高等学校では「グループ活動等での役割・貢献度」といったグループ活動関連と、「発表」「小論文」などの表現に関する回答が比較的多かった。

「関心・意欲・態度」については、小学校では「授業態度」に関する回答が多く、中学校でも「授業態度」に関する回答が多かった。高等学校では「出席状況」「欠課時数」などの出欠席等に関する回答が多く見られた。

図表 2-1-7 各観点別の評価に影響を及ぼす方法として挙げられた「その他」の内容

観点	学校種別	回答内容（例）
「知識・理解」 及び「技能」	小学校	○日頃の様子を観察、授業態度、活動の様子、など ○作文や作品、体育や図工については技や作品、など
	中学校	○実技テスト、技能テスト、観察・実験の技能、など ○制作された作品、完成した作品の質、造形活動への意欲、など
	高等学校	○実技実習、実験レポート、実習作業の様子、プレゼン、など ○英語検定などの取得、資格試験、検定の可否、など ○出席及び遅刻、学習時間、放課後等の質問内容、など
「思考・判断・ 表現」	小学校	○日頃の様子を観察、授業態度、活動の様子、など ○話し合いの様子、討論会、グループ学習への姿勢、交流態度、など
	中学校	○グループ活動、ペア学習などの取組状況、言語活動の参加、など ○実技テスト、実力テスト、パフォーマンステスト、など
	高等学校	○グループ活動等での役割・貢献度、教えあい、ペアワーク、など ○発表、小論文、まとめノート発表、授業中の質問、など
「関心・意欲・ 態度」	小学校	○授業中の話の聞き方、授業中の態度、授業中の姿勢、など
	中学校	○授業態度、授業内外での発言や興味関心、自主学习への取組、など
	高等学校	○授業の出席状況、出席日数、プリント提出回数、忘れ物の有無など

<sup>5</sup> 「その他」の点が「影響している」と回答され、具体的な記述があったのは、「知識・理解」及び「技能」について小学校では 25 件、中学校では 34 件、高等学校では 39 件であった。同様に、「思考・判断・表現」の評価について小学校 20 件、中学校 26 件、高等学校 33 件、「関心・意欲・態度」の評価について小学校 29 件、中学校 26 件、高等学校 32 件で「その他」の点が「影響している」と回答され、具体的な記述があった。

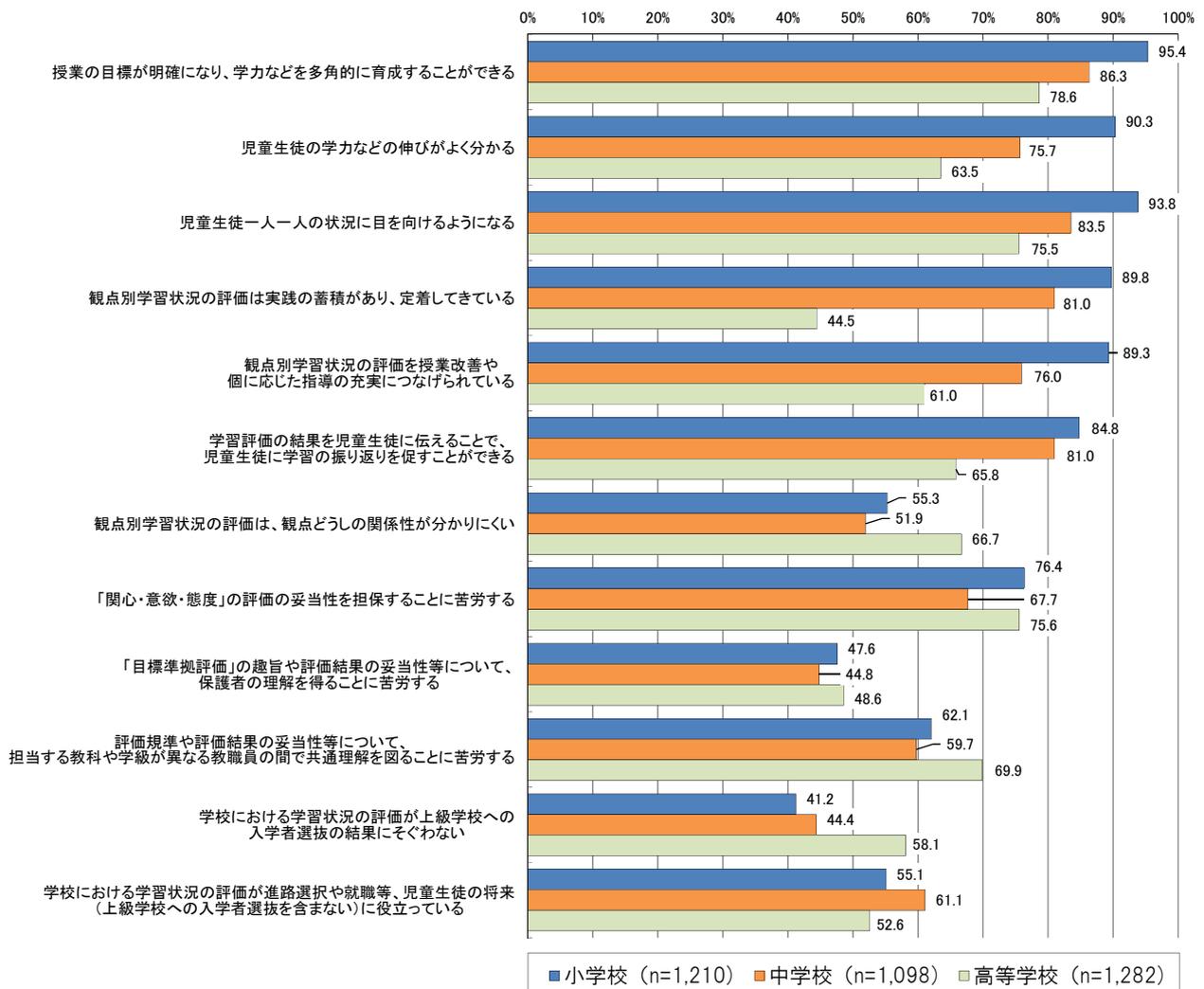
2. 目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価に対する考え・意識

(1) 学校種別の集計・分析

目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価などをどのように感じているかということに関して、「そう思う」または「まあそう思う」と回答された割合に着目すると、「授業の目標が明確になり、学力などを多角的に育成することができる」、「児童生徒一人一人の状況に目を向けるようになる」の各項目についての肯定的な回答は小学校・中学校・高等学校のいずれも7割以上となっており、特に小学校では9割以上と高くなっている。

他方で、「観点別の学習状況の評価は、観点どうしの関係性が分かりにくい」、「『関心・意欲・態度』の評価の妥当性を担保することに苦勞する」、「評価規準や評価結果の妥当性等について、担当する教科や学級が異なる教職員の間で共通理解を図ることに苦勞する」の各項目については、小学校・中学校・高等学校のいずれも課題があるとの回答が5割以上となっている。特に高等学校ではその割合が高い傾向が見られ、加えて、「観点別学習状況の評価は実践の蓄積があり、定着してきている」という項目についての肯定的な回答割合が低いなど、小学校や中学校に比べて課題が大きいことがうかがえる。

図表 2-2-1 目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価に対する考え・意識



※各項目について「そう思う」「まあそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の選択肢で回答を得たもののうち「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた回答割合を示した。

第2章2.

(2) 過年度調査との比較

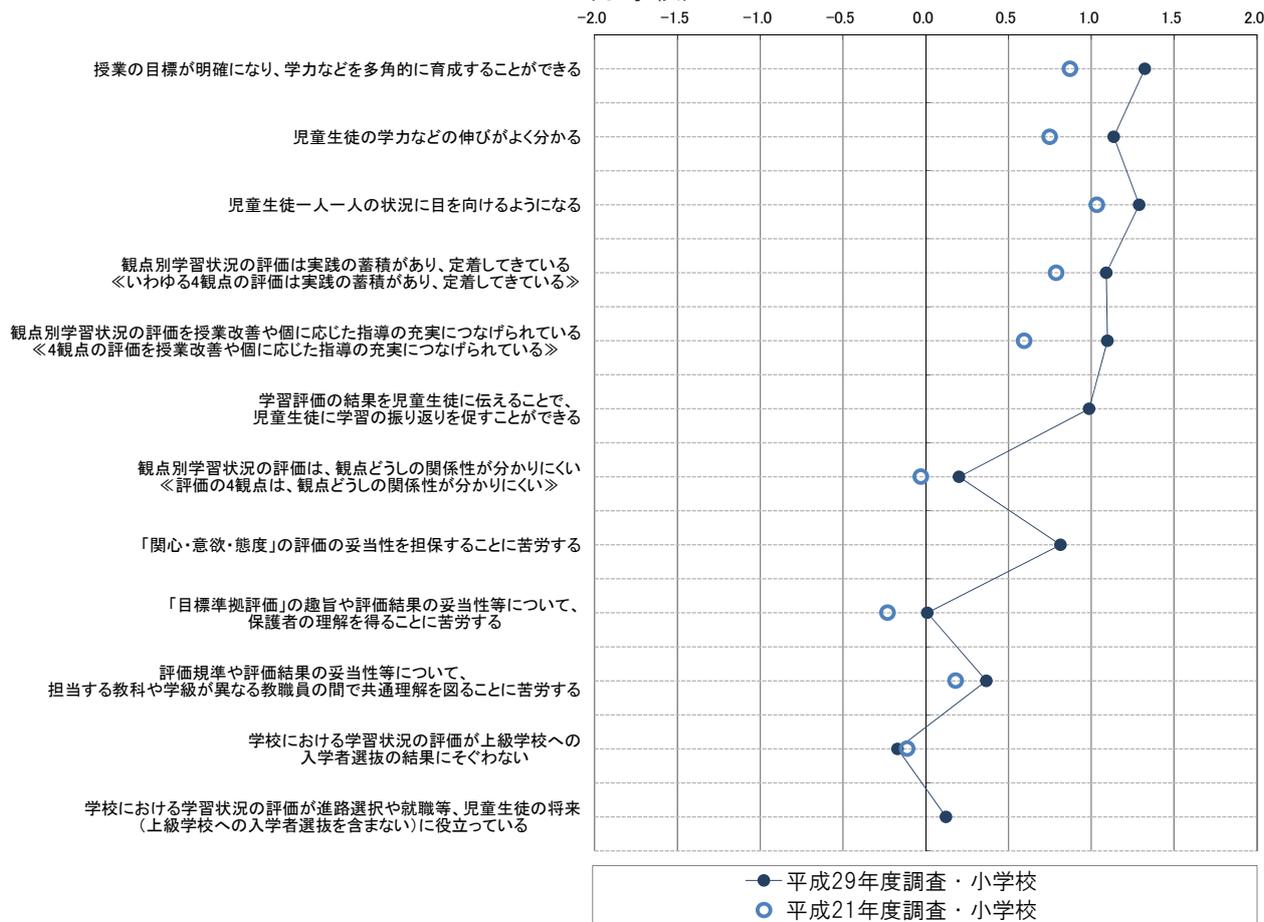
① 小学校教師の回答結果

目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価などをどのように感じているかということに関する小学校の教師の回答結果を、今年度調査と過年度調査とで比較した。

小学校では、「授業の目標が明確になり、学力などを多角的に育成することができる」、「児童生徒の学力などの伸びがよく分かる」、「児童生徒一人一人の状況に目を向けるようになる」、「観点別学習状況の評価は実践の蓄積があり、定着してきている」、「観点別学習状況の評価を授業改善や個に応じた指導の充実につなげられている」の5点について、いずれも過年度調査の結果と比較して肯定的な回答が高まっている。

他方、「観点別学習状況の評価は、観点どうしの関係性が分かりにくい」、「『目標準拠評価』の趣旨や評価結果の妥当性等について、保護者の理解を得ることに苦労する」、「評価規準や評価結果の妥当性等について、担当する教科や学級が異なる教職員の間で共通理解を図ることに苦労する」の3点についての課題認識も高まっていることがうかがえる。

図表 2-2-2 目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価に対する考え・意識 (小学校)



※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

※一部の項目については今年度調査と過年度調査とで若干異なるワーディングで調査を行っている。また、今年度調査でのみたずねており、過年度調査では扱っていない項目もある。(今年度調査と過年度調査とでワーディングが異なる場合は、過年度調査で用いられた文章を《 》内に示した)

※今年度調査の集計度数はいずれも1,210であるが、過年度調査は無回答であったものを除いて集計を行っているため集計度数は項目によって異なる。

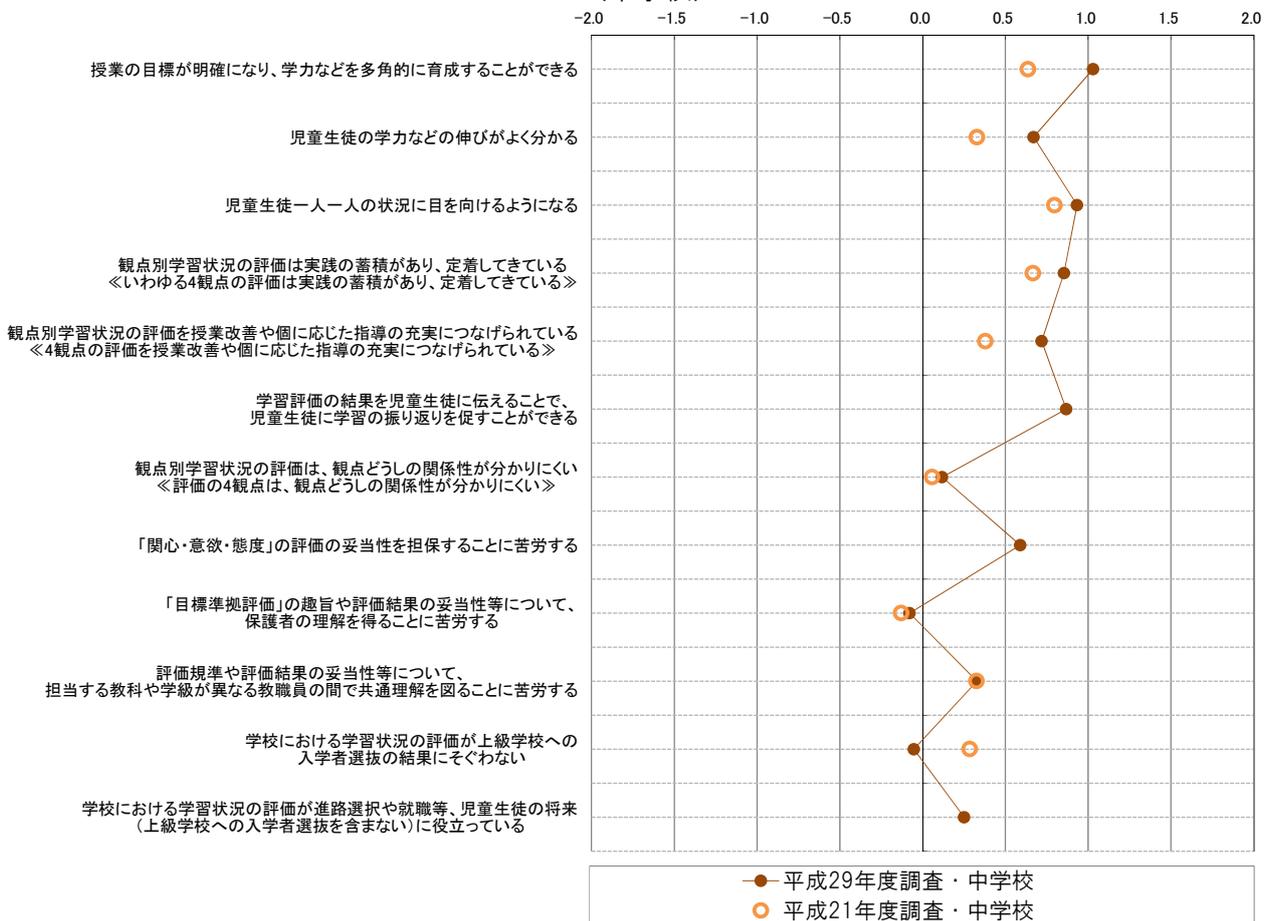
②中学校教師の回答結果

目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価などをどのように感じているかということに関する中学校の教師の回答結果を、今年度調査と過年度調査とで比較した。

中学校では、小学校と同様に、「授業の目標が明確になり、学力などを多角的に育成することができる」、「児童生徒の学力などの伸びがよく分かる」、「児童生徒一人一人の状況に目を向けるようになる」、「観点別学習状況の評価は実践の蓄積があり、定着してきている」、「観点別学習状況の評価を授業改善や個に応じた指導の充実につなげられている」の5点について、いずれも過年度調査の結果と比較して肯定的な回答が高まっている。

また、「学校における学習状況の評価が上級学校への入学者選抜の結果にそぐわない」という項目について、過年度調査の結果と比較して課題認識に関する評点は低くなっている。

図表 2-2-3 目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価に対する考え・意識 (中学校)



※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※一部の項目については今年度調査と過年度調査とで若干異なるワーディングで調査を行っている。また、今年度調査でのみたずねており、過年度調査では扱っていない項目もある。(今年度調査と過年度調査とでワーディングが異なる場合は、過年度調査で用いられた文章を《 》内に示した)  
 ※今年度調査の集計度数はいずれも1,098であるが、過年度調査は無回答であったものを除いて集計を行っているため集計度数は項目によって異なる。

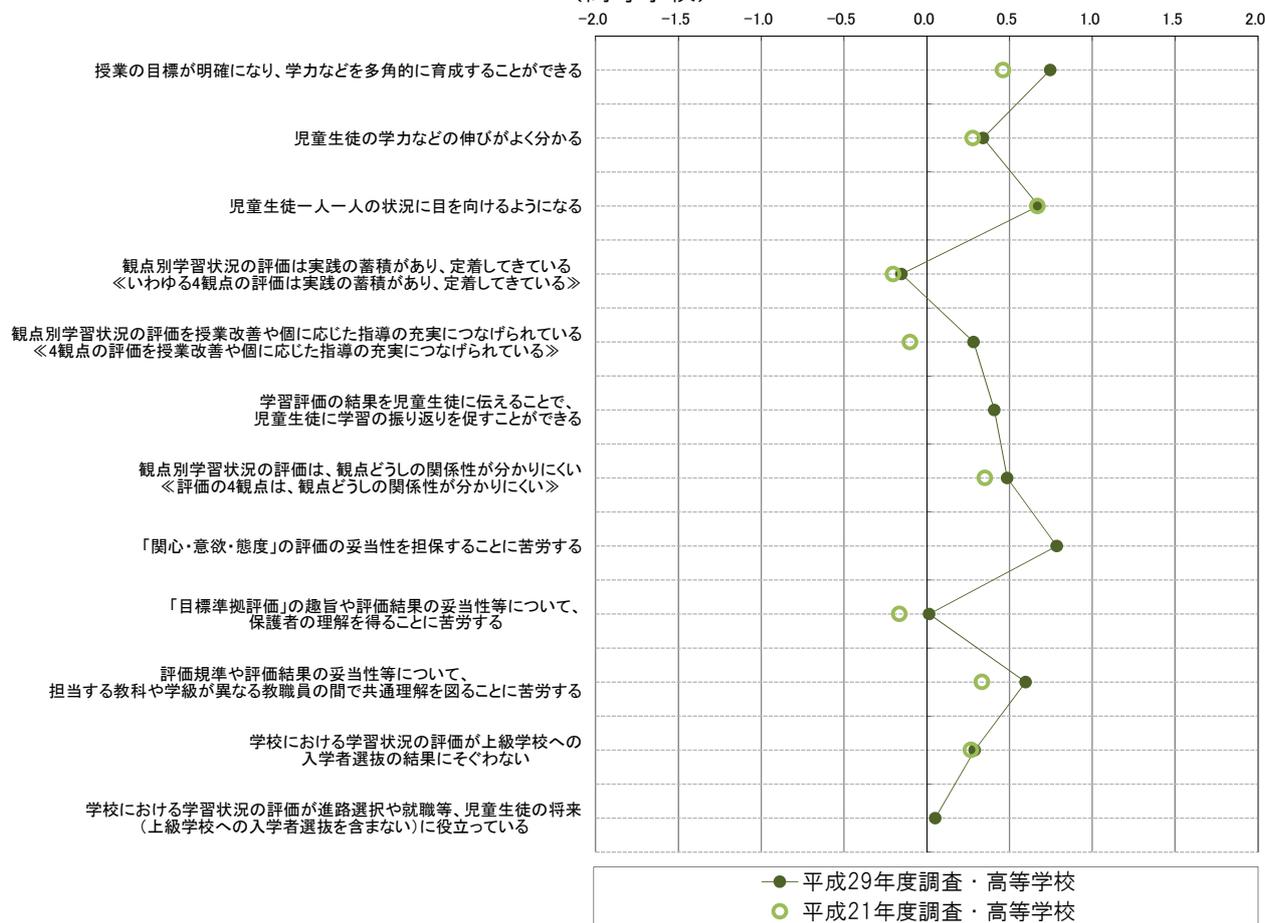
③高等学校教師の回答結果

目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価などをどのように感じているかということに関する高等学校の教師の回答結果を、今年度調査と過年度調査とで比較した。

高等学校では、「授業の目標が明確になり、学力などを多角的に育成することができる」、「観点別学習状況の評価を授業改善や個に応じた指導の充実につなげられている」の2点について、過年度調査の結果と比較して肯定的な回答が高まっている。なお、「観点別学習状況の評価は実践の蓄積があり、定着してきている」の回答は、今年度調査と過年度調査とで同程度となっている。

他方、「観点別学習状況の評価は、観点どうしの関係性が分かりにくい」、「『目標準拠評価』の趣旨や評価結果の妥当性等について、保護者の理解を得ることに苦労する」、「評価規準や評価結果の妥当性等について、担当する教科や学級が異なる教職員の間で共通理解を図ることに苦労する」の3点について、課題認識が高まっていることがうかがえる。

図表 2-2-4 目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価に対する考え・意識 (高等学校)



※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※一部の項目については今年度調査と過年度調査とで若干異なるワーディングで調査を行っている。また、今年度調査でのみたずねており、過年度調査では扱っていない項目もある。(今年度調査と過年度調査とでワーディングが異なる場合は、過年度調査で用いられた文章を《 》内に示した)  
 ※今年度調査の集計度数はいずれも1,282であるが、過年度調査は無回答であったものを除いて集計を行っているため集計度数は項目によって異なる。

### 3. 観点別学習状況の評価の実施状況

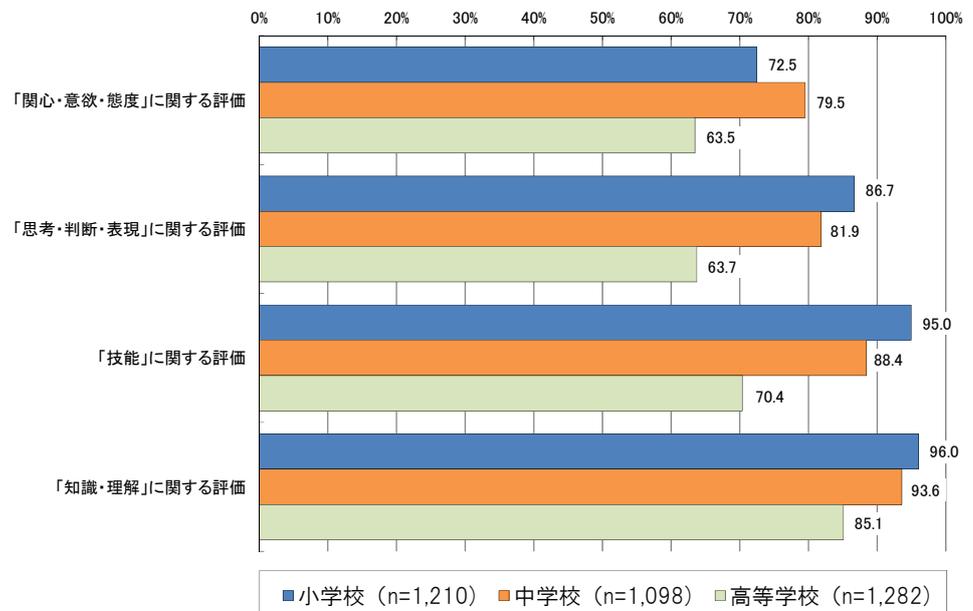
#### (1) 学校種別の集計・分析

観点別学習状況の評価の資料の収集・分析、評価の決定を円滑に実施できているかということに関して、「そう思う」または「まあそう思う」と回答された割合に着目すると、いずれの観点についても、小学校・中学校・高等学校ともに肯定的な回答が6割以上となっている。なかでも、「知識・理解」に関する評価については、小学校・中学校・高等学校ともに肯定的な回答が8割以上と高くなっている。

他方、「関心・意欲・態度」に関する評価については、他の観点に比べて肯定的な回答割合が低い傾向にある。

なお、「関心・意欲・態度」に関する評価については、中学校において肯定的な回答割合が最も高く、その他の観点については小学校で肯定的な回答割合が最も高くなっている。高等学校ではいずれの観点についても肯定的な回答割合が比較的低くなっている。

図表 2-3-1 観点別学習状況の評価の実施状況



※各項目について「そう思う」「まあそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の選択肢で回答を得たもののうち「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた回答割合を示した。

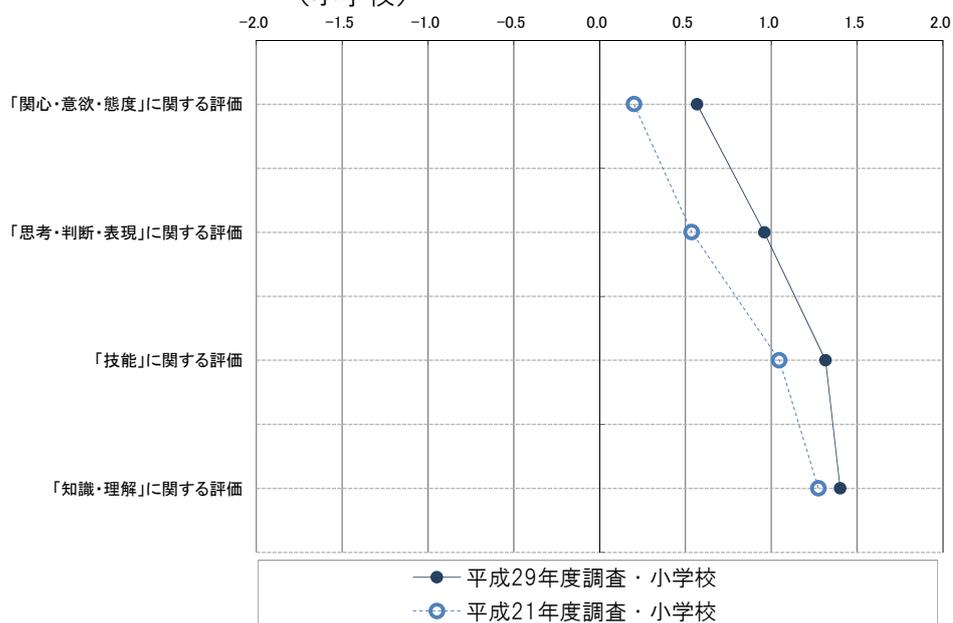
第2章3.

(2) 過年度調査との比較

観点別学習状況の評価の資料の収集・分析、評価の決定を円滑に実施できているかということに関する回答結果を、今年度調査と過年度調査とで比較した。

小学校・中学校では、いずれの観点についても、円滑に実施できているとの評点が過年度調査と比較して高くなっている。高等学校においても、「思考・判断・表現」に関する評価、「技能」に関する評価、「知識・理解」に関する評価の3点については過年度調査と比較して円滑に実施できているとの評点が高くなっているが、「関心・意欲・態度」に関する評価については、今年度調査と過年度調査とで同程度の評点となっている。

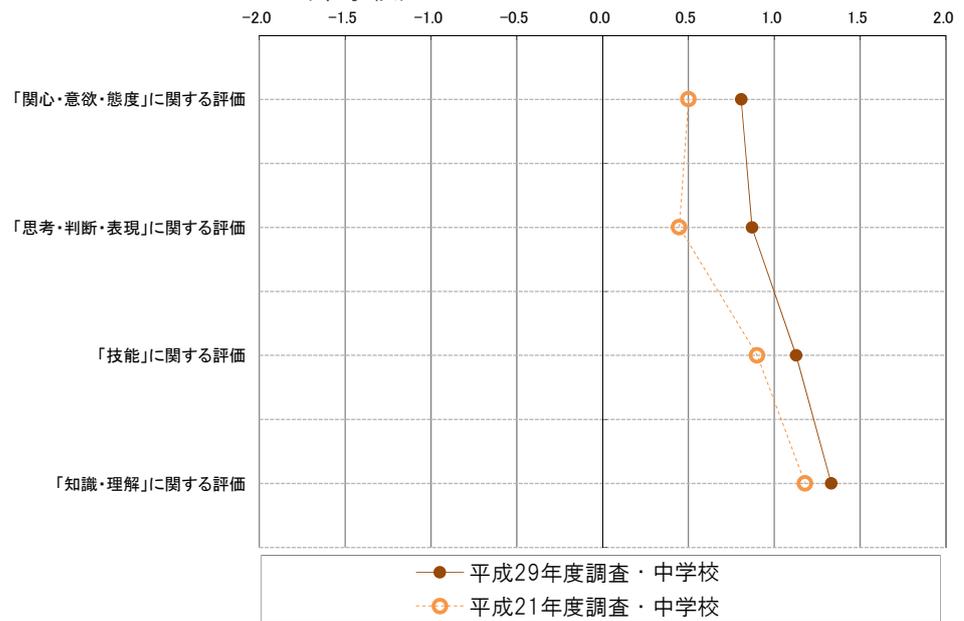
図表 2-3-2 観点別学習状況の評価の実施状況 (小学校)



※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

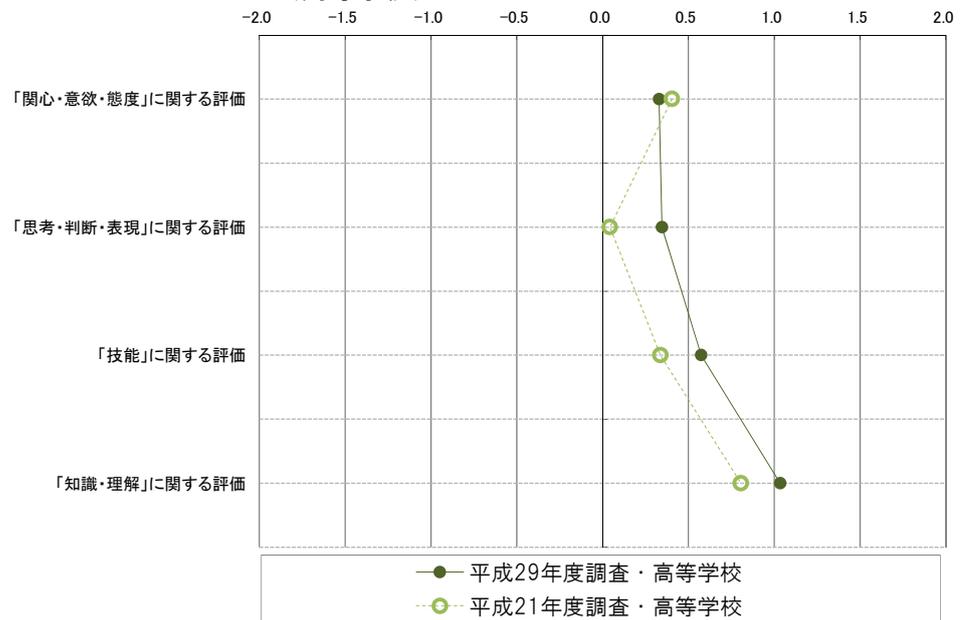
※今年度調査の集計度数はいずれも1,210であるが、過年度調査は無回答であったものを除いて集計を行っているため集計度数は項目によって異なる。

図表 2-3-3 観点別学習状況の評価の実施状況  
(中学校)



※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※今年度調査の集計度数はいずれも1,098であるが、過年度調査は無回答であったものを除いて集計を行っているため集計度数は項目によって異なる。

図表 2-3-4 観点別学習状況の評価の実施状況  
(高等学校)



※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※今年度調査の集計度数はいずれも1,282であるが、過年度調査は無回答であったものを除いて集計を行っているため集計度数は項目によって異なる。

第2章3.

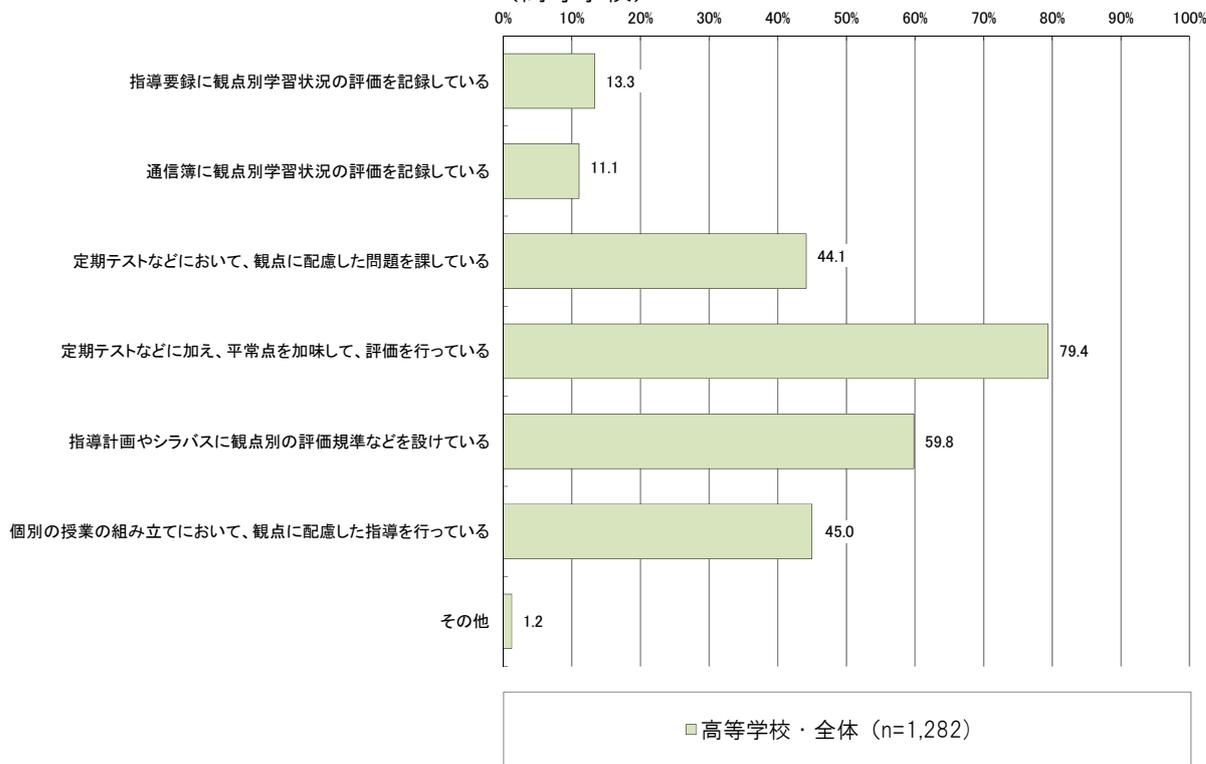
(3) 高等学校における観点別学習状況の評価の実施状況

①高等学校教師の回答結果

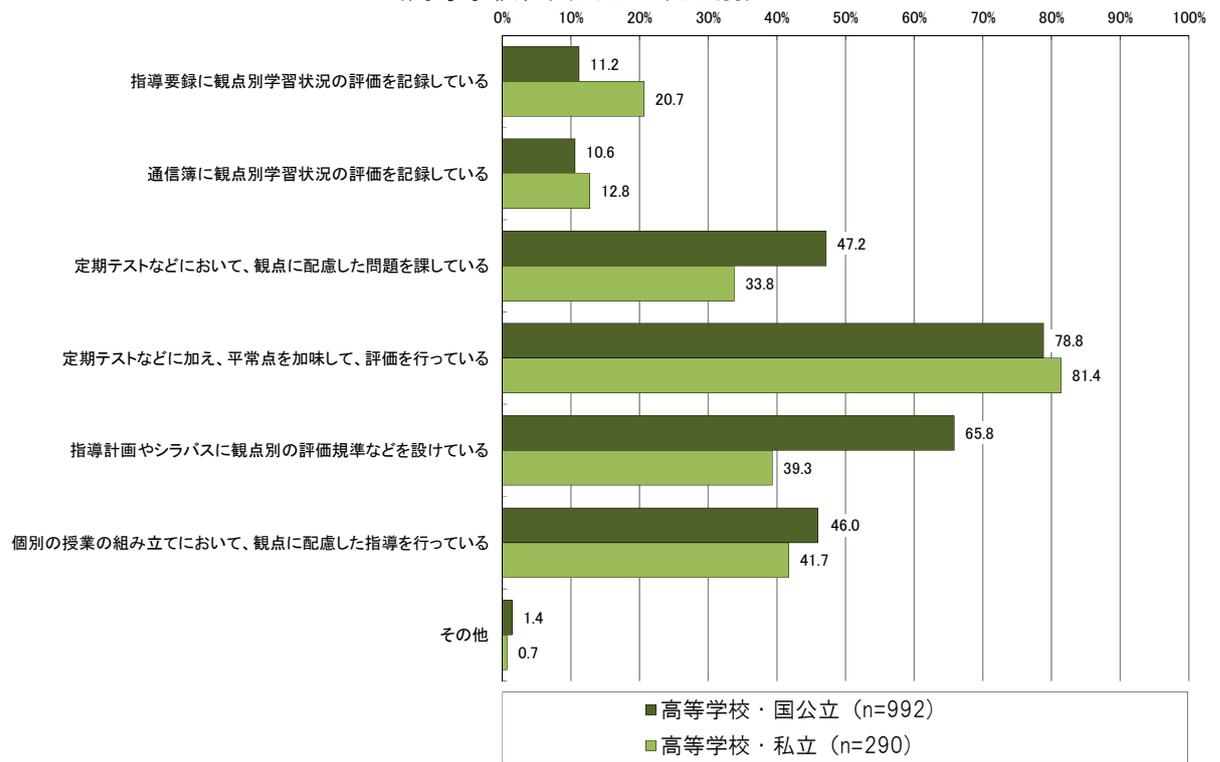
高等学校で観点別学習状況の評価をどのように実施しているかということに関しては、「定期テストなどに加え、平常点を加味して、評価を行っている」との回答が約8割と高くなっている。他方、「指導要録に観点別学習状況の評価を記録している」、「通信簿に観点別学習状況の評価を記録している」との回答はそれぞれ約1割であった。

また、国公立・私立別に回答結果を比較すると、「定期テストなどに加え、平常点を加味して、評価を行っている」との回答割合が最も高いという点は共通して見られるが、「指導要録に観点別学習状況の評価を記録している」についての回答割合は私立のほうが比較的高く、「定期テストなどにおいて、観点到配慮した問題を課している」、「指導計画やシラバスに観点別の評価規準などを設けている」の各項目については国公立のほうが実施しているとの回答割合が高くなっている。

図表 2-3-5 観点別学習状況の評価の実施状況（実施している内容、複数回答）  
（高等学校）



図表 2-3-6 観点別学習状況の評価の実施状況（実施している内容、複数回答）  
（高等学校、国公立・私立別）



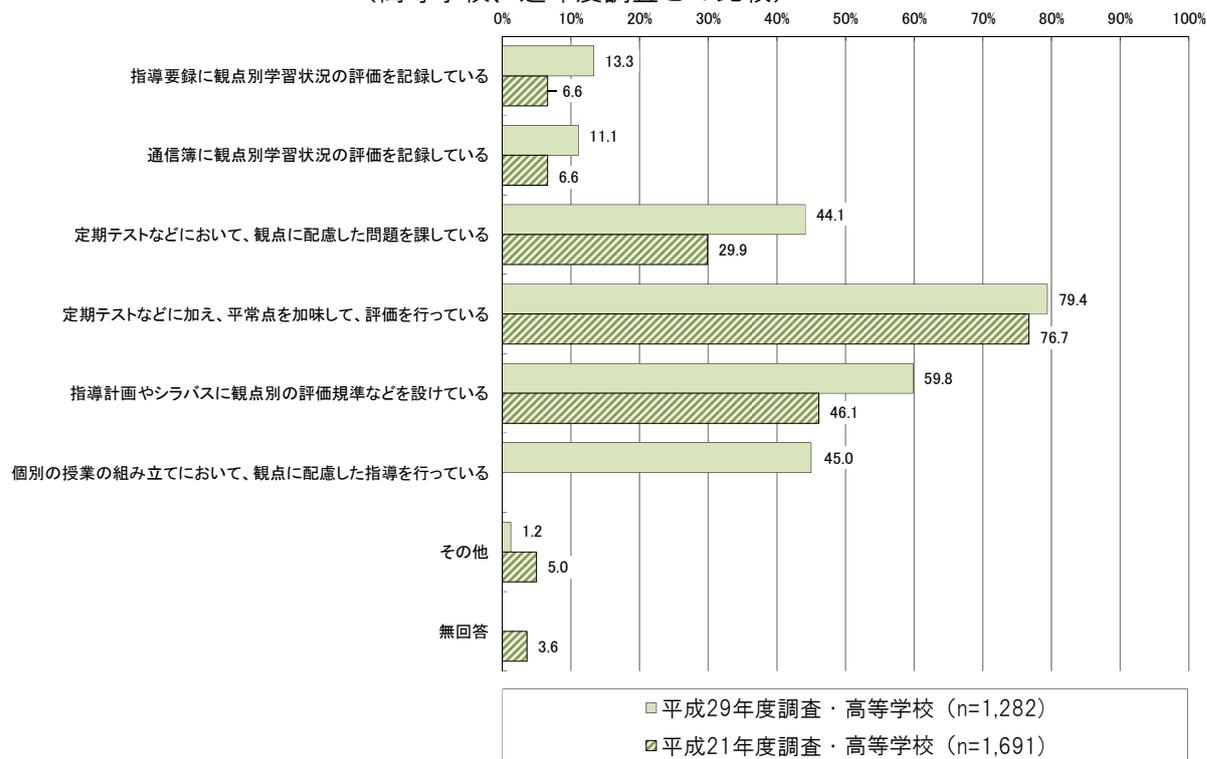
第2章3.

②過年度調査との比較

高等学校で観点別学習状況の評価をどのように実施しているかということに関する回答結果を、今年度調査と過年度調査とで比較した。

いずれの項目についても、実施しているとの回答割合は過年度調査よりも今年度調査のほうが高く、特に「定期テストなどにおいて、観点到配慮した問題を課している」、「指導計画やシラバスに観点別の評価規準などを設けている」の各項目については、実施しているとの回答割合が10ポイント以上高くなっている。

図表 2-3-7 観点別学習状況の評価の実施状況（実施している内容、複数回答）  
（高等学校、過年度調査との比較）



※「個別の授業の組み立てにおいて、観点到配慮した指導を行っている」という項目は今年度調査でのみたずねており、過年度調査では扱っていない。  
※過年度調査では「無回答」が別途集計されている点には留意が必要である。

#### 4. 観点別評価を踏まえた「評定」についての考え

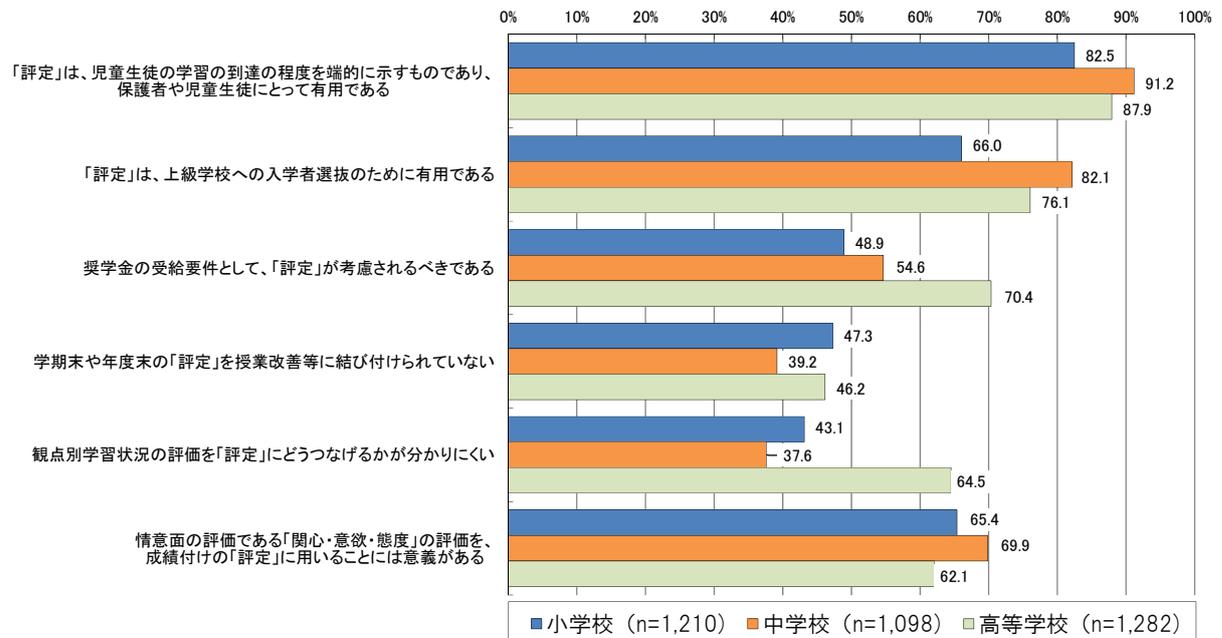
##### (1) 学校種別の集計・分析

観点別評価を踏まえて決定する「評定」をどのように感じているかということに関して、「そう思う」または「まあそう思う」と回答された割合に着目すると、『評定』は、児童生徒の学習の到達の程度を端的に示すものであり、保護者や児童生徒にとって有用である」という項目について、小学校・中学校・高等学校ともに肯定的な回答が8割以上となっている。

また、『評定』は、上級学校への入学者選抜のために有用である」や「情意面の評価である『関心・意欲・態度』の評価を、成績付けの「評定」に用いることには意義がある」という項目についても、小学校・中学校・高等学校ともに肯定的な回答が6割以上となっており、特に中学校において高くなっている。

他方、特に高等学校では「観点別学習状況の評価を『評定』にどうつなげるかが分かりにくい」との回答が6割以上となっており、課題が大きいことがうかがえる。

図表 2-4-1 観点別評価を踏まえた「評定」についての考え



※各項目について「そう思う」「まあそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の選択肢で回答を得たもののうち「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた回答割合を示した。

第2章4.

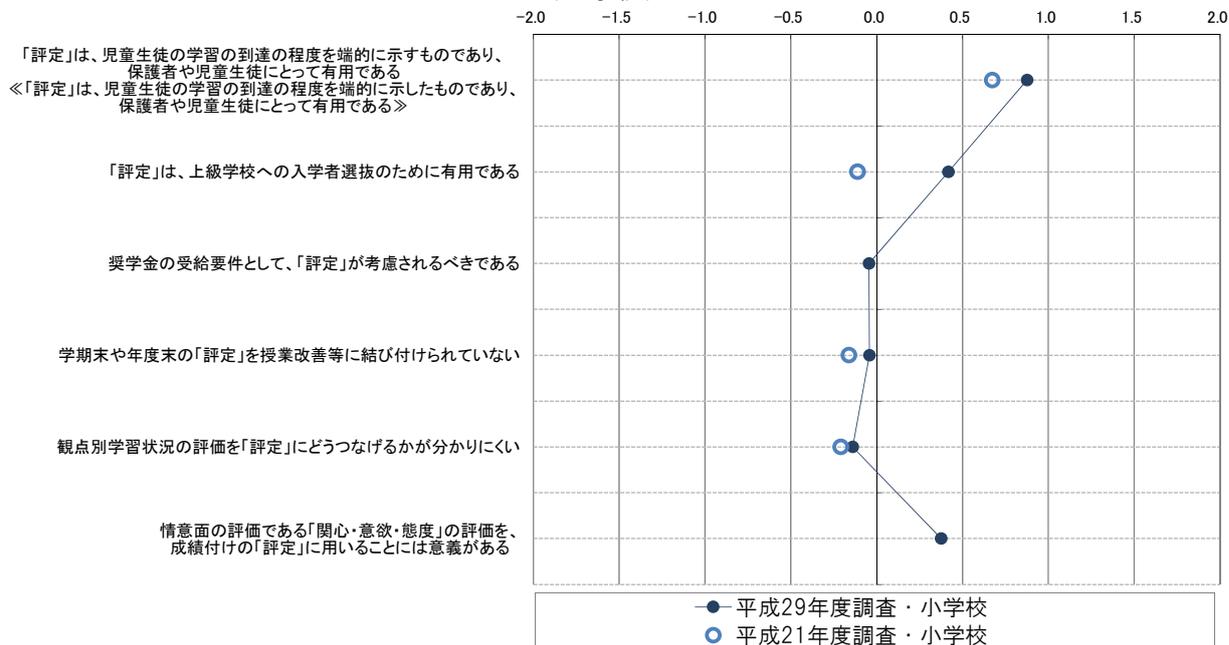
(2) 過年度調査との比較

観点別評価を踏まえて決定する「評定」をどのように感じているかということに関する回答結果を、今年度調査と過年度調査とで比較した。

小学校・中学校・高等学校ともに、「『評定』は、児童生徒の学習の到達の程度を端的に示すものであり、保護者や児童生徒にとって有用である」や「『評定』は、上級学校への入学者選抜のために有用である」という項目については、過年度調査と比較して肯定的な回答が高くなっている。

他方、「学期末や年度末の『評定』を授業改善等に結び付けられていない」や「観点別学習状況の評価を『評定』にどうつなげるかが分かりにくい」といった課題認識に関する項目については、今年度調査と過年度調査とで同程度の結果となっている。

図表 2-4-2 観点別評価を踏まえた「評定」についての考え  
(小学校)

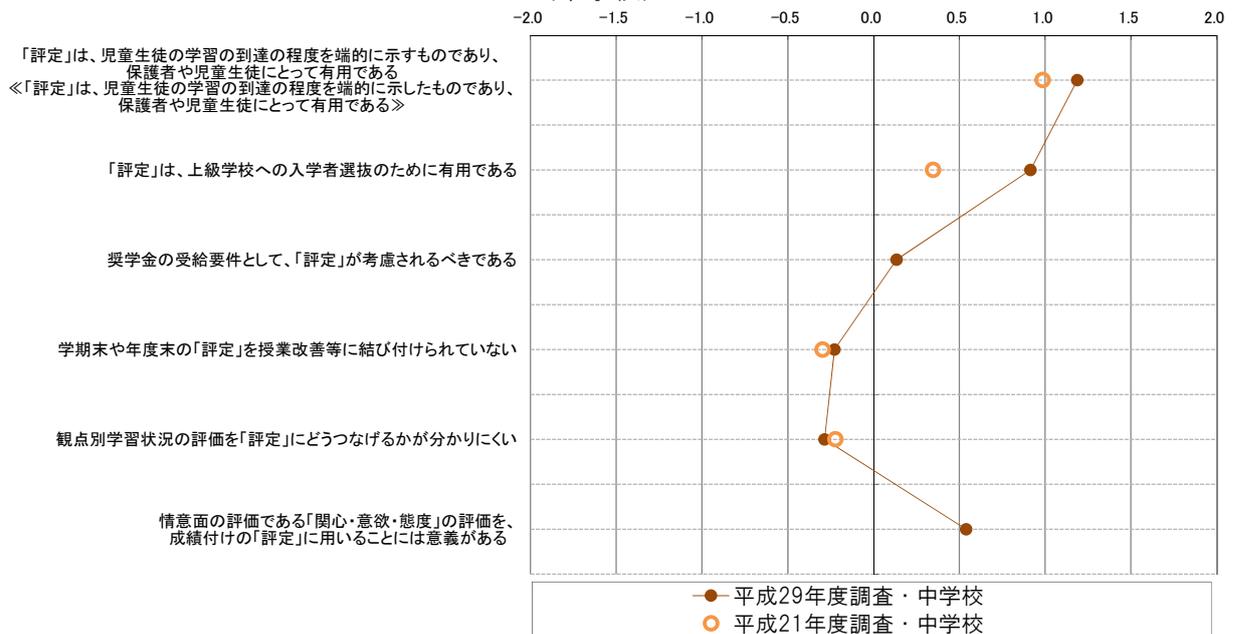


※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

※一部の項目については今年度調査と過年度調査とで若干異なるワーディングで調査を行っている。また、今年度調査でのみたずねており、過年度調査では扱っていない項目もある。(今年度調査と過年度調査とでワーディングが異なる場合は、過年度調査で用いられた文章を《 》内に示した)

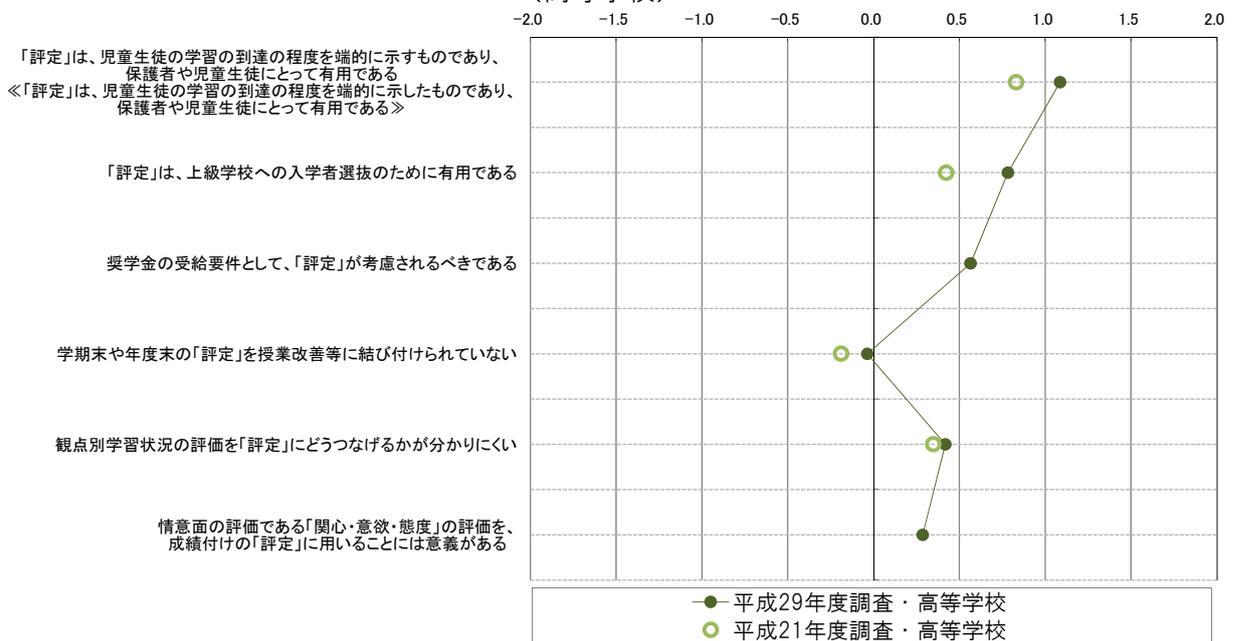
※今年度調査の集計度数はいずれも1,210であるが、過年度調査は無回答であったものを除いて集計を行っているため集計度数は項目によって異なる。

図表 2-4-3 観点別評価を踏まえた「評定」についての考え  
(中学校)



※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※一部の項目については今年度調査と過年度調査とで若干異なるワーディングで調査を行っている。また、今年度調査でのみずねており、過年度調査では扱っていない項目もある。(今年度調査と過年度調査とでワーディングが異なる場合は、過年度調査で用いられた文章を《 》内に示した)  
 ※今年度調査の集計度数はいずれも1,098であるが、過年度調査は無回答であったものを除いて集計を行っているため集計度数は項目によって異なる。

図表 2-4-4 観点別評価を踏まえた「評定」についての考え  
(高等学校)



※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※一部の項目については今年度調査と過年度調査とで若干異なるワーディングで調査を行っている。また、今年度調査でのみずねており、過年度調査では扱っていない項目もある。(今年度調査と過年度調査とでワーディングが異なる場合は、過年度調査で用いられた文章を《 》内に示した)  
 ※今年度調査の集計度数はいずれも1,282であるが、過年度調査は無回答であったものを除いて集計を行っているため集計度数は項目によって異なる。

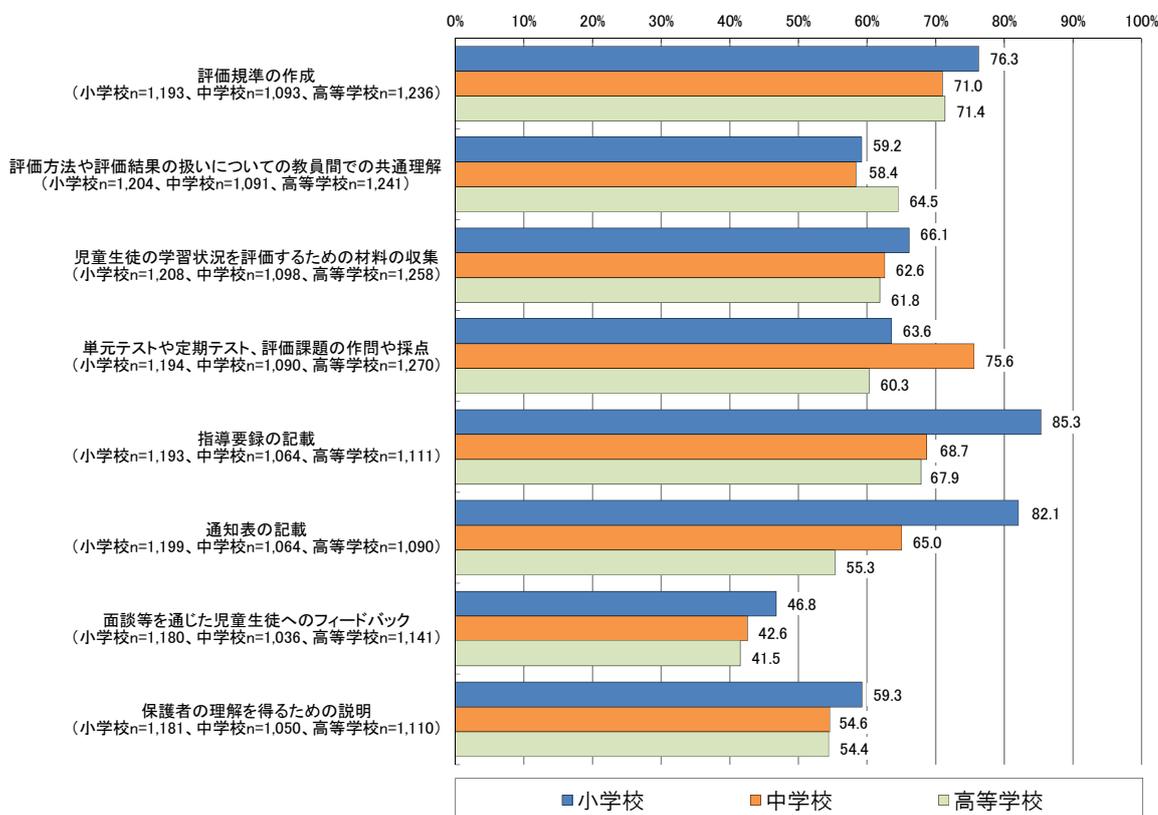
## 5. 学習評価を行うに当たっての負担感

### (1) 学習評価を行うに当たって負担を感じる点

学習評価を行うに当たってどの点に負担を感じているかということに関して、「負担を感じる」または「やや負担を感じる」と回答された割合に着目すると、小学校・中学校・高等学校ともに、「面談等を通じた児童生徒へのフィードバック」以外の項目は、負担を感じるとの回答が5割以上となっている。なお、「評価規準の作成」については、小学校・中学校・高等学校ともに負担を感じるとの回答が7割以上となっている。

また、小学校では「指導要録の記載」、「通知表の記載」の各項目について負担を感じるとの回答割合が特に高く、中学校では「単元テストや定期テスト、評価課題の作問や採点」について割合が高い。高等学校では、「評価方法や評価結果の扱いについての教員間での共通理解」について負担を感じるとの回答割合が相対的に高くなっている。

図表 2-5-1 学習評価を行うに当たって負担を感じる点



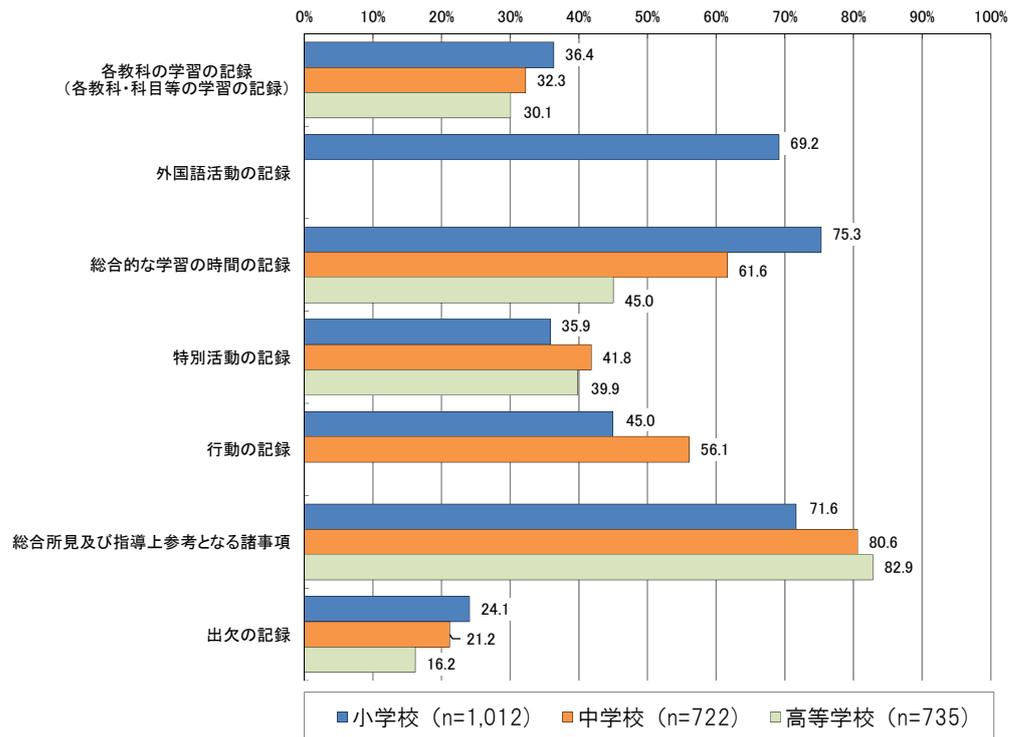
※各項目について「負担を感じる」「やや負担を感じる」「あまり負担に感じない」「負担に感じない」「行っていない」の選択肢で回答を得たもののうち、「行っていない」の回答を集計対象から除いた上で、「負担を感じる」と「やや負担を感じる」を合わせた回答割合を示した。  
 ※調査項目により「行っていない」との回答件数が異なるため、集計度数も項目によって異なっている。

## (2) 「指導要録の記載」について負担を感じる部分

「指導要録の記載」について「負担を感じる」または「やや負担を感じる」と回答した場合に、どの部分に負担を感じるかをたずねた。

小学校・中学校・高等学校ともに、「総合所見及び指導上参考となる諸事項」について負担を感じるとの回答割合が高く、いずれも7割以上となっている。なお、小学校では、「外国語活動の記録」や「総合的な学習の時間の記録」についても、回答割合が高くなっている。

図表 2-5-2 「指導要録の記載」について負担を感じる部分（複数選択）



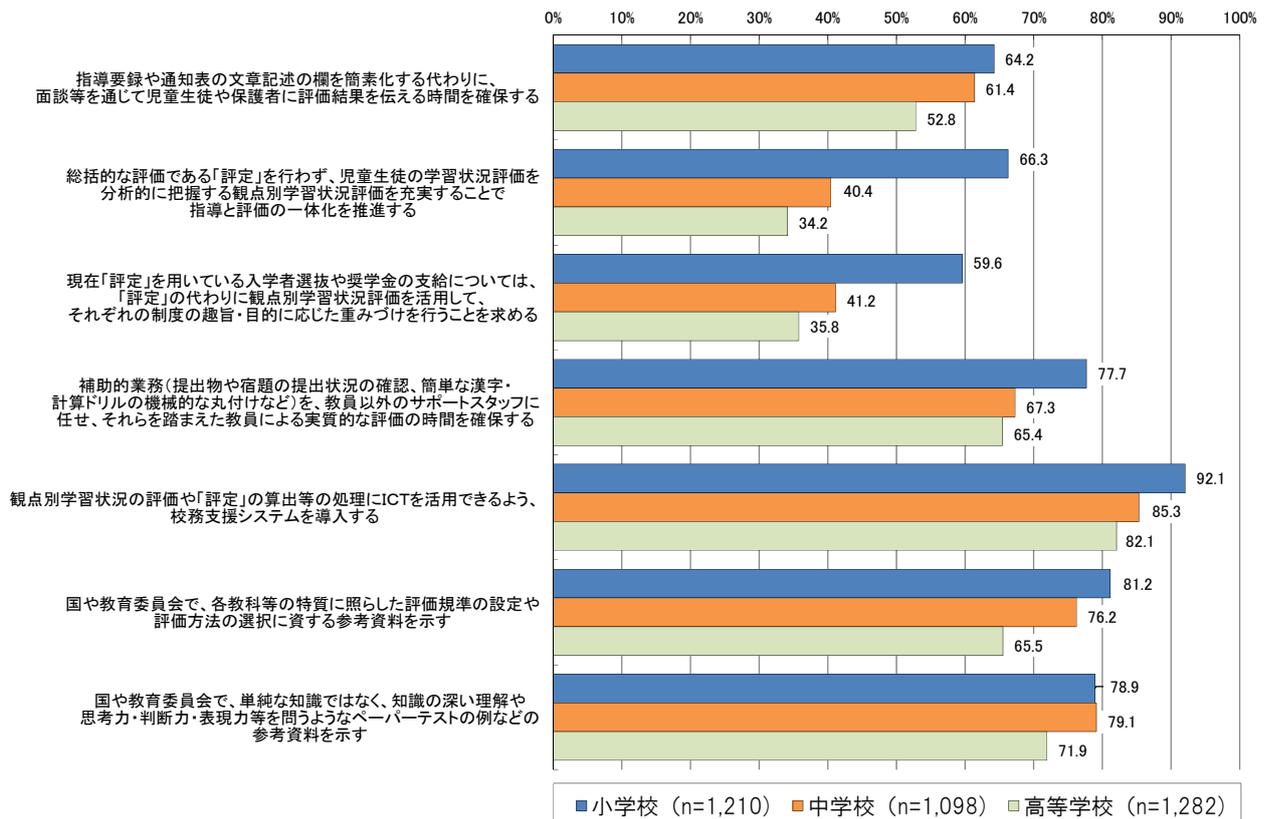
※小学校・中学校には「各教科の学習の記録」、高等学校には「各教科・科目等の学習の記録」としてたずねた。また、「外国語活動の記録」は小学校のみ、「行動の記録」は小学校と中学校のみたずねた。  
※当該設問に無回答であったものは除いて集計した。

(3) 教員の負担軽減にも配慮した学習評価の充実のための考え

教員の負担軽減にも配慮した学習評価の充実のために何が有効と考えるかということに関して、「有効である」または「やや有効である」と回答された割合に着目すると、小学校・中学校・高等学校ともに、「観点別学習状況の評価や『評定』の算出等の処理にICTを活用できるよう、校務支援システムを導入する」という項目において割合が最も高くなっている。このほか、「国や教育委員会で、各教科等の特質に照らした評価規準の設定や評価方法の選択に資する参考資料を示す」や「国や教育委員会で、単純な知識ではなく、知識の深い理解や思考力・判断力・表現力等を問うようなペーパーテストの例などの参考資料を示す」という項目についての割合も高い。

なお、「総括的な評価である『評定』を行わず、児童生徒の学習状況評価を分析的に把握する観点別学習状況評価を充実することで指導と評価の一体化を推進する」や「現在『評定』を用いている入学者選抜や奨学金の支給については、『評定』の代わりに観点別学習状況評価を活用して、それぞれの制度の趣旨・目的に応じた重みづけを行うことを求める」という項目については、小学校で相対的に割合が高くなっている。

図表 2-5-3 教員の負担軽減にも配慮した学習評価の充実のための考え



※各項目について「有効である」「やや有効である」「あまり有効でない」「有効でない」の選択肢で回答を得たもののうち「有効である」と「やや有効である」を合わせた回答割合を示した。

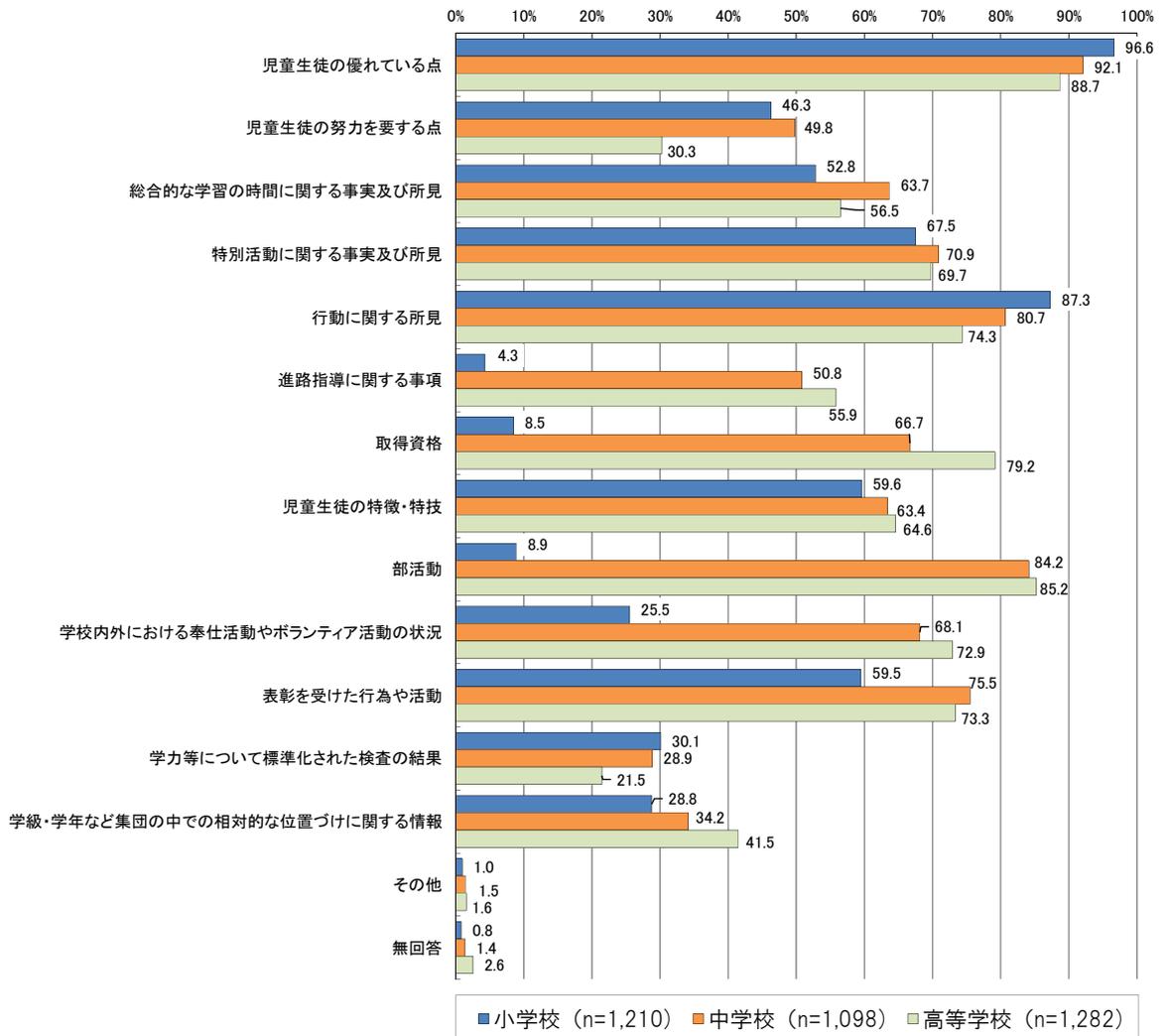
6. 「総合所見及び指導上参考となる諸事項」として記録している事項

(1) 学校種別の集計・分析

指導要録の「総合所見及び指導上参考となる諸事項」にどのような事項を記入しているかということに関しては、「児童生徒の優れている点」についての回答割合が最も高く、小学校・中学校・高等学校ともに8割以上となっている。

そのほかでは、小学校では、「行動に関する所見」、「特別活動に関する事実及び所見」、「児童生徒の特徴・特技」、「表彰を受けた行為や活動」の順で割合が高い。同様に、中学校では「部活動」、「行動に関する所見」、「表彰を受けた行為や活動」、「特別活動に関する事実及び所見」の順で、高等学校では「部活動」、「取得資格」、「行動に関する所見」、「表彰を受けた行為や活動」の順で、記録しているとの回答割合が高くなっている。

図表 2-6-1 「総合所見及び指導上参考となる諸事項」として記録している事項（複数回答）



※いずれの項目にも回答がなかった場合は、ここでは「無回答」として集計した。なお、「その他」として回答されたなかには一部「行っていない」「担当していない」などの回答も含まれている。

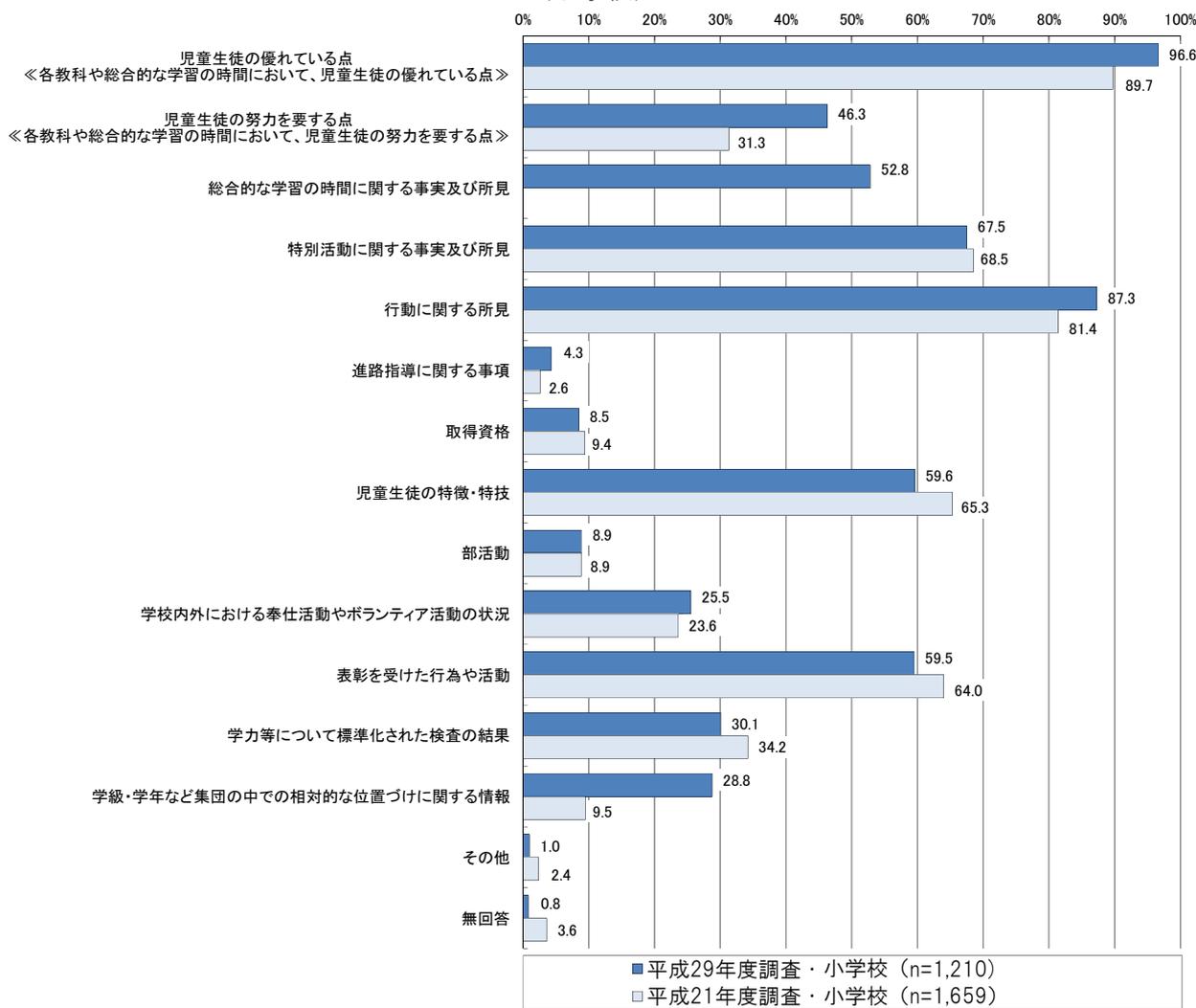
第2章6.

(2) 過年度調査との比較

指導要録の「総合所見及び指導上参考となる諸事項」にどのような事項を記入しているかということに関する回答結果を、今年度調査と過年度調査とで比較した。

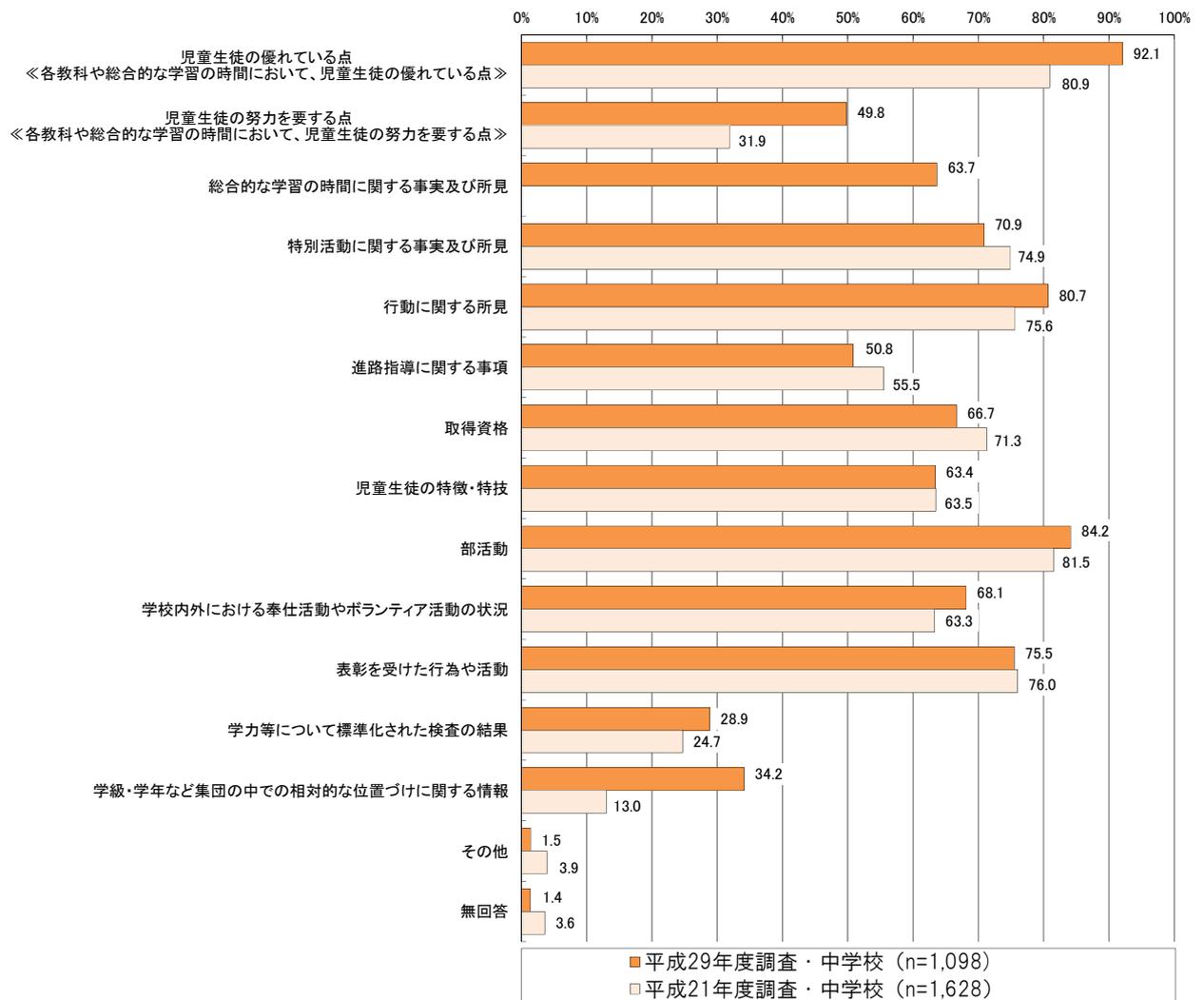
回答の傾向は今年度調査と過年度調査とで概ね同様であるが、小学校・中学校・高等学校ともに、「児童生徒の優れている点」、「児童生徒の努力を要する点」、「行動に関する所見」、「学校内外における奉仕活動やボランティア活動の状況」、「学級・学年など集団の中での相対的な位置づけに関する情報」については、今年度調査において記録しているとの回答割合が高くなっている。

図表 2-6-2 「総合所見及び指導上参考となる諸事項」として記録している事項（複数回答）  
（小学校）



※一部の項目については今年度調査と過年度調査とで若干異なるワーディングで調査を行っている。また、「総合的な学習の時間に関する事実及び所見」という項目は今年度調査でのみたずねており、過年度調査では扱っていない。(今年度調査と過年度調査とでワーディングが異なる場合は、過年度調査で用いられた文章を《 》内に示した)

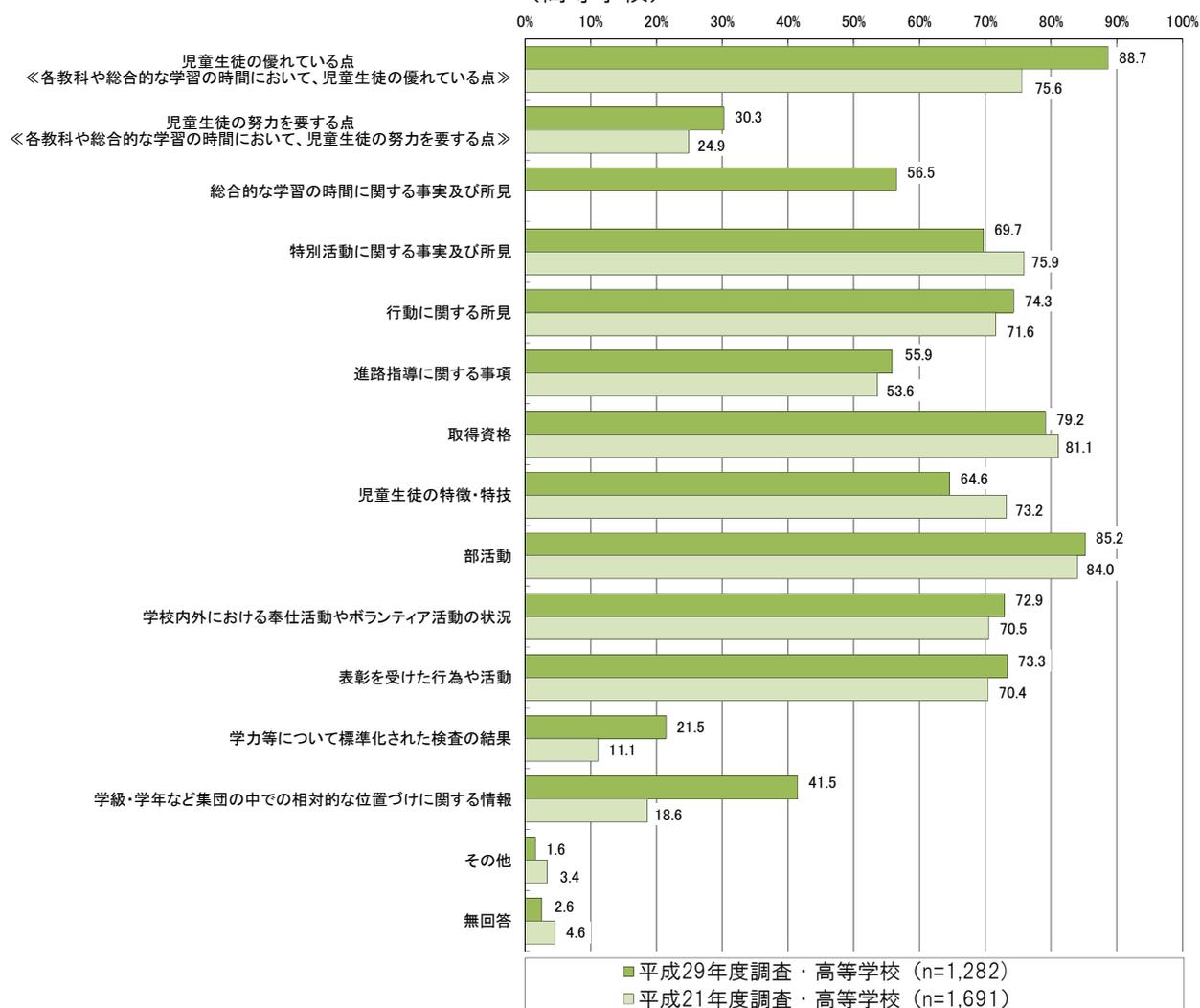
図表 2-6-3 「総合所見及び指導上参考となる諸事項」として記録している事項（複数回答）  
（中学校）



※一部の項目については今年度調査と過年度調査とで若干異なるワーディングで調査を行っている。また、「総合的な学習の時間に関する事実及び所見」という項目は今年度調査でのみならず、過年度調査では扱っていない。（今年度調査と過年度調査とでワーディングが異なる場合は、過年度調査で用いられた文章を〈 〉内に示した）

第2章6.

図表 2-6-4 「総合所見及び指導上参考となる諸事項」として記録している事項（複数回答）  
（高等学校）



※一部の項目については今年度調査と過年度調査とで若干異なるワーディングで調査を行っている。また、「総合的な学習の時間に関する事実及び所見」という項目は今年度調査でのみならず、過年度調査では扱っていない。（今年度調査と過年度調査とでワーディングが異なる場合は、過年度調査で用いられた文章を〈 〉内に示した）

## 7. 学習指導・学習評価や観点別学習状況の評価の実態

### (1) 観点別学習状況の評価の記録を行う頻度について

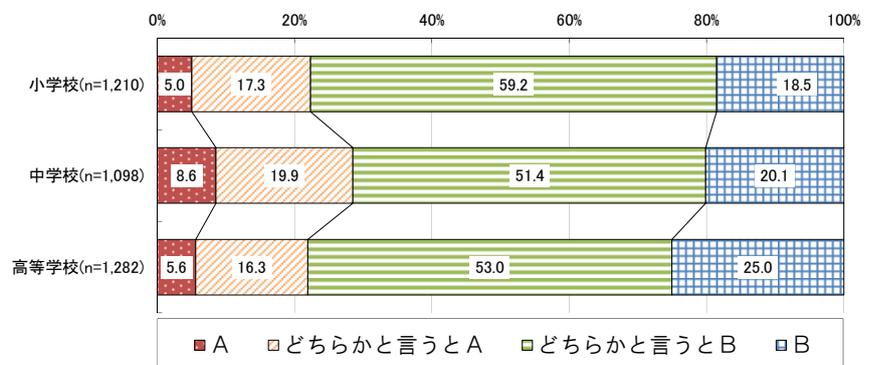
観点別学習状況の評価の記録を行う頻度について、AとBの二つの異なる方法・考え方のうちどちらが実際に行っている指導や実感に近いかをたずねたところ、小学校・中学校・高等学校ともに、「B」または「どちらかと言うとB」の回答割合が7割以上となっている。

なお、「A」との回答割合は中学校において若干高く、「B」との回答割合は高等学校において若干高くなっている。

図表 2-7-1 観点別学習状況の評価の記録を行う頻度

A：毎時，総括的な評価（学期末などの成績評価）を行うための材料を詳細に集めている。

B：総括的な評価を行うための材料は単元などを見通して，適宜，集め記録している。



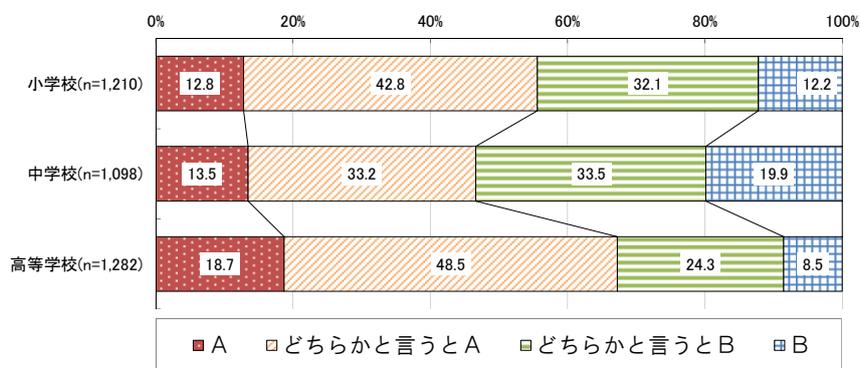
第2章7.

(2) 「関心・意欲・態度」に関する評価について

「関心・意欲・態度」に関する評価について A と B の二つの異なる方法・考え方のうち、どちらが実際に行っている指導や実感に近いかをたずねたところ、小学校・高等学校では「A」または「どちらかと言うと A」の回答割合が 5 割以上となっている。中学校では、「A」との回答に比べ「B」との回答割合が若干高くなっている。

図表 2-7-2 「関心・意欲・態度」に関する評価

A：「関心・意欲・態度」は，他の観点に係る学習状況の評価を踏まえ，評価している。  
 B：各観点は区別して評価しており，「関心・意欲・態度」も他の観点とは区別して独立に評価している。



(3) 「評定」の決定の方法について

①学校種別の集計・分析結果、過年度調査との比較

「評定」の決定の方法について A と B の二つの異なる方法・考え方のうち、どちらが実際に行っている指導や実感に近いかをたずねたところ、小学校・中学校・高等学校ともに、「A」または「どちらかと言うと A」の回答割合が 6 割以上となっている。

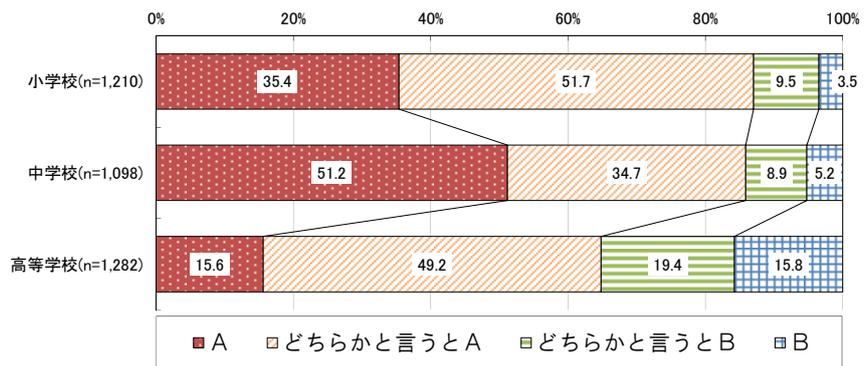
なお、中学校では「A」との回答割合が特に高く 5 割を超える一方で、高等学校では「A」との回答割合は 2 割弱となっており、「B」との回答割合と同程度となっている。

また、過年度調査における同様の質問の回答結果と比較すると、今年度調査では、小学校・中学校・高等学校ともに、「A」または「どちらかと言うと A」の回答割合が高くなっている。

図表 2-7-3 「評定」の決定の方法

A：観点別学習状況の各観点を均等に評価して評定を決定している。

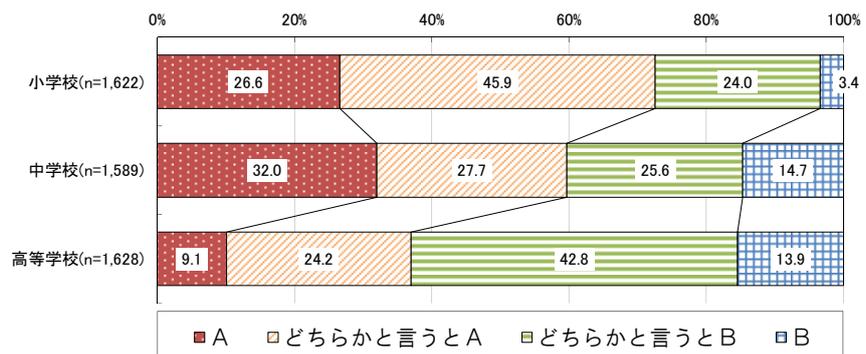
B：ある観点到他の観点到より重点を置いて、評定を決定している（例えば、「関心・意欲・態度」よりも他の観点到に重点を置くなど）。



図表 2-7-4 「評定」の決定の方法（平成 21 年度調査）

A：いわゆる 4 観点到を均等に評価して評定を決定している。

B：ある観点到他の観点到より重点を置いて、評定を決定している（例えば、関心・意欲・態度よりも他の観点到に重点を置くなど）。



②ある観点に他の観点より重点を置いて評定を決定している場合の内容

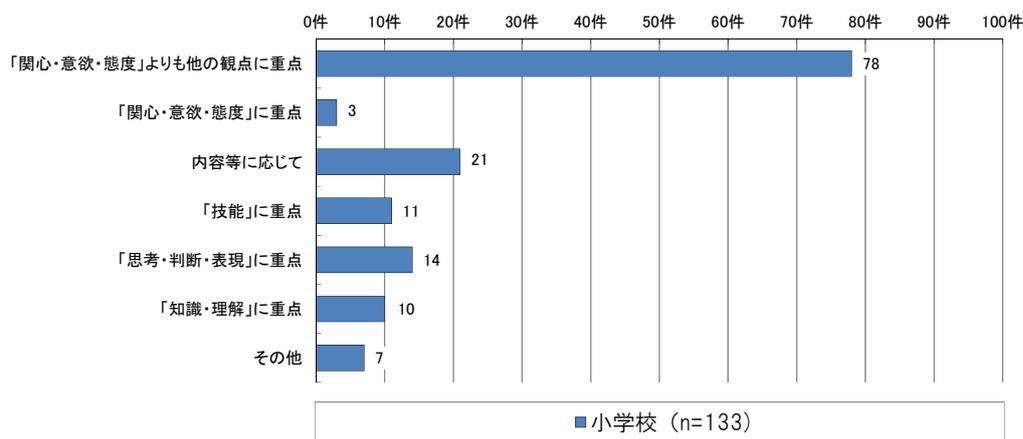
「評定」の決定の方法について、「A：観点別学習状況の各観点を均等に評価して評定を決定している」と「B：ある観点に他の観点より重点を置いて、評定を決定している」の二つの異なる方法・考え方のうち、「B」または「どちらかと言うとB」と回答した教師について、具体的な評定の決定の方法に関する自由記述による回答結果を整理した<sup>6</sup>。

小学校では、「『関心・意欲・態度』よりも他の観点到重点」を置く旨のみ記述があった回答が最も多く、次いで多かったのは、「内容等に応じて」重点を置く観点を変えている旨の回答であった。なお、この中には、教科によって変えているもの、指導方法によって変えているもの、その時の学習内容によって変えているものなどがあつた。また、特定の観点到重点を置いているとの回答に関しては、「『思考・判断・表現』に重点」を置く旨の回答が、他の観点到についての回答よりも若干多かつた。

中学校では、「『技能』に重点」を置く旨の回答が最も多く、次いで多かったのは「『関心・意欲・態度』よりも他の観点到重点」を置く旨の回答であつた。なお、「『関心・意欲・態度』に重点」を置いている旨の回答も比較的多く、「『知識・理解』に重点」を置いている旨の回答と同程度となつている。

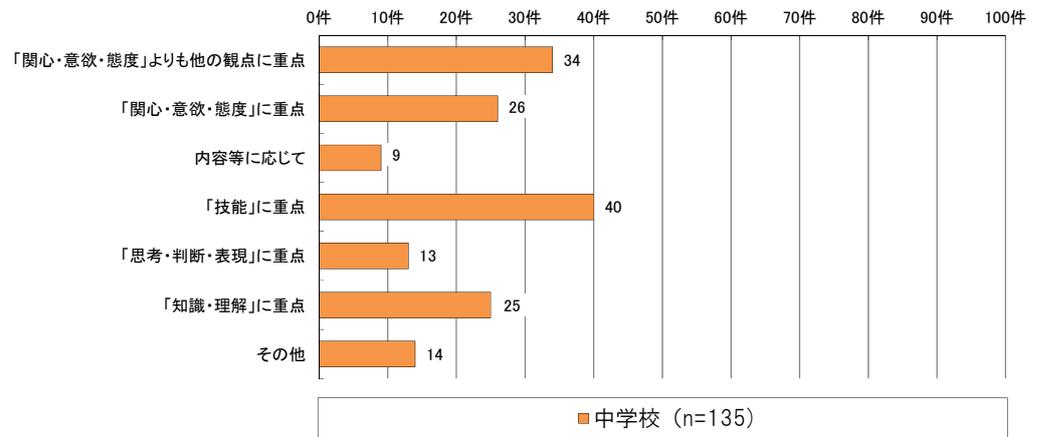
高等学校では、「『知識・理解』に重点」を置く旨の回答が最も多く、次いで多かったのは「『関心・意欲・態度』よりも他の観点到重点」を置く旨の回答であつた。なお、高等学校においては、「その他」に分類した回答として、観点到別の評価ではなく、より直接的に定期考査やテストの結果を重視するという回答や、提出物を重視するというような回答も見られた。

図表 2-7-5 ある観点到に他の観点到より重点を置いて評定を決定している場合の内容 (小学校)

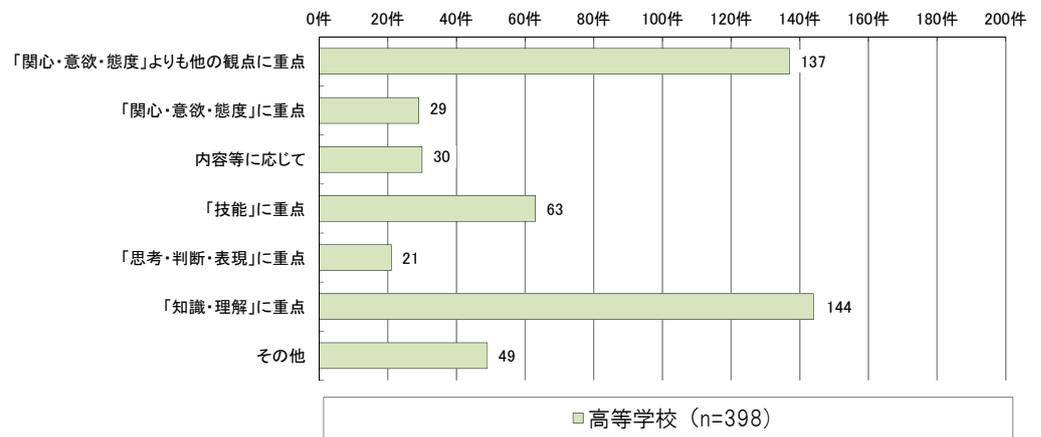


<sup>6</sup> 自由記述による回答を、その内容に応じて分類し、分類ごとの件数をカウントした。なお、複数の内容が記述されている場合には、それぞれの内容別に件数をカウントした。そのため、回答内容別の件数を足し合わせた件数と回答件数合計とは必ずしも一致しない。

図表 2-7-6 ある観点に他の観点より重点を置いて評定を決定している場合の内容  
(中学校)



図表 2-7-7 ある観点に他の観点より重点を置いて評定を決定している場合の内容  
(高等学校)



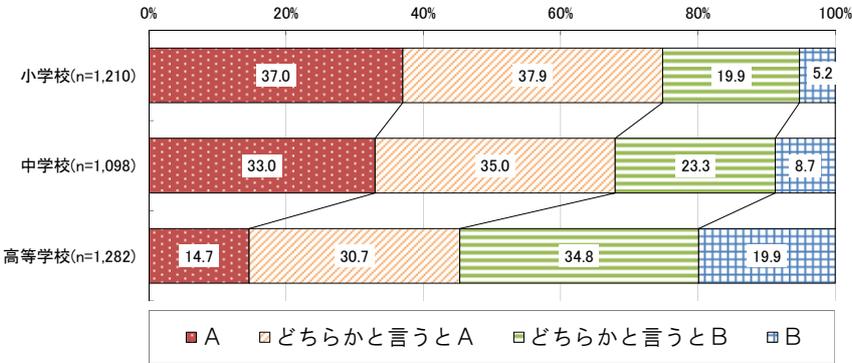
第2章7.

(4) 学習評価への取組み状況について

学校等における学習評価への取組み状況について、AとBの二つの異なる方法・考え方のうち、どちらが実際に行っている指導や実感に近いかをたずねたところ、小学校・中学校では、「A」または「どちらかと言うとA」の回答割合が6割以上となっているが、高等学校では、逆に「B」または「どちらかと言うとB」の回答割合が高くなっている。

図表 2-7-8 学習評価への取組み状況

A：校内で評価方法や評価規準を共有したり，授業研究を行ったりして，学習評価の改善に，学校全体で取り組んでいる。  
B：評価規準の改善，評価方法の研究などは，教員個人に任されている。

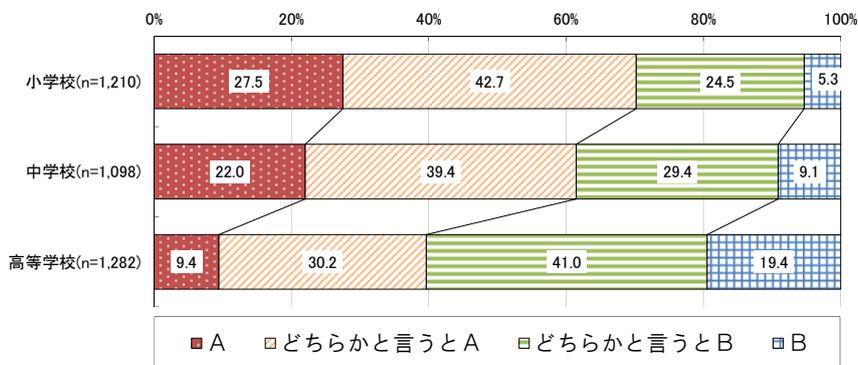


(5) 指導と評価の一体化の取組み状況について

学校等における指導と評価の一体化の取組み状況について、AとBの二つの異なる方法・考え方のうち、どちらが実際に行っている指導や実感に近いかをたずねたところ、小学校・中学校では、「A」または「どちらかと言うとA」の回答割合が6割以上となっているが、高等学校では、逆に「B」または「どちらかと言うとB」の回答割合が高くなっている。

図表 2-7-9 指導と評価の一体化の取組み状況

A：学習評価を通じて、学習指導のあり方を見直すことや個に応じた指導の充実を図るなど、指導と評価の一体化に学校全体で取り組んでいる。  
 B：指導と評価の一体化の取組は、教員個人に任されている。



第2章7.

(6) 学習評価の観点の児童生徒や保護者への伝え方について

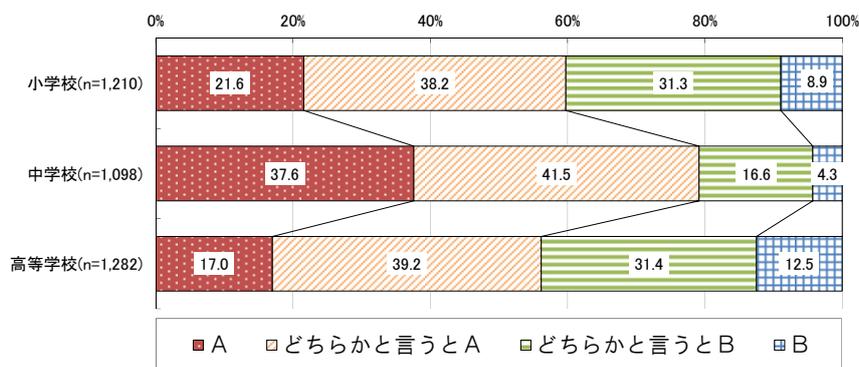
学習評価の観点の児童生徒や保護者への伝え方について、AとBの二つの異なる方法・考え方のうち、どちらが実際に行っている指導や実感に近いかをたずねたところ、小学校・中学校・高等学校ともに、「A」または「どちらかと言うとA」の回答割合が半数以上と高くなっており、特に中学校ではその割合が高くなっている。

なお、「A」または「どちらかと言うとA」と回答した教師に、あらかじめ児童生徒や保護者に伝えておくことが児童生徒に学習の見通しを持たせることなどに役立っていると思うかについてたずねたところ、小学校・中学校・高等学校ともに「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合は8割以上となっている。

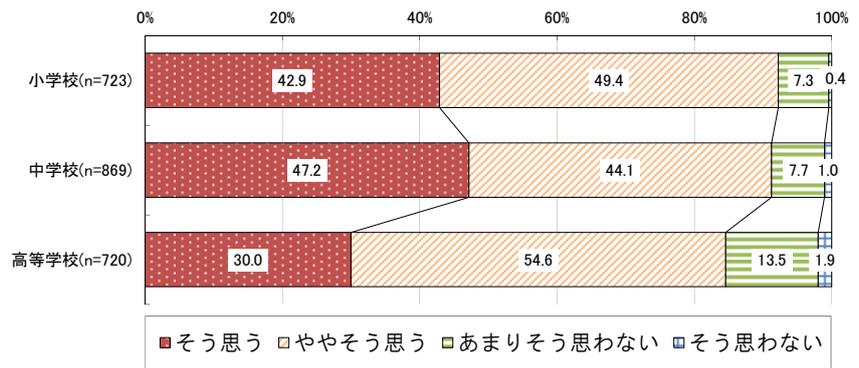
また、「B」または「どちらかと言うとB」と回答した教師に、あらかじめ児童生徒や保護者に伝えておくことが児童生徒に学習の見通しを持たせる点から有効であると思うかについてたずねたところ、小学校・中学校・高等学校ともに「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合は7割以上となっており、現在実施していない場合であっても、学習評価の観点を事前に伝えておくことについては多くの教師が有効であると考えていることがうかがえる。

図表 2-7-10 学習評価の観点の児童生徒や保護者への伝え方

A：学習のねらいや目標に即した学習評価の具体的な観点について、あらかじめ児童生徒や保護者に伝えている。  
 B：学習のねらいや目標に即した学習評価の具体的な観点について、事前には児童生徒や保護者に伝えていない（学習の後に評価の結果として児童生徒や保護者に事後的に伝えるなど）。

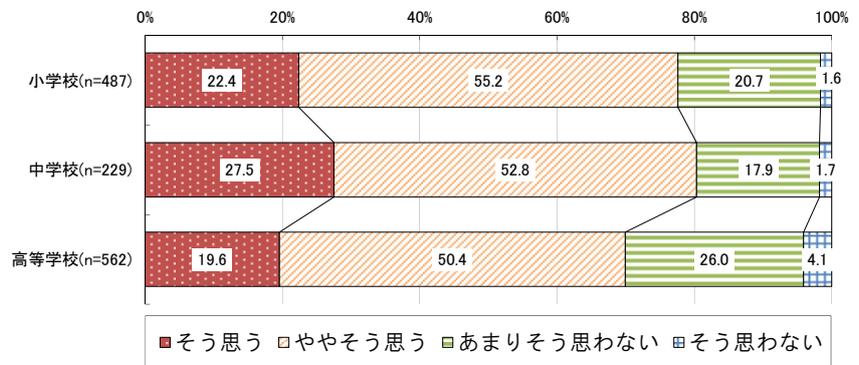


図表 2-7-11 あらかじめ児童生徒や保護者に伝えておくことが役に立っていると思うか



※学習評価の観点の児童生徒や保護者への伝え方について、「A（学習のねらいや目標に即した学習評価の具体的な観点について、あらかじめ児童生徒や保護者に伝えている）」または「どちらかというともA」と回答した場合のみ調査・集計した。

図表 2-7-12 あらかじめ児童生徒や保護者に伝えておくことは有効だと思うか



※学習評価の観点の児童生徒や保護者への伝え方について、「B（学習のねらいや目標に即した学習評価の具体的な観点について、事前には児童生徒や保護者に伝えていない（学習の後に評価の結果として児童生徒や保護者に事後的に伝えるなど）」または「どちらかというともB」と回答した場合のみ調査・集計した。



## 第3章

### 教師の年齢層別の集計・分析

## 第3章 教師の年齢層別の集計・分析

### (1) 観点別評価に影響を及ぼす方法

#### ① 「知識・理解」及び「技能」の評価に影響を及ぼす方法

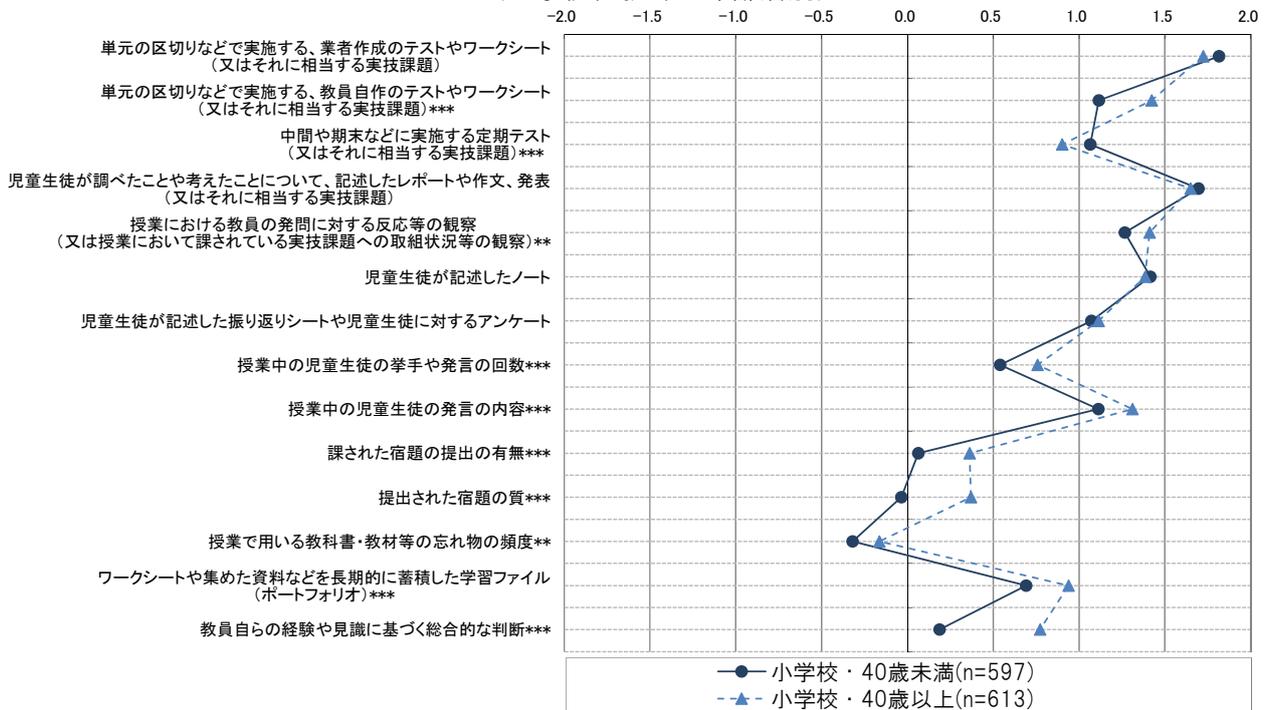
「知識・理解」及び「技能」の評価に対しどのような方法が影響を及ぼすかということに関する回答結果を、教師の年齢層別に比較した。

小学校では、「単元の区切りなどで実施する、業者作成のテストやワークシート」や「児童生徒が調べたことや考えたことについて、記述したレポートや作文、発表」などが影響を及ぼすとの評点が高いという点は共通して見られるが、「提出された宿題の質」など、その他の多くの項目については、年齢層が高い教師のほうが影響を及ぼすとの評点が高くなっている。

中学校や高等学校でも、「中間や期末などに実施する定期テスト」が影響を及ぼすとの評点が最も高いという点は年齢層別に分類しても共通して見られるが、その他の多くの項目では、年齢層が高い教師のほうが影響を及ぼすとの評点が高くなっている。

なお、小学校・中学校・高等学校ともに、「教員自らの経験や見識に基づく総合的な判断」について、年齢層が高い教師のほうが影響を及ぼすとの評点が高くなっている。

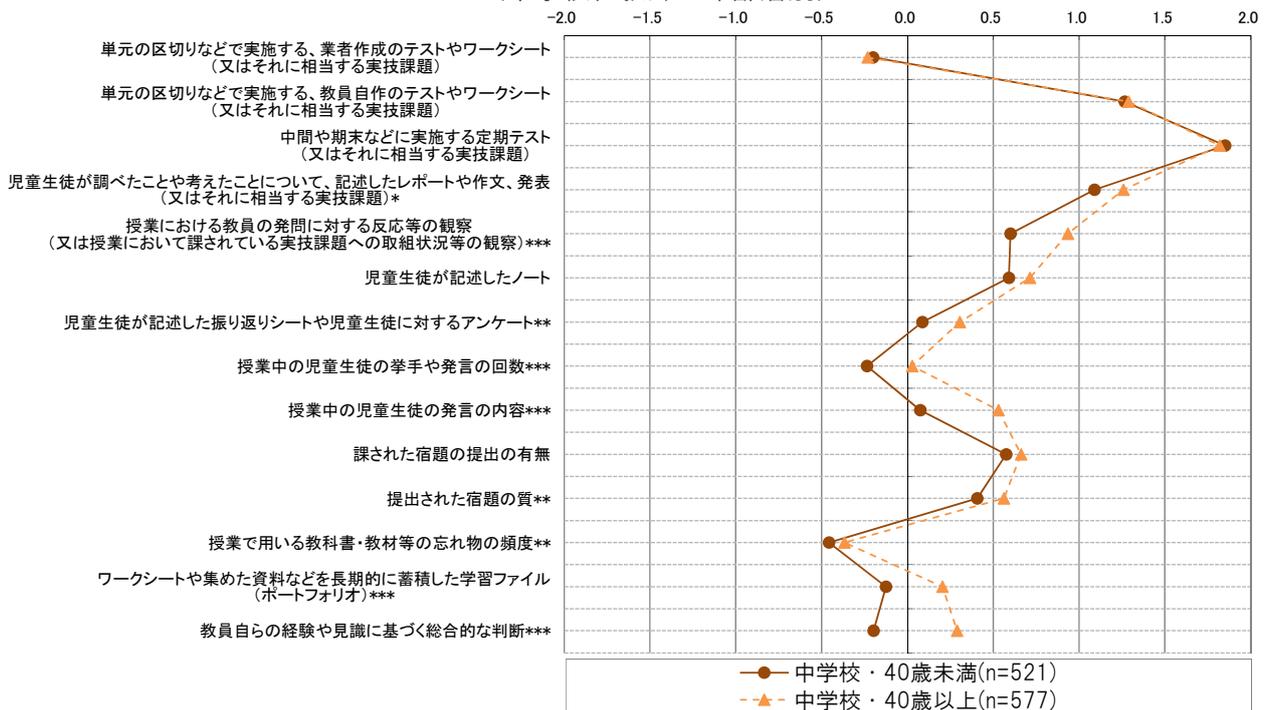
図表 3-1-1 評価の方法が「知識・理解」及び「技能」の評価に影響を及ぼす度合い  
(小学校、教師の年齢層別)



※各項目について、それぞれ「影響している」を+2、「やや影響している」を+1、「あまり影響していない」を-1、「影響していない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

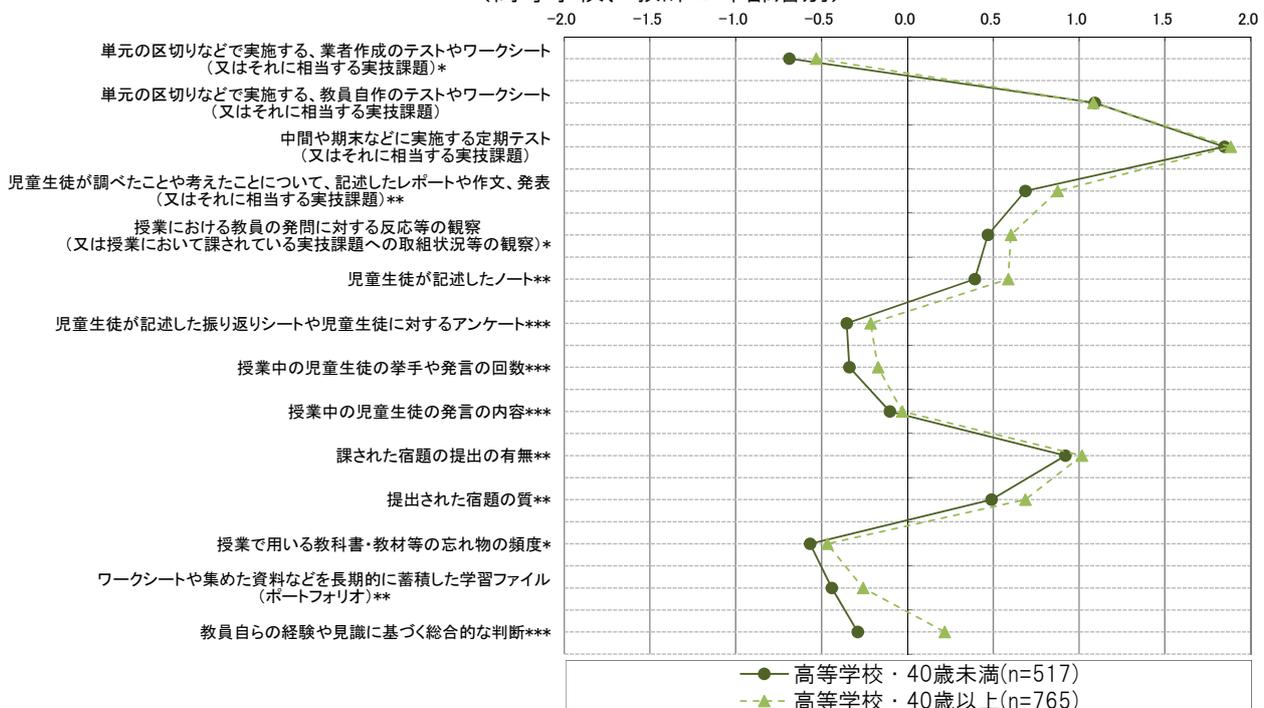
※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「40歳未満」と「40歳以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

図表 3-1-2 評価の方法が「知識・理解」及び「技能」の評価に影響を及ぼす度合い  
(中学校、教師の年齢層別)



※各項目について、それぞれ「影響している」を+2、「やや影響している」を+1、「あまり影響していない」を-1、「影響していない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「40歳未満」と「40歳以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

図表 3-1-3 評価の方法が「知識・理解」及び「技能」の評価に影響を及ぼす度合い  
(高等学校、教師の年齢層別)



※各項目について、それぞれ「影響している」を+2、「やや影響している」を+1、「あまり影響していない」を-1、「影響していない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「40歳未満」と「40歳以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

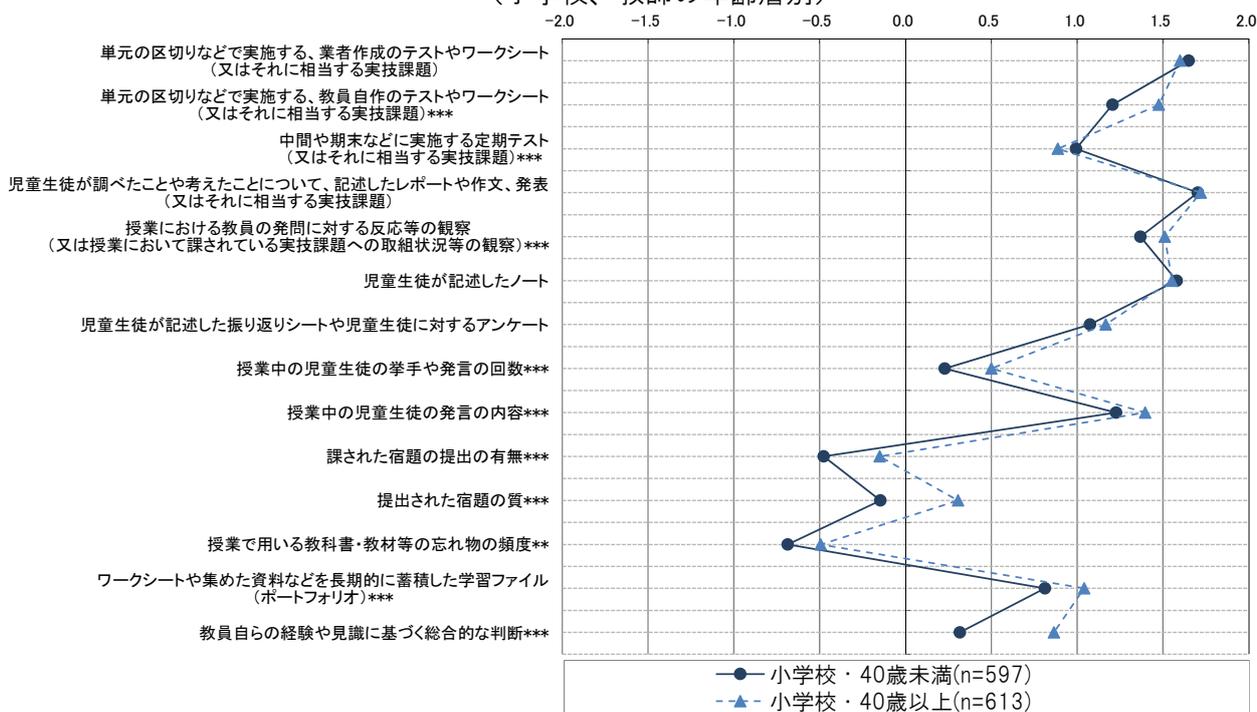
②「思考・判断・表現」の評価に影響を及ぼす方法

「思考・判断・表現」の評価に対しどのような方法が影響を及ぼすかということに関する回答結果を、教師の年齢層別に比較した。

小学校では、「単元の区切りなどで実施する、業者作成のテストやワークシート」や「児童生徒が調べたことや考えたことについて、記述したレポートや作文、発表」、「児童生徒が記述したノート」の各項目について、中学校・高等学校では「中間や期末などに実施する定期テスト」について影響を及ぼすとの評点が高いという点は年齢層別に分類しても共通して見られるが、「課された宿題の提出の有無」や「提出された宿題の質」、「ワークシートや集めた資料などを長期的に蓄積した学習ファイル」などの項目については、年齢層が高い教師のほうが影響を及ぼすとの評点が高くなっている。

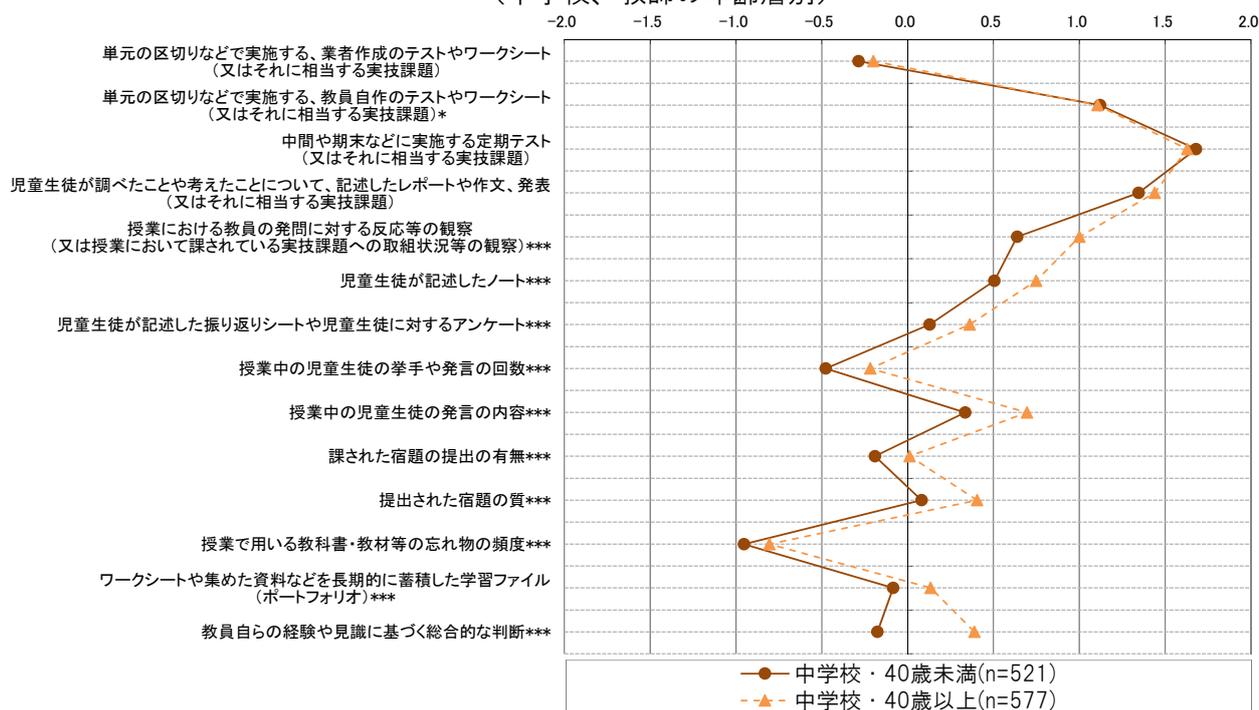
なお、小学校・中学校・高等学校ともに、「教員自らの経験や見識に基づく総合的な判断」について、年齢層が高い教師のほうが影響を及ぼすとの評点が高くなっている。

図表 3-1-4 評価の方法が「思考・判断・表現」の評価に影響を及ぼす度合い  
(小学校、教師の年齢層別)



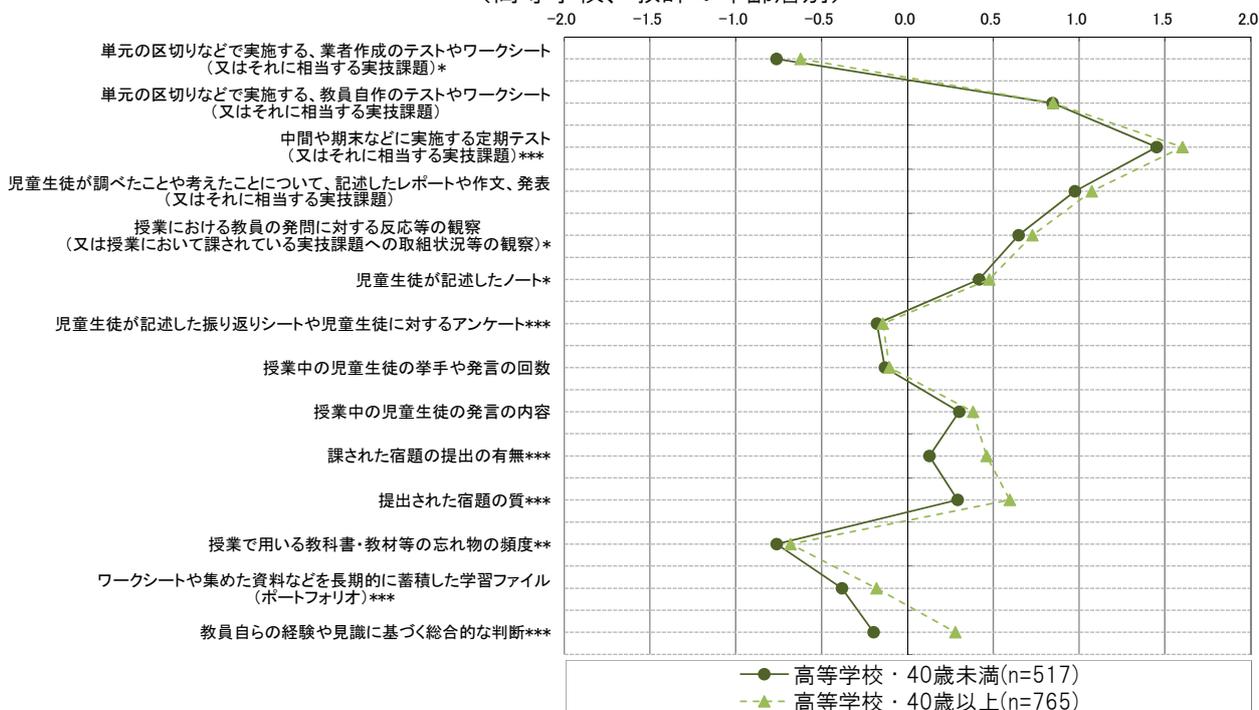
※各項目について、それぞれ「影響している」を+2、「やや影響している」を+1、「あまり影響していない」を-1、「影響していない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「40歳未満」と「40歳以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

図表 3-1-5 評価の方法が「思考・判断・表現」の評価に影響を及ぼす度合い  
(中学校、教師の年齢層別)



※各項目について、それぞれ「影響している」を+2、「やや影響している」を+1、「あまり影響していない」を-1、「影響していない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「40歳未満」と「40歳以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

図表 3-1-6 評価の方法が「思考・判断・表現」の評価に影響を及ぼす度合い  
(高等学校、教師の年齢層別)



※各項目について、それぞれ「影響している」を+2、「やや影響している」を+1、「あまり影響していない」を-1、「影響していない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「40歳未満」と「40歳以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

③「関心・意欲・態度」の評価に影響を及ぼす方法

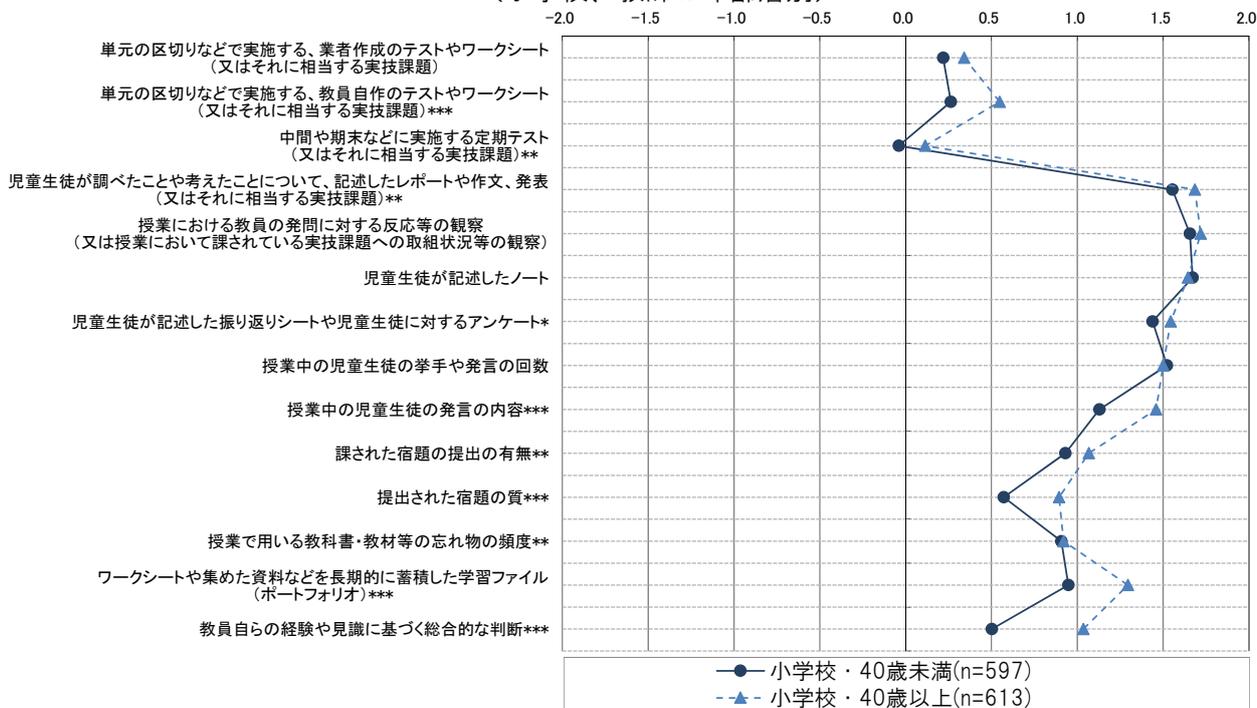
「関心・意欲・態度」の評価に対しどのような方法が影響を及ぼすかということに関する回答結果を、教師の年齢層別に比較した。

小学校では、「授業中の児童生徒の発言の内容」、「提出された宿題の質」、「ワークシートや集めた資料などを長期的に蓄積した学習ファイル」などの項目について、年齢層が高い教師のほうが影響を及ぼすとの評点が高くなっている。中学校でも、「授業における教員の発問に対する反応等の観察」などの項目で、年齢層が高い教師のほうが影響を及ぼすとの評点が高くなっている。

高等学校では、「中間や期末などに実施する定期テスト」などの項目で、年齢層が高い教師のほうが影響を及ぼすとの評点が高くなっている。

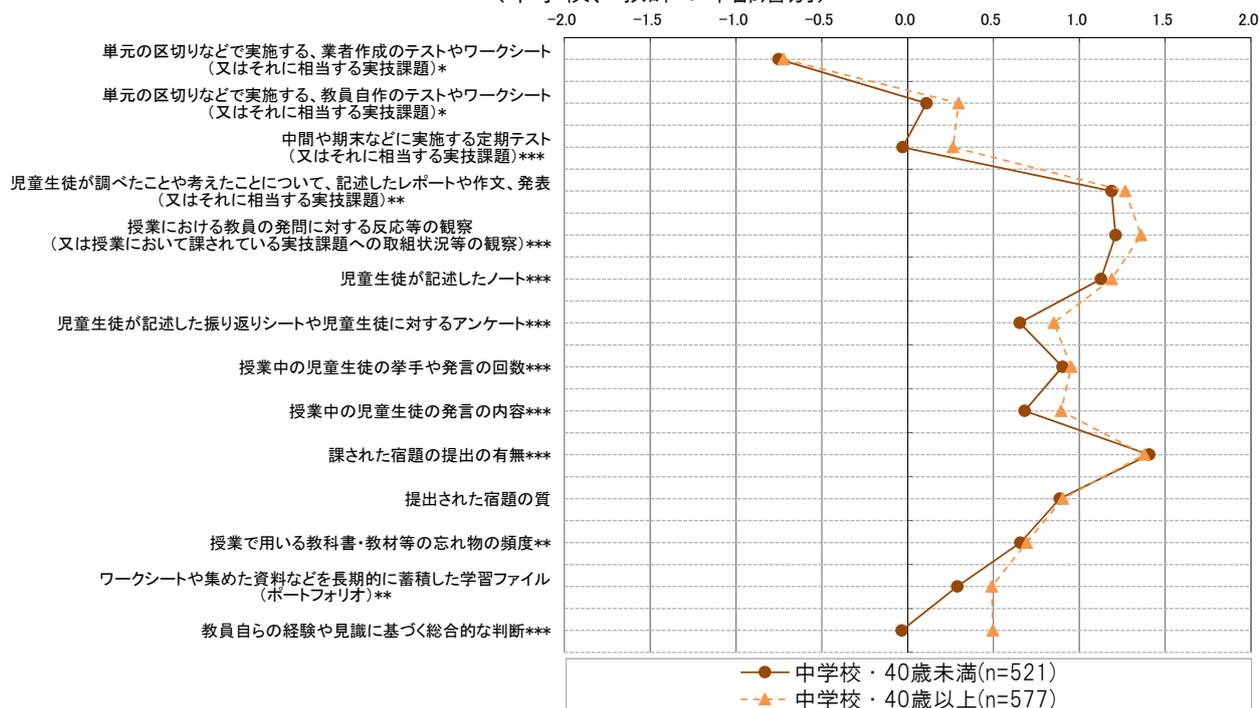
なお、小学校・中学校・高等学校ともに、「教員自らの経験や見識に基づく総合的な判断」について、年齢層が高い教師のほうが影響を及ぼすとの評点が高くなっている。

図表 3-1-7 評価の方法が「関心・意欲・態度」の評価に影響を及ぼす度合い  
(小学校、教師の年齢層別)



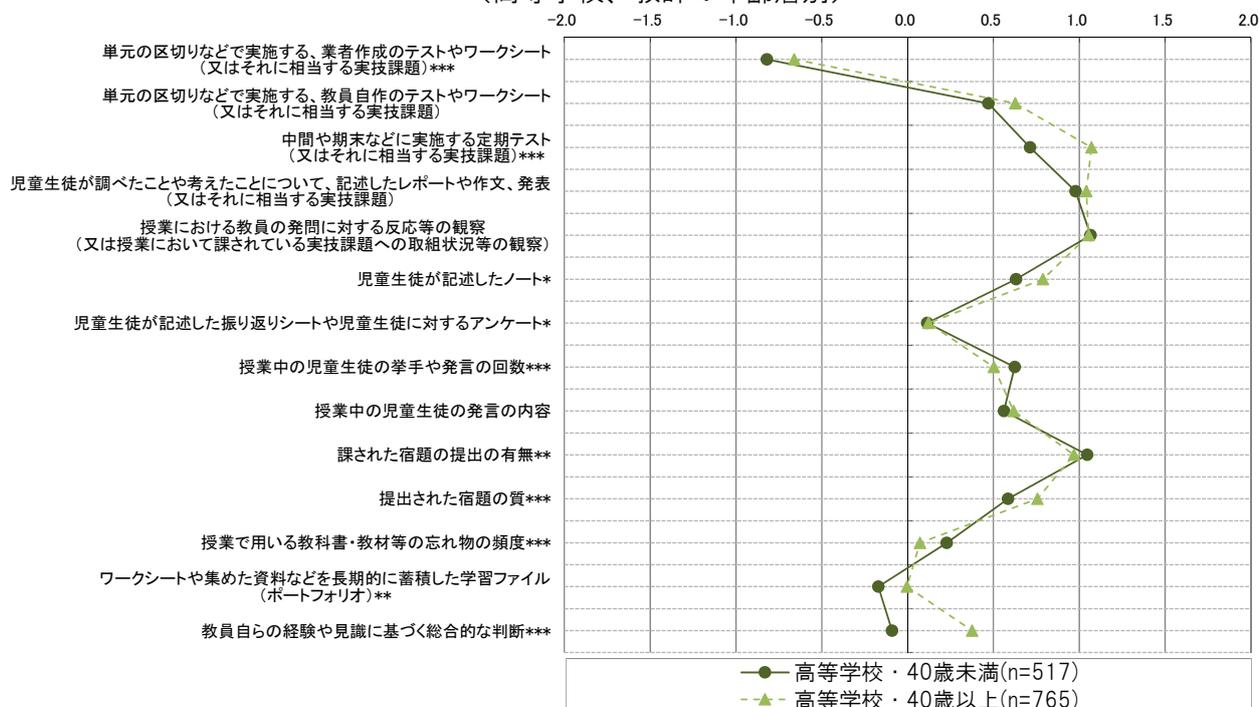
※各項目について、それぞれ「影響している」を+2、「やや影響している」を+1、「あまり影響していない」を-1、「影響していない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※参考値として、各項目についてχ<sup>2</sup>検定を行い、「40歳未満」と「40歳以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値≥0.1としている。

図表 3-1-8 評価の方法が「関心・意欲・態度」の評価に影響を及ぼす度合い  
(中学校、教師の年齢層別)



※各項目について、それぞれ「影響している」を+2、「やや影響している」を+1、「あまり影響していない」を-1、「影響していない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「40歳未満」と「40歳以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

図表 3-1-9 評価の方法が「関心・意欲・態度」の評価に影響を及ぼす度合い  
(高等学校、教師の年齢層別)



※各項目について、それぞれ「影響している」を+2、「やや影響している」を+1、「あまり影響していない」を-1、「影響していない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「40歳未満」と「40歳以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

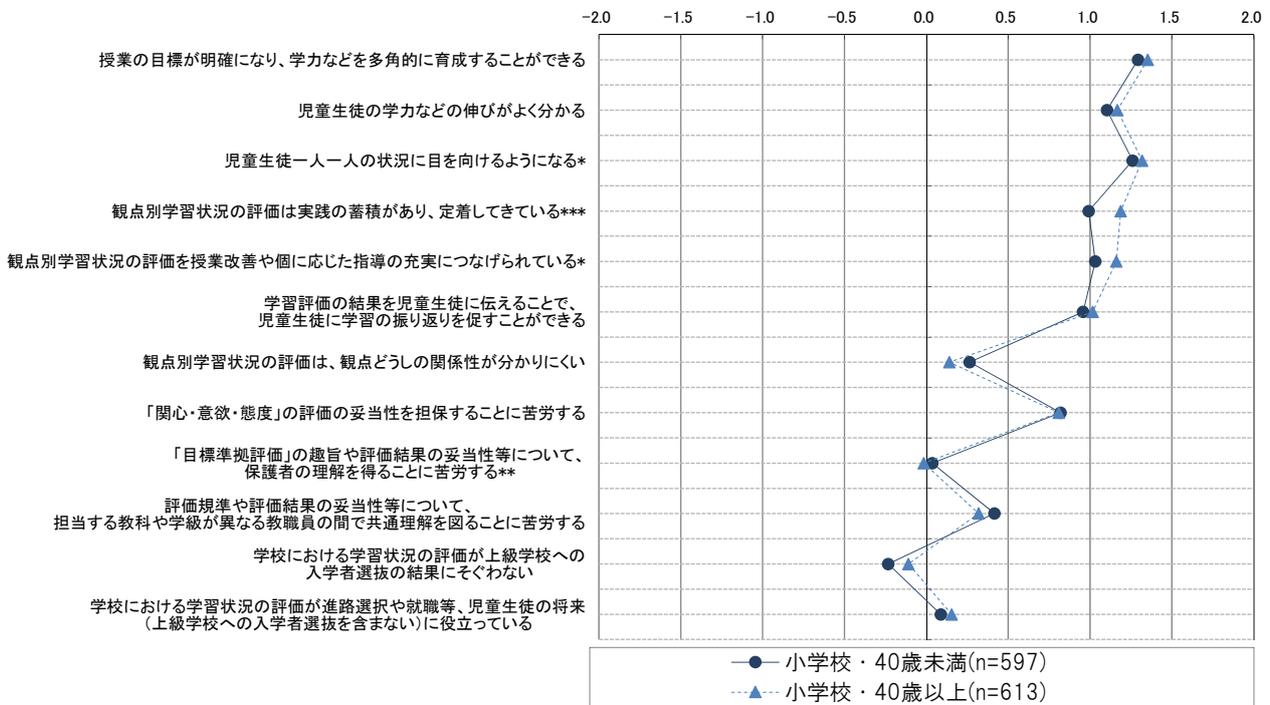
(2) 目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価に対する考え・意識

目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価などをどのように感じているかということに関する回答結果を、教師の年齢層別に比較した。

小学校・中学校・高等学校ともに、年齢層別に分類しても概ねの回答傾向は同様であるが、小学校では、「観点別学習状況の評価は実践の蓄積があり、定着してきている」などの項目について、年齢層が高い教師のほうが評点が高くなっている。

また、中学校・高等学校では、「評価規準や評価結果の妥当性等について、担当する教科や学級が異なる教職員の間で共通理解を図ることに苦労する」との課題認識は年齢層が低い教師のほうが高くなっている。

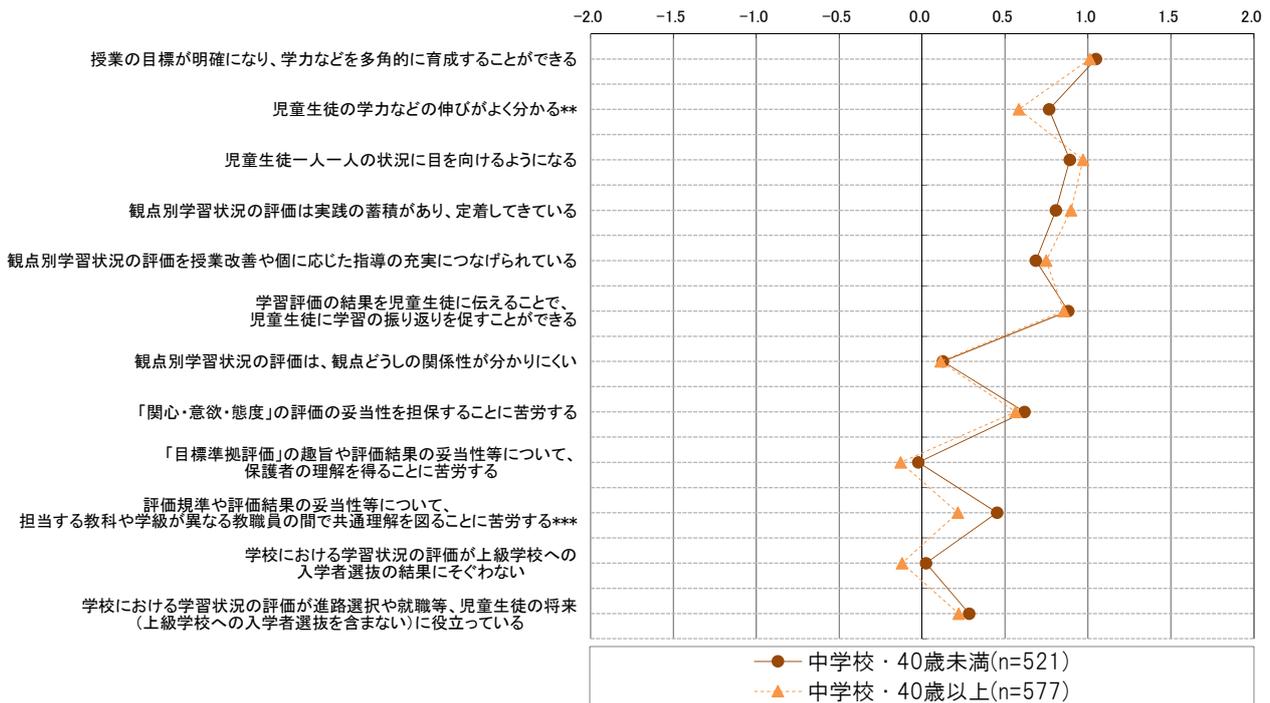
図表 3-2-1 目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価に対する考え・意識  
(小学校、教師の年齢層別)



※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

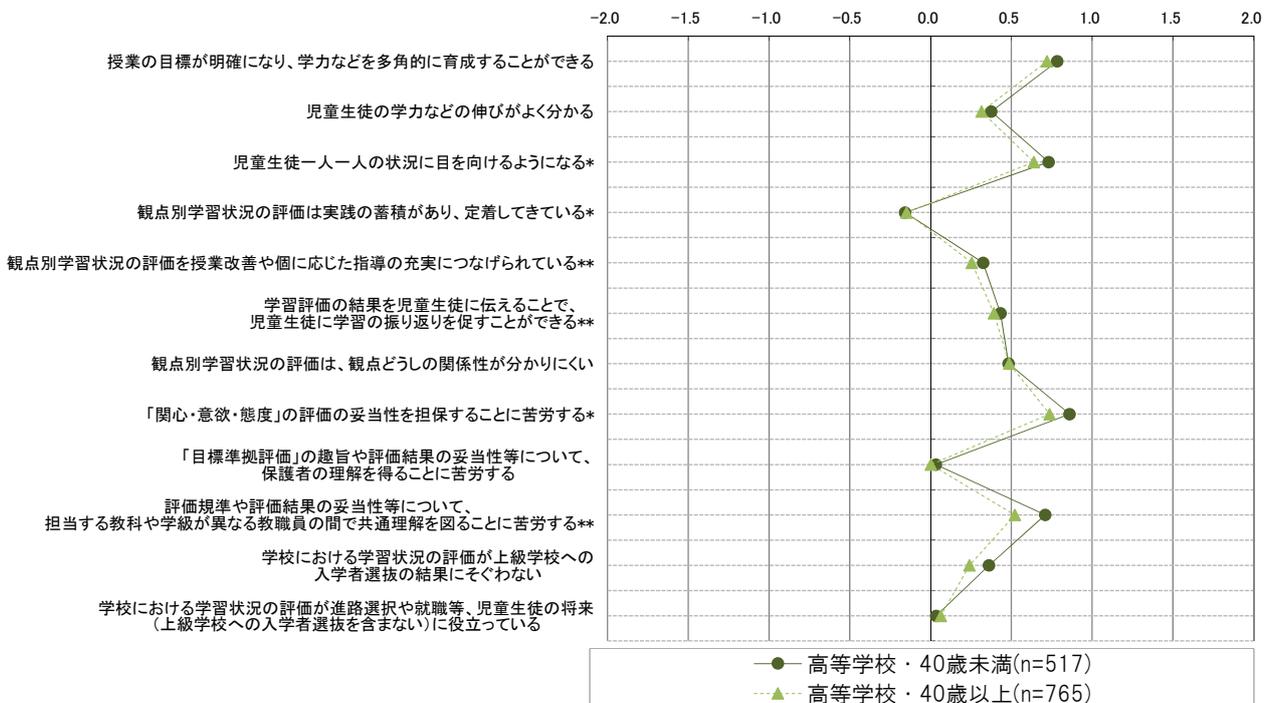
※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「40歳未満」と「40歳以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

図表 3-2-2 目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価に対する考え・意識  
(中学校、教師の年齢層別)



※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「40歳未満」と「40歳以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

図表 3-2-3 目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価に対する考え・意識  
(高等学校、教師の年齢層別)



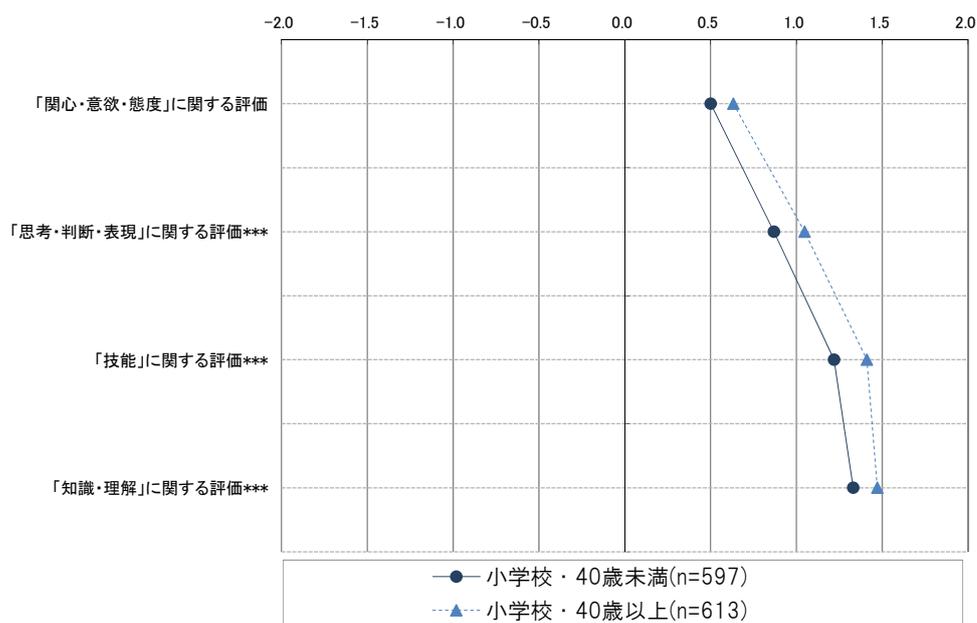
※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「40歳未満」と「40歳以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

(3) 観点別学習状況の評価の実施状況

観点別学習状況の評価の資料の収集・分析、評価の決定を円滑に実施できているかということに関する回答結果を、教師の年齢層別に比較した。

小学校においては、円滑に実施できているとの評点は、年齢層が高い教師のほうが比較的高くなっている。中学校でも、「関心・意欲・態度」に関する評価について、円滑に実施できているとの評点は、年齢層が高い教師のほうが高くなっている。

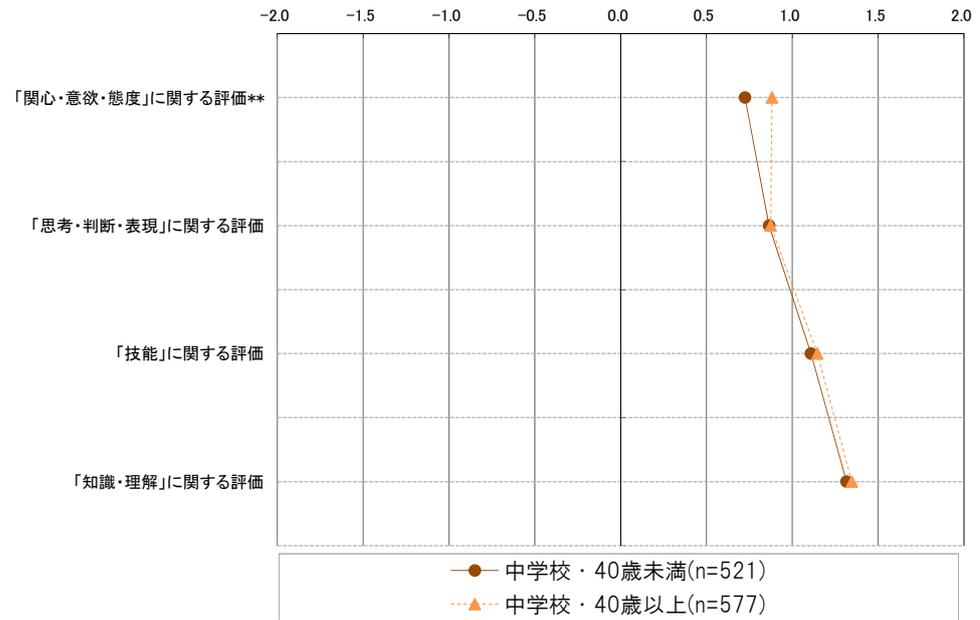
図表 3-3-1 観点別学習状況の評価の実施状況  
(小学校、教師の年齢層別)



※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「40歳未満」と「40歳以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

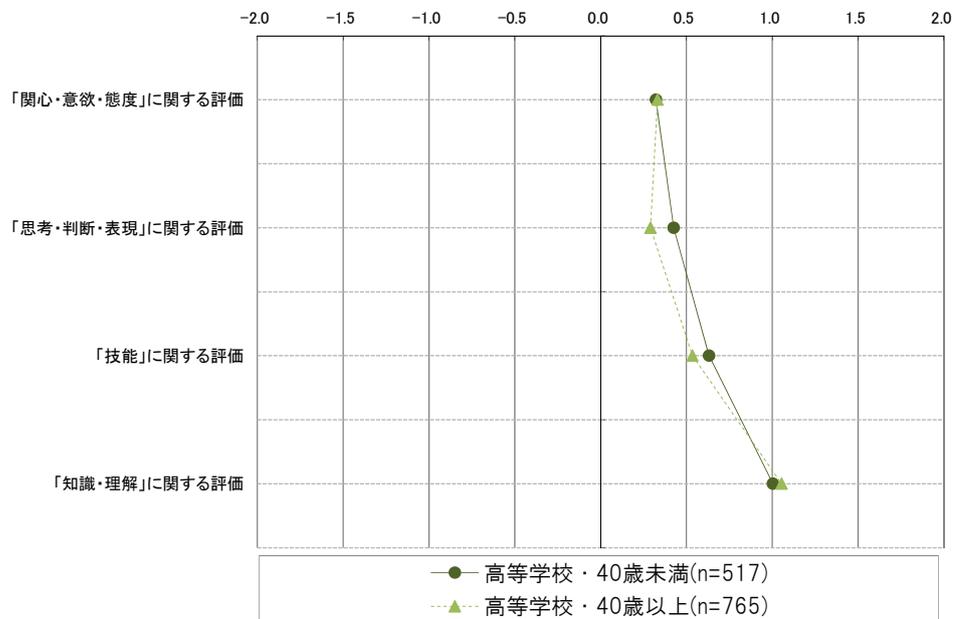
図表 3-3-2 観点別学習状況の評価の実施状況  
(中学校、教師の年齢層別)



※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「40歳未満」と「40歳以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

図表 3-3-3 観点別学習状況の評価の実施状況  
(高等学校、教師の年齢層別)



※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「40歳未満」と「40歳以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

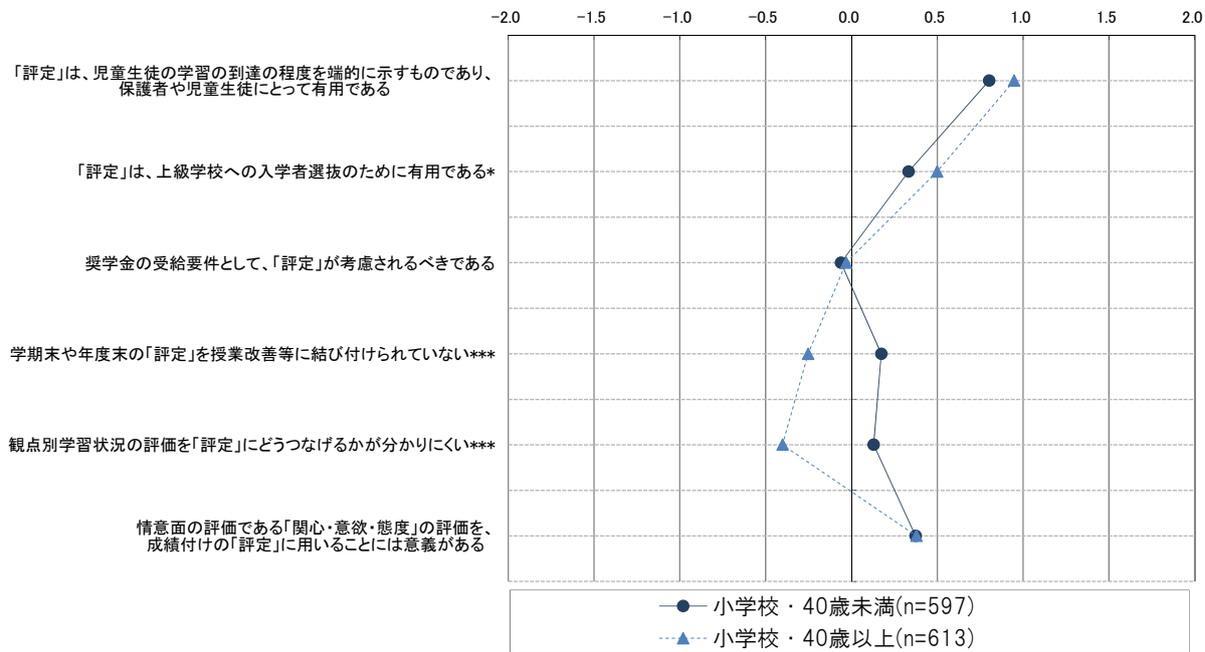
(4) 観点別評価を踏まえた「評定」についての考え

観点別評価を踏まえて決定する「評定」をどのように感じているかということに関する回答結果を、教師の年齢層別に比較した。

小学校・中学校・高等学校ともに、「学期末や年度末の『評定』を授業改善等に結び付けられていない」という項目については、年齢層が低い教師のほうが課題認識に関する回答の評点が高くなっている。

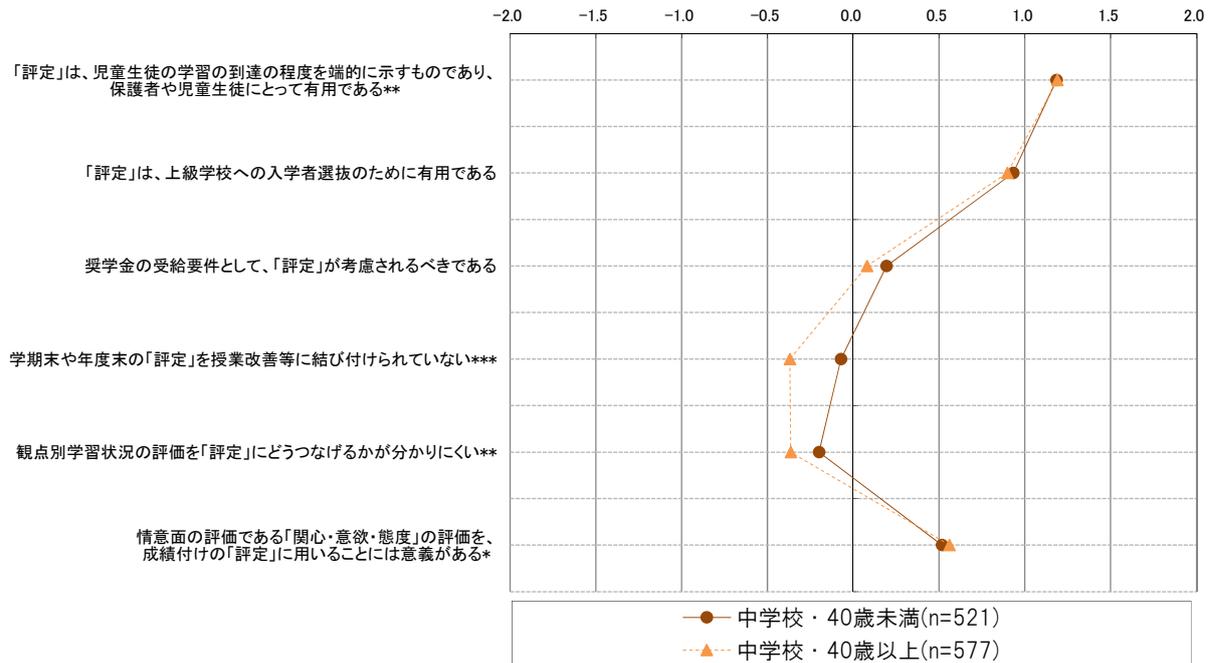
また、小学校・中学校では、「観点別学習状況の評価を『評定』にどうつなげるかが分かりにくい」という項目についても年齢層が低い教師のほうが課題認識に関する回答の評点が高くなっており、特に小学校においてその差異が大きくなっている。

図表 3-4-1 観点別評価を踏まえた「評定」についての考え  
(小学校、年齢層別)



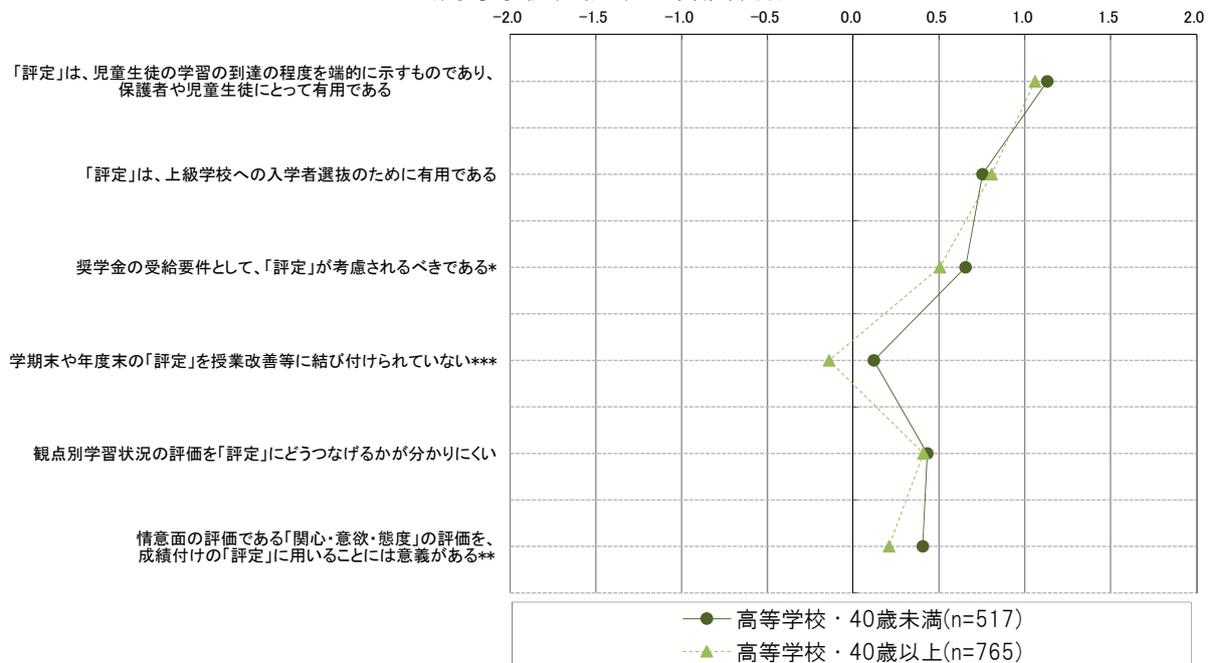
※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「40歳未満」と「40歳以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

図表 3-4-2 観点別評価を踏まえた「評定」についての考え  
(中学校、教師の年齢層別)



※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評定化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「40歳未満」と「40歳以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

図表 3-4-3 観点別評価を踏まえた「評定」についての考え  
(高等学校、教師の年齢層別)



※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評定化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「40歳未満」と「40歳以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

(5) 学習評価を行うに当たっての負担感

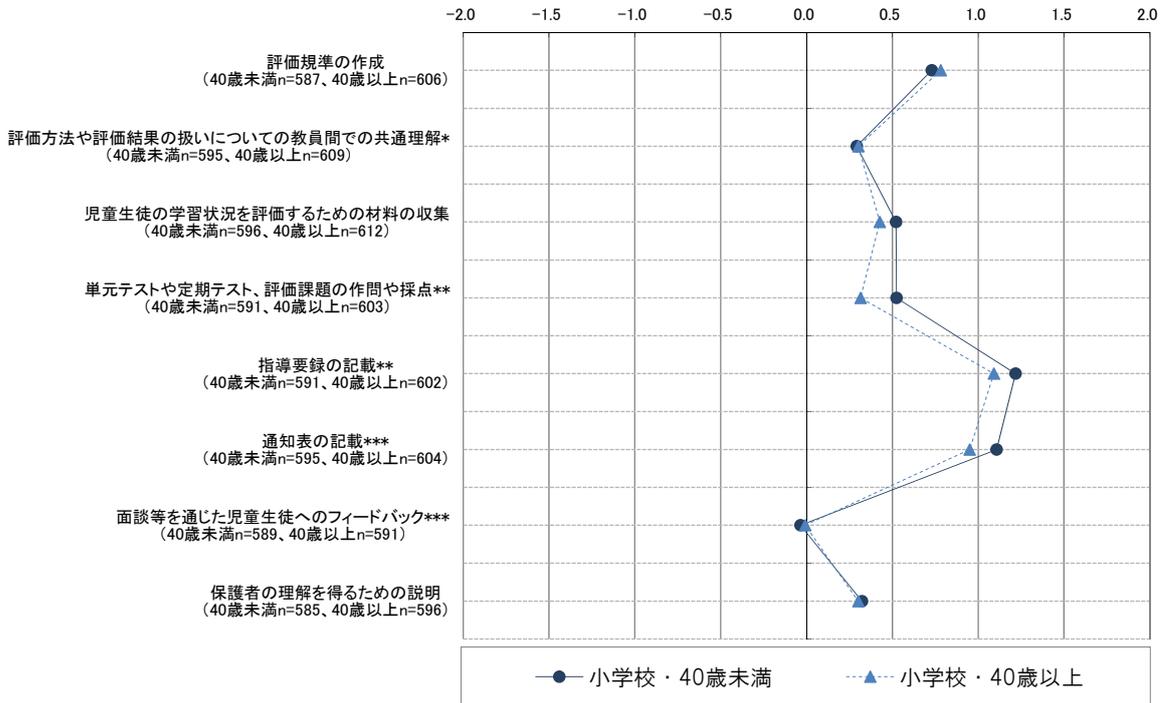
①学習評価を行うに当たって負担を感じる点

学習評価を行うに当たってどの程度負担を感じているかということに関する回答結果を、教師の年齢層別に比較した。

小学校・中学校・高等学校ともに、「単元テストや定期テスト、評価課題の作問や採点」や「指導要録の記載」、「通知表の記載」などの項目で、負担を感じるとの回答の評点は、年齢層が低い教師において高くなっている。

図表 3-5-1 学習評価を行うに当たって負担を感じる点

(小学校、教師の年齢層別)

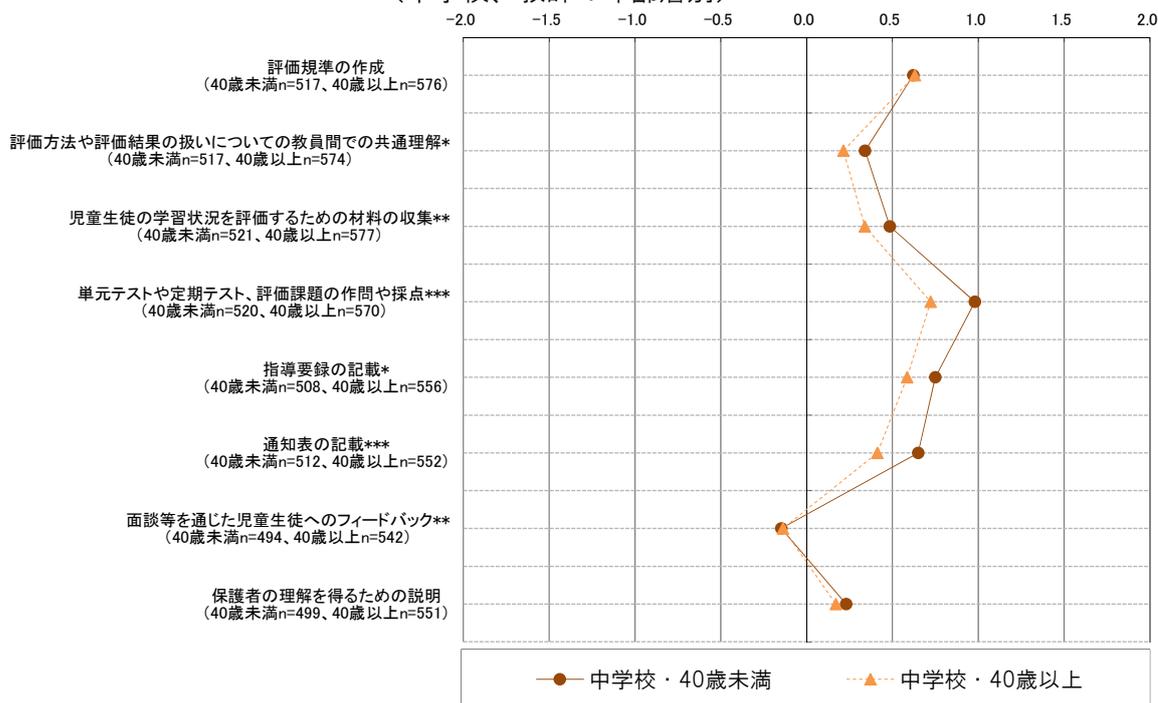


※各項目について、それぞれ「行っていない」の回答を集計対象から除いた上で、「負担を感じる」を+2、「やや負担を感じる」を+1、「あまり負担に感じない」を-1、「負担に感じない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

※調査項目により「行っていない」との回答件数が異なるため、集計度数も項目によって異なっている。

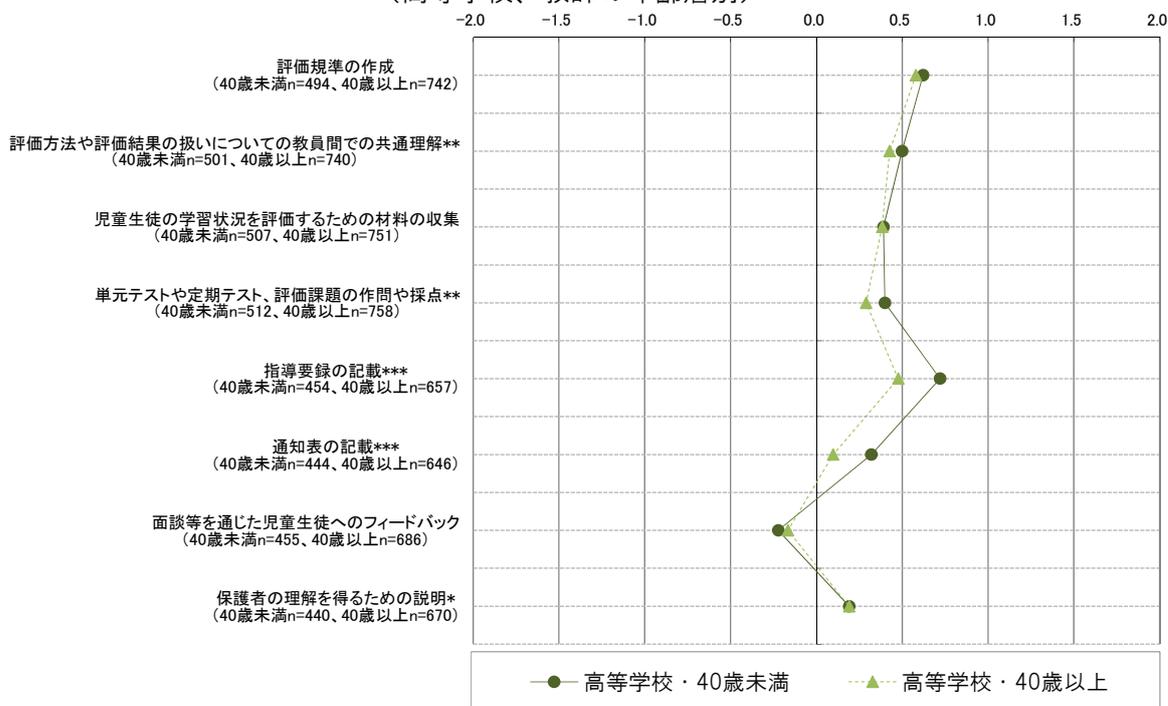
※参考値として、各項目について、それぞれ「行っていない」の回答を集計対象から除いた上で $\chi^2$ 検定を行い、「40歳未満」と「40歳以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

図表 3-5-2 学習評価を行うに当たって負担を感じる点  
(中学校、教師の年齢層別)



※各項目について、それぞれ「行っていない」の回答を集計対象から除いた上で、「負担を感じる」を+2、「やや負担を感じる」を+1、「あまり負担に感じない」を-1、「負担に感じない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※調査項目により「行っていない」との回答件数が異なるため、集計度数も項目によって異なっている。  
 ※参考値として、各項目について、それぞれ「行っていない」の回答を集計対象から除いた上で $\chi^2$ 検定を行い、「40歳未満」と「40歳以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

図表 3-5-3 学習評価を行うに当たって負担を感じる点  
(高等学校、教師の年齢層別)



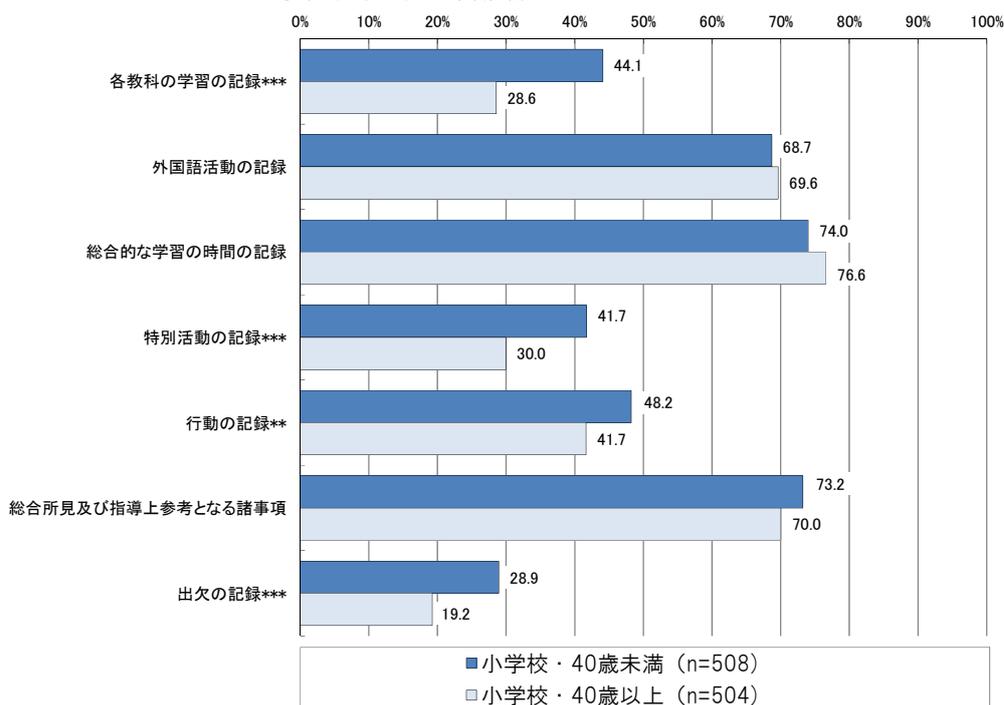
※各項目について、それぞれ「行っていない」の回答を集計対象から除いた上で、「負担を感じる」を+2、「やや負担に感じる」を+1、「あまり負担に感じない」を-1、「負担に感じない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※調査項目により「行っていない」との回答件数が異なるため、集計度数も項目によって異なっている。  
 ※参考値として、各項目について、それぞれ「行っていない」の回答を集計対象から除いた上で $\chi^2$ 検定を行い、「40歳未満」と「40歳以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

②「指導要録の記載」について負担を感じる部分

「指導要録の記載」について「負担を感じる」または「やや負担を感じる」と回答した教師がどの部分に負担を感じるかということに関する回答結果を、教師の年齢層別に比較した。

小学校・中学校・高等学校ともに、「各教科の学習の記録（各教科・科目等の学習の記録）」、「特別活動の記録」、「出欠の記録」の各項目について、年齢層が低い教師のほうが負担を感じるとの回答割合が高くなっている。

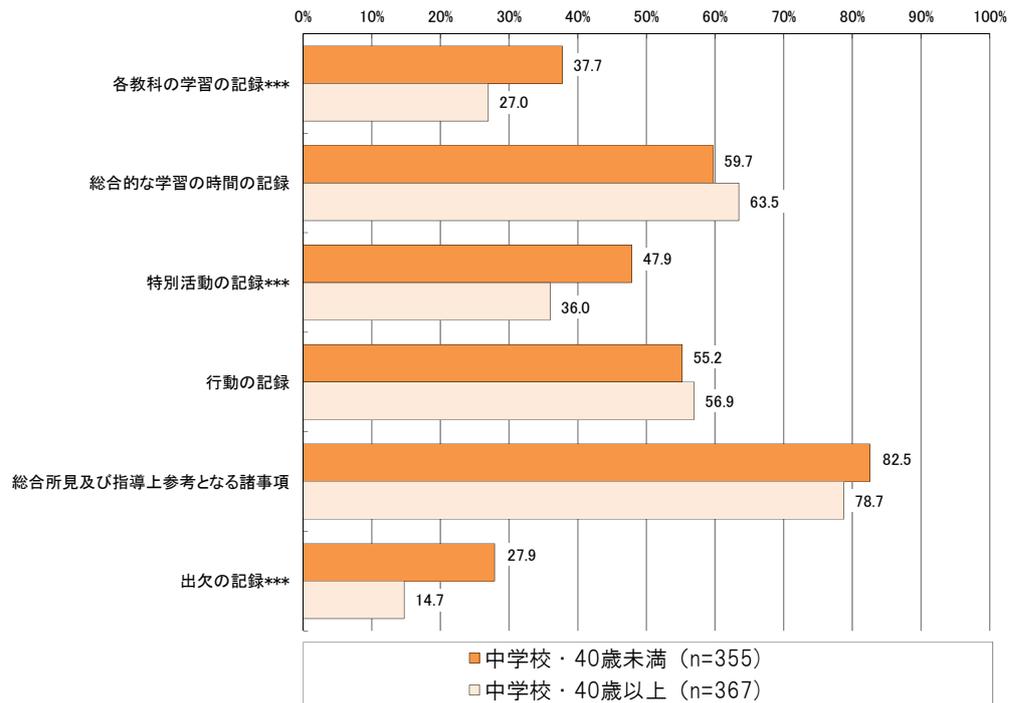
図表 3-5-4 「指導要録の記載」について負担を感じる部分（複数選択）  
（小学校、教師の年齢層別）



※学習評価を行うに当たって負担を感じる点として、「指導要録の記載」について「負担を感じる」「やや負担を感じる」と回答した場合に、どの部分に負担を感じるかをたずねた。

※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「40歳未満」と「40歳以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」は p 値<0.01、「\*\*」は p 値<0.05、「\*」は p 値<0.1、無印は p 値 $\geq$ 0.1としている。

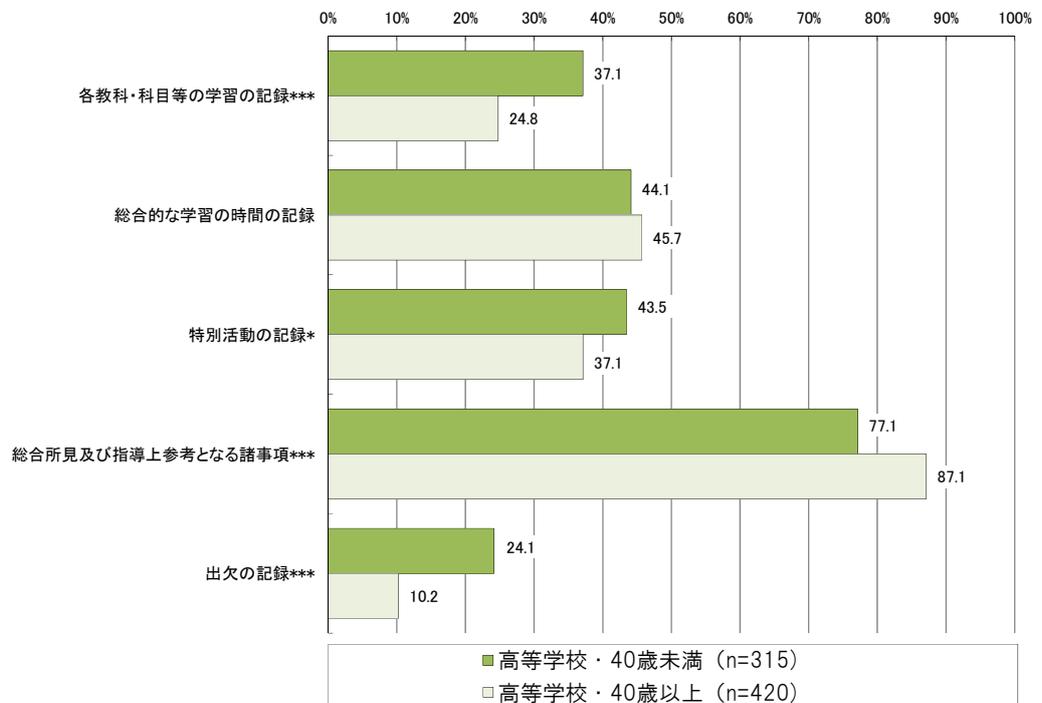
図表 3-5-5 「指導要録の記載」について負担を感じる部分（複数選択）  
（中学校、教師の年齢層別）



※学習評価を行うに当たって負担を感じる点として、「指導要録の記載」について「負担を感じる」「やや負担を感じる」と回答した場合に、どの部分に負担を感じるかをたずねた。

※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「40歳未満」と「40歳以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」は $p$ 値<0.01、「\*\*」は $p$ 値<0.05、「\*」は $p$ 値<0.1、無印は $p$ 値 $\geq$ 0.1としている。

図表 3-5-6 「指導要録の記載」について負担を感じる部分（複数選択）  
（高等学校、教師の年齢層別）



※学習評価を行うに当たって負担を感じる点として、「指導要録の記載」について「負担を感じる」「やや負担を感じる」と回答した場合に、どの部分に負担を感じるかをたずねた。

※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「40歳未満」と「40歳以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」は $p$ 値<0.01、「\*\*」は $p$ 値<0.05、「\*」は $p$ 値<0.1、無印は $p$ 値 $\geq$ 0.1としている。



## 第4章

### 指導している教科等の別の集計・分析

## 第4章 指導している教科等の別の集計・分析

### (1) 観点別評価に影響を及ぼす方法

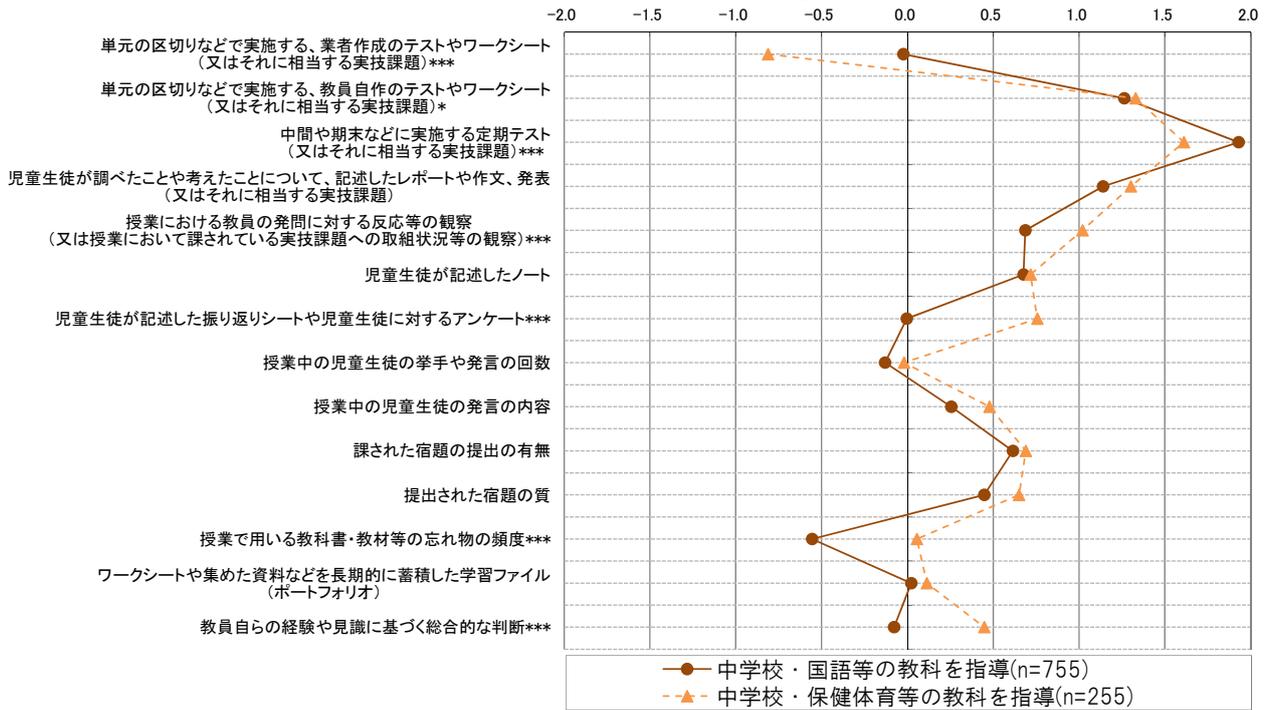
#### ① 「知識・理解」及び「技能」の評価に影響を及ぼす方法

「知識・理解」及び「技能」の評価に対しどのような方法が影響を及ぼすかということに関する回答結果を、教師が指導している教科等の別<sup>7)</sup>に比較した。

中学校・高等学校ともに、「中間や期末などに実施する定期テスト」について影響を及ぼすとの評点が最も高いという点は指導している教科等の別に分類しても共通して見られるが、「保健体育等の教科」を指導している教師では評点が低くなっている。

他方で、「児童生徒が記述した振り返りシートや児童生徒に対するアンケート」などの項目では、「保健体育等の教科」を指導している教師のほうが評点が高くなっている。

図表 4-1-1 評価の方法が「知識・理解」及び「技能」の評価に影響を及ぼす度合い  
(中学校、指導している教科等の別)

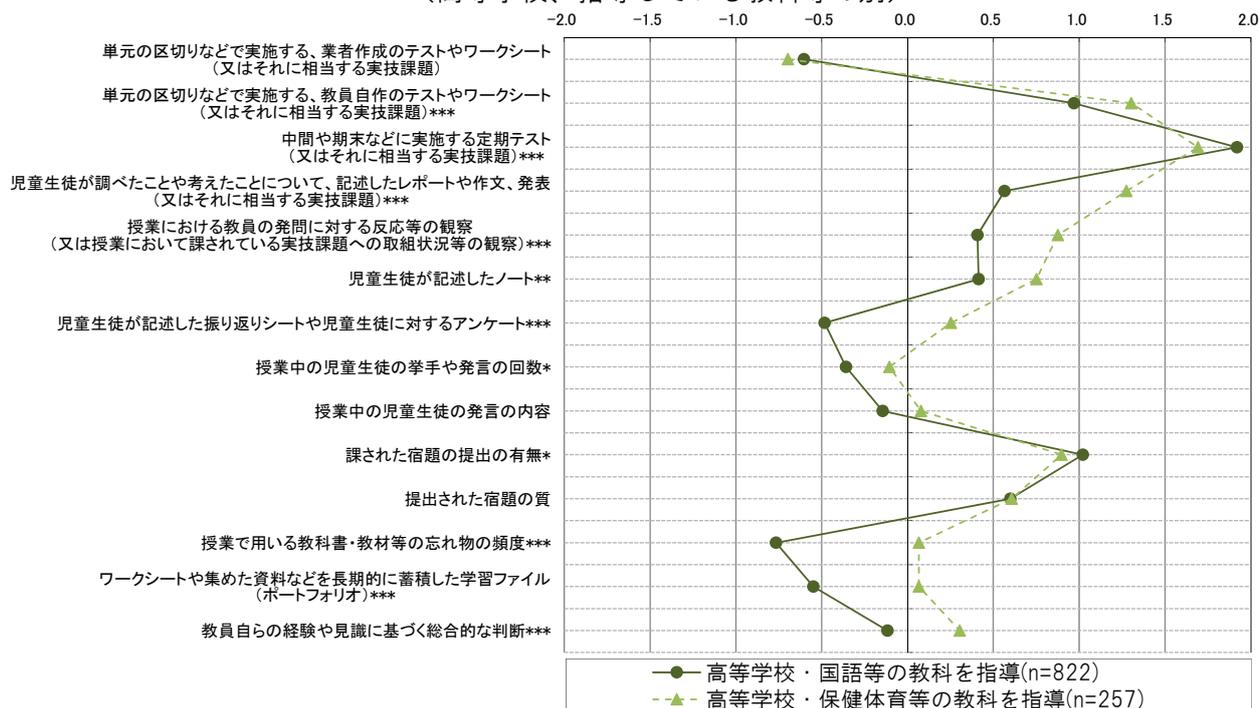


※各項目について、それぞれ「影響している」を+2、「やや影響している」を+1、「あまり影響していない」を-1、「影響していない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「国語等の教科を指導」している教師と「保健体育等の教科を指導」している教師との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

<sup>7)</sup> 中学校については「国語、社会、数学、理科、外国語」を指導しているか、「音楽、美術、保健体育、技術・家庭」を指導しているかで分類した。なお、両方にまたがって指導をしていると回答した81件及び、どちらにも分類されない「道徳」等のみを指導していると回答した7件はここでは集計の対象外とした。高等学校については「国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語」を指導しているか、「保健体育、芸術、家庭、情報」を指導しているかで分類し、両方にまたがって指導している54件及び、どちらにも分類されない「専門教育に関する各教科」等のみを指導している149件は集計の対象外とした。なお、本報告書では、分類の表記について、中学校・高等学校ともに、前者を「国語等の教科」、後者を「保健体育等の教科」とした。

図表 4-1-2 評価の方法が「知識・理解」及び「技能」の評価に影響を及ぼす度合い  
(高等学校、指導している教科等の別)



※各項目について、それぞれ「影響している」を+2、「やや影響している」を+1、「あまり影響していない」を-1、「影響していない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「国語等の教科を指導」している教師と「保健体育等の教科を指導」している教師との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

第4章

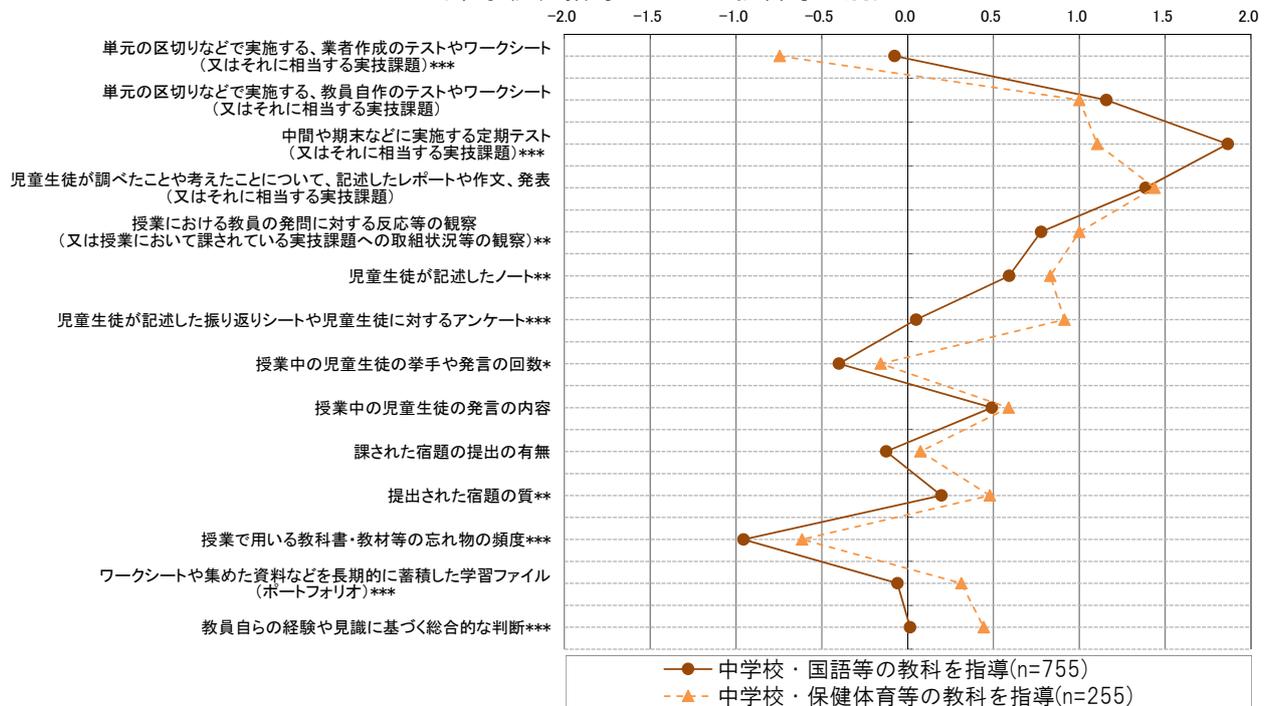
②「思考・判断・表現」の評価に影響を及ぼす方法

「思考・判断・表現」の評価に対しどのような方法が影響を及ぼすかということに関する回答結果を、教師が指導している教科等の別に比較した。

中学校・高等学校ともに、「国語等の教科」を指導している教師では「中間や期末などに実施する定期テスト」について影響を及ぼすとの評点が最も高く、「保健体育等の教科」を指導している教師では「児童生徒が調べたことや考えたことについて、記述したレポートや作文、発表」について評点が最も高くなっている。

このほか、「知識・理解」及び「技能」の評価と同様に、「保健体育等の教科」を指導している教師のほうが、影響を及ぼすとの評点が高い項目が多くなっている。

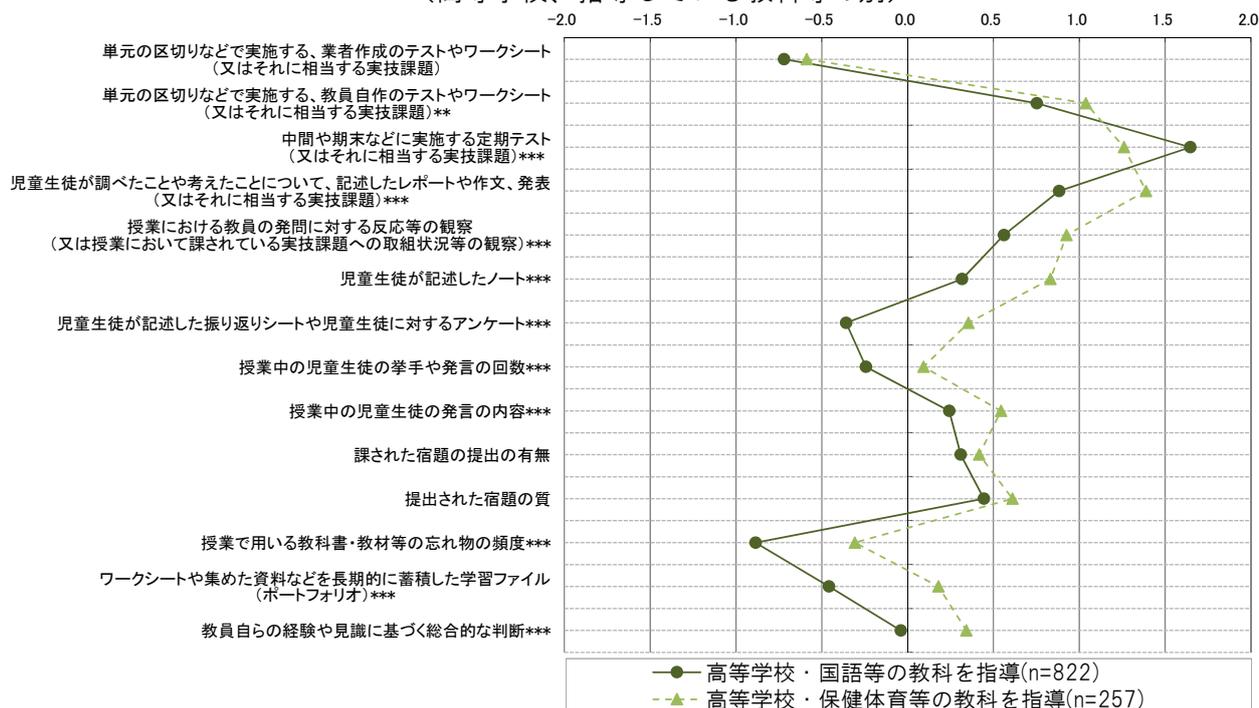
図表 4-1-3 評価の方法が「思考・判断・表現」の評価に影響を及ぼす度合い  
(中学校、指導している教科等の別)



※各項目について、それぞれ「影響している」を+2、「やや影響している」を+1、「あまり影響していない」を-1、「影響していない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「国語等の教科を指導」している教師と「保健体育等の教科を指導」している教師との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

図表 4-1-4 評価の方法が「思考・判断・表現」の評価に影響を及ぼす度合い  
(高等学校、指導している教科等の別)



※各項目について、それぞれ「影響している」を+2、「やや影響している」を+1、「あまり影響していない」を-1、「影響していない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「国語等の教科を指導」している教師と「保健体育等の教科を指導」している教師との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

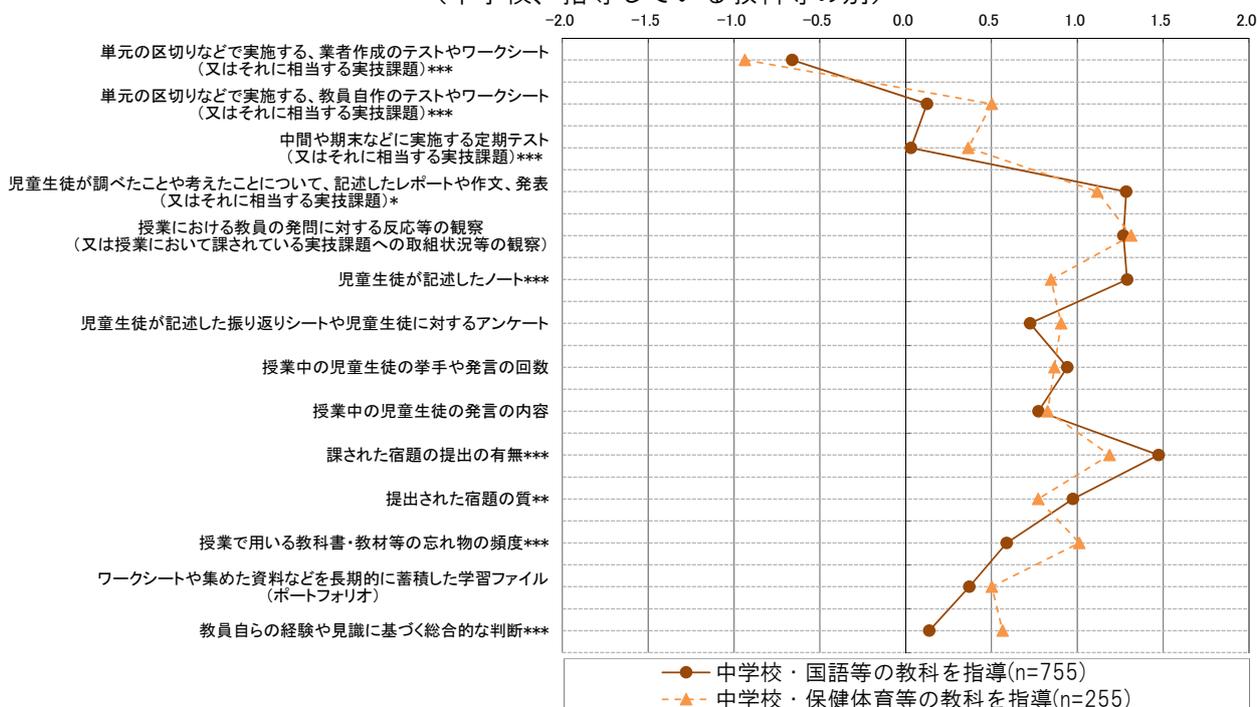
③「関心・意欲・態度」の評価に影響を及ぼす方法

「関心・意欲・態度」の評価に対しどのような方法が影響を及ぼすかということに関する回答結果を、教師が指導している教科等の別に比較した。

中学校・高等学校ともに、「国語等の教科」を指導している教師では、「課された宿題の提出の有無」について評価に影響を及ぼすとの評点が最も高くなっている。他方で、「保健体育等の教科」を指導している教師では、「授業における教員の発問等に対する反応等の観察」について評価に影響を及ぼすとの評点が最も高くなっている。

高等学校では、「保健体育等の教科」を指導している教師のほうが、影響を及ぼすとの評点が比較的高い項目が多くなっている。

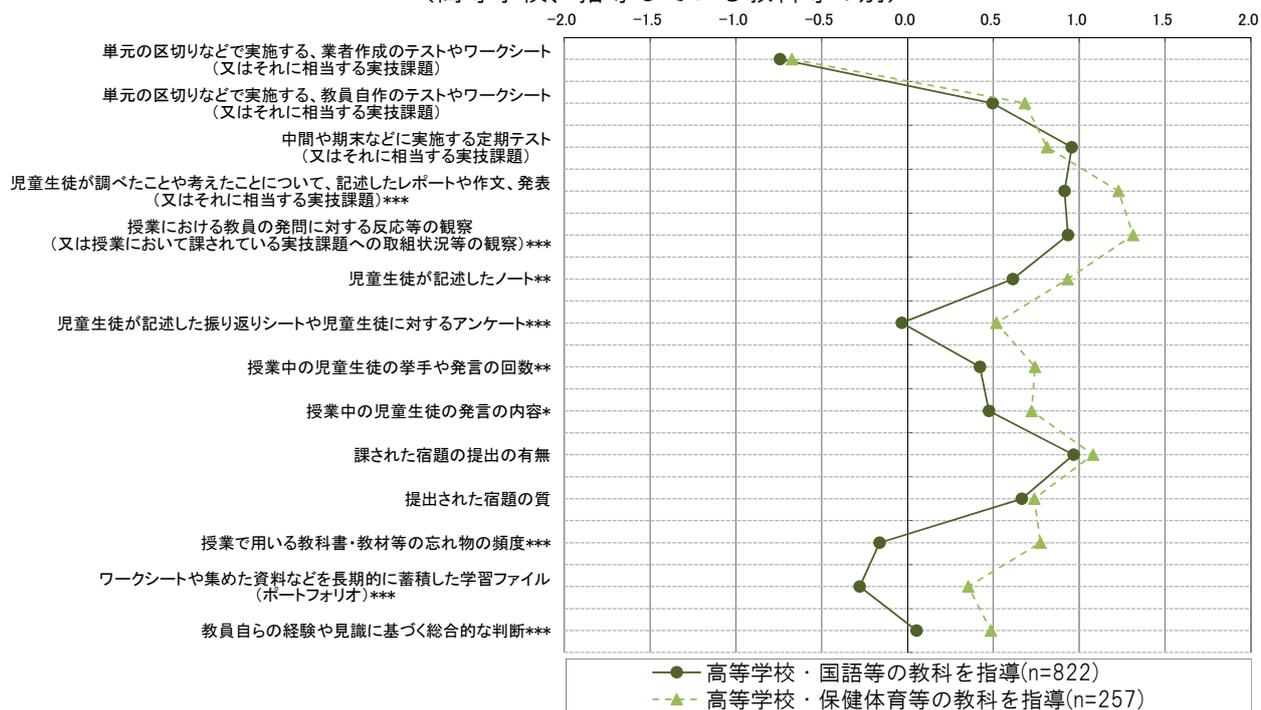
図表 4-1-5 評価の方法が「関心・意欲・態度」の評価に影響を及ぼす度合い  
(中学校、指導している教科等の別)



※各項目について、それぞれ「影響している」を+2、「やや影響している」を+1、「あまり影響していない」を-1、「影響していない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「国語等の教科を指導」している教師と「保健体育等の教科を指導」している教師との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

図表 4-1-6 評価の方法が「関心・意欲・態度」の評価に影響を及ぼす度合い  
(高等学校、指導している教科等の別)



※各項目について、それぞれ「影響している」を+2、「やや影響している」を+1、「あまり影響していない」を-1、「影響していない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「国語等の教科を指導」している教師と「保健体育等の教科を指導」している教師との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

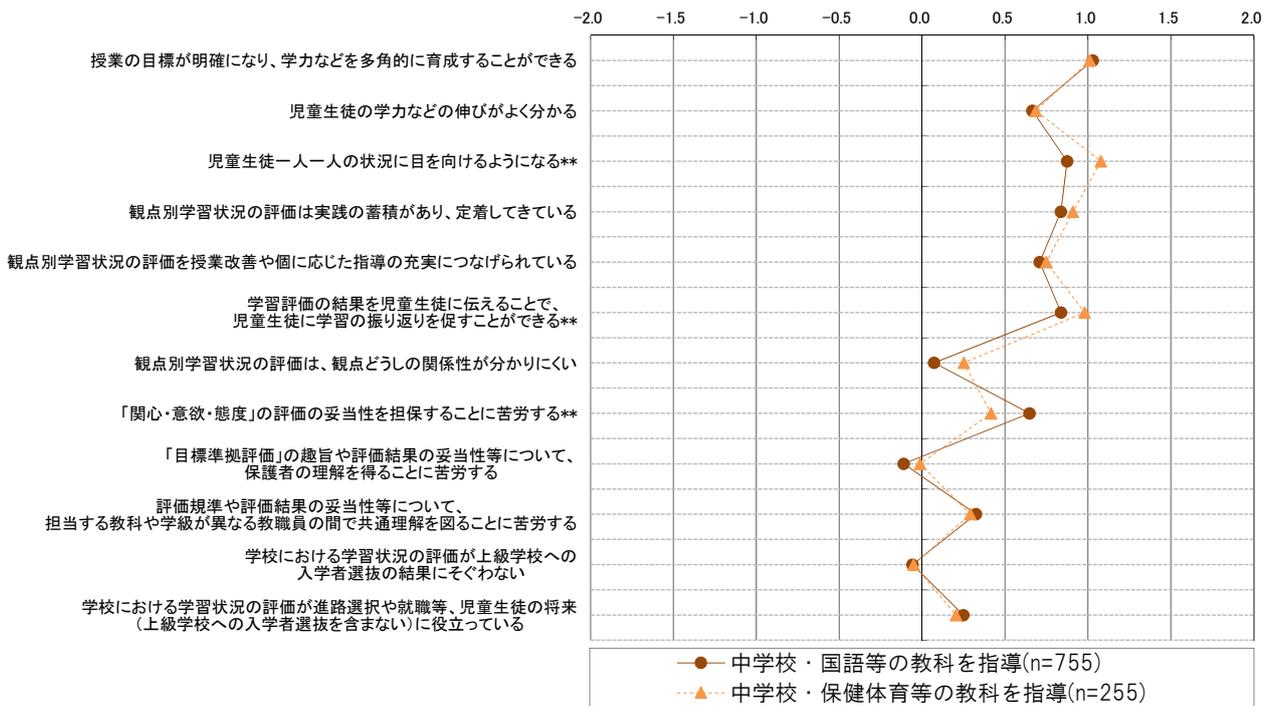
(2) 目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価に対する考え・意識

目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価などをどのように感じているかということに関する回答結果を、教師が指導している教科等の別に比較した。

中学校では、指導している教科等の別に分類しても回答傾向は概ね同様であるが、『関心・意欲・態度』の評価の妥当性を担保することに苦勞する」との課題認識に関する評点については「国語等の教科」を指導している教師で高くなっている。

高等学校では、「保健体育等の教科」を指導している教師のほうが「観点別学習状況の評価は実践の蓄積があり、定着してきている」などの項目について肯定的な回答の評点が高く、「観点別の学習状況の評価は、観点どうしの関係性が分かりにくい」や『関心・意欲・態度』の評価の妥当性を担保することに苦勞する」などの課題認識に関しては「国語等の教科」を指導している教師のほうが高くなっている。また、「学校における学習状況の評価が上級学校への入学者選抜の結果にそぐわない」との課題認識についても、「国語等の教科」を指導している教師で高くなっている。

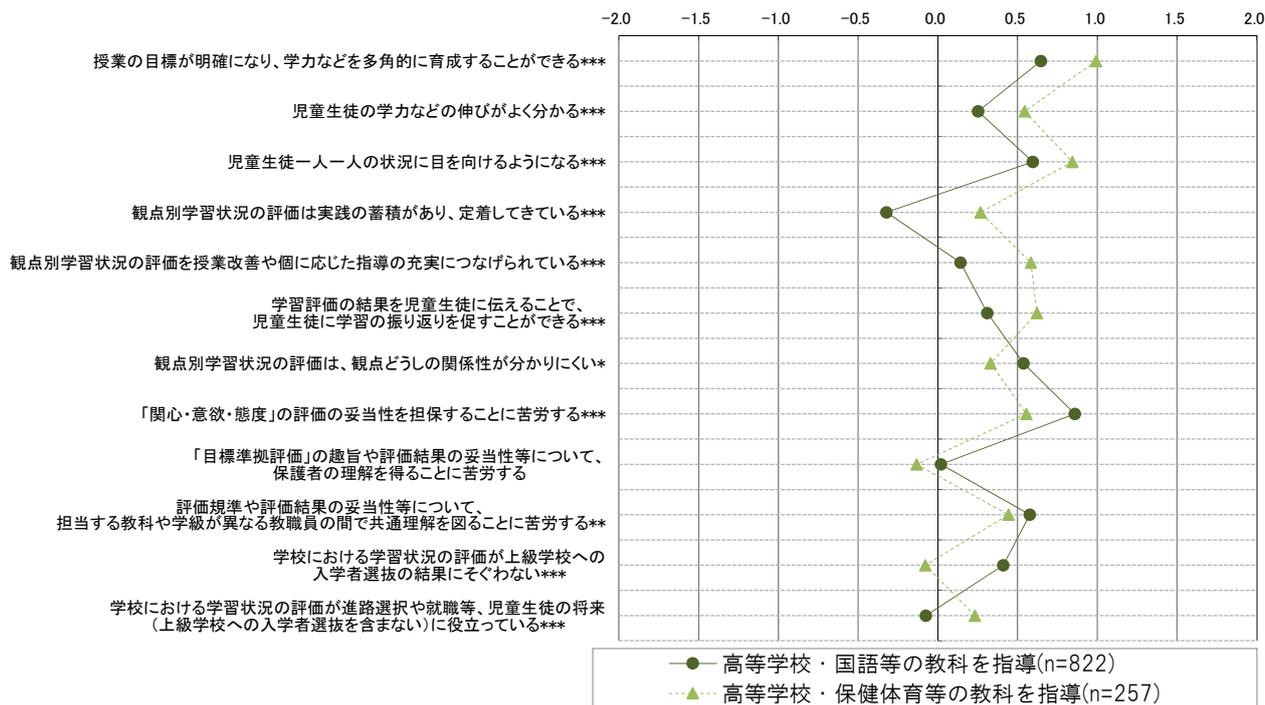
図表 4-2-1 目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価に対する考え・意識  
(中学校、指導している教科等の別)



※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「国語等の教科を指導」している教師と「保健体育等の教科を指導」している教師との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

図表 4-2-2 目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価に対する考え・意識  
(高等学校、指導している教科等の別)



※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「国語等の教科を指導」している教師と「保健体育等の教科を指導」している教師との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

(3) 観点別学習状況の評価の実施状況

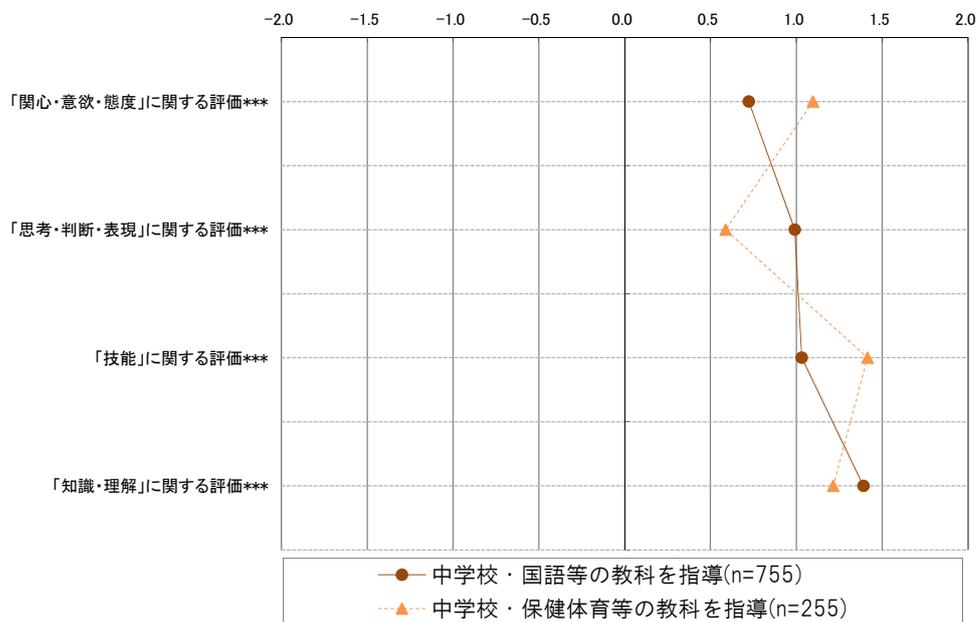
観点別学習状況の評価の資料の収集・分析、評価の決定を円滑に実施できているかということに関する回答結果を、教師が指導している教科等の別に比較した。

中学校では、「関心・意欲・態度」に関する評価、「技能」に関する評価については、「保健体育等の教科」を指導している教師のほうが円滑に実施できているとの評点が高く、他方、「思考・判断・表現」に関する評価、「知識・理解」に関する評価は、「国語等の教科」を指導している教師のほうが評点が高くなっている。

高等学校では、「知識・理解」に関する評価以外の観点について、「保健体育等の教科」を指導している教師のほうが評点が高くなっている。

なお、「国語等の教科」を指導している教師では、4つの観点のうち「関心・意欲・態度」について円滑に実施できているとの評点が相対的に低く、「知識・理解」に関する評価について相対的に評点が高いという点は、中学校・高等学校に共通して見られる。同様に、「保健体育等の教科」を指導している教師では、4つの観点のうち、「思考・判断・表現」に関する評価について円滑に実施できているとの評点が相対的に低く、「技能」に関する評価について相対的に高いという点は中学校・高等学校に共通して見られる。

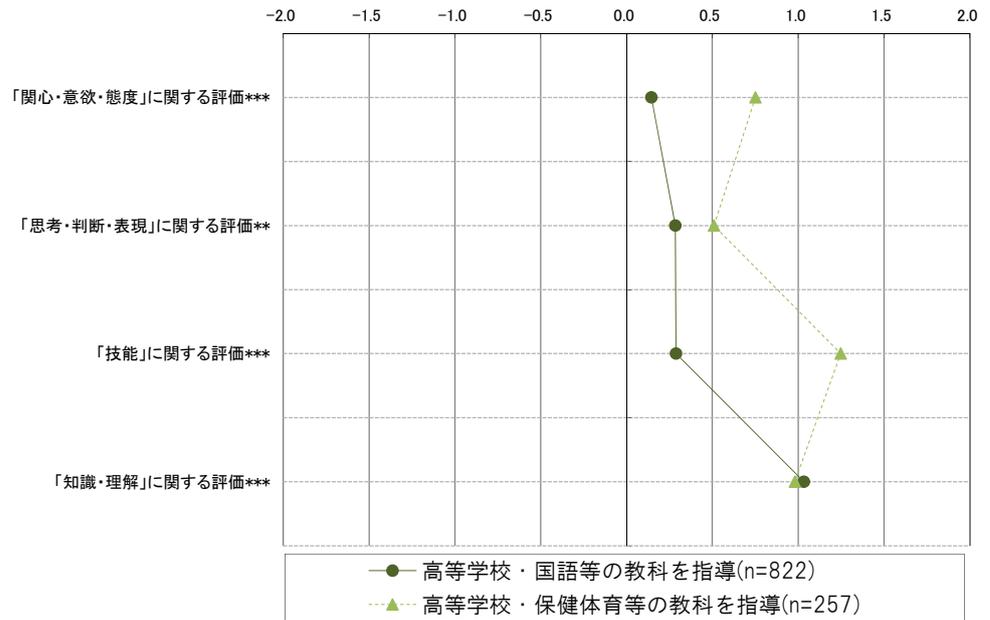
図表 4-3-1 観点別学習状況の評価の実施状況  
(中学校、指導している教科等の別)



※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「国語等の教科を指導」している教師と「保健体育等の教科を指導」している教師との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

図表 4-3-2 観点別学習状況の評価の実施状況  
(高等学校、指導している教科等の別)



※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「国語等の教科を指導」している教師と「保健体育等の教科を指導」している教師との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

(4) 観点別評価を踏まえた「評定」についての考え

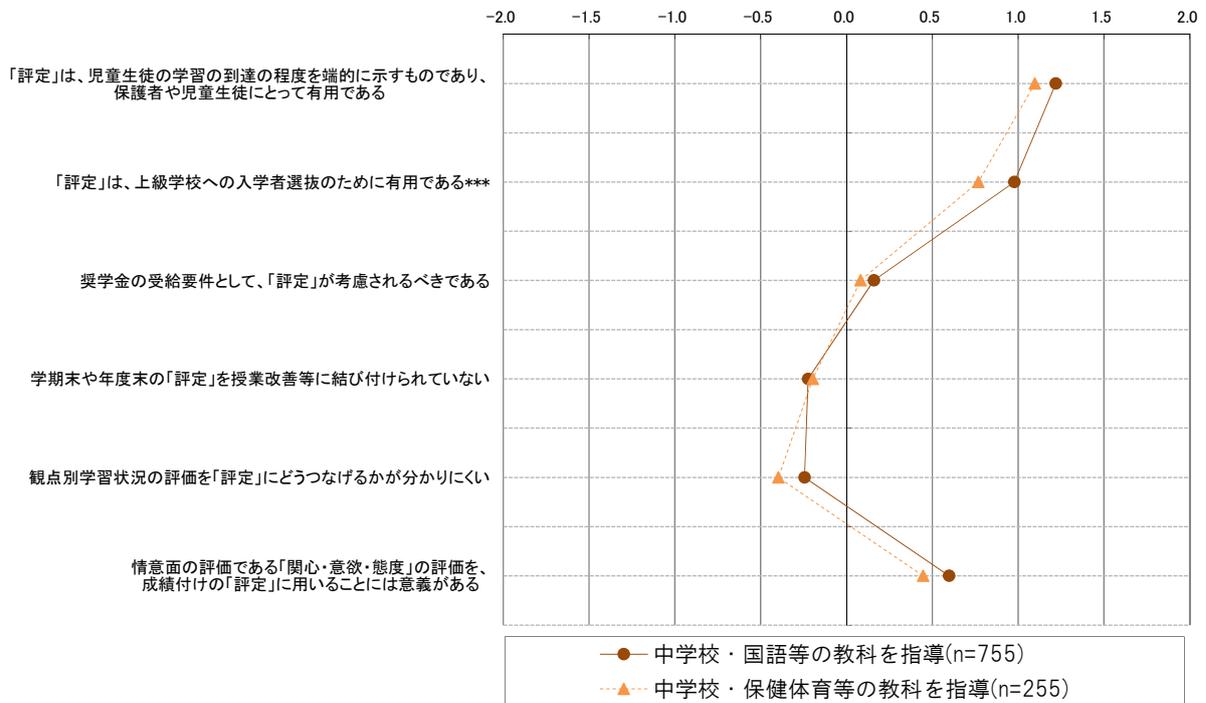
観点別評価を踏まえて決定する「評定」をどのように感じているかということに関する回答結果を、教師が指導している教科等の別に比較した。

中学校においては、「国語等の教科」を指導している教師において、『評定』は、「上級学校への入学者選抜のために有用である」という項目について肯定的な回答の評点が高くなっている。

高等学校では、「学期末や年度末の『評定』を授業改善等に結び付けられていない」、及び「観点別学習状況の評価を『評定』にどうつなげるかが分かりにくい」という項目について、「国語等の教科」を指導している教師で課題認識が高くなっている。

なお、高等学校において、「情意面の評価である『関心・意欲・態度』の評価を、成績付けの『評定』に用いることには意義がある」という項目については、「保健体育等の教科」を指導している教師のほうが高くなっている。

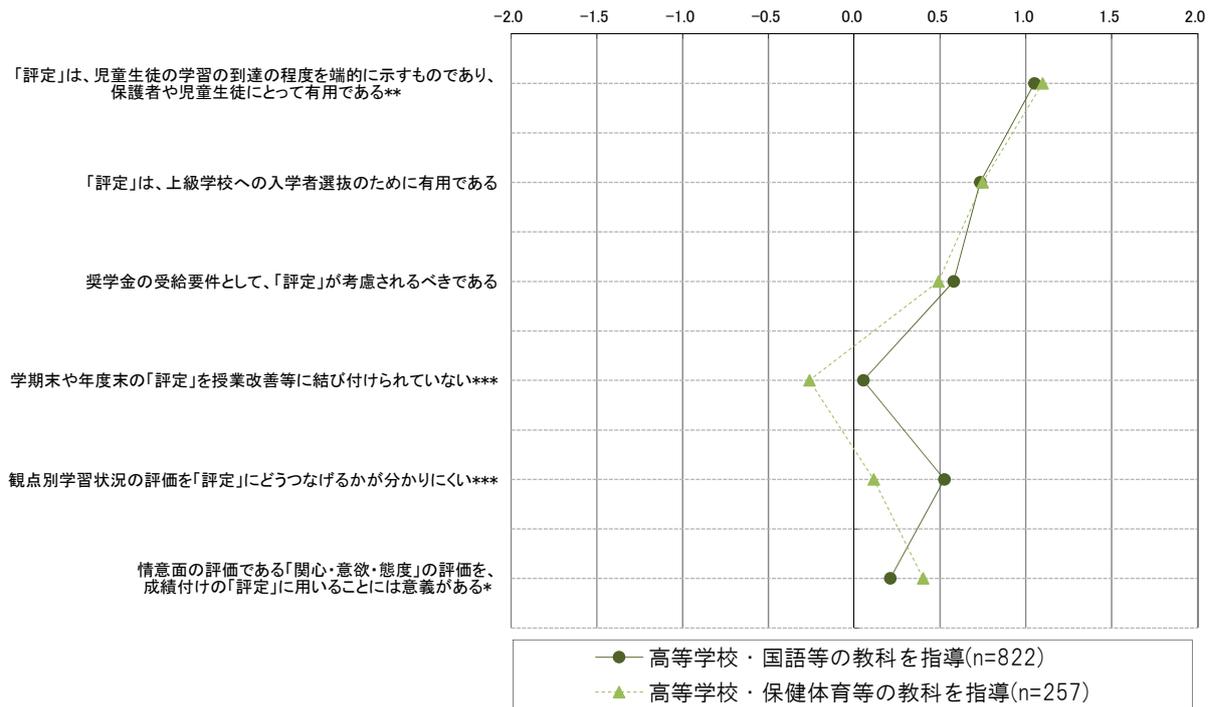
図表 4-4-1 観点別評価を踏まえた「評定」についての考え  
(中学校、指導している教科等の別)



※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「国語等の教科を指導」している教師と「保健体育等の教科を指導」している教師との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

図表 4-4-2 観点別評価を踏まえた「評定」についての考え  
(高等学校、指導している教科等の別)



※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「国語等の教科を指導」している教師と「保健体育等の教科を指導」している教師との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

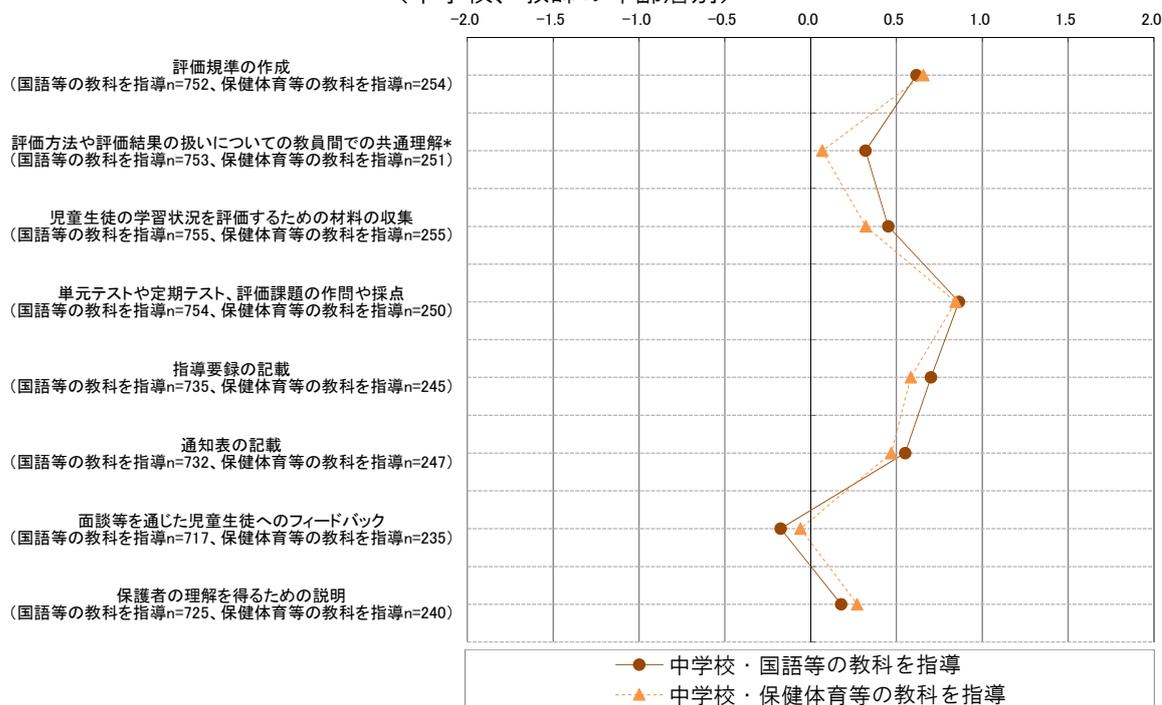
(5) 学習評価を行うに当たっての負担感

学習評価を行うに当たってどの程度負担を感じているかということに関する回答結果を、教師が指導している教科等の別に比較した。

中学校では、指導している教科等の別に分類しても概ねの回答傾向は同様であるが、「評価方法や評価結果の扱いについての教員間での共通理解」については、「国語等の教科」を指導している教師において負担を感じるとの回答の評点が高くなっている。

高等学校では、「評価規準の作成」などの多くの項目で、「国語等の教科」を指導している教師のほうが負担を感じるとの回答の評点が高くなっている。

図表 4-5-1 学習評価を行うに当たって負担を感じる点  
(中学校、教師の年齢層別)

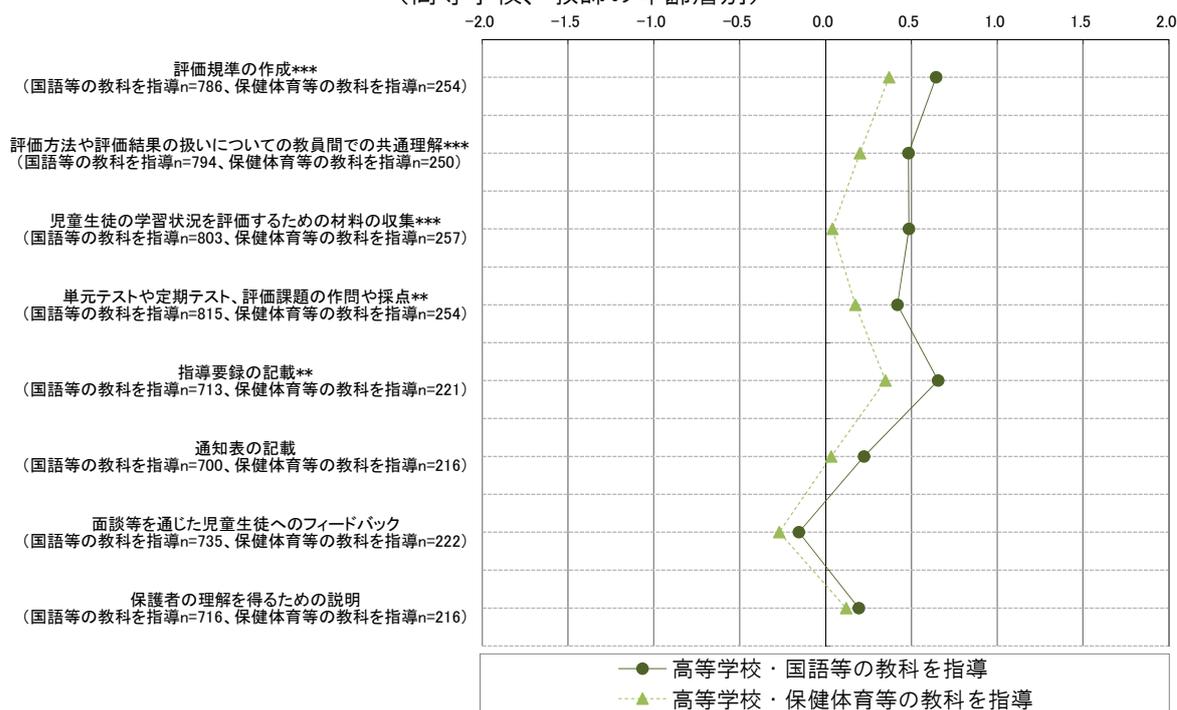


※各項目について、それぞれ「行っていない」の回答を集計対象から除いた上で、「負担を感じる」を+2、「やや負担を感じる」を+1、「あまり負担に感じない」を-1、「負担に感じない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

※調査項目により「行っていない」との回答件数が異なるため、集計度数も項目によって異なっている。

※参考値として、各項目について、それぞれ「行っていない」の回答を集計対象から除いた上で $\chi^2$ 検定を行い、「国語等の教科を指導」している教師と「保健体育等を指導」している教師との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

図表 4-5-2 学習評価を行うに当たって負担を感じる点  
(高等学校、教師の年齢層別)



※各項目について、それぞれ「行っていない」の回答を集計対象から除いた上で、「負担を感じる」を+2、「やや負担を感じる」を+1、「あまり負担に感じない」を-1、「負担に感じない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

※調査項目により「行っていない」との回答件数が異なるため、集計度数も項目によって異なっている。

※参考値として、各項目について、それぞれ「行っていない」の回答を集計対象から除いた上で $\chi^2$ 検定を行い、「国語等の教科を指導」している教師と「保健体育等を指導」している教師との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。



## 第 5 章

担当している児童生徒の人数別の集計・分析

## 第5章 担当している児童生徒の人数別の集計・分析

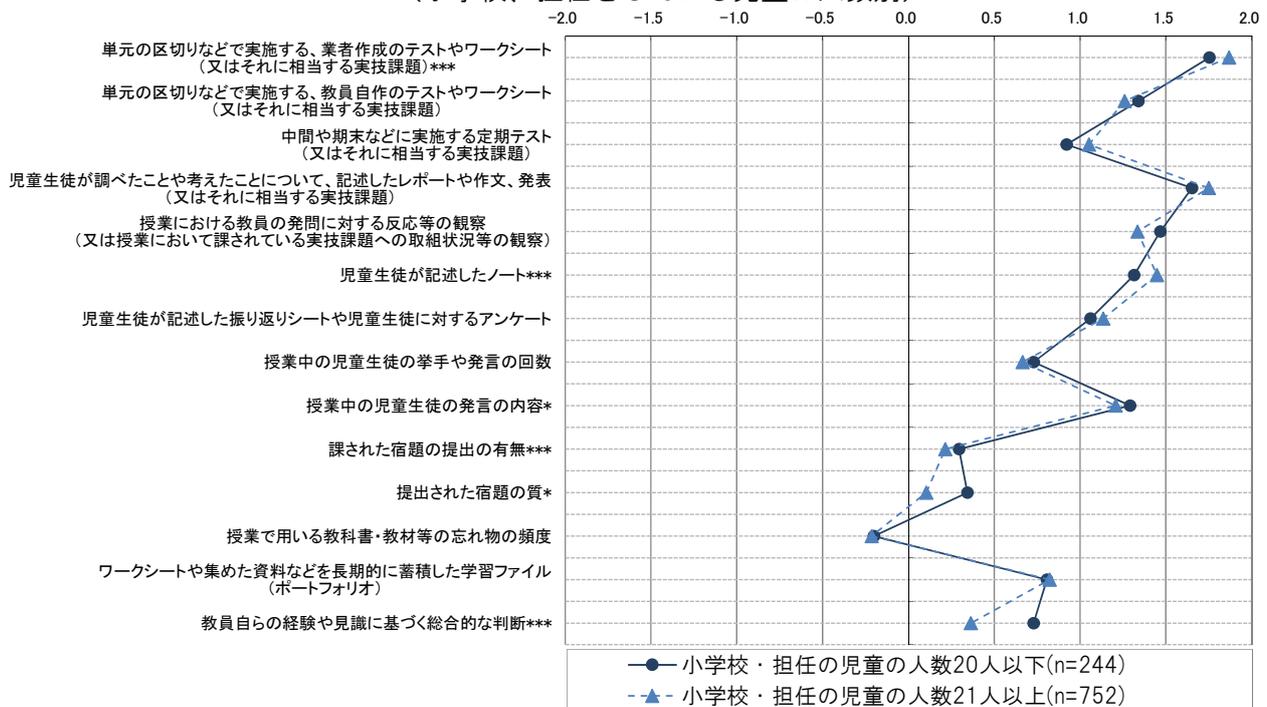
### (1) 観点別評価に影響を及ぼす方法

#### ① 「知識・理解」及び「技能」の評価に影響を及ぼす方法

「知識・理解」及び「技能」の評価に対しどのような方法が影響を及ぼすかということに関する回答結果を、教師が担当している児童生徒の人数別<sup>8</sup>に比較した。

小学校・中学校・高等学校ともに、担当している児童生徒の人数別に分類しても概ねの回答傾向は同様であるが、高等学校では、「授業中の児童生徒の挙手や発言の回数」、「授業中の児童生徒の発言の内容」の各項目について、指導している人数が相対的に少ない場合のほうが、評価に影響を及ぼすとされた評点が高くなっている。

図表 5-1-1 評価の方法が「知識・理解」及び「技能」の評価に影響を及ぼす度合い  
(小学校、担任をしている児童の人数別)

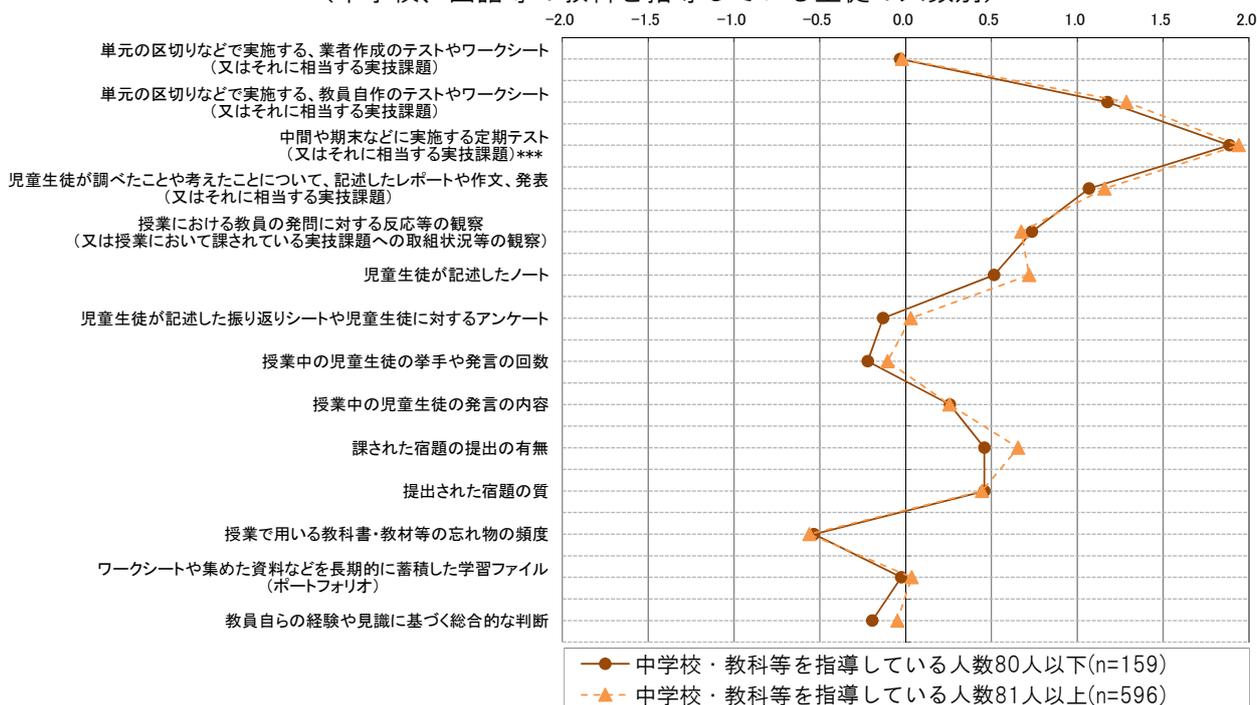


※各項目について、それぞれ「影響している」を+2、「やや影響している」を+1、「あまり影響していない」を-1、「影響していない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「20人以下」と「21人以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

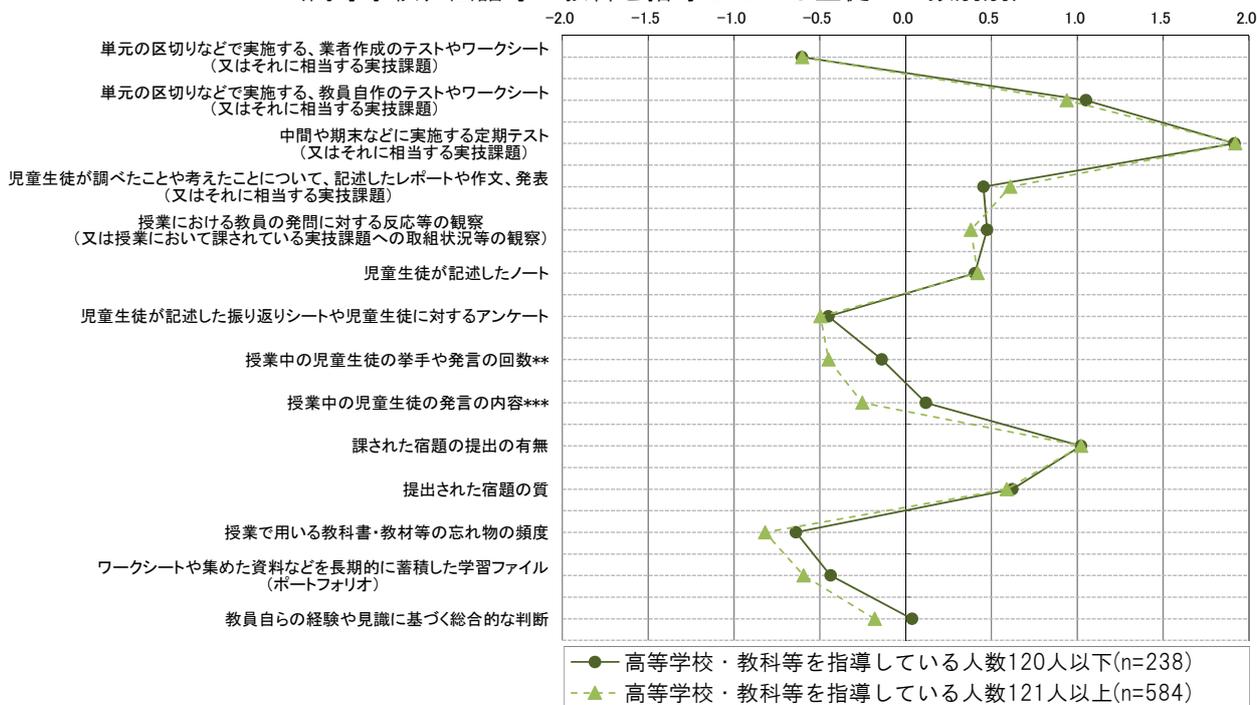
<sup>8</sup> 小学校については、学級担任をしている教師に関して担任をしている学級の児童の人数別に「20人以下」と「21人以上」の2群に分類した。中学校・高等学校は、教科等を指導している生徒の人数別に分類したが、本報告書第4章の集計・分析でも示されたように、担当している教科等の性質によって指導方法や学習評価のあり方が異なると考えられ、また、教科等の違いによって担当している人数にも差異がある（「保健体育等の教科」のほうが指導している人数が相対的に多い）と考えられたため、解釈等をより明確にできるようにするため、ここでは、「国語等の教科」（中学校は国語、社会、数学、理科、外国語、高等学校は国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語）を指導している教師に限定して集計を行った。分類については、中学校は「80人以下」と「81人以上」の2群、高等学校については「120人以下」と「121人以上」の2群に分類した。

図表 5-1-2 評価の方法が「知識・理解」及び「技能」の評価に影響を及ぼす度合い  
(中学校、国語等の教科を指導している生徒の人数別)



※各項目について、それぞれ「影響している」を+2、「やや影響している」を+1、「あまり影響していない」を-1、「影響していない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「80人以下」と「81人以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

図表 5-1-3 評価の方法が「知識・理解」及び「技能」の評価に影響を及ぼす度合い  
(高等学校、国語等の教科を指導している生徒の人数別)



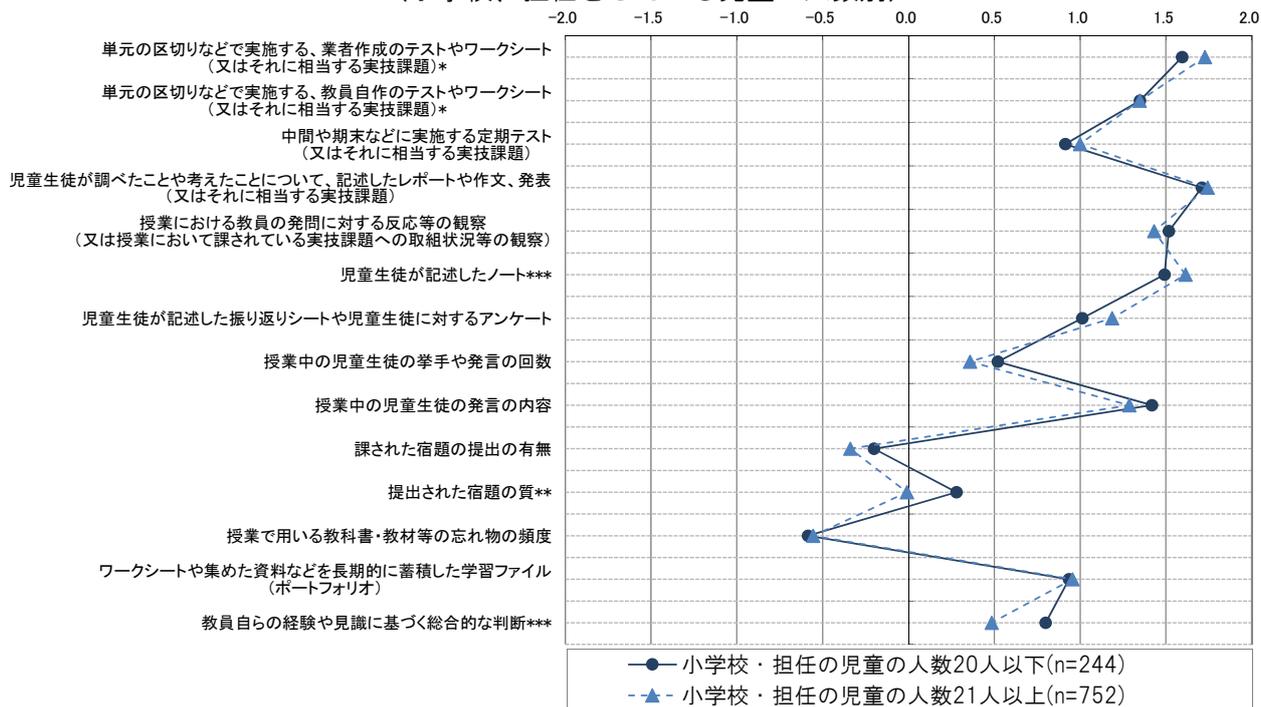
※各項目について、それぞれ「影響している」を+2、「やや影響している」を+1、「あまり影響していない」を-1、「影響していない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「120人以下」と「121人以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

②「思考・判断・表現」の評価に影響を及ぼす方法

「思考・判断・表現」の評価に対しどのような方法が影響を及ぼすかということに関する回答結果を、教師が担当している児童生徒の人数別に比較した。

小学校・中学校・高等学校ともに、担当している児童生徒の人数別に分類しても概ねの回答傾向は同様であるが、小学校では、「提出された宿題の質」が評価に影響を及ぼすとされた評点は、担任をしている人数が相対的に少ない場合のほうが高くなっている。

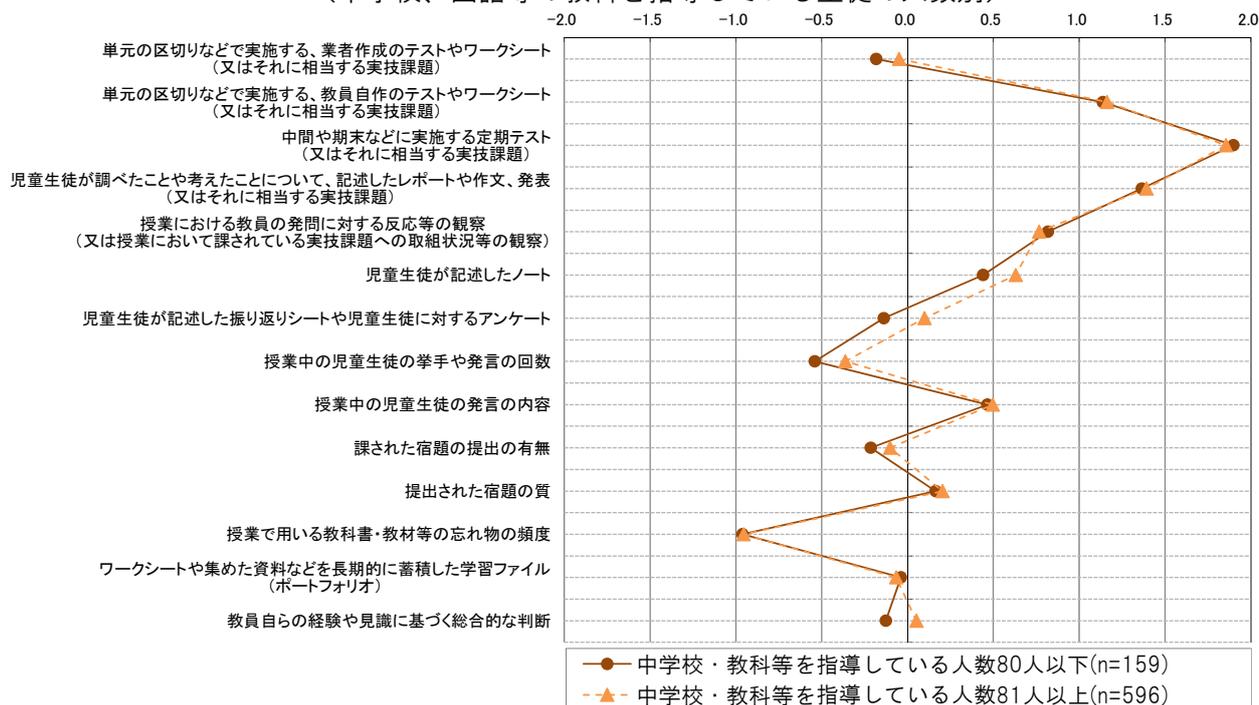
図表 5-1-4 評価の方法が「思考・判断・表現」の評価に影響を及ぼす度合い  
(小学校、担任をしている児童の人数別)



※各項目について、それぞれ「影響している」を+2、「やや影響している」を+1、「あまり影響していない」を-1、「影響していない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

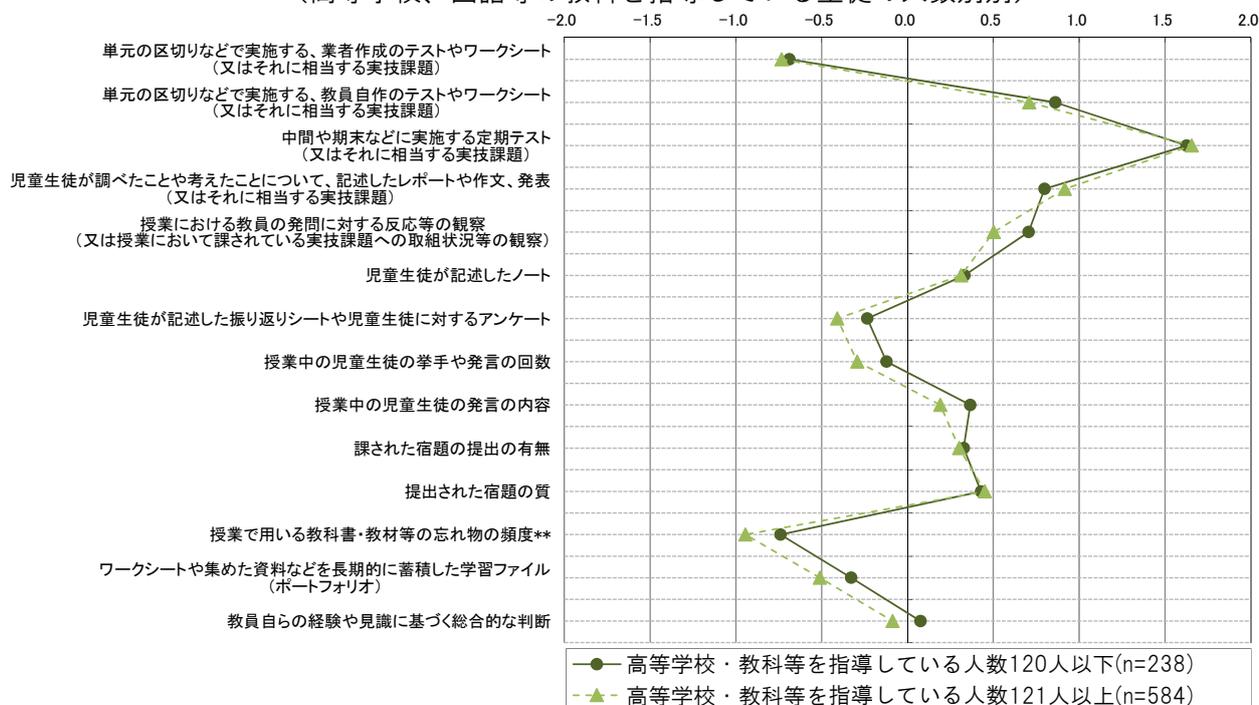
※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「20人以下」と「21人以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

図表 5-1-5 評価の方法が「思考・判断・表現」の評価に影響を及ぼす度合い  
(中学校、国語等の教科を指導している生徒の人数別)



※各項目について、それぞれ「影響している」を+2、「やや影響している」を+1、「あまり影響していない」を-1、「影響していない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「80人以下」と「81人以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

図表 5-1-6 評価の方法が「思考・判断・表現」の評価に影響を及ぼす度合い  
(高等学校、国語等の教科を指導している生徒の人数別)



※各項目について、それぞれ「影響している」を+2、「やや影響している」を+1、「あまり影響していない」を-1、「影響していない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「120人以下」と「121人以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

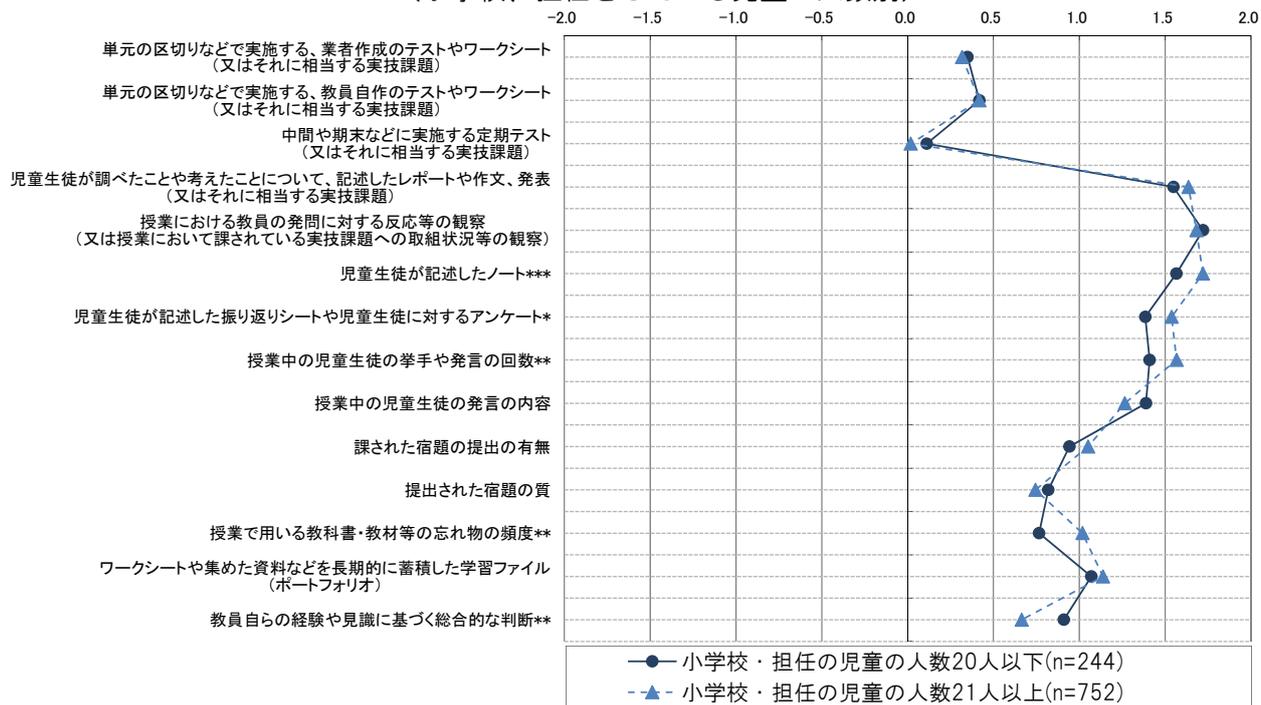
第5章

③「関心・意欲・態度」の評価に影響を及ぼす方法

「関心・意欲・態度」の評価に対しどのような方法が影響を及ぼすかということに関する回答結果を、教師が担当している児童生徒の人数別に比較した。

小学校・中学校・高等学校ともに、担当している児童生徒の人数別に分類しても概ねの回答傾向は同様であるが、高等学校では、「授業中の児童生徒の挙手や発言の回数」について、指導している人数が相対的に少ない場合のほうが評価に影響を及ぼすとされた評点が高くなっている。

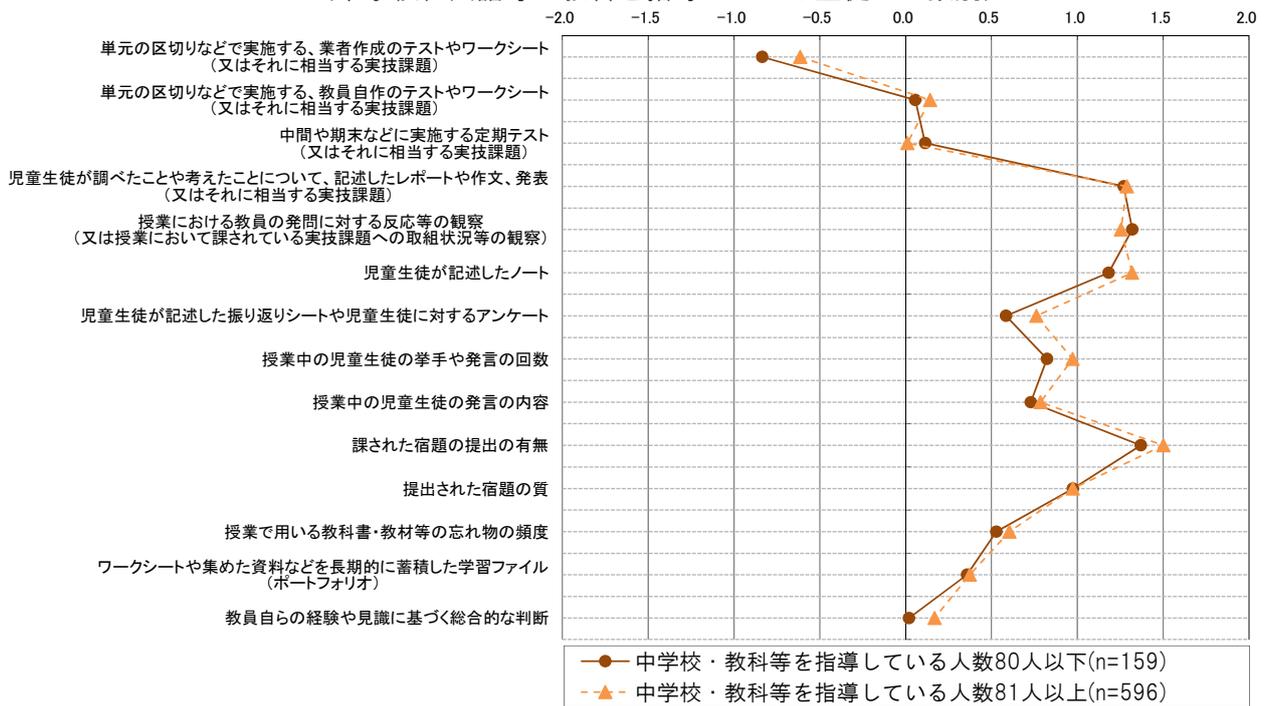
図表 5-1-7 評価の方法が「関心・意欲・態度」の評価に影響を及ぼす度合い  
(小学校、担任をしている児童の人数別)



※各項目について、それぞれ「影響している」を+2、「やや影響している」を+1、「あまり影響していない」を-1、「影響していない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

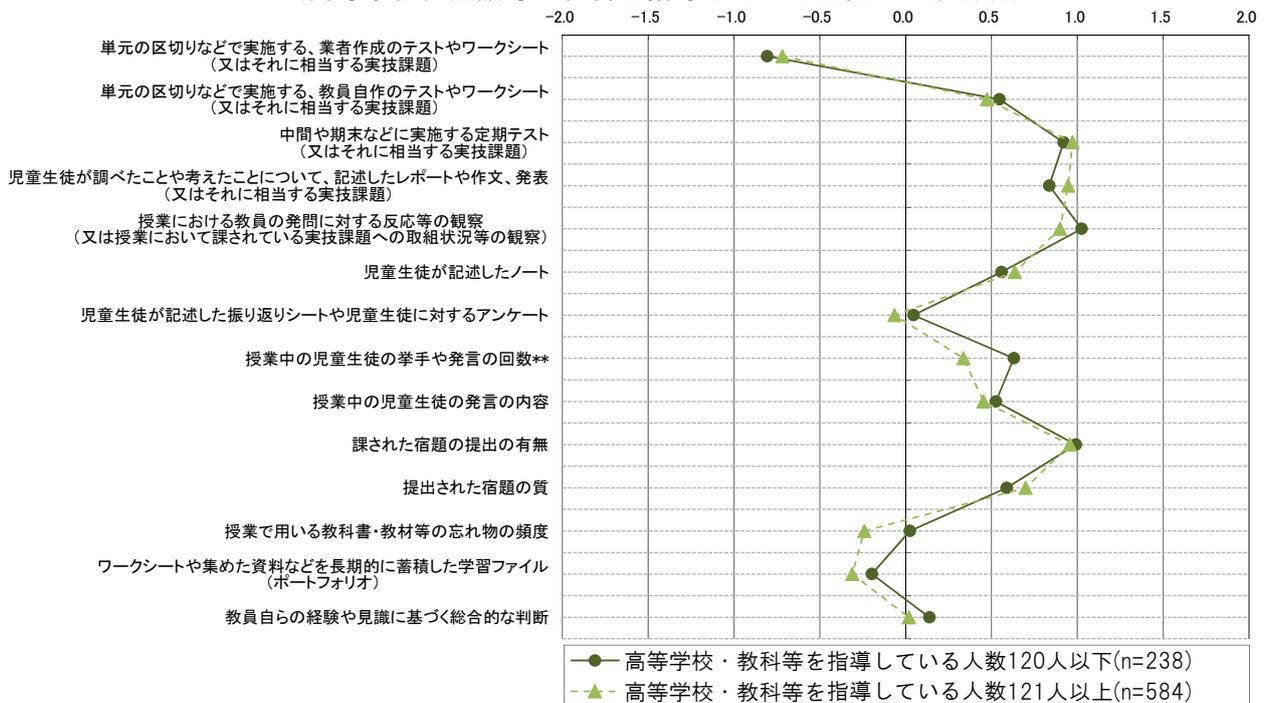
※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「20人以下」と「21人以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

図表 5-1-8 評価の方法が「関心・意欲・態度」の評価に影響を及ぼす度合い  
(中学校、国語等の教科を指導している生徒の人数別)



※各項目について、それぞれ「影響している」を+2、「やや影響している」を+1、「あまり影響していない」を-1、「影響していない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「80人以下」と「81人以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

図表 5-1-9 評価の方法が「関心・意欲・態度」の評価に影響を及ぼす度合い  
(高等学校、国語等の教科を指導している生徒の人数別)



※各項目について、それぞれ「影響している」を+2、「やや影響している」を+1、「あまり影響していない」を-1、「影響していない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「120人以下」と「120人以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

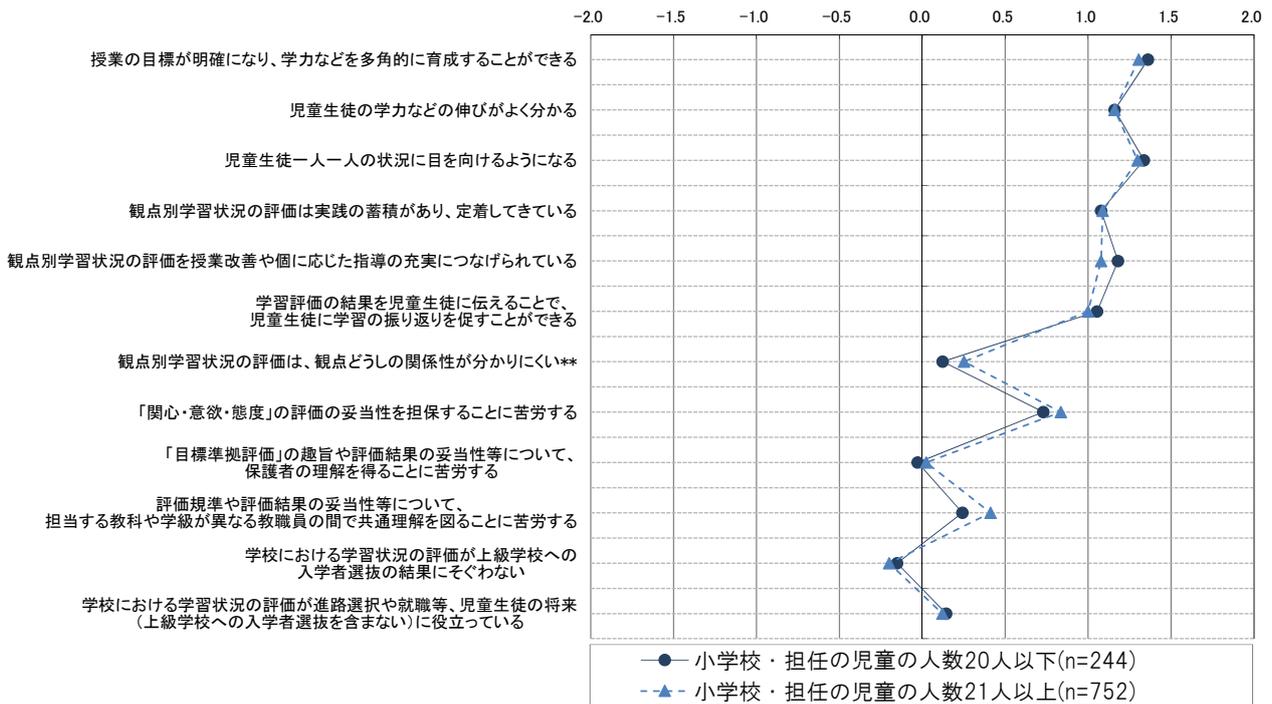
第5章

(2) 目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価に対する考え・意識

目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価などをどのように感じているかということに関する回答結果を、教師が担当している児童生徒の人数別に比較した。

小学校・中学校・高等学校ともに、担当している児童生徒の人数別に分類しても概ねの回答傾向は同様の結果となっている。

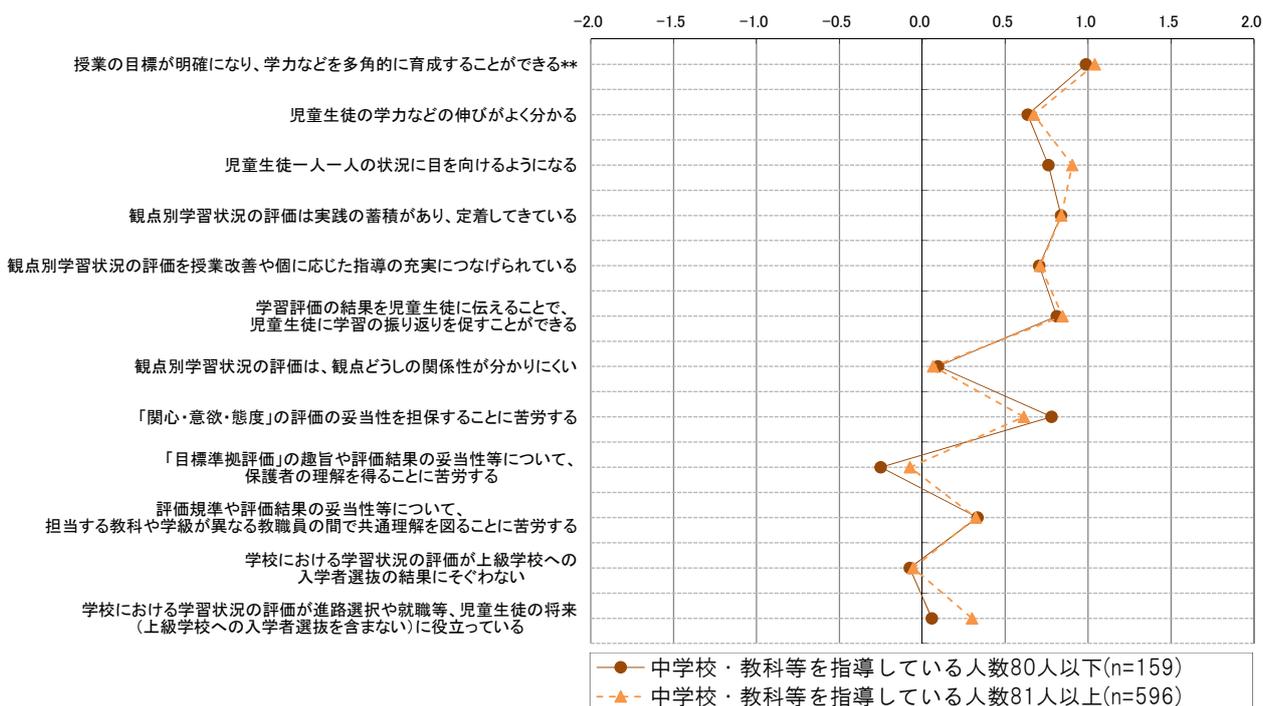
図表 5-2-1 目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価に対する考え・意識  
(小学校、担任をしている児童の人数別)



※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

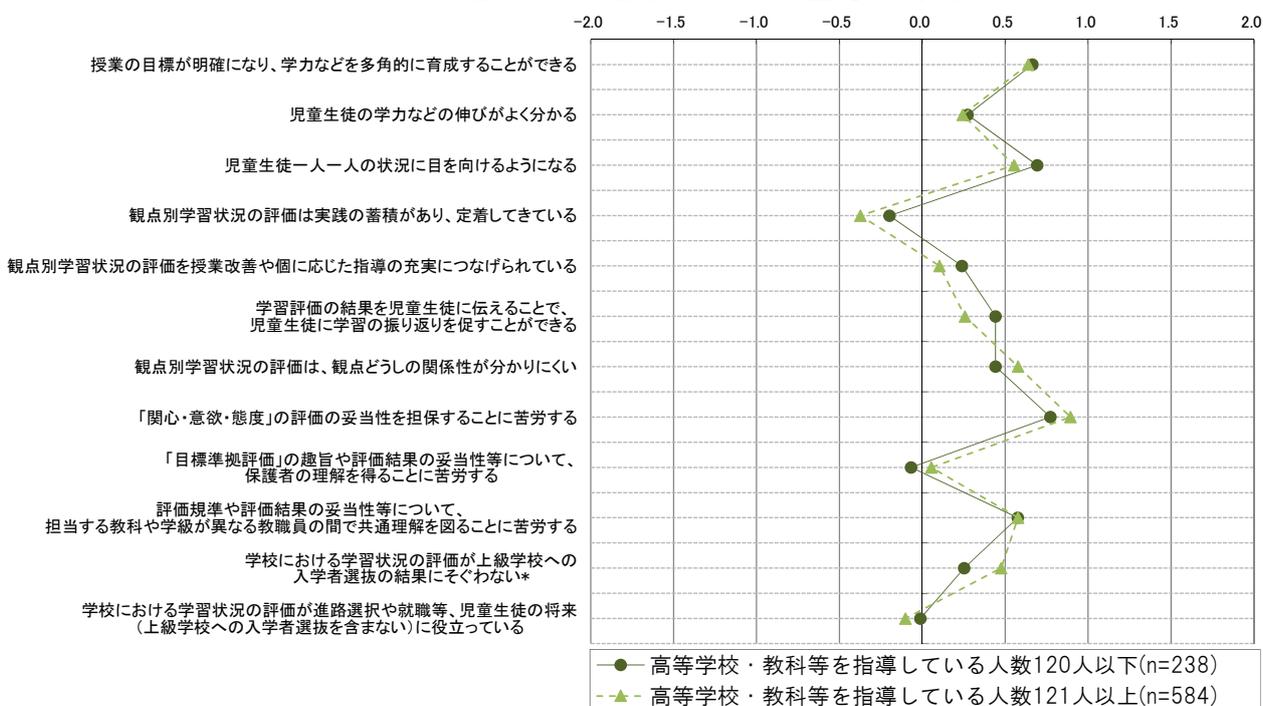
※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「20人以下」と「21人以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

図表 5-2-2 目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価に対する考え・意識  
(中学校、国語等の教科を指導している生徒の人数別)



※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「80人以下」と「81人以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

図表 5-2-3 目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価に対する考え・意識  
(高等学校、国語等の教科を指導している生徒の人数別)



※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「120人以下」と「120人以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

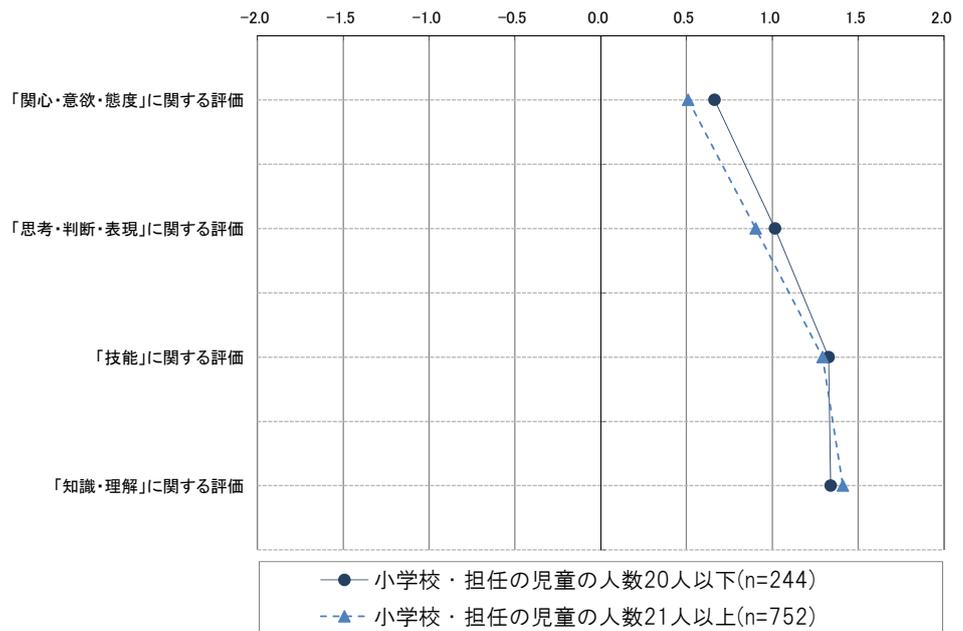
第5章

(3) 観点別学習状況の評価の実施状況

観点別学習状況の評価の資料の収集・分析、評価の決定を円滑に実施できているかということに関する回答結果を、教師が担当している児童生徒の人数別に比較した。

小学校・中学校・高等学校ともに、担当している児童生徒の人数別に分類しても概ねの回答傾向は同様の結果となっている。

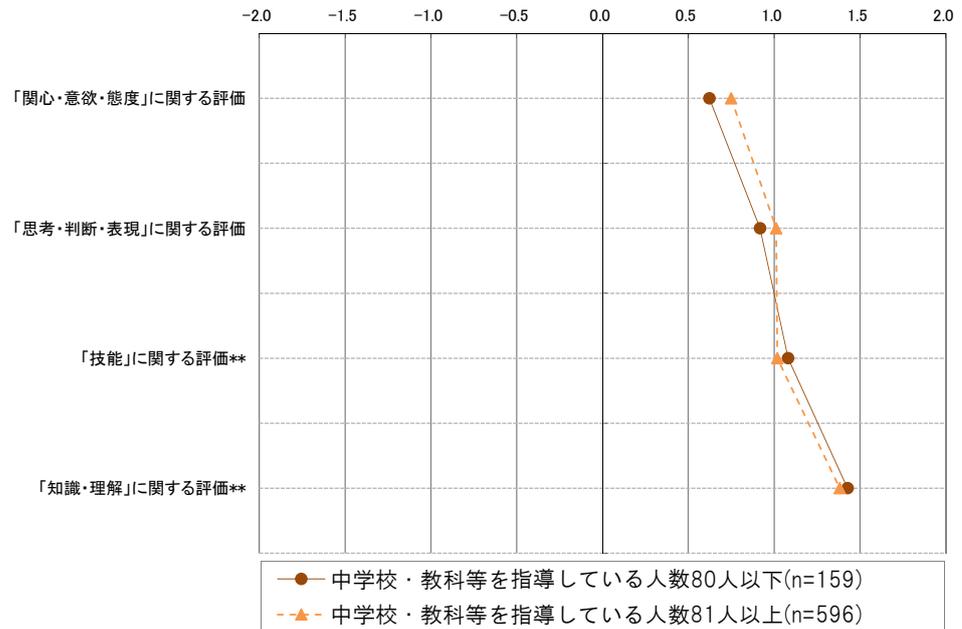
図表 5-3-1 観点別学習状況の評価の実施状況  
(小学校、担任をしている児童の人数別)



※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「20人以下」と「21人以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

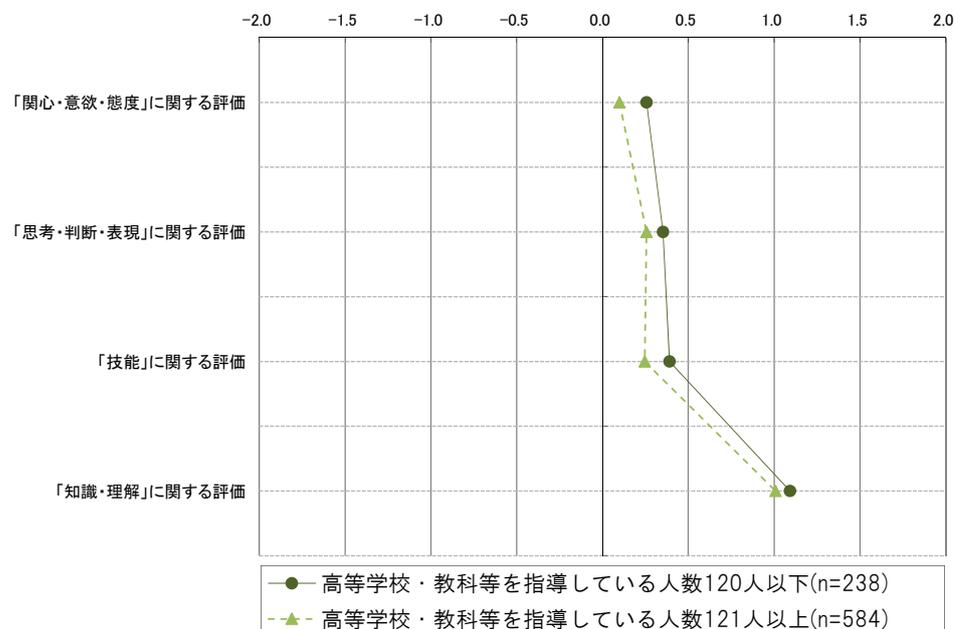
図表 5-3-2 観点別学習状況の評価の実施状況  
(中学校、国語等の教科を指導している生徒の人数別)



※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「80人以下」と「81人以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

図表 5-3-3 観点別学習状況の評価の実施状況  
(高等学校、国語等の教科を指導している生徒の人数別)



※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「120人以下」と「120人以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

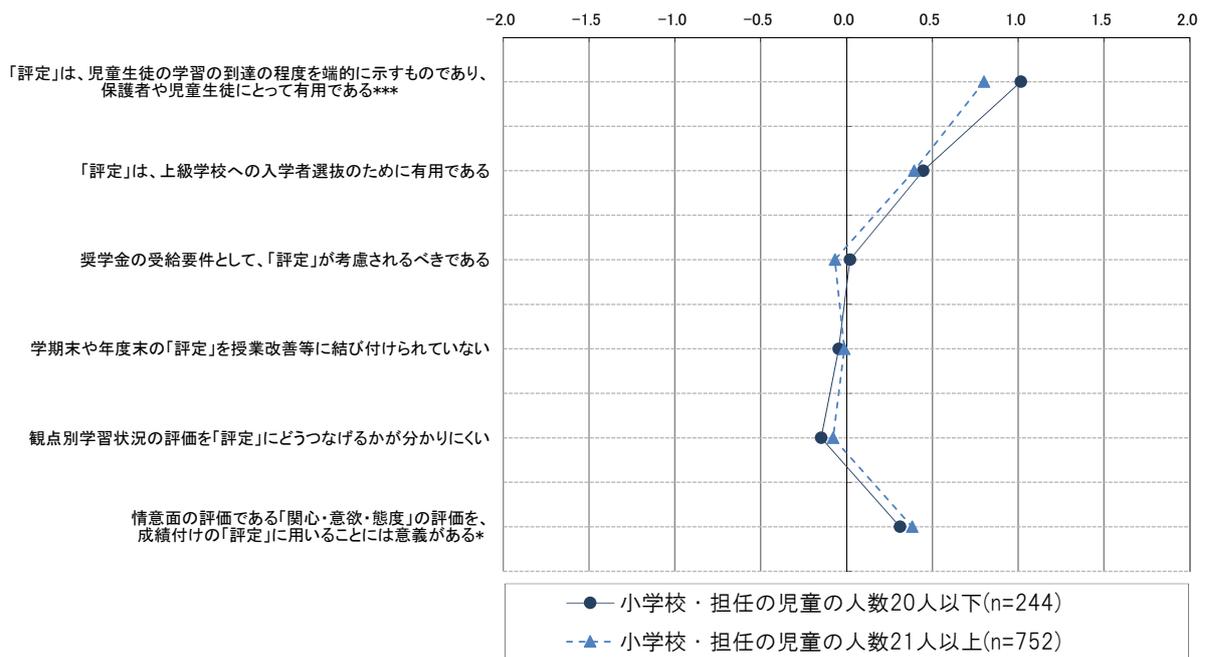
第5章

(4) 観点別評価を踏まえた「評定」についての考え

観点別評価を踏まえて決定する「評定」をどのように感じているかということに関する回答結果を、教師が担当している児童生徒の人数別に比較した。

小学校・中学校・高等学校ともに、担当している児童生徒の人数別に分類しても概ねの回答傾向は同様であるが、高等学校では、「観点別学習状況の評価を『評定』にどうつなげるかが分かりにくい」との課題認識が、指導している人数が相対的に多い場合のほうが高くなっている。

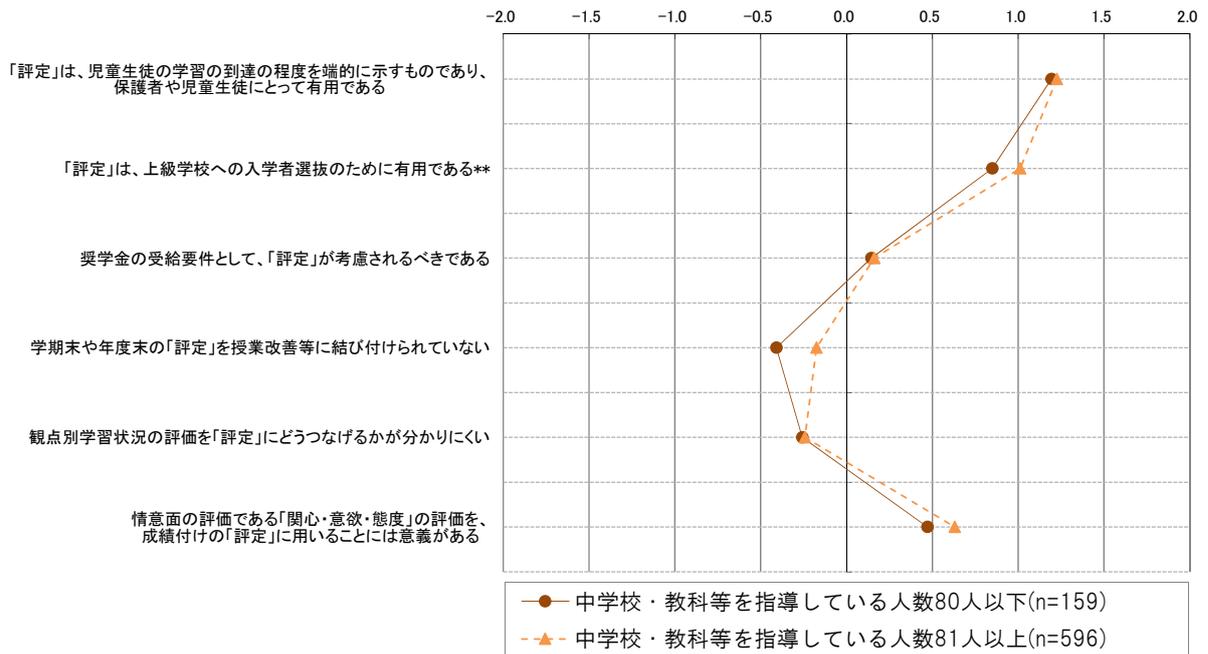
図表 5-4-1 観点別評価を踏まえた「評定」についての考え  
(小学校、担任をしている児童の人数別)



※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

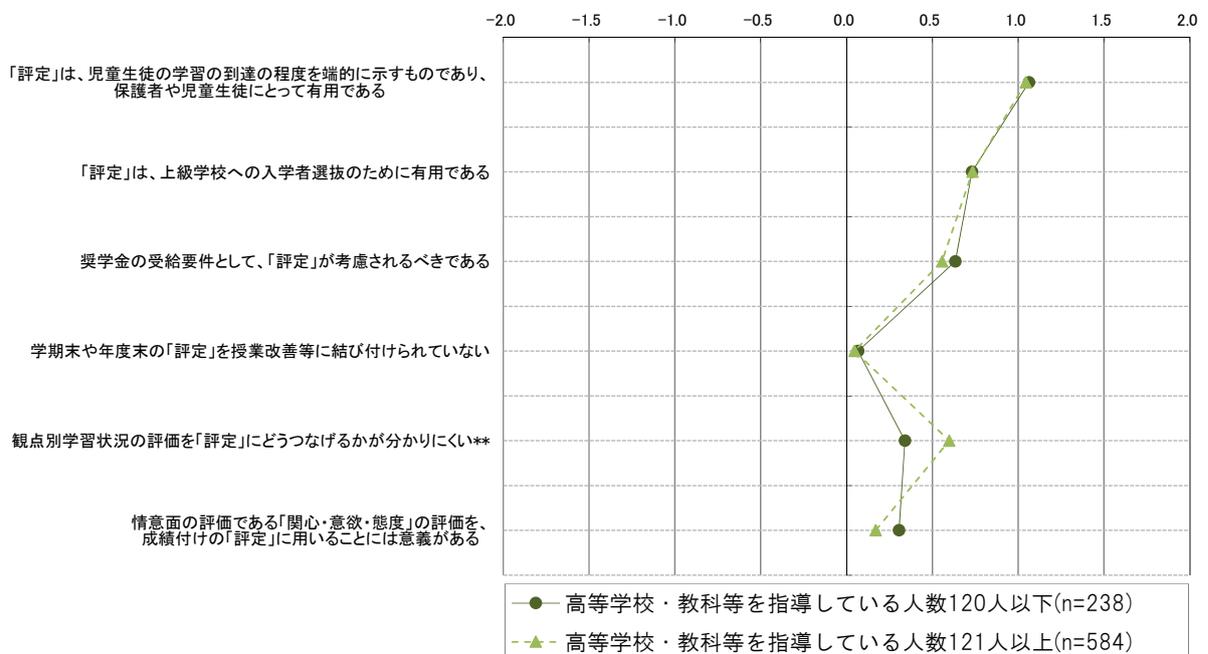
※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「20人以下」と「21人以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

図表 5-4-2 観点別評価を踏まえた「評定」についての考え  
(中学校、国語等の教科を指導している生徒の人数別)



※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「80人以下」と「81人以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

図表 5-4-3 観点別評価を踏まえた「評定」についての考え  
(高等学校、国語等の教科を指導している生徒の人数別)



※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※参考値として、各項目について $\chi^2$ 検定を行い、「120人以下」と「120人以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

(5) 学習評価を行うに当たっての負担感

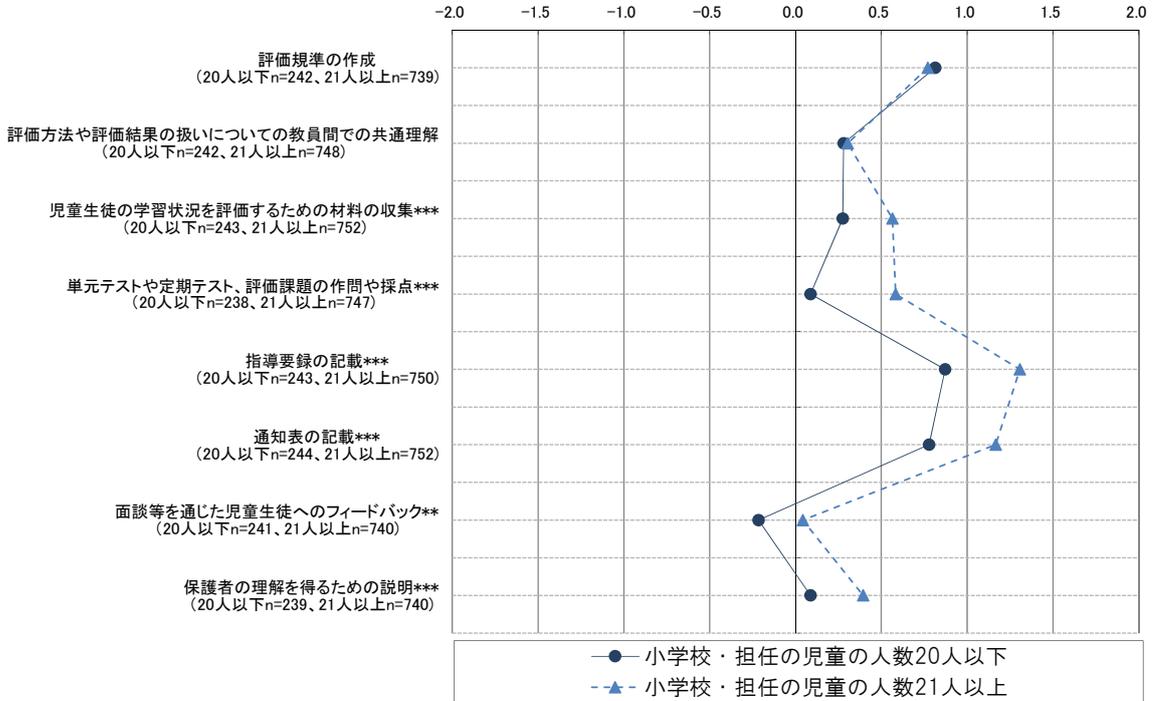
①担当している児童生徒の人数別の集計

学習評価を行うに当たってどの程度負担を感じているかということに関する回答結果を、教師が担当している児童生徒の人数別に比較した。

小学校・中学校・高等学校ともに、「児童生徒の学習状況を評価するための材料の収集」や「単元テストや定期テスト、評価課題の作問や採点」について、担当している児童生徒の人数が相対的に多い場合のほうが負担を感じるとの評点が高くなっている。

また、小学校では、「指導要録の記載」、「通知表の記載」、「面談等を通じた児童生徒へのフィードバック」、「保護者の理解を得るための説明」の各項目についても、担任をしている児童の人数が相対的に多い場合のほうが負担を感じるとの評点が高くなっている。

図表 5-5-1 学習評価を行うに当たって負担を感じる点  
(小学校、担任をしている児童の人数別)

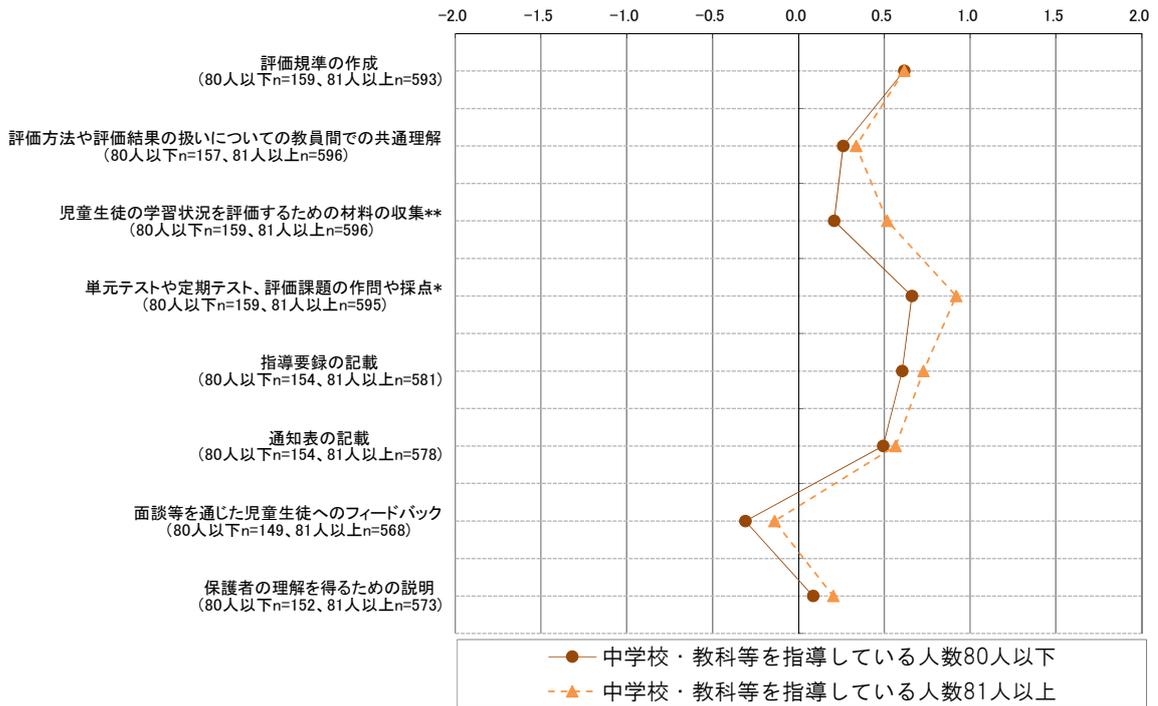


※各項目について、それぞれ「行っていない」の回答を集計対象から除いた上で、「負担を感じる」を+2、「やや負担を感じる」を+1、「あまり負担に感じない」を-1、「負担に感じない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

※調査項目により「行っていない」との回答件数が異なるため、集計度数も項目によって異なっている。

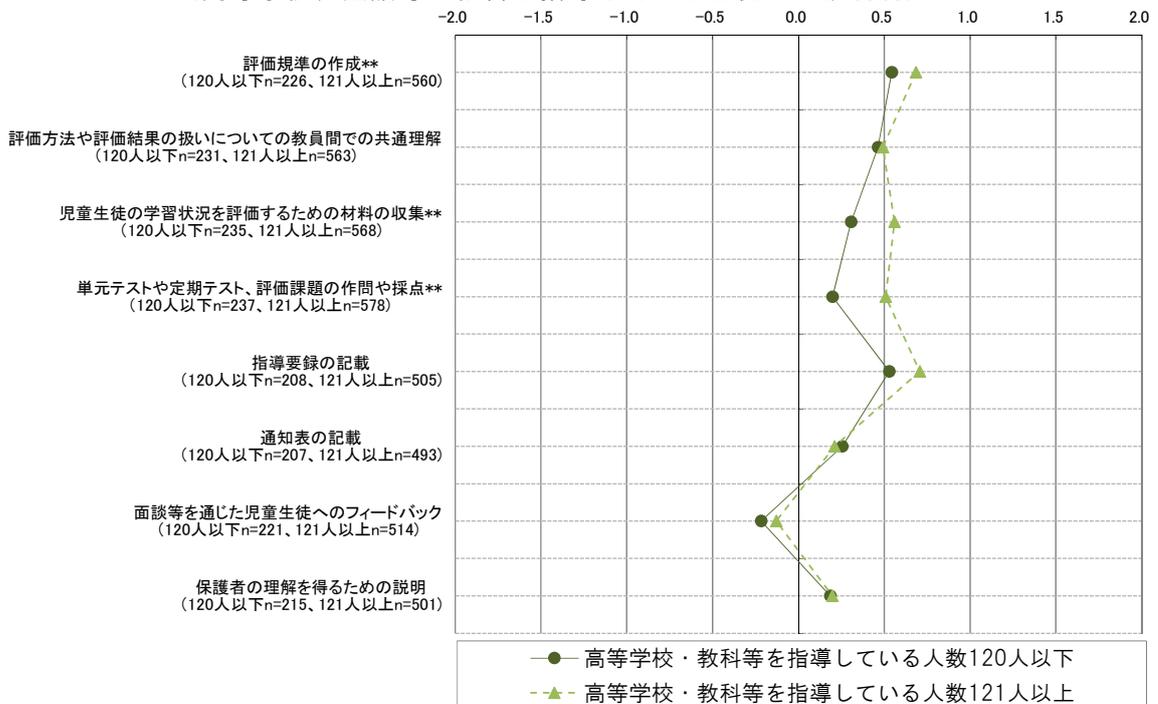
※参考値として、各項目について、それぞれ「行っていない」の回答を集計対象から除いた上で $\chi^2$ 検定を行い、「20人以下」と「21人以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

図表 5-5-2 学習評価を行うに当たって負担を感じる点  
(中学校、国語等の教科を指導している生徒の人数別)



※各項目について、それぞれ「行っていない」の回答を集計対象から除いた上で、「負担を感じる」を+2、「やや負担を感じる」を+1、「あまり負担に感じない」を-1、「負担に感じない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※調査項目により「行っていない」との回答件数が異なるため、集計度数も項目によって異なっている。  
 ※参考値として、各項目について、それぞれ「行っていない」の回答を集計対象から除いた上で $\chi^2$ 検定を行い、「80人以下」と「81人以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

図表 5-5-3 学習評価を行うに当たって負担を感じる点  
(高等学校、国語等の教科を指導している生徒の人数別)



※各項目について、それぞれ「行っていない」の回答を集計対象から除いた上で、「負担を感じる」を+2、「やや負担を感じる」を+1、「あまり負担に感じない」を-1、「負担に感じない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※調査項目により「行っていない」との回答件数が異なるため、集計度数も項目によって異なっている。  
 ※参考値として、各項目について、それぞれ「行っていない」の回答を集計対象から除いた上で $\chi^2$ 検定を行い、「120人以下」と「121人以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

②総合的な学習の時間等の担当の有無をふまえた集計（中学校）

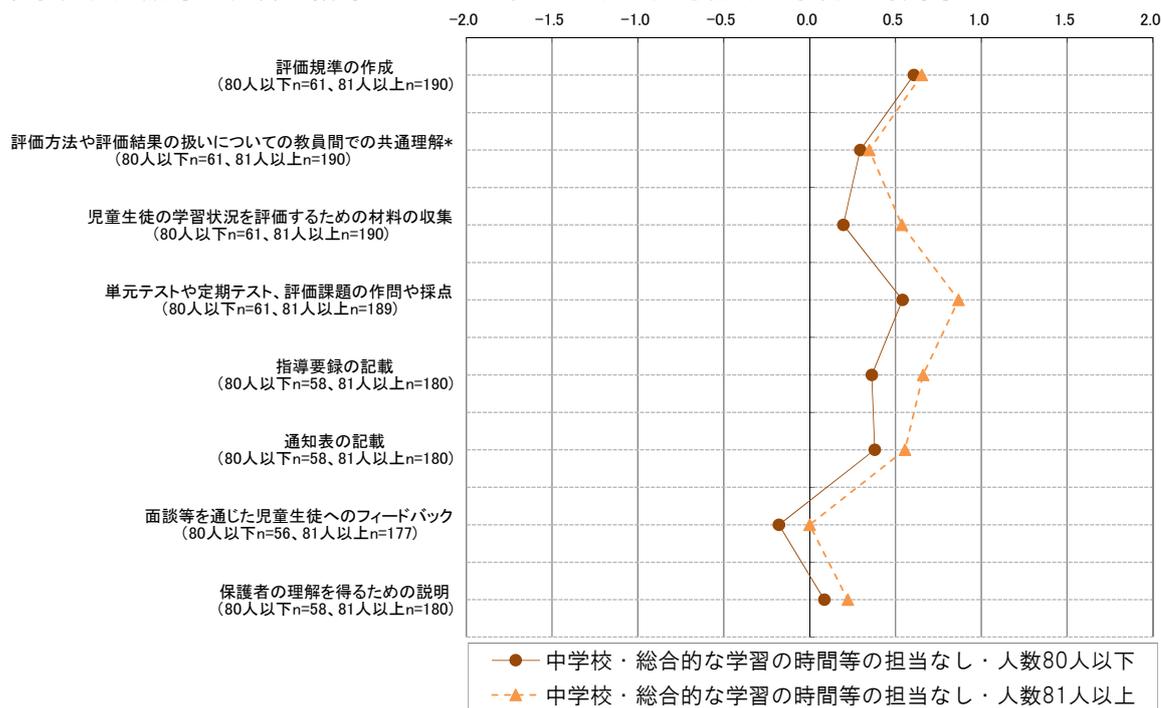
中学校について、学習評価を行うに当たってどの程度負担を感じているかということに関する回答結果を、総合的な学習の時間等の担当の有無別<sup>9</sup>に分類した上で、担当している生徒の人数別に比較した。

総合的な学習の時間等を担当していない教師で比較した場合、統計的に有意な結果とはなっていないが、評点の水準について差が見られ、担当している人数が多い場合のほうが負担が大きいのではないかと考えられる<sup>10</sup>。

また、総合的な学習の時間等を担当している教師で比較した場合には、「児童生徒の学習状況を評価するための材料の収集」について、担当をしている生徒の人数が相対的に多い場合のほうが負担であるとの評点が高くなっている。

なお、これらの回答の違いをまとめてみると、「児童生徒の学習状況を評価するための材料の収集」や「単元テストや定期テスト、評価課題の作問や採点」などの項目については、総合的な学習の時間等の担当の有無にかかわらず、担当をしている生徒の人数が相対的に多い場合に負担であるとの評点が高い傾向にあることが確認できる。

図表 5-5-4 学習評価を行うに当たって負担を感じる点  
（中学校、国語等の教科を指導している生徒の人数別、総合的な学習の時間等の担当なし）

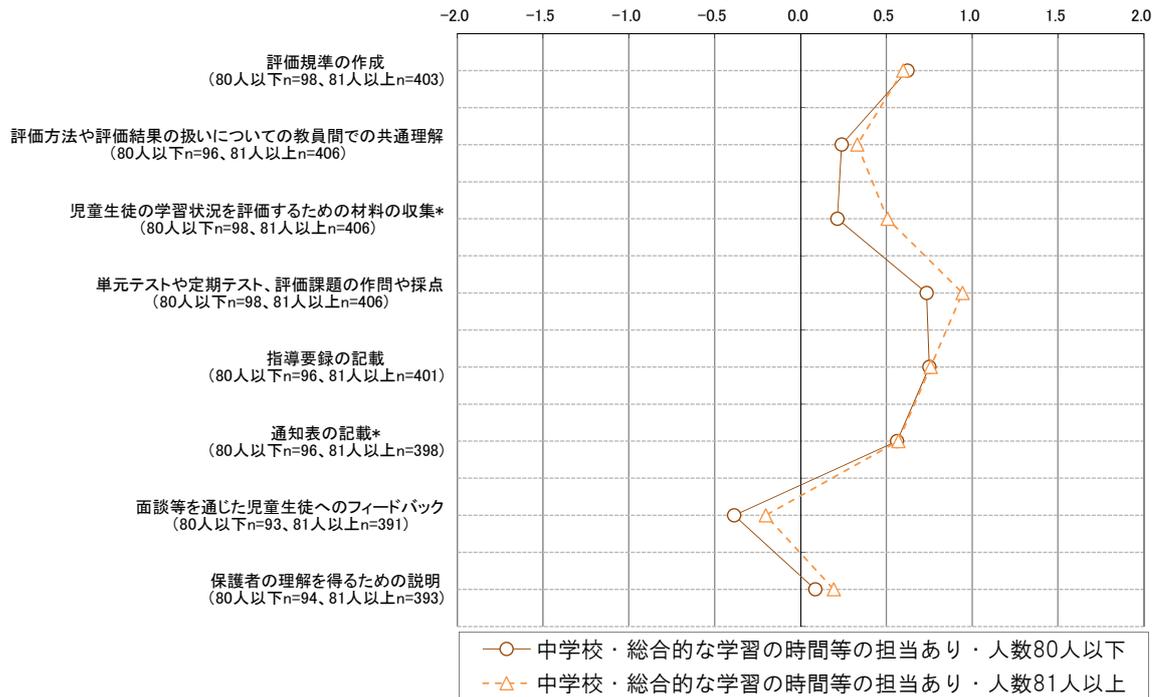


※各項目について、それぞれ「行っていない」の回答を集計対象から除いた上で、「負担を感じる」を+2、「やや負担を感じる」を+1、「あまり負担に感じない」を-1、「負担に感じない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※調査項目により「行っていない」との回答件数が異なるため、集計度数も項目によって異なっている。  
 ※参考値として、各項目について、それぞれ「行っていない」の回答を集計対象から除いた上で $\chi^2$ 検定を行い、「80人以下」と「81人以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」は $p$ 値<0.01、「\*\*」は $p$ 値<0.05、「\*」は $p$ 値<0.1、無印は $p$ 値 $\geq$ 0.1としている。

<sup>9</sup> 「国語等の教科」を担当していることに加え、「道徳」、「総合的な学習の時間」、「特別活動」のいずれかを担当している教師と、担当していない教師とに分類した。なお、前者を「総合的な学習の時間等の担当あり」、後者を「総合的な学習の時間等の担当なし」と表記した。

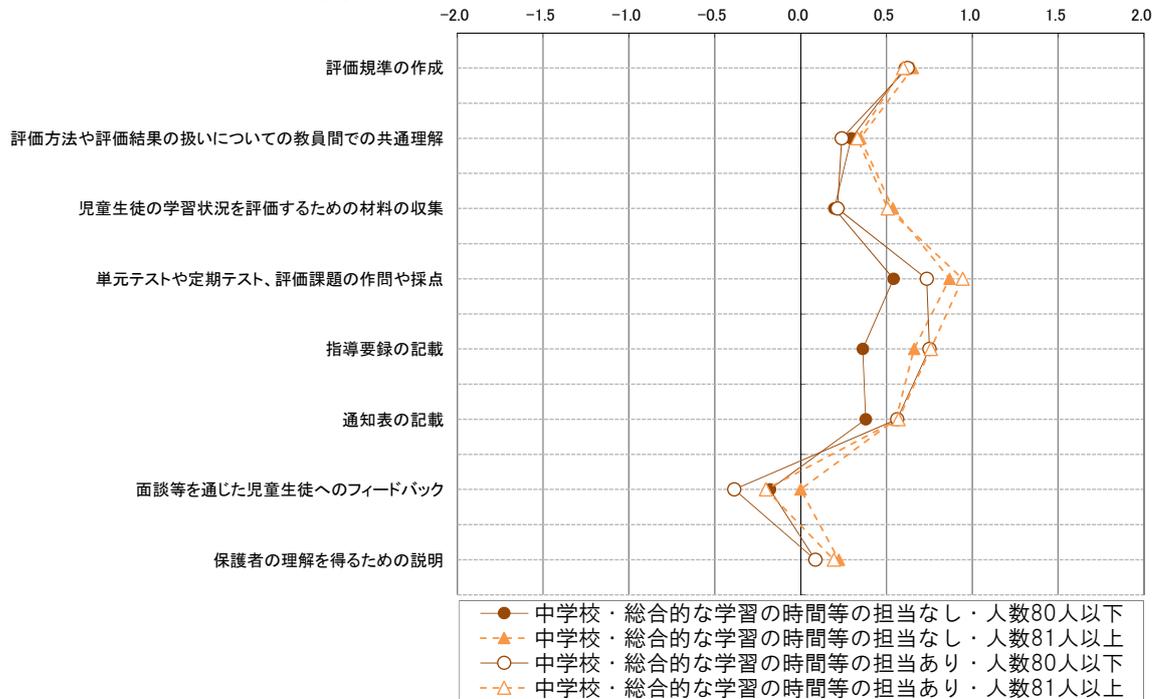
<sup>10</sup> 評点の水準に差があるように見えても統計的に有意な結果とならないのは、集計対象度数が少ないことが影響していると考えられる。（図表 5-5-5、図表 5-5-7、図表 5-5-8 の結果についても同様）

図表 5-5-5 学習評価を行うに当たって負担を感じる点  
(中学校、国語等の教科を指導している生徒の人数別、総合的な学習の時間等の担当あり)



※各項目について、それぞれ「行っていない」の回答を集計対象から除いた上で、「負担を感じる」を+2、「やや負担を感じる」を+1、「あまり負担に感じない」を-1、「負担に感じない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※調査項目により「行っていない」との回答件数が異なるため、集計度数も項目によって異なっている。  
 ※参考値として、各項目について、それぞれ「行っていない」の回答を集計対象から除いた上で $\chi^2$ 検定を行い、「80人以下」と「81人以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

図表 5-5-6 学習評価を行うに当たって負担を感じる点  
(中学校、総合的な学習の時間等の担当の有無別、国語等の教科を指導している生徒の人数別)



※各項目について、それぞれ「行っていない」の回答を集計対象から除いた上で、「負担を感じる」を+2、「やや負担に感じる」を+1、「あまり負担に感じない」を-1、「負担に感じない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※各分類の集計度数は図表 5-5-4 及び図表 5-5-5 を参照のこと。

③総合的な学習の時間等の担当の有無をふまえた集計（高等学校）

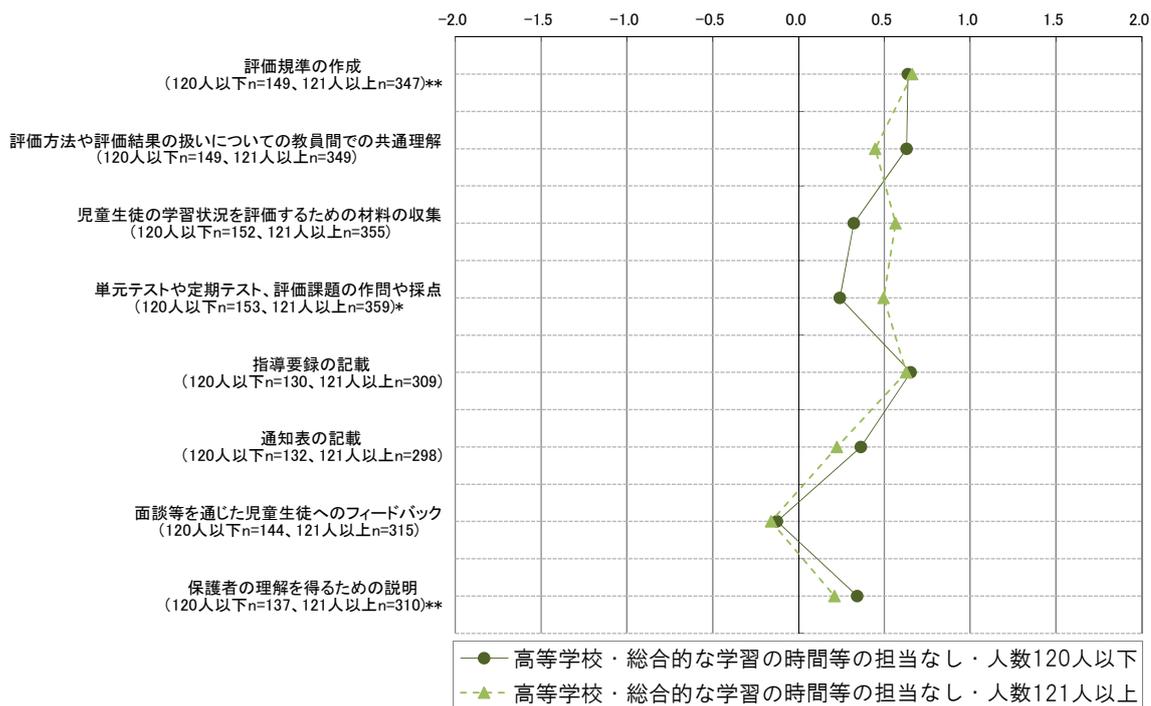
高等学校について、学習評価を行うに当たってどの程度負担を感じているかということに関する回答結果を、総合的な学習の時間等の担当の有無別<sup>11</sup>に分類した上で、担当している生徒の人数別に比較した。

総合的な学習の時間等を担当していない教師で比較した場合、「単元テストや定期テスト、評価課題の作問や採点」について、担当をしている生徒の人数が相対的に多い場合のほうが負担であるとの評点が高くなっている。

また、総合的な学習の時間等を担当している教師で比較した場合には、「指導要録の記載」などの項目で、担当をしている生徒の人数が相対的に多い場合のほうが負担であるとの評点が高くなっている。

なお、これらの回答の違いをまとめてみると、中学校と同様、高等学校においても、「児童生徒の学習状況を評価するための材料の収集」や「単元テストや定期テスト、評価課題の作問や採点」については、総合的な学習の時間等の担当の有無にかかわらず、担当をしている生徒の人数が相対的に多い場合に負担であるとの評点が高い傾向にあることが確認できる。

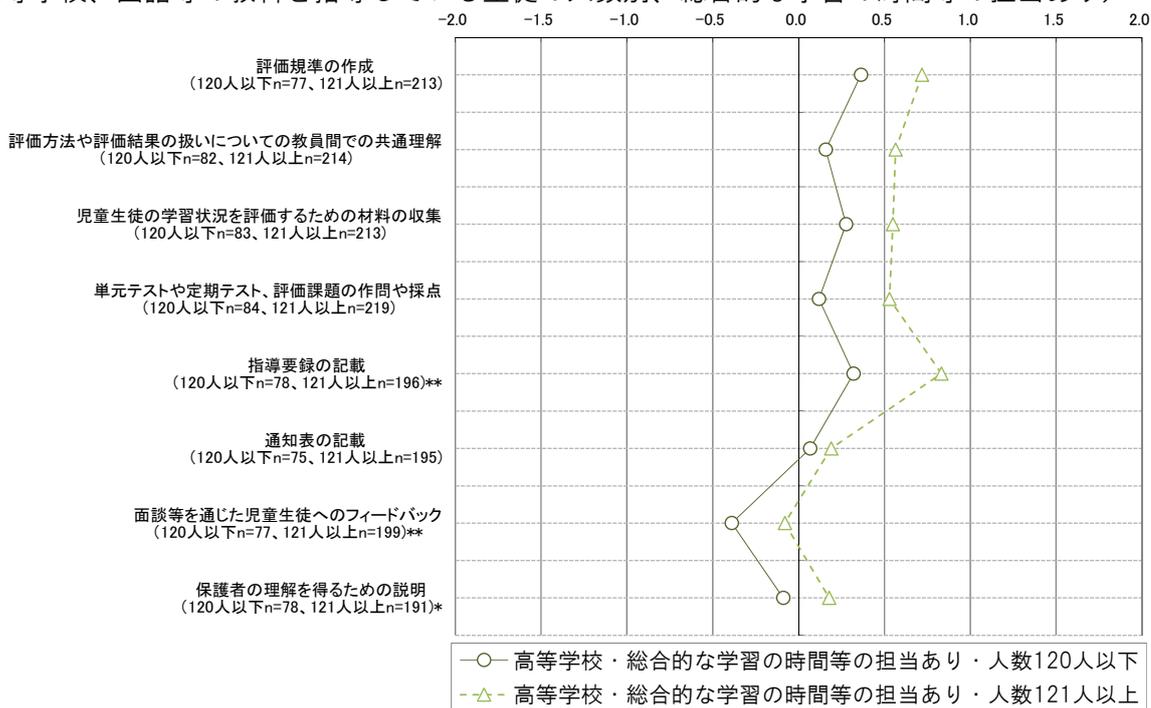
図表 5-5-7 学習評価を行うに当たって負担を感じる点  
(高等学校、国語等の教科を指導している生徒の人数別、総合的な学習の時間等の担当なし)



※各項目について、それぞれ「行っていない」の回答を集計対象から除いた上で、「負担を感じる」を+2、「やや負担を感じる」を+1、「あまり負担に感じない」を-1、「負担に感じない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※調査項目により「行っていない」との回答件数が異なるため、集計度数も項目によって異なっている。  
 ※参考値として、各項目について、それぞれ「行っていない」の回答を集計対象から除いた上で $\chi^2$ 検定を行い、「120人以下」と「121人以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

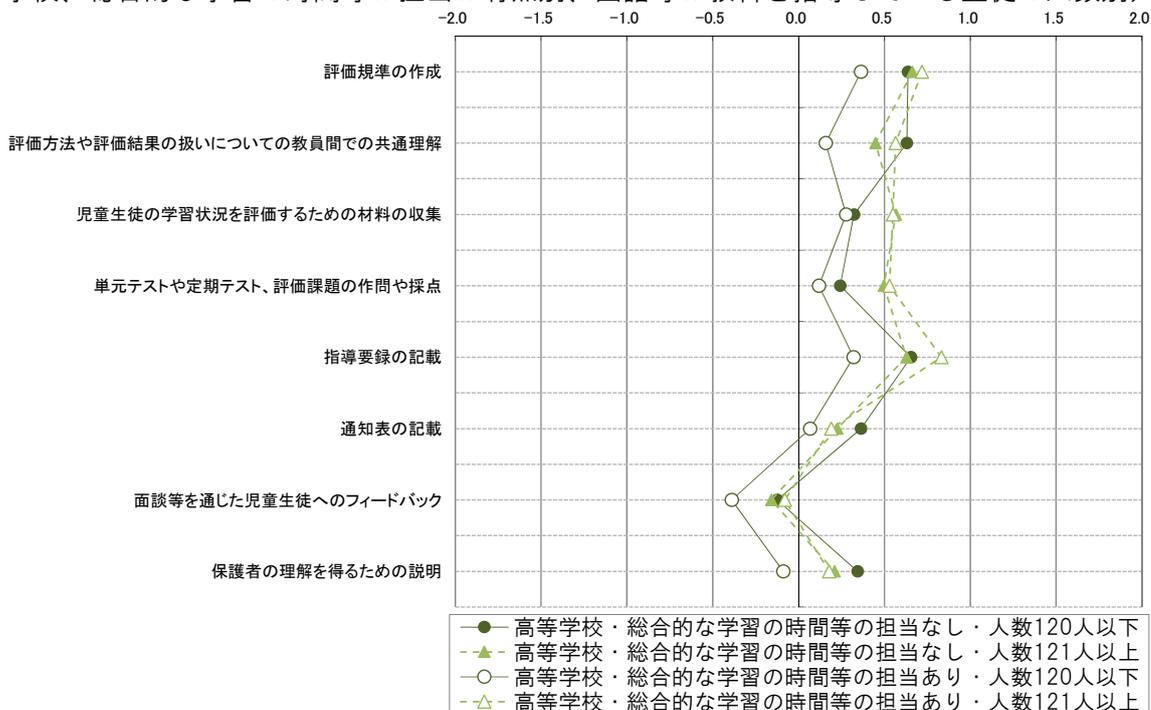
<sup>11</sup> 「国語等の教科」を担当していることに加え、「総合的な学習の時間」、「特別活動」のいずれかを担当している教師と、担当していない教師とに分類した。なお、前者を「総合的な学習の時間等の担当あり」、後者を「総合的な学習の時間等の担当なし」と表記した。

図表 5-5-8 学習評価を行うに当たって負担を感じる点  
(高等学校、国語等の教科を指導している生徒の人数別、総合的な学習の時間等の担当あり)



※各項目について、それぞれ「行っていない」の回答を集計対象から除いた上で、「負担を感じる」を+2、「やや負担を感じる」を+1、「あまり負担に感じない」を-1、「負担に感じない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※調査項目により「行っていない」との回答件数が異なるため、集計度数も項目によって異なっている。  
 ※参考値として、各項目について、それぞれ「行っていない」の回答を集計対象から除いた上で $\chi^2$ 検定を行い、「120人以下」と「121人以上」との間で統計的に有意な差がみられたかどうかを「\*」の数で示した。「\*\*\*」はp値<0.01、「\*\*」はp値<0.05、「\*」はp値<0.1、無印はp値 $\geq$ 0.1としている。

図表 5-5-9 学習評価を行うに当たって負担を感じる点  
(高等学校、総合的な学習の時間等の担当の有無別、国語等の教科を指導している生徒の人数別)



※各項目について、それぞれ「行っていない」の回答を集計対象から除いた上で、「負担を感じる」を+2、「やや負担を感じる」を+1、「あまり負担に感じない」を-1、「負担に感じない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。  
 ※各分類の集計度数は図表 5-5-7 及び図表 5-5-8 を参照のこと。



## 參考資料

## 1. 調査票

### 「学習評価に関する意識調査」(アンケート)<sup>12</sup>

#### アンケート御記入に当たってのお願い

- それぞれの質問について、選択肢からあてはまるものを選んでください。
- 無記名アンケートです。このアンケートの結果に基づき、学校評価や教員評価を行うことはありません。
- このアンケートは、小学校、中学校及び高等学校に勤務されている先生を対象としています。学校段階や職務内容によって答えにくい部分があるかも知れませんが、あまり考え込まず、実態や考えに最も近いものを選択してください。

1 あなたご自身の年齢について、あてはまるものを選択してください。

1. 29歳以下    2. 30～39歳    3. 40～49歳    4. 50歳以上

2 勤務先の学校の設置形態は次のうちどれですか。

1. 国立    2. 公立    3. 私立

3-1 あなたは学級担任をしていますか。

1. している(正担任)    2. している(副担任)    3. していない

(「3-1」で「している」と回答した場合のみ)

3-2 あなたが学級担任をしている学年は何年生ですか。

(回答する質問票として「小学校」を選択した場合の選択肢)

1. 1年生    2. 2年生    3. 3年生    4. 4年生    5. 5年生    6. 6年生  
7. 複式学級(具体的に担任している学年: )

(回答する質問票として「中学校」を選択した場合の選択肢)

1. 1年生    2. 2年生    3. 3年生

(回答する質問票として「高等学校」を選択した場合の選択肢)

1. 1年生    2. 2年生    3. 3年生    4. 4年生

<sup>12</sup> レイアウトやフォント等、実際にオンライン上に設置した回答ページとは異なる。また、本参考資料中に下線波線で示した部分は、実際の回答ページには表示していない(回答ページ作成にあたり、下線波線で記載した条件により、回答ページの表示を変更するように設定した)。

(「3-1」で「している」と回答した場合のみ)

**3-3** あなたが担任をしている学級の児童生徒は何人ですか。

1. 10人以下    2. 11人～20人    3. 21人～30人    4. 31人～40人    5. 41人以上

**4-1** あなたが指導している教科等は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

(回答する質問票として「小学校」を選択した場合の選択肢)

- |          |           |               |
|----------|-----------|---------------|
| 1. 国語    | 2. 社会     | 3. 算数         |
| 4. 理科    | 5. 生活     | 6. 音楽         |
| 7. 図画工作  | 8. 家庭     | 9. 体育         |
| 10. 道徳   | 11. 外国語活動 | 12. 総合的な学習の時間 |
| 13. 特別活動 | 14. その他   |               |

(回答する質問票として「中学校」を選択した場合の選択肢)

- |          |                |                |
|----------|----------------|----------------|
| 1. 国語    | 2. 社会          | 3. 数学          |
| 4. 理科    | 5. 音楽          | 6. 美術          |
| 7. 保健体育  | 8. 技術・家庭（技術分野） | 9. 技術・家庭（家庭分野） |
| 10. 外国語  | 11. 道徳         | 12. 総合的な学習の時間  |
| 13. 特別活動 | 14. その他（選択教科等） |                |

(回答する質問票として「高等学校」を選択した場合の選択肢)

- |          |                       |               |
|----------|-----------------------|---------------|
| 1. 国語    | 2. 地理歴史               | 3. 公民         |
| 4. 数学    | 5. 理科                 | 6. 保健体育       |
| 7. 芸術    | 8. 外国語                | 9. 家庭         |
| 10. 情報   | 11. 専門教育に関する各教科       | 12. 総合的な学習の時間 |
| 13. 特別活動 | 14. その他（学校設定科目・選択教科等） |               |

(回答する質問票として「中学校」または「高等学校」を選択した場合のみ)

**4-2** あなたが教科等を指導している生徒は何人ですか（複数の学校・学年、複数の教科・科目等を担当している場合はその合計の人数とする）。

- |              |              |              |
|--------------|--------------|--------------|
| 1. 80人以下     | 2. 81人～120人  | 3. 121人～160人 |
| 4. 161人～200人 | 5. 201人～240人 | 6. 241人～280人 |
| 7. 281人～320人 | 8. 321人～360人 | 9. 361人以上    |

参考資料

5 児童生徒の「知識・理解」及び「技能」をどのような方法で評価していますか。それぞれの方法が観点別評価に影響を及ぼす度合いにつき、あてはまるものを選んでください。

項目	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない
単元の区切りなどで実施する，業者作成のテストやワークシート（又はそれに相当する実技課題）	1	2	3	4
単元の区切りなどで実施する，教員自作のテストやワークシート（又はそれに相当する実技課題）	1	2	3	4
中間や期末などに実施する定期テスト（又はそれに相当する実技課題）	1	2	3	4
児童生徒が調べたことや考えたことについて，記述したレポートや作文，発表（又はそれに相当する実技課題）	1	2	3	4
授業における教員の発問に対する反応等の観察（又は授業において課されている実技課題への取組状況等の観察）	1	2	3	4
児童生徒が記述したノート	1	2	3	4
児童生徒が記述した振り返りシートや児童生徒に対するアンケート	1	2	3	4
授業中の児童生徒の挙手や発言の回数	1	2	3	4
授業中の児童生徒の発言の内容	1	2	3	4
課された宿題の提出の有無	1	2	3	4
提出された宿題の質	1	2	3	4
授業で用いる教科書・教材等の忘れ物の頻度	1	2	3	4
ワークシートや集めた資料などを長期的に蓄積した学習ファイル（ポートフォリオ）	1	2	3	4
教員自らの経験や見識に基づく総合的な判断	1	2	3	4
その他の方法（具体的に）	1	2	3	4

6 児童生徒の「思考・判断・表現」をどのような方法で評価していますか。それぞれの方法が観点別評価に影響を及ぼす度合いにつき、あてはまるものを選んでください。

項目	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない
単元の区切りなどで実施する，業者作成のテストやワークシート（又はそれに相当する実技課題）	1	2	3	4
単元の区切りなどで実施する，教員自作のテストやワークシート（又はそれに相当する実技課題）	1	2	3	4
中間や期末などに実施する定期テスト（又はそれに相当する実技課題）	1	2	3	4
児童生徒が調べたことや考えたことについて，記述したレポートや作文，発表（又はそれに相当する実技課題）	1	2	3	4
授業における教員の発問に対する反応等の観察（又は授業において課されている実技課題への取組状況等の観察）	1	2	3	4
児童生徒が記述したノート	1	2	3	4
児童生徒が記述した振り返りシートや児童生徒に対するアンケート	1	2	3	4
授業中の児童生徒の挙手や発言の回数	1	2	3	4
授業中の児童生徒の発言の内容	1	2	3	4
課された宿題の提出の有無	1	2	3	4
提出された宿題の質	1	2	3	4
授業で用いる教科書・教材等の忘れ物の頻度	1	2	3	4
ワークシートや集めた資料などを長期的に蓄積した学習ファイル（ポートフォリオ）	1	2	3	4
教員自らの経験や見識に基づく総合的な判断	1	2	3	4
その他の方法（具体的に ）	1	2	3	4

参考資料

7 児童生徒の「関心・意欲・態度」をどのような方法で評価していますか。それぞれの方法が観点別評価に影響を及ぼす度合いにつき、あてはまるものを選んでください。

項目	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない
単元の区切りなどで実施する、業者作成のテストやワークシート（又はそれに相当する実技課題）	1	2	3	4
単元の区切りなどで実施する、教員自作のテストやワークシート（又はそれに相当する実技課題）	1	2	3	4
中間や期末などに実施する定期テスト（又はそれに相当する実技課題）	1	2	3	4
児童生徒が調べたことや考えたことについて、記述したレポートや作文、発表（又はそれに相当する実技課題）	1	2	3	4
授業における教員の発問に対する反応等の観察（又は授業において課されている実技課題への取組状況等の観察）	1	2	3	4
児童生徒が記述したノート	1	2	3	4
児童生徒が記述した振り返りシートや児童生徒に対するアンケート	1	2	3	4
授業中の児童生徒の挙手や発言の回数	1	2	3	4
授業中の児童生徒の発言の内容	1	2	3	4
課された宿題の提出の有無	1	2	3	4
提出された宿題の質	1	2	3	4
授業で用いる教科書・教材等の忘れ物の頻度	1	2	3	4
ワークシートや集めた資料などを長期的に蓄積した学習ファイル（ポートフォリオ）	1	2	3	4
教員自らの経験や見識に基づく総合的な判断	1	2	3	4
その他の方法（具体的に ）	1	2	3	4

- 8 目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価などについて、どのように感じていますか。それぞれについて、「そう思う」から「そう思わない」までの4つの回答の中からあてはまるものを1つ選んでください。

	そう思う	まあ そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
授業の目標が明確になり、学力などを多角的に育成することができる	1	2	3	4
児童生徒の学力などの伸びがよく分かる	1	2	3	4
児童生徒一人一人の状況に目を向けるようになる	1	2	3	4
観点別学習状況の評価は実践の蓄積があり、定着してきている	1	2	3	4
観点別学習状況の評価を授業改善や個に応じた指導の充実につなげられている	1	2	3	4
学習評価の結果を児童生徒に伝えることで、児童生徒に学習の振り返りを促すことができる	1	2	3	4
観点別学習状況の評価は、観点どうしの関係性が分かりにくい	1	2	3	4
「関心・意欲・態度」の評価の妥当性を担保することに苦勞する	1	2	3	4
「目標準拠評価」の趣旨や評価結果の妥当性等について、保護者の理解を得ることに苦勞する	1	2	3	4
評価規準や評価結果の妥当性等について、担当する教科や学級が異なる教職員の間で共通理解を図ることに苦勞する	1	2	3	4
学校における学習状況の評価が上級学校への入学者選抜の結果にそぐわない	1	2	3	4
学校における学習状況の評価が進路選択や就職等、児童生徒の将来（上級学校への入学者選抜を含まない）に役立っている	1	2	3	4

参考資料

(回答する質問票として「高等学校」を選択した場合のみ)

9 観点別学習状況の評価について、あなたの学校では、どのように実施していますか。あてはまるものをすべて選んでください。

1. 指導要録に観点別学習状況の評価を記録している
2. 通信簿に観点別学習状況の評価を記録している
3. 定期テストなどにおいて、観点に配慮した問題を課している
4. 定期テストなどに加え、平常点を加味して、評価を行っている
5. 指導計画やシラバスに観点別の評価規準などを設けている
6. 個別の授業の組み立てにおいて、観点に配慮した指導を行っている
7. その他（具体的に

10 観点別学習状況の評価について、評価の資料の収集・分析、評価の決定を円滑に実施できていますか。4観点それぞれについて、「そう思う」から「そう思わない」までの4つの回答の中からあてはまるものを1つ選んでください。

	そう思う	まあ そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
「関心・意欲・態度」に関する評価	1	2	3	4
「思考・判断・表現」に関する評価	1	2	3	4
「技能」に関する評価	1	2	3	4
「知識・理解」に関する評価	1	2	3	4

11 観点別評価を踏まえて決定する「評定」について、どのように感じていますか。それぞれについて、「そう思う」から「そう思わない」までの4つの回答の中からあてはまるものを1つ選んでください。

	そう思う	まあ そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
「評定」は、児童生徒の学習の到達の程度を端的に示すものであり、保護者や児童生徒にとって有用である	1	2	3	4
「評定」は、上級学校への入学者選抜のために有用である	1	2	3	4
奨学金の受給要件として、「評定」が考慮されるべきである	1	2	3	4
学期末や年度末の「評定」を授業改善等に結び付けられていない	1	2	3	4
観点別学習状況の評価を「評定」にどうつなげるかが分かりにくい	1	2	3	4
情意面の評価である「関心・意欲・態度」の評価を、成績付けの「評定」に用いることには意義がある	1	2	3	4

12-1 学習評価を行うに当たって、以下の点について、どの程度負担を感じていますか。それぞれについて、以下の5つの回答からあてはまるものを1つ選んでください。

	負担に感じる	やや負担に感じる	あまり負担に感じない	負担に感じない	行っていない
評価規準の作成	1	2	3	4	5
評価方法や評価結果の扱いについての教員間での共通理解	1	2	3	4	5
児童生徒の学習状況を評価するための材料の収集	1	2	3	4	5
単元テストや定期テスト、評価課題の作問や採点	1	2	3	4	5
指導要録の記載	1	2	3	4	5
通知表の記載	1	2	3	4	5
面談等を通じた児童生徒へのフィードバック	1	2	3	4	5
保護者の理解を得るための説明	1	2	3	4	5

(「12-1」の「指導要録の記載」について「1」または「2」を選んだ場合のみ)

12-2 指導要録（指導に関する記録）の記載において、どの部分に負担を感じていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

(回答する質問票として「小学校」を選択した場合の選択肢)

1. 各教科の学習の記録
2. 外国語活動の記録
3. 総合的な学習の時間の記録
4. 特別活動の記録
5. 行動の記録
6. 総合所見及び指導上参考となる諸事項
7. 出欠の記録

(回答する質問票として「中学校」を選択した場合の選択肢)

1. 各教科の学習の記録
2. 総合的な学習の時間の記録
3. 特別活動の記録
4. 行動の記録
5. 総合所見及び指導上参考となる諸事項
6. 出欠の記録

(回答する質問票として「高等学校」を選択した場合の選択肢)

1. 各教科・科目等の学習の記録
2. 総合的な学習の時間の記録
3. 特別活動の記録
4. 総合所見及び指導上参考となる諸事項

参考資料

5. 出欠の記録

12-3 教員の負担軽減にも配慮した学習評価の充実のため、何が有効と考えますか。それぞれについて、「有効である」から「有効でない」までの4つの回答からあてはまるものを1つ選んでください。

	有効である	やや有効である	あまり有効でない	有効でない
指導要録や通知表の文章記述の欄を簡素化する代わりに、面談等を通じて児童生徒や保護者に評価結果を伝える時間を確保する	1	2	3	4
総括的な評価である「評定」を行わず、児童生徒の学習状況評価を分析的に把握する観点別学習状況評価を充実することで指導と評価の一体化を推進する	1	2	3	4
現在「評定」を用いている入学者選抜や奨学金の支給については、「評定」の代わりに観点別学習状況評価を活用して、それぞれの制度の趣旨・目的に応じた重みづけを行うことを求める	1	2	3	4
補助的業務（提出物や宿題の提出状況の確認、簡単な漢字・計算ドリルの機械的な丸付けなど）を、教員以外のサポートスタッフに任せ、それらを踏まえた教員による実質的な評価の時間を確保する	1	2	3	4
観点別学習状況の評価や「評定」の算出等の処理に ICT を活用できるよう、校務支援システムを導入する	1	2	3	4
国や教育委員会で、各教科等の特質に照らした評価規準の設定や評価方法の選択に資する参考資料を示す	1	2	3	4
国や教育委員会で、単純な知識ではなく、知識の深い理解や思考力・判断力・表現力等を問うようなペーパーテストの例などの参考資料を示す	1	2	3	4

13 指導要録の「総合所見及び指導上参考となる諸事項」においては、児童生徒の成長の状況をとらえるため、様々な事柄が記録されています。あなたは、次のような事項を記入していますか。あてはまるものをすべて選んでください。

1. 児童生徒の優れている点
2. 児童生徒の努力を要する点
3. 総合的な学習の時間に関する事実及び所見
4. 特別活動に関する事実及び所見
5. 行動に関する所見
6. 進路指導に関する事項
7. 取得資格
8. 児童生徒の特徴・特技
9. 部活動
10. 学校内外における奉仕活動やボランティア活動の状況
11. 表彰を受けた行為や活動
12. 学力等について標準化された検査の結果
13. 学級・学年など集団の中での相対的な位置づけに関する情報
14. その他（具体的に \_\_\_\_\_ )

14 学習評価の状況について、AとBのうち、どちらが実際に行っている指導や実感に近いですか。それぞれについて、1. ～4. の中からあてはまるものを1つ選んでください。

1) 観点別学習状況の評価の記録を行う頻度について

- A：毎時、総合的な評価（学期末などの成績評価）を行うための材料を詳細に集めている。  
 B：総合的な評価を行うための材料は単元などを見通して、適宜、集め記録している。

1. A      2. どちらかと言うとA      3. どちらかと言うとB      4. B

2) 「関心・意欲・態度」に関する評価について

- A：「関心・意欲・態度」は、他の観点に係る学習状況の評価を踏まえ、評価している。  
 B：各観点は区別して評価しており、「関心・意欲・態度」も他の観点とは区別して独立に評価している。

1. A      2. どちらかと言うとA      3. どちらかと言うとB      4. B



## 6) 学習評価の観点の児童生徒や保護者への伝え方について

- A：学習のねらいや目標に即した学習評価の具体的な観点について、あらかじめ児童生徒や保護者に伝えている。
- B：学習のねらいや目標に即した学習評価の具体的な観点について、事前には児童生徒や保護者に伝えていない（学習の後に評価の結果として児童生徒や保護者に事後的に伝えるなど）。

1. A      2. どちらかと言うとA      3. どちらかと言うとB      4. B

(1または2を選択した場合)

学習のねらいや目標に即した学習評価の具体的な観点について、あらかじめ児童生徒や保護者に伝えておくことは、児童生徒に学習の見通しを持たせることなどに役立っていると思いますか。1. ～4. の中からあてはまるものを1つ選んでください。

1. そう思う      2. ややそう思う      3. あまりそう思わない      4. そう思わない

(3または4を選択した場合)

学習のねらいや目標に即した学習評価の具体的な観点について、あらかじめ児童生徒や保護者に伝えておくことは、児童生徒に学習の見通しを持たせる点から有効であると思いますか。1. ～4. の中からあてはまるものを1つ選んでください。

1. そう思う      2. ややそう思う      3. あまりそう思わない      4. そう思わない

アンケートはここまでです。御協力、ありがとうございました。

参考資料

2. 基礎集計表

☆ 回答する質問票の種類を選択してください。

	小学校	中学校	高等学校	合計
度数:	1210	1098	1282	3590
割合(%):	33.7	30.6	35.7	100.0

1 あなたご自身の年齢について、あてはまるものを選択してください。

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50歳以上	合計
度数:小学校	251	346	269	344	1210
度数:中学校	212	309	260	317	1098
度数:高等学校	194	323	327	438	1282
割合(%):小学校	20.7	28.6	22.2	28.4	100.0
割合(%):中学校	19.3	28.1	23.7	28.9	100.0
割合(%):高等学校	15.1	25.2	25.5	34.2	100.0

2 勤務先の学校の設置形態は次のうちどれですか。

	国立	公立	私立	合計
度数:小学校	7	1184	19	1210
度数:中学校	1	1059	38	1098
度数:高等学校	5	987	290	1282
割合(%):小学校	0.6	97.9	1.6	100.0
割合(%):中学校	0.1	96.4	3.5	100.0
割合(%):高等学校	0.4	77.0	22.6	100.0

3-1 あなたは学級担任をしていますか。

	している (正担任)	している (副担任)	していない	合計
度数:小学校	988	8	214	1210
度数:中学校	594	257	247	1098
度数:高等学校	602	377	303	1282
割合(%):小学校	81.7	0.7	17.7	100.0
割合(%):中学校	54.1	23.4	22.5	100.0
割合(%):高等学校	47.0	29.4	23.6	100.0

3-2 あなたが学級担任をしている学年は何年生ですか。

	小学1年生	小学2年生	小学3年生	小学3年生	小学5年生	小学6年生	複式学級	合計
度数:小学校	151	148	146	169	162	161	59	996
割合(%):小学校	15.2	14.9	14.7	17.0	16.3	16.2	5.9	100.0
	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計				
度数:中学校	303	270	278	851				
割合(%):中学校	35.6	31.7	32.7	100.0				
	高校1年生	高校2年生	高校3年生	高校4年生	合計			
度数:高等学校	333	322	317	7	979			
割合(%):高等学校	34.0	32.9	32.4	0.7	100.0			

3-3 あなたが担任をしている学級の児童生徒は何人ですか。

	10人以下	11人～20人	21人～30人	31人～40人	41人以上	合計
度数:小学校	124	120	373	373	6	996
度数:中学校	84	46	198	506	17	851
度数:高等学校	8	70	138	657	106	979
割合(%):小学校	12.4	12.0	37.4	37.4	0.6	100.0
割合(%):中学校	9.9	5.4	23.3	59.5	2.0	100.0
割合(%):高等学校	0.8	7.2	14.1	67.1	10.8	100.0

4-1 あなたが指導している教科等は何ですか。(複数回答)

※集計対象度数 1210	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作
度数:小学校	1042	636	1061	521	343	603	833
割合(%):小学校	86.1	52.6	87.7	43.1	28.3	49.8	68.8
※集計対象度数 1210	家庭	体育	道徳	外国語活動	総合的な 学習の時間	特別活動	その他
度数:小学校	249	942	961	551	677	971	293
割合(%):小学校	20.6	77.9	79.4	45.5	56.0	80.2	24.2

※集計対象度数 1098	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育
度数:中学校	171	155	223	170	53	62	134
割合(%):中学校	15.6	14.1	20.3	15.5	4.8	5.6	12.2
※集計対象度数 1098	技術・家庭 (技術分野)	技術・家庭 (家庭分野)	外国語	道徳	総合的な 学習の時間	特別活動	その他 (選択教科等)
度数:中学校	77	67	179	542	687	563	44
割合(%):中学校	7.0	6.1	16.3	49.4	62.6	51.3	4.0

※集計対象度数 1282	国語	地理歴史	公民	数学	理科	保健体育	芸術
度数:高等学校	155	155	99	199	169	115	52
割合(%):高等学校	12.1	12.1	7.7	15.5	13.2	9.0	4.1
※集計対象度数 1282	外国語	家庭	情報	専門教育に 関する各教科	総合的な 学習の時間	特別活動	その他 (学校設定科目・ 選択教科等)
度数:高等学校	181	60	89	188	386	262	174
割合(%):高等学校	14.1	4.7	6.9	14.7	30.1	20.4	13.6

4-2 あなたが教科等を指導している生徒は何人ですか。

	80人 以下	81人～ 120人	121人～ 160人	161人～ 200人	201人～ 240人	241人～ 280人	281人～ 320人	321人～ 360人	361人 以上	合計
度数:中学校	224	219	284	140	59	29	38	22	83	1098
度数:高等学校	142	248	254	249	157	100	65	28	39	1282
割合(%):中学校	20.4	19.9	25.9	12.8	5.4	2.6	3.5	2.0	7.6	100.0
割合(%):高等学校	11.1	19.3	19.8	19.4	12.2	7.8	5.1	2.2	3.0	100.0

5 児童生徒の「知識・理解」及び「技能」をどのような方法で評価していますか。

5-A)単元の区切りなどで実施する、業者作成のテストやワークシート(又はそれに相当する実技課題)

	影響している	やや 影響している	あまり 影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	1027	145	17	21	1210
度数:中学校	220	290	208	380	1098
度数:高等学校	145	313	282	542	1282
割合(%):小学校	84.9	12.0	1.4	1.7	100.0
割合(%):中学校	20.0	26.4	18.9	34.6	100.0
割合(%):高等学校	11.3	24.4	22.0	42.3	100.0

5-B)単元の区切りなどで実施する、教員自作のテストやワークシート(又はそれに相当する実技課題)

	影響している	やや 影響している	あまり 影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	649	423	93	45	1210
度数:中学校	624	347	63	64	1098
度数:高等学校	596	482	127	77	1282
割合(%):小学校	53.6	35.0	7.7	3.7	100.0
割合(%):中学校	56.8	31.6	5.7	5.8	100.0
割合(%):高等学校	46.5	37.6	9.9	6.0	100.0

参考資料

5-C)中間や期末などに実施する定期テスト（又はそれに相当する実技課題）

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	681	272	69	188	1210
度数:中学校	991	79	9	19	1098
度数:高等学校	1175	81	17	9	1282
割合(%):小学校	56.3	22.5	5.7	15.5	100.0
割合(%):中学校	90.3	7.2	0.8	1.7	100.0
割合(%):高等学校	91.7	6.3	1.3	0.7	100.0

5-D)児童生徒が調べたことや考えたことについて、記述したレポートや作文、発表（又はそれに相当する実技課題）

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	887	290	25	8	1210
度数:中学校	569	371	101	57	1098
度数:高等学校	469	503	204	106	1282
割合(%):小学校	73.3	24.0	2.1	0.7	100.0
割合(%):中学校	51.8	33.8	9.2	5.2	100.0
割合(%):高等学校	36.6	39.2	15.9	8.3	100.0

5-E)授業における教員の発問に対する反応等の観察（又は授業において課されている実技課題への取組状況等の観察）

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	578	552	73	7	1210
度数:中学校	335	510	178	75	1098
度数:高等学校	312	580	279	111	1282
割合(%):小学校	47.8	45.6	6.0	0.6	100.0
割合(%):中学校	30.5	46.4	16.2	6.8	100.0
割合(%):高等学校	24.3	45.2	21.8	8.7	100.0

5-F)児童生徒が記述したノート

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	655	476	66	13	1210
度数:中学校	354	445	165	134	1098
度数:高等学校	371	504	220	187	1282
割合(%):小学校	54.1	39.3	5.5	1.1	100.0
割合(%):中学校	32.2	40.5	15.0	12.2	100.0
割合(%):高等学校	28.9	39.3	17.2	14.6	100.0

5-G)児童生徒が記述した振り返りシートや児童生徒に対するアンケート

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	484	555	142	29	1210
度数:中学校	253	379	268	198	1098
度数:高等学校	157	406	371	348	1282
割合(%):小学校	40.0	45.9	11.7	2.4	100.0
割合(%):中学校	23.0	34.5	24.4	18.0	100.0
割合(%):高等学校	12.2	31.7	28.9	27.1	100.0

5-H)授業中の児童生徒の挙手や発言の回数

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	296	598	229	87	1210
度数:中学校	156	381	322	239	1098
度数:高等学校	121	452	418	291	1282
割合(%):小学校	24.5	49.4	18.9	7.2	100.0
割合(%):中学校	14.2	34.7	29.3	21.8	100.0
割合(%):高等学校	9.4	35.3	32.6	22.7	100.0

5-I)授業中の児童生徒の発言の内容

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	516	573	105	16	1210
度数:中学校	203	491	256	148	1098
度数:高等学校	160	480	408	234	1282
割合(%):小学校	42.6	47.4	8.7	1.3	100.0
割合(%):中学校	18.5	44.7	23.3	13.5	100.0
割合(%):高等学校	12.5	37.4	31.8	18.3	100.0

5-J)課された宿題の提出の有無

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	245	467	299	199	1210
度数:中学校	436	328	150	184	1098
度数:高等学校	580	453	138	111	1282
割合(%):小学校	20.2	38.6	24.7	16.4	100.0
割合(%):中学校	39.7	29.9	13.7	16.8	100.0
割合(%):高等学校	45.2	35.3	10.8	8.7	100.0

5-K)提出された宿題の質

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	193	498	360	159	1210
度数:中学校	324	409	209	156	1098
度数:高等学校	340	583	234	125	1282
割合(%):小学校	16.0	41.2	29.8	13.1	100.0
割合(%):中学校	29.5	37.2	19.0	14.2	100.0
割合(%):高等学校	26.5	45.5	18.3	9.8	100.0

5-L)授業で用いる教科書・教材等の忘れ物の頻度

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	142	394	379	295	1210
度数:中学校	133	297	323	345	1098
度数:高等学校	112	341	443	386	1282
割合(%):小学校	11.7	32.6	31.3	24.4	100.0
割合(%):中学校	12.1	27.0	29.4	31.4	100.0
割合(%):高等学校	8.7	26.6	34.6	30.1	100.0

5-M)ワークシートや集めた資料などを長期的に蓄積した学習ファイル（ポートフォリオ）

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	361	592	188	69	1210
度数:中学校	219	360	293	226	1098
度数:高等学校	171	362	369	380	1282
割合(%):小学校	29.8	48.9	15.5	5.7	100.0
割合(%):中学校	19.9	32.8	26.7	20.6	100.0
割合(%):高等学校	13.3	28.2	28.8	29.6	100.0

5-N)教員自らの経験や見識に基づく総合的な判断

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	240	590	276	104	1210
度数:中学校	167	423	323	185	1098
度数:高等学校	173	512	352	245	1282
割合(%):小学校	19.8	48.8	22.8	8.6	100.0
割合(%):中学校	15.2	38.5	29.4	16.8	100.0
割合(%):高等学校	13.5	39.9	27.5	19.1	100.0

参考資料

5-O) その他の方法

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	38	58	44	173	313
度数:中学校	44	35	45	280	404
度数:高等学校	47	47	59	392	545
割合(%):小学校	12.1	18.5	14.1	55.3	100.0
割合(%):中学校	10.9	8.7	11.1	69.3	100.0
割合(%):高等学校	8.6	8.6	10.8	71.9	100.0

※「その他の方法」に関する設問は、無回答であったものは除いて集計した。

6 児童生徒の「思考・判断・表現」をどのような方法で評価していますか。

6-A)単元の区切りなどで実施する、業者作成のテストやワークシート（又はそれに相当する実技課題）

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	896	257	31	26	1210
度数:中学校	211	293	209	385	1098
度数:高等学校	115	301	330	536	1282
割合(%):小学校	74.0	21.2	2.6	2.1	100.0
割合(%):中学校	19.2	26.7	19.0	35.1	100.0
割合(%):高等学校	9.0	23.5	25.7	41.8	100.0

6-B)単元の区切りなどで実施する、教員自作のテストやワークシート（又はそれに相当する実技課題）

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	676	427	60	47	1210
度数:中学校	559	364	91	84	1098
度数:高等学校	479	522	169	112	1282
割合(%):小学校	55.9	35.3	5.0	3.9	100.0
割合(%):中学校	50.9	33.2	8.3	7.7	100.0
割合(%):高等学校	37.4	40.7	13.2	8.7	100.0

6-C)中間や期末などに実施する定期テスト（又はそれに相当する実技課題）

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	614	343	72	181	1210
度数:中学校	862	176	35	25	1098
度数:高等学校	925	257	70	30	1282
割合(%):小学校	50.7	28.3	6.0	15.0	100.0
割合(%):中学校	78.5	16.0	3.2	2.3	100.0
割合(%):高等学校	72.2	20.0	5.5	2.3	100.0

6-D)児童生徒が調べたことや考えたことについて、記述したレポートや作文、発表（又はそれに相当する実技課題）

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	919	266	18	7	1210
度数:中学校	657	347	59	35	1098
度数:高等学校	585	471	137	89	1282
割合(%):小学校	76.0	22.0	1.5	0.6	100.0
割合(%):中学校	59.8	31.6	5.4	3.2	100.0
割合(%):高等学校	45.6	36.7	10.7	6.9	100.0

6-E)授業における教員の発問に対する反応等の観察（又は授業において課されている実技課題への取組状況等の観察）

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	674	470	57	9	1210
度数:中学校	371	489	155	83	1098
度数:高等学校	377	577	217	111	1282
割合(%):小学校	55.7	38.8	4.7	0.7	100.0
割合(%):中学校	33.8	44.5	14.1	7.6	100.0
割合(%):高等学校	29.4	45.0	16.9	8.7	100.0

6-F)児童生徒が記述したノート

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	781	384	39	6	1210
度数:中学校	369	416	167	146	1098
度数:高等学校	358	490	243	191	1282
割合(%):小学校	64.5	31.7	3.2	0.5	100.0
割合(%):中学校	33.6	37.9	15.2	13.3	100.0
割合(%):高等学校	27.9	38.2	19.0	14.9	100.0

6-G)児童生徒が記述した振り返りシートや児童生徒に対するアンケート

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	520	520	137	33	1210
度数:中学校	260	400	232	206	1098
度数:高等学校	210	383	373	316	1282
割合(%):小学校	43.0	43.0	11.3	2.7	100.0
割合(%):中学校	23.7	36.4	21.1	18.8	100.0
割合(%):高等学校	16.4	29.9	29.1	24.6	100.0

6-H)授業中の児童生徒の挙手や発言の回数

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	258	514	290	148	1210
度数:中学校	119	341	322	316	1098
度数:高等学校	167	459	371	285	1282
割合(%):小学校	21.3	42.5	24.0	12.2	100.0
割合(%):中学校	10.8	31.1	29.3	28.8	100.0
割合(%):高等学校	13.0	35.8	28.9	22.2	100.0

6-I)授業中の児童生徒の発言の内容

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	584	534	71	21	1210
度数:中学校	274	488	212	124	1098
度数:高等学校	284	528	292	178	1282
割合(%):小学校	48.3	44.1	5.9	1.7	100.0
割合(%):中学校	25.0	44.4	19.3	11.3	100.0
割合(%):高等学校	22.2	41.2	22.8	13.9	100.0

6-J)課された宿題の提出の有無

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	156	345	384	325	1210
度数:中学校	249	285	253	311	1098
度数:高等学校	359	427	266	230	1282
割合(%):小学校	12.9	28.5	31.7	26.9	100.0
割合(%):中学校	22.7	26.0	23.0	28.3	100.0
割合(%):高等学校	28.0	33.3	20.7	17.9	100.0

6-K)提出された宿題の質

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	194	474	323	219	1210
度数:中学校	262	397	233	206	1098
度数:高等学校	320	546	253	163	1282
割合(%):小学校	16.0	39.2	26.7	18.1	100.0
割合(%):中学校	23.9	36.2	21.2	18.8	100.0
割合(%):高等学校	25.0	42.6	19.7	12.7	100.0

参考資料

6-L)授業で用いる教科書・教材等の忘れ物の頻度

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	117	274	417	402	1210
度数:中学校	88	182	336	492	1098
度数:高等学校	90	282	442	468	1282
割合(%):小学校	9.7	22.6	34.5	33.2	100.0
割合(%):中学校	8.0	16.6	30.6	44.8	100.0
割合(%):高等学校	7.0	22.0	34.5	36.5	100.0

6-M)ワークシートや集めた資料などを長期的に蓄積した学習ファイル（ポートフォリオ）

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	451	527	158	74	1210
度数:中学校	203	388	253	254	1098
度数:高等学校	186	378	351	367	1282
割合(%):小学校	37.3	43.6	13.1	6.1	100.0
割合(%):中学校	18.5	35.3	23.0	23.1	100.0
割合(%):高等学校	14.5	29.5	27.4	28.6	100.0

6-N)教員自らの経験や見識に基づく総合的な判断

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	276	603	226	105	1210
度数:中学校	185	436	281	196	1098
度数:高等学校	197	529	301	255	1282
割合(%):小学校	22.8	49.8	18.7	8.7	100.0
割合(%):中学校	16.8	39.7	25.6	17.9	100.0
割合(%):高等学校	15.4	41.3	23.5	19.9	100.0

6-O) その他の方法

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	39	59	59	195	352
度数:中学校	35	33	44	315	427
度数:高等学校	41	56	68	417	582
割合(%):小学校	11.1	16.8	16.8	55.4	100.0
割合(%):中学校	8.2	7.7	10.3	73.8	100.0
割合(%):高等学校	7.0	9.6	11.7	71.6	100.0

※「その他の方法」に関する設問は、無回答であったものは除いて集計した。

7 児童生徒の「関心・意欲・態度」をどのような方法で評価していますか。

7-A)単元の区切りなどで実施する、業者作成のテストやワークシート（又はそれに相当する実技課題）

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	257	455	367	131	1210
度数:中学校	107	233	260	498	1098
度数:高等学校	112	284	334	552	1282
割合(%):小学校	21.2	37.6	30.3	10.8	100.0
割合(%):中学校	9.7	21.2	23.7	45.4	100.0
割合(%):高等学校	8.7	22.2	26.1	43.1	100.0

7-B)単元の区切りなどで実施する、教員自作のテストやワークシート（又はそれに相当する実技課題）

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	267	511	312	120	1210
度数:中学校	273	373	214	238	1098
度数:高等学校	394	497	219	172	1282
割合(%):小学校	22.1	42.2	25.8	9.9	100.0
割合(%):中学校	24.9	34.0	19.5	21.7	100.0
割合(%):高等学校	30.7	38.8	17.1	13.4	100.0

7-C)中間や期末などに実施する定期テスト（又はそれに相当する実技課題）

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	230	403	337	240	1210
度数:中学校	307	284	254	253	1098
度数:高等学校	613	373	182	114	1282
割合(%):小学校	19.0	33.3	27.9	19.8	100.0
割合(%):中学校	28.0	25.9	23.1	23.0	100.0
割合(%):高等学校	47.8	29.1	14.2	8.9	100.0

7-D)児童生徒が調べたことや考えたことについて、記述したレポートや作文、発表（又はそれに相当する実技課題）

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	859	303	36	12	1210
度数:中学校	575	388	83	52	1098
度数:高等学校	584	468	127	103	1282
割合(%):小学校	71.0	25.0	3.0	1.0	100.0
割合(%):中学校	52.4	35.3	7.6	4.7	100.0
割合(%):高等学校	45.6	36.5	9.9	8.0	100.0

7-E)授業における教員の発問に対する反応等の観察（又は授業において課されている実技課題への取組状況等の観察）

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	894	287	26	3	1210
度数:中学校	589	394	74	41	1098
度数:高等学校	582	487	133	80	1282
割合(%):小学校	73.9	23.7	2.1	0.2	100.0
割合(%):中学校	53.6	35.9	6.7	3.7	100.0
割合(%):高等学校	45.4	38.0	10.4	6.2	100.0

7-F)児童生徒が記述したノート

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	868	310	24	8	1210
度数:中学校	577	358	87	76	1098
度数:高等学校	482	465	171	164	1282
割合(%):小学校	71.7	25.6	2.0	0.7	100.0
割合(%):中学校	52.6	32.6	7.9	6.9	100.0
割合(%):高等学校	37.6	36.3	13.3	12.8	100.0

7-G)児童生徒が記述した振り返りシートや児童生徒に対するアンケート

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	761	373	63	13	1210
度数:中学校	450	357	157	134	1098
度数:高等学校	297	409	301	275	1282
割合(%):小学校	62.9	30.8	5.2	1.1	100.0
割合(%):中学校	41.0	32.5	14.3	12.2	100.0
割合(%):高等学校	23.2	31.9	23.5	21.5	100.0

7-H)授業中の児童生徒の挙手や発言の回数

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	797	334	59	20	1210
度数:中学校	472	397	137	92	1098
度数:高等学校	429	441	232	180	1282
割合(%):小学校	65.9	27.6	4.9	1.7	100.0
割合(%):中学校	43.0	36.2	12.5	8.4	100.0
割合(%):高等学校	33.5	34.4	18.1	14.0	100.0

参考資料

7-I)授業中の児童生徒の発言の内容

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	640	440	109	21	1210
度数:中学校	413	412	179	94	1098
度数:高等学校	387	514	236	145	1282
割合(%):小学校	52.9	36.4	9.0	1.7	100.0
割合(%):中学校	37.6	37.5	16.3	8.6	100.0
割合(%):高等学校	30.2	40.1	18.4	11.3	100.0

7-J)課された宿題の提出の有無

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	573	395	153	89	1210
度数:中学校	710	274	63	51	1098
度数:高等学校	588	454	132	108	1282
割合(%):小学校	47.4	32.6	12.6	7.4	100.0
割合(%):中学校	64.7	25.0	5.7	4.6	100.0
割合(%):高等学校	45.9	35.4	10.3	8.4	100.0

7-K)提出された宿題の質

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	404	500	203	103	1210
度数:中学校	463	390	158	87	1098
度数:高等学校	402	542	211	127	1282
割合(%):小学校	33.4	41.3	16.8	8.5	100.0
割合(%):中学校	42.2	35.5	14.4	7.9	100.0
割合(%):高等学校	31.4	42.3	16.5	9.9	100.0

7-L)授業で用いる教科書・教材等の忘れ物の頻度

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	508	440	174	88	1210
度数:中学校	452	314	188	144	1098
度数:高等学校	313	398	291	280	1282
割合(%):小学校	42.0	36.4	14.4	7.3	100.0
割合(%):中学校	41.2	28.6	17.1	13.1	100.0
割合(%):高等学校	24.4	31.0	22.7	21.8	100.0

7-M)ワークシートや集めた資料などを長期的に蓄積した学習ファイル（ポートフォリオ）

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	563	467	127	53	1210
度数:中学校	351	341	203	203	1098
度数:高等学校	251	391	296	344	1282
割合(%):小学校	46.5	38.6	10.5	4.4	100.0
割合(%):中学校	32.0	31.1	18.5	18.5	100.0
割合(%):高等学校	19.6	30.5	23.1	26.8	100.0

7-N)教員自らの経験や見識に基づく総合的な判断

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	379	548	195	88	1210
度数:中学校	236	430	231	201	1098
度数:高等学校	250	519	248	265	1282
割合(%):小学校	31.3	45.3	16.1	7.3	100.0
割合(%):中学校	21.5	39.2	21.0	18.3	100.0
割合(%):高等学校	19.5	40.5	19.3	20.7	100.0

○) その他の方法

	影響している	やや影響している	あまり影響していない	影響していない	合計
度数:小学校	55	65	53	181	354
度数:中学校	38	39	46	305	428
度数:高等学校	42	69	53	427	591
割合(%):小学校	15.5	18.4	15.0	51.1	100.0
割合(%):中学校	8.9	9.1	10.7	71.3	100.0
割合(%):高等学校	7.1	11.7	9.0	72.3	100.0

※「その他の方法」に関する設問は、無回答であったものは除いて集計した。

8 目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価などについて、どのように感じていますか。

8-A)授業の目標が明確になり、学力などを多角的に育成することができる

	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計
度数:小学校	506	648	53	3	1210
度数:中学校	351	597	131	19	1098
度数:高等学校	270	738	227	47	1282
割合(%):小学校	41.8	53.6	4.4	0.2	100.0
割合(%):中学校	32.0	54.4	11.9	1.7	100.0
割合(%):高等学校	21.1	57.6	17.7	3.7	100.0

8-B)児童生徒の学力などの伸びがよく分かる

	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計
度数:小学校	401	692	114	3	1210
度数:中学校	197	634	242	25	1098
度数:高等学校	140	674	418	50	1282
割合(%):小学校	33.1	57.2	9.4	0.2	100.0
割合(%):中学校	17.9	57.7	22.0	2.3	100.0
割合(%):高等学校	10.9	52.6	32.6	3.9	100.0

8-C)児童生徒一人一人の状況に目を向けるようになる

	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計
度数:小学校	506	629	69	6	1210
度数:中学校	311	606	158	23	1098
度数:高等学校	270	698	257	57	1282
割合(%):小学校	41.8	52.0	5.7	0.5	100.0
割合(%):中学校	28.3	55.2	14.4	2.1	100.0
割合(%):高等学校	21.1	54.4	20.0	4.4	100.0

8-D)観点別学習状況の評価は実践の蓄積があり、定着してきている

	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計
度数:小学校	361	725	121	3	1210
度数:中学校	279	610	188	21	1098
度数:高等学校	101	469	558	154	1282
割合(%):小学校	29.8	59.9	10.0	0.2	100.0
割合(%):中学校	25.4	55.6	17.1	1.9	100.0
割合(%):高等学校	7.9	36.6	43.5	12.0	100.0

8-E)観点別学習状況の評価を授業改善や個に応じた指導の充実につなげられている

	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計
度数:小学校	382	699	123	6	1210
度数:中学校	241	593	242	22	1098
度数:高等学校	174	608	407	93	1282
割合(%):小学校	31.6	57.8	10.2	0.5	100.0
割合(%):中学校	21.9	54.0	22.0	2.0	100.0
割合(%):高等学校	13.6	47.4	31.7	7.3	100.0

参考資料

8-F)学習評価の結果を児童生徒に伝えることで、児童生徒に学習の振り返りを促すことができる

	そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	合計
度数:小学校	369	657	168	16	1210
度数:中学校	301	588	180	29	1098
度数:高等学校	197	647	359	79	1282
割合(%):小学校	30.5	54.3	13.9	1.3	100.0
割合(%):中学校	27.4	53.6	16.4	2.6	100.0
割合(%):高等学校	15.4	50.5	28.0	6.2	100.0

8-G)観点別学習状況の評価は、観点どうしの関係性が分かりにくい

	そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	合計
度数:小学校	157	512	500	41	1210
度数:中学校	151	419	464	64	1098
度数:高等学校	244	611	378	49	1282
割合(%):小学校	13.0	42.3	41.3	3.4	100.0
割合(%):中学校	13.8	38.2	42.3	5.8	100.0
割合(%):高等学校	19.0	47.7	29.5	3.8	100.0

8-H)「関心・意欲・態度」の評価の妥当性を担保することに苦勞する

	そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	合計
度数:小学校	372	552	262	24	1210
度数:中学校	319	424	295	60	1098
度数:高等学校	401	568	264	49	1282
割合(%):小学校	30.7	45.6	21.7	2.0	100.0
割合(%):中学校	29.1	38.6	26.9	5.5	100.0
割合(%):高等学校	31.3	44.3	20.6	3.8	100.0

8-I)「目標・評価」の趣旨や評価結果の妥当性等について、保護者の理解を得ることに苦勞する

	そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	合計
度数:小学校	145	431	559	75	1210
度数:中学校	131	361	502	104	1098
度数:高等学校	165	458	549	110	1282
割合(%):小学校	12.0	35.6	46.2	6.2	100.0
割合(%):中学校	11.9	32.9	45.7	9.5	100.0
割合(%):高等学校	12.9	35.7	42.8	8.6	100.0

8-J)評価規準や評価結果の妥当性等について、担当する教科や学級が異なる教職員の間で共通理解を図ることに苦勞する

	そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	合計
度数:小学校	205	546	406	53	1210
度数:中学校	222	434	367	75	1098
度数:高等学校	316	580	326	60	1282
割合(%):小学校	16.9	45.1	33.6	4.4	100.0
割合(%):中学校	20.2	39.5	33.4	6.8	100.0
割合(%):高等学校	24.6	45.2	25.4	4.7	100.0

8-K)学校における学習状況の評価が上級学校への入学者選抜の結果にそぐわない

	そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	合計
度数:小学校	128	371	589	122	1210
度数:中学校	141	346	536	75	1098
度数:高等学校	244	501	456	81	1282
割合(%):小学校	10.6	30.7	48.7	10.1	100.0
割合(%):中学校	12.8	31.5	48.8	6.8	100.0
割合(%):高等学校	19.0	39.1	35.6	6.3	100.0

8-L)学校における学習状況の評価が進路選択や就職等、児童生徒の将来（上級学校への入学者選抜を含まない）に役立っている

	そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	合計
度数:小学校	87	580	480	63	1210
度数:中学校	95	576	363	64	1098
度数:高等学校	110	564	499	109	1282
割合(%):小学校	7.2	47.9	39.7	5.2	100.0
割合(%):中学校	8.7	52.5	33.1	5.8	100.0
割合(%):高等学校	8.6	44.0	38.9	8.5	100.0

9 観点別学習状況の評価について、あなたの学校では、どのように実施していますか。（複数回答）

	度数:高等学校	割合(%):高等学校
指導要録に観点別学習状況の評価を記録している	171	13.3
通信簿に観点別学習状況の評価を記録している	142	11.1
定期テストなどにおいて、観点到配慮した問題を課している	566	44.1
定期テストなどに加え、平常点を加味して、評価を行っている	1018	79.4
指導計画やシラバスに観点別の評価規準などを設けている	767	59.8
個別の授業の組み立てにおいて、観点到配慮した指導を行っている	577	45.0
その他	16	1.2
集計対象	1282	

10 観点別学習状況の評価について、評価の資料の収集・分析、評価の決定を円滑に実施できていますか。

10-A)「関心・意欲・態度」に関する評価

	そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	合計
度数:小学校	176	701	300	33	1210
度数:中学校	276	597	188	37	1098
度数:高等学校	169	645	374	94	1282
割合(%):小学校	14.5	57.9	24.8	2.7	100.0
割合(%):中学校	25.1	54.4	17.1	3.4	100.0
割合(%):高等学校	13.2	50.3	29.2	7.3	100.0

10-B)「思考・判断・表現」に関する評価

	そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	合計
度数:小学校	283	766	151	10	1210
度数:中学校	280	619	175	24	1098
度数:高等学校	156	661	400	65	1282
割合(%):小学校	23.4	63.3	12.5	0.8	100.0
割合(%):中学校	25.5	56.4	15.9	2.2	100.0
割合(%):高等学校	12.2	51.6	31.2	5.1	100.0

10-C)「技能」に関する評価

	そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	合計
度数:小学校	507	642	59	2	1210
度数:中学校	413	558	109	18	1098
度数:高等学校	282	620	312	68	1282
割合(%):小学校	41.9	53.1	4.9	0.2	100.0
割合(%):中学校	37.6	50.8	9.9	1.6	100.0
割合(%):高等学校	22.0	48.4	24.3	5.3	100.0

10-D)「知識・理解」に関する評価

	そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	合計
度数:小学校	586	576	45	3	1210
度数:中学校	523	505	52	18	1098
度数:高等学校	470	621	147	44	1282
割合(%):小学校	48.4	47.6	3.7	0.2	100.0
割合(%):中学校	47.6	46.0	4.7	1.6	100.0
割合(%):高等学校	36.7	48.4	11.5	3.4	100.0

参考資料

11 観点別評価を踏まえて決定する「評定」について、どのように感じていますか。

11-A)「評定」は、児童生徒の学習の到達の程度を端的に示すものであり、保護者や児童生徒にとって有用である

	そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	合計
度数:小学校	299	699	187	25	1210
度数:中学校	411	590	85	12	1098
度数:高等学校	451	676	126	29	1282
割合(%):小学校	24.7	57.8	15.5	2.1	100.0
割合(%):中学校	37.4	53.7	7.7	1.1	100.0
割合(%):高等学校	35.2	52.7	9.8	2.3	100.0

11-B)「評定」は、上級学校への入学者選抜のために有用である

	そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	合計
度数:小学校	170	629	358	53	1210
度数:中学校	327	575	167	29	1098
度数:高等学校	391	584	253	54	1282
割合(%):小学校	14.0	52.0	29.6	4.4	100.0
割合(%):中学校	29.8	52.4	15.2	2.6	100.0
割合(%):高等学校	30.5	45.6	19.7	4.2	100.0

11-C)奨学金の受給要件として、「評定」が考慮されるべきである

	そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	合計
度数:小学校	125	467	464	154	1210
度数:中学校	163	437	380	118	1098
度数:高等学校	277	625	305	75	1282
割合(%):小学校	10.3	38.6	38.3	12.7	100.0
割合(%):中学校	14.8	39.8	34.6	10.7	100.0
割合(%):高等学校	21.6	48.8	23.8	5.9	100.0

11-D)学期末や年度末の「評定」を授業改善等に結び付けられていない

	そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	合計
度数:小学校	93	479	560	78	1210
度数:中学校	72	358	584	84	1098
度数:高等学校	129	463	613	77	1282
割合(%):小学校	7.7	39.6	46.3	6.4	100.0
割合(%):中学校	6.6	32.6	53.2	7.7	100.0
割合(%):高等学校	10.1	36.1	47.8	6.0	100.0

11-E)観点別学習状況の評価を「評定」にどうつなげるかが分かりにくい

	そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	合計
度数:小学校	89	433	596	92	1210
度数:中学校	87	326	556	129	1098
度数:高等学校	220	607	399	56	1282
割合(%):小学校	7.4	35.8	49.3	7.6	100.0
割合(%):中学校	7.9	29.7	50.6	11.7	100.0
割合(%):高等学校	17.2	47.3	31.1	4.4	100.0

11-F)情意面の評価である「関心・意欲・態度」の評価を、成績付けの「評定」に用いることには意義がある

	そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	合計
度数:小学校	168	623	334	85	1210
度数:中学校	245	522	242	89	1098
度数:高等学校	157	639	387	99	1282
割合(%):小学校	13.9	51.5	27.6	7.0	100.0
割合(%):中学校	22.3	47.5	22.0	8.1	100.0
割合(%):高等学校	12.2	49.8	30.2	7.7	100.0

12-1 学習評価を行うに当たって、以下の点について、どの程度負担を感じていますか。

12-1-A)評価基準の作成

	負担を感じる	やや負担を感じる	あまり負担に感じない	負担に感じない	行っていない	合計
度数:小学校	319	591	239	44	17	1210
度数:中学校	290	486	252	65	5	1098
度数:高等学校	296	586	267	87	46	1282
割合(%):小学校	26.4	48.8	19.8	3.6	1.4	100.0
割合(%):中学校	26.4	44.3	23.0	5.9	0.5	100.0
割合(%):高等学校	23.1	45.7	20.8	6.8	3.6	100.0

12-1-B)評価方法や評価結果の扱いについての教員間での共通理解

	負担を感じる	やや負担を感じる	あまり負担に感じない	負担に感じない	行っていない	合計
度数:小学校	220	493	407	84	6	1210
度数:中学校	210	427	360	94	7	1098
度数:高等学校	299	502	346	94	41	1282
割合(%):小学校	18.2	40.7	33.6	6.9	0.5	100.0
割合(%):中学校	19.1	38.9	32.8	8.6	0.6	100.0
割合(%):高等学校	23.3	39.2	27.0	7.3	3.2	100.0

12-1-C)児童生徒の学習状況を評価するための材料の収集

	負担を感じる	やや負担を感じる	あまり負担に感じない	負担に感じない	行っていない	合計
度数:小学校	262	537	329	80	2	1210
度数:中学校	253	434	331	80	0	1098
度数:高等学校	283	495	385	95	24	1282
割合(%):小学校	21.7	44.4	27.2	6.6	0.2	100.0
割合(%):中学校	23.0	39.5	30.1	7.3	0.0	100.0
割合(%):高等学校	22.1	38.6	30.0	7.4	1.9	100.0

12-1-D)単元テストや定期テスト、評価課題の作問や採点

	負担を感じる	やや負担を感じる	あまり負担に感じない	負担に感じない	行っていない	合計
度数:小学校	272	487	339	96	16	1210
度数:中学校	431	393	199	67	8	1098
度数:高等学校	286	480	380	124	12	1282
割合(%):小学校	22.5	40.2	28.0	7.9	1.3	100.0
割合(%):中学校	39.3	35.8	18.1	6.1	0.7	100.0
割合(%):高等学校	22.3	37.4	29.6	9.7	0.9	100.0

12-1-E)指導要録の記載

	負担を感じる	やや負担を感じる	あまり負担に感じない	負担に感じない	行っていない	合計
度数:小学校	571	447	138	37	17	1210
度数:中学校	373	358	269	64	34	1098
度数:高等学校	318	436	282	75	171	1282
割合(%):小学校	47.2	36.9	11.4	3.1	1.4	100.0
割合(%):中学校	34.0	32.6	24.5	5.8	3.1	100.0
割合(%):高等学校	24.8	34.0	22.0	5.9	13.3	100.0

12-1-F)通知表の記載

	負担を感じる	やや負担を感じる	あまり負担に感じない	負担に感じない	行っていない	合計
度数:小学校	505	479	174	41	11	1210
度数:中学校	310	382	303	69	34	1098
度数:高等学校	208	395	368	119	192	1282
割合(%):小学校	41.7	39.6	14.4	3.4	0.9	100.0
割合(%):中学校	28.2	34.8	27.6	6.3	3.1	100.0
割合(%):高等学校	16.2	30.8	28.7	9.3	15.0	100.0

参考資料

12-1-G)面談等を通じた児童生徒へのフィードバック

	負担に感じる	やや負担に感じる	あまり負担に感じない	負担に感じない	行っていない	合計
度数:小学校	186	366	492	136	30	1210
度数:中学校	138	303	463	132	62	1098
度数:高等学校	136	338	509	158	141	1282
割合(%):小学校	15.4	30.2	40.7	11.2	2.5	100.0
割合(%):中学校	12.6	27.6	42.2	12.0	5.6	100.0
割合(%):高等学校	10.6	26.4	39.7	12.3	11.0	100.0

12-1-H)保護者の理解を得るための説明

	負担に感じる	やや負担に感じる	あまり負担に感じない	負担に感じない	行っていない	合計
度数:小学校	249	451	382	99	29	1210
度数:中学校	221	352	369	108	48	1098
度数:高等学校	214	390	406	100	172	1282
割合(%):小学校	20.6	37.3	31.6	8.2	2.4	100.0
割合(%):中学校	20.1	32.1	33.6	9.8	4.4	100.0
割合(%):高等学校	16.7	30.4	31.7	7.8	13.4	100.0

12-2 指導要録（指導に関する記録）の記載において、どの部分に負担を感じていますか。（複数回答）

	度数:小学校	割合(%):小学校
各教科の学習の記録	368	36.4
外国語活動の記録	700	69.2
総合的な学習の時間の記録	762	75.3
特別活動の記録	363	35.9
行動の記録	455	45.0
総合所見及び指導上参考となる諸事項	725	71.6
出欠の記録	244	24.1
集計対象	1012	

	度数:中学校	割合(%):中学校
各教科の学習の記録	233	32.3
総合的な学習の時間の記録	445	61.6
特別活動の記録	302	41.8
行動の記録	405	56.1
総合所見及び指導上参考となる諸事項	582	80.6
出欠の記録	153	21.2
集計対象	722	

	度数:高等学校	割合(%):高等学校
各教科・科目等の学習の記録	221	30.1
総合的な学習の時間の記録	331	45.0
特別活動の記録	293	39.9
総合所見及び指導上参考となる諸事項	609	82.9
出欠の記録	119	16.2
集計対象	735	

※当該設問に無回答であったものは除いて集計した。

12-3 教員の負担軽減にも配慮した学習評価の充実のため、何が有効と考えますか。

12-3-A)指導要録や通知表の文章記述の欄を簡素化する代わりに、面談等を通じて児童生徒や保護者に評価結果を伝える時間を確保する

	有効である	やや有効である	あまり有効でない	有効でない	合計
度数:小学校	346	431	340	93	1210
度数:中学校	276	398	308	116	1098
度数:高等学校	237	440	438	167	1282
割合(%):小学校	28.6	35.6	28.1	7.7	100.0
割合(%):中学校	25.1	36.2	28.1	10.6	100.0
割合(%):高等学校	18.5	34.3	34.2	13.0	100.0

12-3-B)総括的な評価である「評定」を行わず、児童生徒の学習状況評価を分析的に把握する観点別学習状況評価を充実することで指導と評価の一体化を推進する

	有効である	やや有効である	あまり有効でない	有効でない	合計
度数:小学校	189	613	356	52	1210
度数:中学校	102	342	503	151	1098
度数:高等学校	71	367	608	236	1282
割合(%):小学校	15.6	50.7	29.4	4.3	100.0
割合(%):中学校	9.3	31.1	45.8	13.8	100.0
割合(%):高等学校	5.5	28.6	47.4	18.4	100.0

12-3-C)現在「評定」を用いている入学者選抜や奨学金の支給については、「評定」の代わりに観点別学習状況評価を活用して、それぞれの制度の趣旨・目的に応じた重みづけを行うことを求める

	有効である	やや有効である	あまり有効でない	有効でない	合計
度数:小学校	135	586	426	63	1210
度数:中学校	92	360	503	143	1098
度数:高等学校	87	372	572	251	1282
割合(%):小学校	11.2	48.4	35.2	5.2	100.0
割合(%):中学校	8.4	32.8	45.8	13.0	100.0
割合(%):高等学校	6.8	29.0	44.6	19.6	100.0

12-3-D)補助的業務（提出物や宿題の提出状況の確認、簡単な漢字・計算ドリルの機械的な丸付けなど）を、教員以外のサポートスタッフに任せ、それらを踏まえた教員による実質的な評価の時間を確保する

	有効である	やや有効である	あまり有効でない	有効でない	合計
度数:小学校	545	395	196	74	1210
度数:中学校	377	362	266	93	1098
度数:高等学校	366	473	315	128	1282
割合(%):小学校	45.0	32.6	16.2	6.1	100.0
割合(%):中学校	34.3	33.0	24.2	8.5	100.0
割合(%):高等学校	28.5	36.9	24.6	10.0	100.0

12-3-E)観点別学習状況の評価や「評定」の算出等の処理にICTを活用できるよう、校務支援システムを導入する

	有効である	やや有効である	あまり有効でない	有効でない	合計
度数:小学校	651	463	79	17	1210
度数:中学校	484	453	119	42	1098
度数:高等学校	446	606	177	53	1282
割合(%):小学校	53.8	38.3	6.5	1.4	100.0
割合(%):中学校	44.1	41.3	10.8	3.8	100.0
割合(%):高等学校	34.8	47.3	13.8	4.1	100.0

12-3-F)国や教育委員会で、各教科等の特質に照らした評価基準の設定や評価方法の選択に資する参考資料を示す

	有効である	やや有効である	あまり有効でない	有効でない	合計
度数:小学校	427	555	197	31	1210
度数:中学校	338	499	204	57	1098
度数:高等学校	285	555	333	109	1282
割合(%):小学校	35.3	45.9	16.3	2.6	100.0
割合(%):中学校	30.8	45.4	18.6	5.2	100.0
割合(%):高等学校	22.2	43.3	26.0	8.5	100.0

12-3-G)国や教育委員会で、単純な知識ではなく、知識の深い理解や思考力・判断力・表現力等を問うようなペーパーテストの例などの参考資料を示す

	有効である	やや有効である	あまり有効でない	有効でない	合計
度数:小学校	378	577	217	38	1210
度数:中学校	372	497	178	51	1098
度数:高等学校	317	605	276	84	1282
割合(%):小学校	31.2	47.7	17.9	3.1	100.0
割合(%):中学校	33.9	45.3	16.2	4.6	100.0
割合(%):高等学校	24.7	47.2	21.5	6.6	100.0

参考資料

13 指導要録の「総合所見及び指導上参考となる諸事項」においては、児童生徒の成長の状況をとらえるため、様々な事柄が記録されています。あなたは、次のような事項を記入していますか。(複数回答)

※集計対象年度 小学校:1200 中学校:1083 高等学校:1249	児童生徒の 優れている点	児童生徒の 努力を 要する点	総合的な学習 の時間に 関する事実 及び所見	特別活動に 関する事実 及び所見	行動に関する 所見	進路指導に 関する事項	取得資格
度数:小学校	1169	560	639	817	1056	52	103
度数:中学校	1011	547	699	778	886	558	732
度数:高等学校	1137	388	724	894	953	716	1015
割合(%):小学校	97.4	46.7	53.3	68.1	88.0	4.3	8.6
割合(%):中学校	93.4	50.5	64.5	71.8	81.8	51.5	67.6
割合(%):高等学校	91.0	31.1	58.0	71.6	76.3	57.3	81.3
※集計対象年度 小学校:1200 中学校:1083 高等学校:1249	児童生徒の 特徴・特技	部活動	学校内外に おける奉仕 活動やボラン ティア活動 の状況	表彰を受けた 行為や活動	学力等に ついて標準化 された検査 の結果	学級・学年など 集団の中での 相対的な位置 づけに関する 情報	その他
度数:小学校	721	108	309	720	364	348	12
度数:中学校	696	924	748	829	317	375	16
度数:高等学校	828	1092	935	940	275	532	20
割合(%):小学校	60.1	9.0	25.8	60.0	30.3	29.0	1.0
割合(%):中学校	64.3	85.3	69.1	76.5	29.3	34.6	1.5
割合(%):高等学校	66.3	87.4	74.9	75.3	22.0	42.6	1.6

※当該設問に無回答であったものは除いて集計した。

14 学習評価の状況について、AとBのうち、どちらが実際に行っている指導や実感に近いですか。

1) 観点別学習状況の評価の記録を行う頻度について

- A : 毎時、総合的な評価(学期末などの成績評価)を行うための材料を詳細に集めている。  
 B : 総合的な評価を行うための材料は単元などを見通して、適宜、集め記録している。

	A	どちらかと 言うとA	どちらかと 言うとB	B	合計
度数:小学校	61	209	716	224	1210
度数:中学校	94	219	564	221	1098
度数:高等学校	72	209	680	321	1282
割合(%):小学校	5.0	17.3	59.2	18.5	100.0
割合(%):中学校	8.6	19.9	51.4	20.1	100.0
割合(%):高等学校	5.6	16.3	53.0	25.0	100.0

2) 「関心・意欲・態度」に関する評価について

- A : 「関心・意欲・態度」は、他の観点に係る学習状況の評価を踏まえ、評価している。  
 B : 各観点は区別して評価しており、「関心・意欲・態度」も他の観点とは区別して独立に評価している。

	A	どちらかと 言うとA	どちらかと 言うとB	B	合計
度数:小学校	155	518	389	148	1210
度数:中学校	148	364	368	218	1098
度数:高等学校	240	622	311	109	1282
割合(%):小学校	12.8	42.8	32.1	12.2	100.0
割合(%):中学校	13.5	33.2	33.5	19.9	100.0
割合(%):高等学校	18.7	48.5	24.3	8.5	100.0

3) 「評定」の決定の方法について

- A : 観点別学習状況の各観点を均等に評価して評定を決定している。  
 B : ある観点到他の観点より重点を置いて、評定を決定している(例えば、「関心・意欲・態度」よりも他の観点到重点を置くなど)。

	A	どちらかと 言うとA	どちらかと 言うとB	B	合計
度数:小学校	428	625	115	42	1210
度数:中学校	562	381	98	57	1098
度数:高等学校	200	631	249	202	1282
割合(%):小学校	35.4	51.7	9.5	3.5	100.0
割合(%):中学校	51.2	34.7	8.9	5.2	100.0
割合(%):高等学校	15.6	49.2	19.4	15.8	100.0

4) あなたの学校等における学習評価への取組み状況について

A : 校内で評価方法や評価基準を共有したり、授業研究を行ったりして、学習評価の改善に、学校全体で取り組んでいる。

B : 評価基準の改善、評価方法の研究などは、教員個人に任されている。

	A	どちらかと言うとA	どちらかと言うとB	B	合計
度数:小学校	448	458	241	63	1210
度数:中学校	362	384	256	96	1098
度数:高等学校	188	393	446	255	1282
割合(%):小学校	37.0	37.9	19.9	5.2	100.0
割合(%):中学校	33.0	35.0	23.3	8.7	100.0
割合(%):高等学校	14.7	30.7	34.8	19.9	100.0

5) あなたの学校等における指導と評価の一体化の取組み状況について

A : 学習評価を通じて、学習指導のあり方を見直すことや個に応じた指導の充実を図るなど、指導と評価の一体化に学校全体で取り組んでいる。

B : 指導と評価の一体化の取組は、教員個人に任されている。

	A	どちらかと言うとA	どちらかと言うとB	B	合計
度数:小学校	333	517	296	64	1210
度数:中学校	242	433	323	100	1098
度数:高等学校	121	387	525	249	1282
割合(%):小学校	27.5	42.7	24.5	5.3	100.0
割合(%):中学校	22.0	39.4	29.4	9.1	100.0
割合(%):高等学校	9.4	30.2	41.0	19.4	100.0

6) 学習評価の観点の児童生徒や保護者への伝え方について

A : 学習のねらいや目標に即した学習評価の具体的な観点について、あらかじめ児童生徒や保護者に伝えている。

B : 学習のねらいや目標に即した学習評価の具体的な観点について、事前には児童生徒や保護者に伝えていない(学習の後に評価の結果として児童生徒や保護者に事後的に伝えるなど)。

	A	どちらかと言うとA	どちらかと言うとB	B	合計
度数:小学校	261	462	379	108	1210
度数:中学校	413	456	182	47	1098
度数:高等学校	218	502	402	160	1282
割合(%):小学校	21.6	38.2	31.3	8.9	100.0
割合(%):中学校	37.6	41.5	16.6	4.3	100.0
割合(%):高等学校	17.0	39.2	31.4	12.5	100.0

6-1) 学習のねらいや目標に即した学習評価の具体的な観点について、あらかじめ児童生徒や保護者に伝えておくことは、児童生徒に学習の見通しを持たせることなどに役立っていると思いませんか。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計
度数:小学校	310	357	53	3	723
度数:中学校	410	383	67	9	869
度数:高等学校	216	393	97	14	720
割合(%):小学校	42.9	49.4	7.3	0.4	100.0
割合(%):中学校	47.2	44.1	7.7	1.0	100.0
割合(%):高等学校	30.0	54.6	13.5	1.9	100.0

6-2) 学習のねらいや目標に即した学習評価の具体的な観点について、あらかじめ児童生徒や保護者に伝えておくことは、児童生徒に学習の見通しを持たせる点から有効であると思いませんか。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計
度数:小学校	109	269	101	8	487
度数:中学校	63	121	41	4	229
度数:高等学校	110	283	146	23	562
割合(%):小学校	22.4	55.2	20.7	1.6	100.0
割合(%):中学校	27.5	52.8	17.9	1.7	100.0
割合(%):高等学校	19.6	50.4	26.0	4.1	100.0